

42	領收證送付書	伊豫半紙 B模造紙	41	$\frac{1}{36}$	100組 天 糊
43	受託税金送付書	"	"	"	"
44	滯納處分囑託書 移送通知書	"	"	$\frac{1}{32}$	"
45	滯納公課督促處分 出張事蹟報告書	B模造紙	60	$\frac{1}{18}$	兩 面 刷
46	徵稅決算用紙	"	70	"	"
47	納稅告知書	桃 漣(四六判) 色 紙	"	$\frac{1}{12}$	1. 納稅管理人欄ハ必 要ニ應シ設クルコ ト 2. 區長印及發行年月 日ハ刷入又ハ捺印 スルコト
48	納稅告知書 及徵稅令書	" (")	"	"	1. 租稅ノ告知書ニ附 加稅ノ令書併記ヲ 認可セラレタルモ ノニ用フ 2. 納稅管理人欄ハ必 要ニ應シ設クルコ ト 3. 區長印及發行年月 日ハ刷入又ハ捺印 スルコト 4. 科目欄及内譯欄ハ 適當ニ伸縮シ得ル モ輪廓線ニ變更ナ キ様留意スルコト
49	徵稅令書	ザラ紙 (")	"	"	1. 色刷トナスコトヲ 得 2. 48號ノ備考 2.3.4 ハ本號ニ之レヲ適 用ス
50	納額告知書	" (")	"	"	47號ノ納稅告知書ト アルヲ納額告知書ト スルノミニテ他ハ凡 テ同一ニ付様式ノ掲 出ヲ省略ス
51	納付書甲	" (")	"	"	1. 色刷トナスコトヲ 得 2. 科目及内譯欄ハ適 當ニ伸縮シ得ルモ 輪廓線ニ變更ナキ 様留意スルコト

24	令書引揚用紙	ザラ紙		$\frac{1}{45}$	121mm 158mm
25	市外所得額控除調書	B模造紙	70	$\frac{1}{16}$	兩 面 藍 刷
26	建物賃賃價格及坪數 集計簿用紙	"	60	$\frac{1}{12}$	197mm 364mm
27	納稅指示票	ザラ紙		$\frac{1}{45}$	121mm 158mm
28	不動産登記申請書 閱覽申請書	キカイ半紙 貫三モノ			半紙判
29	興行稅納稅通知書	B模造紙	50	$\frac{1}{30}$	158mm 182mm
30	車 亡 失 届	"	45	$\frac{1}{18}$	簿册整理欄ハ適宜追 加スルコトヲ得
31	收 入 日 計 表	"	41		寸法ハ各區ニ於テ定 ム
32	徵稅督勵出張 事蹟報告表	"	60	$\frac{1}{18}$	兩 面 刷
33	財產差押通知書	"	70	"	"
34	債權差押通知書	キカイ半紙 貫三モノ			半紙判
35	差 押 調 書	複寫紙 B模造紙	60	$\frac{1}{36}$	100組 天 糊
36	差押財產公賣書 執行計算書	B模造紙	70	$\frac{1}{18}$	兩 面 刷
37	不 動 產 差 押 登記囑託書	キカイ半紙 貫三モノ			半紙判
38	不 動 產 差 押 抹 登記囑託書	因州半紙 薄口	"	"	"
39	差押物件貼付用紙	土佐美濃紙			美濃判16切 美濃判1枚=16葉付 トシ各葉切取用縦横 丸ミシンヲ入レ裏面 ゴム糊付
40	落 札 達 書	複寫紙 B模造紙	70	$\frac{1}{18}$	半紙判 兩 面 刷
41	滯納處分囑託書	複寫紙 B模造紙	41	$\frac{1}{18}$	半紙半裁判 複寫紙 2枚付50組横 糊

11	兒童就學出席督促簿用紙	B模造紙	50	$\frac{1}{36}$	100枚 天糊
12	就學免除猶豫願	"	70	$\frac{1}{16}$	兩面刷 100枚 天糊
13	不就學兒童名簿用紙	因州美濃紙薄手		美濃判	
14	學齡兒童月末調查表	"	"	美濃半裁判	
15	月末兒童調查表	B模造紙	50	$\frac{1}{16}$	100枚 天糊
16	小學校尋常科職員兒童數取調表報告	複寫紙 B模造紙	50	$\frac{1}{8}$	100組 假綴
17	" 乙	"	"	"	"
18	小學校高等科職員兒童數取調表報告	"	"	"	"
19	補習學校職員生徒數取調表報告	"	"	"	"
20	幼稚園職員幼兒數取調表報告	"	"	$\frac{1}{16}$	"
21	職員名簿用紙	B模造紙	70	"	
22	職員辭令控簿用紙	"	"	"	兩面刷 100枚天糊
23	學務事務日計表	"	"	"	兩面刷
24	小學校費支出命令額報告書	複寫紙 B模造紙	50	$\frac{1}{9}$	100組 天糊
25	" 乙	"	"	"	"
26	青年訓練所費支出命令額報告書	"	"	$\frac{1}{16}$	"
27	校名用紙	B模造紙	50	"	100枚天糊 校園名ハ各區毎ニ刷入ス
28	不就學及缺席兒童報告書	"	70	$\frac{1}{9}$	兩面刷
29	學齡簿分界紙	"	125	142mm 180mm	

52	納付書 乙	ザラ紙(四六判)		$\frac{1}{12}$	1. 様式ハ51號ニ準シ振替貯金ニ關スル事項ヲ除キタルモノニ付様式ノ掲出ヲ省略ス 2. 督促手数料ニ限リ金額ノ併記ヲ爲スコトヲ得
53	拂込書	" (〃)	"	"	色刷ト爲スコトヲ得

備考 自47號至53號ノ寸法 $\frac{1}{12}$ トハ四六判ノ計算上長邊364mm、短邊197mmノ裁斷方法ヲ言フ

第四種 學務ニ關スル用紙類

番號	品名	紙質 (單位英斤)	寸法 四六判標準	備考
1	學齡簿用紙	B模造紙	125 $\frac{1}{36}$	兩面刷カード式
2	檢閱表	"	"	カード式
3	學齡兒童調查表	"	"	"
4	學齡簿謄本	"	" $\frac{1}{64}$	私製ハガキ
5	學齡簿謄本受付簿用紙	"	60 $\frac{1}{16}$	兩面刷 100枚天糊
6	學齡簿登載通知書	"	125 $\frac{1}{64}$	私製ハガキ
7	謄本回答督促書	"	"	"
8	謄本請求書	"	"	"
9	通知書	"	60 $\frac{1}{36}$	100枚天糊 (就學兒童名簿)
10	就學通知書	"	41 $\frac{1}{32}$	ミシン入

18	死亡者體性原因及年齡別月報	甲	因州美濃紙薄手	美濃判	
19	"	乙	"	"	
20	"	丙	"	"	

第六種 救護ニ關スル用紙類

番號	品名	紙質 (單位英斤)	寸法 (四六判標準)	備考
1	棄兒迷兒調書	B模造紙 70	$\frac{1}{18}$	兩面刷
2	救護臺帳用紙	" 90	$\frac{1}{16}$	"
3	被救護者調書	" 70	"	兩面刷 100枚天糊
4	被救護者引取書	" 41	$\frac{1}{18}$	100枚天糊
5	被救護者送致書	" "	$\frac{1}{16}$	"
6	身柄引取照會書	因州半紙薄手	半紙半裁判	100枚右假綴
7	戶籍謄本請求書	複寫紙 B模造紙 125	$\frac{1}{60}$ 91mm 158mm	50組製本模造紙ハミシン入切取私製ハガキトス
8	救護費計算書	伊豫改良半紙	半紙半裁判	
9	扶養義務者調書	B模造紙 70	$\frac{1}{18}$	兩面刷 100枚天糊
10	準行旅病人救護費計算書	伊豫改良半紙	半紙半裁判	赤刷
11	救護費徵收囑託書	伊豫改良美濃紙	美濃半裁判	
12	救護費用辨償請求書	"	"	
13	"	乙 伊豫改良半紙	半紙半裁判	

第五種 衛生ニ關スル用紙類

番號	品名	紙質 (單位英斤)	寸法 (四六判標準)	備考
1	種痘兒調查表	B模造紙 41	$\frac{1}{64}$	100枚天糊
2	種痘簿用紙	" 70	$\frac{1}{16}$	兩面赤刷
3	種痘未濟者通知書	" 125	$\frac{1}{64}$	私製ハガキ
4	第一期種痘期日指定通知書	" 41	$\frac{1}{18}$	ミシン入
5	第二期種痘期日指定通知書	" "	$\frac{1}{32}$	"
6	第一期種痘濟證	" 100	$\frac{1}{36}$	赤染
7	第二期種痘濟證	" "	"	青染
8	種痘濟證不善感	" "	"	
9	種痘猶豫證	複寫紙 B模造紙 100	$\frac{1}{32}$	100組宛製本表紙付ミシン入(複寫紙ハ種痘猶豫申請書)
10	種痘催告書	B模造紙 41	"	青刷 100枚天糊ミシン入
11	種痘完了通知書	" 125	$\frac{1}{64}$	私製ハガキ
12	種痘日報 甲	" 41	$\frac{1}{32}$	100枚天糊
13	" 乙	" "	"	赤刷 100枚天糊
14	種痘兒本籍照會票	" "	"	100枚天糊ミシン入
15	種痘ノ件回答書	" 125	$\frac{1}{64}$	私製ハガキ
16	醫師藥劑師名簿用紙	" 70	$\frac{1}{16}$	兩面刷 100枚天糊
17	醫師其ノ他出張診療者名簿用紙	" "	"	"

11	戸籍謄抄本 乙	B模造紙	41	$\frac{1}{16}$	様式ノ各面ハ10號ノ2面=同シ
12	" 丙	"	"	"	新戸籍法ノ戸籍=使用スルモノ
13	" 丁	"	"	"	様式ノ各面ハ12號ノ2面=同シ
14	" 戊	"	"	"	舊戸籍法ノ戸籍=使用スルモノ
15	" 己	"	"	"	様式ノ各面ハ14號ノ2面=同シ
16	戸籍見出帳用紙	土佐仙花紙 土佐美濃紙 東口	二枚合	美濃判	
17	除籍見出帳用紙	因州美濃紙中質		"	
18	戸籍受付帳用紙	"	"	"	
19	戸籍日記簿用紙	土佐美濃紙薄手 イシキ止		"	
20	戸籍閱覽交付簿用紙	土佐美濃紙東口		"	
21	戸籍除籍副本發送簿用紙	因州美濃紙薄手 上質		"	
22	戸籍及寄留通告簿用紙	土佐美濃紙東口		"	
23	戸籍事件種類番號簿用紙	B模造紙	125	$\frac{1}{16}$	
24	送付書	伊豫改良半紙 厚口		半紙判	戸籍法37條=依ルモノ
25	戸籍抹消許可請求書	伊豫改良半紙 上質		"	
26	入籍通知書	土佐半紙 イシキ止		半紙半裁判	
27	戸籍届書類目録用紙	伊豫半紙上質		半紙判	
28	記録帳簿目録用紙甲	土佐改良半紙		"	
29	" 乙	伊豫美濃紙中質		美濃判	

14	精神病者監置認可書 申請書	伊豫改良半紙		半紙半裁判	
15	精神病者監置報告書	"		"	
16	精神病者廢監置認可書 申請書	"		半紙判	
17	精神病者廢監置報告書	"		半紙半裁判	
18	精神病者假監置通知書	"		"	
19	沈没品漂流物件簿 名簿用紙	B模造紙	70	$\frac{1}{16}$	

第七種 戸籍=關スル用紙類

番號	品名	紙質 (單位英斤)	寸法 (四六判標準)	備考	
1	戸籍簿用紙 甲	土佐美濃紙 東口上質	美濃判		
2	" 乙	"	"	様式ノ各面ハ1號ノ2面=同シ	
3	戸籍除籍副本 甲	キカイ澆因州 複寫紙	"		
4	" 乙	"	"	様式ノ各面ハ3號ノ2面=同シ	
5	" 丙	"	"		
6	" 丁	"	"	様式ノ各面ハ5號ノ2面=同シ	
7	" 戊	"	"		
8	" 己	"	"		
9	" 庚	"	"	様式ノ各面ハ7號ノ2面=同シ	
10	戸籍謄抄本 甲	B模造紙	41	$\frac{1}{16}$	

48	戸籍寄留謄抄本請求書	ザラ紙	$\frac{1}{24}$	182mm 197mm	
49	郵便申請謄抄本證明取扱簿用紙	B模造紙	60	$\frac{1}{16}$	両面刷
50	官公署請求謄抄本交付簿用紙	〃	〃	〃	〃
51	謄抄本手数料計算書	ザラ紙	$\frac{1}{100}$	79mm 104mm	
52	謄抄本請求書返戻書	〃	$\frac{1}{32}$		
53	既決犯罪人名簿用紙	土佐仙花紙上質		美濃半裁判	
54	既決犯罪人名簿謄本	土佐美濃紙止イ		〃	
55	既決犯罪人名簿見出帳用紙	〃東口二枚合		美濃判	
56	民刑事項回答原簿用紙	〃イ		〃	
57	寄留簿用紙	〃東口上質		〃	
58	出寄留用紙	伊豫美濃紙上質		〃	
59	寄留謄抄本	因州複寫紙		〃	
60	寄留見出帳用紙	土佐美濃紙東口上質		〃	
61	除寄留目錄用紙	伊豫美濃紙上質		〃	
62	寄留者退去通知書	B模造紙	50	$\frac{1}{32}$	
63	出寄留用紙送付書	〃	〃	〃	
64	寄留受附帳用紙	伊豫美濃紙上質		美濃判	
65	出寄留者戸籍異動通知書	B模造紙	125	38號参照	私製ハガキ
66	寄留者職權抹消通知書	〃	〃	〃	〃

30	輪廓入分界紙 甲	須崎半紙	半紙判	黒刷赤見出
31	〃 乙	土佐大半紙	美濃判	〃
32	本籍人戸籍届書類表紙	須崎半紙上質	半紙判	
33	戸籍諸表紙 甲	中表紙 八枚合	〃	
34	〃 乙	〃	美濃判	
35	戸籍簿目錄用紙	本美濃紙粗質二枚合	〃	
36	除籍簿目錄用紙	伊豫美濃紙上質	〃	
37	戸籍編製索引簿用紙	〃	〃	
38	入籍通知督促書	B模造紙	125	但シ仕上 $\frac{1}{64}$ 91mm 136mm 私製ハガキ
39	轉入籍者身分事項照會書	ザラ紙	$\frac{1}{25}$	158mm 218mm
40	轉入籍者身分事項照會書	B模造紙	41	$\frac{1}{18}$
41	除籍轉出者身分事項照會書	〃	125	38號参照 私製ハガキ
42	戸籍届書返戻再送付箋	〃	41	$\frac{1}{36}$
43	種痘符號通知書	〃	125	38號参照 私製ハガキ
44	相續税法第12條ニ依ル報告書 甲	〃	50	$\frac{1}{32}$
45	〃 乙	〃	〃	〃
46	戸籍寄留届書類同覽書	〃	60	$\frac{1}{30}$ 158mm 182mm
47	戸籍法ニ依ル手数料金額及件數表	〃	〃	〃

4	寄留地受檢 通常願	B模造紙	50	$\frac{1}{16}$	
5	寄留地受檢許可通知書	厚 ザ ラ 紙		$\frac{1}{8}$	ミシン入
6	寄留地身體檢查濟壯丁名簿返送書	〃		$\frac{1}{18}$	
7	豫備檢診通知書	B模造紙	41	$\frac{135mm}{280mm}$	
8	壯丁豫備檢診票	〃	〃	$\frac{1}{18}$	
9	徵兵異動簿用紙	〃	70	$\frac{1}{16}$	兩面藍刷
10	徵兵適齡者轉籍通知書	〃	41	$\frac{1}{18}$	
11	出寄留受檢者壯丁名簿送付書	ザ ラ 紙		$\frac{1}{18}$	
12	壯丁名簿受領證	〃		$\frac{1}{36}$	
13	徵兵檢查通達書	B模造紙	60	$\frac{1}{21}$ 但シ仕上 150mm 250mm	ミシン入
14	身體檢查通達書	淺黃色菊判紙 呼80	〃	〃	〃
15	壯丁所在調査照會書	B模造紙	60	$\frac{1}{18}$	兩面刷
16	所在不明者調査明細書	〃	〃	$\frac{1}{16}$	〃
17	徵兵檢查不參人員表	因州美濃紙上質		美濃判	
18	壯丁=與フル検査結果票	B模造紙	70	$\frac{1}{18}$	
19	徵集人員得員表	〃	〃	$\frac{1}{8}$	赤刷
20	兵役證書交付簿用紙	因州美濃紙上質薄口		美濃判	
21	徵集延期證書	B模造紙	60	$\frac{1}{45}$ 但シ仕上 120mm 150mm	兩面刷

67	轉寄留取扱通知書	B模造紙	125	38號 參照	私製ハカキ
68	寄留届錯誤通知書	〃	〃	〃	〃
69	寄留法=ヨル手數料金額及件數表	〃	60	$\frac{1}{30}$ 158mm 182mm	
70	寄 留 届 書	〃	〃	$\frac{1}{18}$	兩面刷
71	寄留者犯罪事項通知書	ザ ラ 紙		〃	
72	出寄留者身元回答書	B模造紙	125	38號 參照	私製ハカキ
73	印鑑=關スル届書受理簿用紙	因州美濃紙		美濃判	
74	印 鑑 證 明 書	キカイ 仙花紙		仙花 26 切	
75	市條例=依ル事務手數料及件數集計表	B模造紙	70	$\frac{1}{16}$	兩面刷
76	工場法=依ル證明交付簿用紙	〃	60	〃	〃
77	埋火葬認許證 甲	〃	50	$\frac{1}{28}$	
78	〃 乙	〃	〃	〃	

備考 2號.4號.6號.9號.11號.13號及15號ノ様式ハ表内備考=記載ノ事由=ヨリ掲載ヲ省略ス

第八種 兵事=關スル用紙類

番號	品 名	紙 質 (單位英斤)	寸 法 (四六判標準)	備 考
1	壯丁名簿用紙	生漉土佐仙花紙上質	255mm 420mm	ミシン入
2	徵兵適齡届書	B模造紙	60 255mm 535mm	〃
3	壯丁人員表	伊豫美濃紙薄口	美濃半裁判	

40	徴兵終決處分結果回答書	B模造紙 125	$\frac{1}{64}$ 但シ仕上 91mm 136mm	私製ハガキ
41	戸籍照校表	" 70	$\frac{1}{40}$ 109mm 197mm	
42	在郷軍人身上異動簿用紙	土佐美濃紙 イシキ止	美濃判	
43	在郷軍人轉籍通知書	B模造紙 125	39號 参照	私製ハガキ
44	在郷軍人轉籍通知決議簿用紙	伊豫美濃紙 上質薄口	美濃判	
45	在郷軍人所在調査照會書	B模造紙 41	$\frac{1}{18}$	兩面藍刷
46	在郷軍人身上異動票 甲	" 70	$\frac{1}{36}$	
47	" 乙	" "	"	
48	寄留地簡閱點呼參會出願經由簿用紙	土佐美濃紙 イシキ止	美濃判	
49	陸軍簡閱點呼執行結果表	因州美濃紙 上質厚口	美濃半裁判	
50	下士卒在隊間成績調書送付方照會書	B模造紙 125	39號 参照	私製ハガキ
51	成績調書送付書	ザラ紙	$\frac{1}{18}$	
52	戰時名簿送付方照會書	B模造紙 125	39號 参照	私製ハガキ
53	戰時名簿送付書	ザラ紙	$\frac{1}{18}$	
54	囑託事務整理簿用紙	B模造紙 70	$\frac{1}{16}$	兩面刷
55	令狀通達書交付通知書	因州複寫紙	半紙半裁判	
56	簡易回答用紙	ザラ紙	$\frac{1}{36}$	

22	兵役免除證書	B模造紙 60	$\frac{1}{45}$ 但シ仕上 120mm 150mm	兩面刷
23	徵集免除通達書	" "	" "	
24	法第39條 徵集延期者名簿用紙	" 70	$\frac{1}{16}$	兩面刷
25	法第41條 "	" 50	"	
26	法第42條 "	土佐美濃紙上質 イシキ止	美濃判	
27	徴兵處分未済者名簿用紙	土佐美濃紙上質	美濃半裁判	
28	籤丁人員表	因州美濃紙薄口	美濃判	
29	徴兵抽籤用紙	土佐美濃紙	"	
30	現役兵(教育召集者)身上明細書	伊豫美濃紙	美濃半裁判	
31	現役兵入營通達書	B模造紙 70	$\frac{1}{16}$	兩面刷ミシン入
32	軍事救護調書	因州美濃紙薄口	美濃判	
33	軍事救護臺帳用紙	土佐美濃紙厚口 イシキ止	美濃半裁判	
34	軍事被救護者狀況報告書	因州美濃紙薄口	美濃判	
35	徴兵旅費拂戻請求書	伊豫改良半紙 上質	半紙判	
36	幹部候補生志願票	土佐美濃紙 イシキ止	美濃判	
37	海軍志願兵志願者身上調書	伊豫美濃紙 上質薄口	"	
38	轉入者兵役結果照會決議簿用紙	伊豫美濃紙上質	"	
39	徴兵終結處分照會書	B模造紙 125	$\frac{1}{64}$ 但シ仕上 91mm 136mm	私製ハガキ

18	物品購入控簿用紙	土佐美濃紙 イシキ止	美濃判	
19	被服原簿用紙	B模造紙 125	$\frac{1}{50}$ 109mm 158mm	カ - フ 式

第一〇種 庶務=關スル用紙類

番號	品名	紙質 (單位英斤)	寸法 (四六判標準)	備考
1	履歷書 甲	美濃紙イシキ止	美濃判	
2	" 乙	" "	" "	
3	保證書	" "	美濃半裁判	
4	職員名簿用紙	B模造紙 100	36mm 180mm	
5	宿直日誌用紙	" 60	$\frac{1}{18}$	兩面刷
6	出張承認簿用紙	" 50	"	"
7	大藏省所管貸付金臺帳用紙	美濃紙イシキ止	美濃判	
8	法人印鑑臺帳用紙	半紙イシキ止	半紙半 $\frac{1}{5}$ 截	
9	法人印鑑證明書	" "	"	
10	工場臺帳索引簿用紙 甲	B模造紙 60	$\frac{1}{18}$	兩面刷
11	" 乙	" "	"	"
12	會社工場工業下調票	" 50	$\frac{1}{32}$	
13	備品小票	キカイ仙花紙	47mm 65mm	
14	會社票	B模造紙 60	$\frac{1}{18}$	兩面刷

七五七(自七五八缺)

〔大電〕

第九種 會計=關スル用紙類

番號	品名	紙質 (單位英斤)	寸法 (四六判標準)	備考
1	收入仕譯書	B模造紙 60	$\frac{1}{8}$	科目名ハ區ノ所要=應シ増減シ刷入
2	收入金報告書	" "	$\frac{1}{18}$	赤刷、種別ハ區ノ所要=應シ刷入
3	收入精算書	" "	"	藍刷
4	國稅送付書	" 50	$\frac{1}{12}$ 197mm 364mm	
5	現金收支日計表	" "	$\frac{1}{16}$	種別ハ區ノ所要=應シ刷入
6	支拂精算表 甲	" "	$\frac{1}{20}$ 158mm 273mm	
7	" 乙	" "	" "	
8	" 丙	" "	" "	
9	" 丁	" "	" "	
10	" 戊	" "	" "	
11	" 己	" "	" "	
12	憑書表紙	キカイ仙花紙	美濃判	
13	證紙發賣表	B模造紙 41	140mm 152mm	
14	現金殘高表	" 70	$\frac{1}{36}$	
15	銀行預金整理簿用紙	" 100	$\frac{1}{9}$	罫引
16	送金臺帳用紙	" 70	"	"
17	囑託徴收金内譯書	" "	$\frac{1}{18}$	"

〔大電〕

第六類 運輸

第一章 軌道

●電氣軌道使用料條例

制定 昭八、五、二〇條例一〇
最近改正 昭一一、四 條例三七

本市會ノ議決ヲ經内務大臣、大藏大臣ノ許可ヲ受ケ大正六年大阪府條例第六號大阪府電氣軌道乘車料條例左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市電氣軌道使用料條例

第一條 本市電氣軌道ノ電車ニ乘車スル者ハ料金ヲ支拂ヒ乘車券ヲ受ケルコトヲ要ス

五歳未満ノ小兒ハ保護者一人ニ付二人ヲ限リ無料ニテ乘車スルコトヲ得其ノ制限ヲ超過シタル小兒ニ對シテハ三人迄毎ニ内一人ヲ保護者ト看做シ乘車料ヲ徵シ他ノ二人迄ハ無料トス

第二條 乘車券ノ種類及其ノ料金左ノ如シ

- 一 路面軌道線
 - 片道券 六錢
 - 往復券 十二錢
 - 回数券 四十八錢

第六類 運輸 第一章 軌道

〔大電〕

十七回券 一圓
 三十四回券 二圓
 乘換券 無料

二 高速軌道線
 片道券 十錢

一區券 十五錢
 二區券 二十錢

往復券 三十錢
 回数券 三十錢

一區券二十一枚 二圓
 二區券二十一枚 三圓

高速軌道線ノ區間ハ市長之ヲ定ム但シ一區間ハ三軒以上トス

第三條 市長事業上必要ト認ムルトキハ路面軌道線、高速軌道線及他ノ交通機關トノ連絡乘車券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ市長ハ特別ノ料金又ハ第一條第二項ノ規定ニ拘ラズ小兒料金ヲ定ムルコトヲ得

第四條 左ノ時間内ニ於テ乘車スル者ニ對シテハ路面軌道線ニ限り割引片道券並割引往復券ヲ發行ス

自三月一日 電車始發時ヨリ
 至十月三十一日 午前七時迄
 自十一月一日 電車始發時ヨリ
 至翌年二月末日 午前七時三十分迄

八〇一

市長事業上必要ト認ムルトキハ前項ノ時間ヲ伸縮スルコトヲ得
割引往復券ノ復券ハ第一項ノ時間外ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ得

第五條 前條ニ依リ發行スル乗車券ノ料金左ノ如シ

- 割引片道券 五 錢
- 割引往復券 九 錢

第六條 陸軍兵ニシテ制規ノ服裝帶劍ヲ爲ス者及海軍兵ニシテ制規ノ服裝ヲ爲ス者ニ對シテハ路面軌道線ニ限り軍人往復券ヲ發行シ其ノ料金ヲ九錢トス

第七條 中學校令、高等女學校令、實業學校令及小學校令ニ依ル學校並市長ニ於テ之ト同等ト認定シタル學校ノ生徒又ハ兒童ニシテ通學ノ爲乗車スル者ニ對シテハ路面軌道線ニ限り料金ノ割引ヲ爲シ通學回数券ヲ發行ス

第八條 本市立學校職員及市區役所屬職員ニシテ通勤ノ爲乗車スル者ニ對シ市長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ路面軌道線ニ限り料金ノ割引ヲ爲シ通勤回数券ヲ發行スルコトヲ得

第九條 通學回数券及通勤回数券ノ種類並其ノ料金左ノ如シ

- 一 圓
- 二 圓
- 二十五回券
- 五十回券

通學回数券及通勤回数券ハ記名トシ其ノ有効期間ハ發行ノ當月及翌月中トス

通學回数券及通勤回数券ハ同一人ニ對シテハ同月中ニ於テ五十回券一册又ハ二十五回券二册以内ニアラサレハ之ヲ發行セス
通學回数券及通勤回数券ノ使用ハ各其ノ記名本人ニ限ル記名人以外

ノ場合ニ在リテハ其ノ差額ノ拂戻ヲ受ケヘシ

前項所定ノ期間内ニ引換ヲ爲ササル舊乗車券ハ無効トス

第十五條 電車係員ノ請求アリタル場合ニ於テ乗車券ノ檢査ヲ拒ミ若ハ乗車券取集ノ際之ヲ交付セサル乗車人ニ對シテハ相當料金ヲ支拂ハシメ尙五圓以下ノ過料ニ處ス記名ノ乗車券ヲ他人ニ讓渡又ハ貸與シ若ハ故意ニ無効ノ乗車券ヲ使用シタル者亦同シ

第十六條 乗換券又ハ連絡乗車券ハ有償タルト否トニ拘ラス之ヲ他人ニ使用セシムルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ過料ニ處ス他人ノ乗換券ヲ使用シタル者亦同シ

第十七條 市長事業上必要ト認ムルトキハ本條例ニ規定セル料金ノ五割以内ノ割引ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ特別乗車券ヲ發行スルコトアルヘシ

第十八條 本條例ニ依リ發行スル乗車券ト其ノ料金同額ノ本市乗合自動車乗車券ハ其ノ一區券ヲ以テ路面軌道線乗車券一回分ニ代用スルコトヲ得

路面軌道線ノ乗車券二枚若ハ本市乗合自動車ノ二區券ヲ以テ高速軌道線一區券ニ、路面軌道線ノ乗車券三枚若ハ本市乗合自動車ノ三區券ヲ以テ高速軌道線二區券ニ代用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ料金ニ差額アルモ追徴若ハ還付セス

第十九條 天災事變其ノ他非常ノ場合ニ於テ市長緊急ノ必要アリト認ムルトキハ特ニ區間ヲ指定シ第二條ノ料金以内ニ於テ臨時料金を定ムルコトヲ得

ノ者之ヲ使用シタルトキハ記名人ノ承諾ヲ得タルト否トニ拘ラス該回数券ノ全部ヲ無効トス

第十條 乗換券ヲ交付スル場合ニハ乗換ノ時間及停留場並先行等ヲ指定時間内ニ指定ノ停留場ニ於テ乗換ヲ爲ササルトキ又ハ指定ノ行先ヲ變更シタルトキハ其ノ乗換券ヲ無効トス

第十一條 市長ハ特別ノ事由アル場合ニ於テハ團體乗車ノ爲貸切又ハ團體乗車券ヲ發行スルコトヲ得
路面軌道線ノ貸切乗車料金ハ乗車定員ニ對シ一人ニ付三錢以上九錢以下ノ割合ヲ以テ市長之ヲ定ム

高速軌道線ノ團體乗車料金ハ左ノ如シ
一 幼稚園兒及尋常小學校兒童ノ團體ニシテ保姆又ハ教職員ノ引卒スルモノ
三十人以上 一人ニ付普通料金ノ五割引
二 其ノ他ノ團體 一人ニ付普通料金ノ三割引

第十二條 既納ノ料金ハ事由ノ如何ニ拘ラス之ヲ還付セス

第十三條 市長ハ事業上ノ必要其ノ他特別ノ事由アリト認ムル者ニ對シ記名ノ無料乗車券ヲ發行スルコトヲ得

第十四條 料金ヲ變更シタル場合ニ於テ舊乗車券ヲ所有スル者ハ施行ノ日ヨリ一年以内ニ限り之ヲ新乗車券ト引換ヲ請求スルコトヲ得但シ料金増額ノ場合ニ在リテハ新舊乗車料金ノ差額ヲ納付シ料金減額

前項ノ無料乗車券ハ記名人以外ノ者之ヲ使用シタルトキハ無効トス

第十五條 市長事業上必要ト認ムルトキハ左ノ附帶業務ヲ爲スコトヲ得

〔大電〕

前項ノ場合ニ於テハ乗換券ヲ交付セサルコトアルヘシ

第十九條ノ二 市長事業上必要ト認ムルトキハ左ノ附帶業務ヲ爲スコトヲ得

- 一 手荷物及小荷物ノ運送
- 二 乗客携帶品ノ一時預
- 三 送迎者ノ乗降場入場
- 四 其ノ他前各號ニ準スヘキ附帶業務

第十九條ノ三 前條ノ規定ニ依ル事業ノ料金ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ市長之ヲ定ム

- 一 手荷物運賃ハ乗客一人ニ付三十匁迄ヲ無料トシ超過重量ニ對シテハ第二號ノ例ニ依ル
- 二 小荷物運賃ハ一個一匁迄十五錢以下トシ超過重量一匁迄每ニ五錢以下ヲ加フ但シ貴重品其ノ他特定ノ物品ニ付テハ倍額ノ運賃トス
- 三 携帶品一時預料ハ一個一日ニ付十錢以下トス
- 四 乗降場入場料ハ一人一回ニ付十錢以下トス

前條第四號ノ規定ニ依ル附帶業務ノ料金ハ市長之ヲ定ム

第十九條ノ四 第十九條ノ二第一號及第二號ノ規定ニ依リ本市ニ寄託セラレタル物品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ因ル損害ニシテ本市ノ責ニ歸スヘキモノニ付テハ市長左ノ範圍内ニ於テ賠償額ヲ定ムルコトヲ得

- 一 要價額ノ表示アルモノ 表示額
- 二 前號以外ノモノ 百五十圓

前項ノ外寄託ヲ受ケヘキ物品、乗降場入場ノ資格要件其ノ他附帶業務ノ執行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム
第二十條 本條例施行ニ必要ナル細則及乘車規程ハ市長之ヲ定ム

電氣軌道使用料條例施行細則

制 定 昭 八、五、二〇告示一五九
最近改正 昭一、一、四 告示二四六

大正六年大阪市告示第七十三號大阪市電氣軌道乘車料條例施行細則左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市電氣軌道使用料條例施行細則

第一條 乘車券ハ其ノ種別ニ依リ左ニ掲ケル場所ニ於テ之ヲ發賣ス但シ市長必要ト認ムルトキハ他ノ場所ニ於テ發賣スルコトアルヘシ
一 路面軌道線乘車券

- 片道券 路面電車内
- 往復券 路面電車内
- 軍人往復券 路面電車内
- 連絡乘車券 路面電車内
- 割引片道券 路面電車内
- 割引往復券 路面電車内
- 回数券 路面電車内、本市電氣局運輸部電車課乗客係、同係四ツ橋分室、電車運輸事務所、高速軌道線驛、自動

（條例第四條所定ノ割引時間内ニ限ル）

車運輸事務所

通學回数券 本市電氣局運輸部電車課乗客係、同係四ツ橋分室
通勤回数券 路面電車内、本市電氣局運輸部電車課乗客係、同係四ツ橋分室

特別乘車券 路面電車内、本市電氣局運輸部電車課乗客係、同係四ツ橋分室

貸切乘車券 電車運輸事務所

二 高速軌道線乘車券

片道券 高速軌道線驛

往復券 高速軌道線驛

連絡乘車券 高速軌道線驛

團體乘車券 高速軌道線驛

回数券 高速軌道線驛、本市電氣局運輸部電車課乗客係、同係四ツ橋分室

特別乘車券 高速軌道線驛、本市電氣局運輸部電車課乗客係、同係四ツ橋分室

前項ニ掲ケル乘車券ノ様式及前項但書ノ發賣場所ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條 回数券、貸切乘車券及團體乘車券以外ノ路面軌道線乘車券ハ乗客一人ニ付一枚ヲ限り之ヲ發賣ス

第三條 本市乗合自動車乘車券ヲ以テ電車ニ乗車シ又ハ路面軌道線乘車券ヲ以テ高速電車ニ乗車セントスルトキハ電車車掌又ハ驛員ニ之ヲ交付シ所要ノ乘車券ト引換フヘシ

第四條 乗換券ニ指定スル乗換ノ時間、停留場及行先等ハ車掌ニ於テ乗客ノ行先ニ達スル順路ニ依リ券面記載ノ相當欄ニ入録ス

〔大電〕

〔大電〕

天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ電車ノ運轉ヲ中斷シタルトキハ乗換券ヲ交付セサルコトアルヘシ

第五條 條例第七條ニ依リ市長ノ認定ヲ受ケントスル學校ハ其ノ代表者ヨリ第一號様式ノ申請書ヲ差出スヘシ

第六條 條例第八條ニ依リ市長ノ認定ヲ受ケントスル本市立學校職員ハ所屬學校長ヲ經、市役所職員ハ所屬課長ヲ經、區役所職員ハ所屬區長ヲ經テ第二號様式ノ申請書ヲ差出スヘシ

第七條 通學回数券ヲ受ケントスル者ハ第三號様式ノ請求書ヲ所屬學校ニ提出スヘシ
前項請求書ノ提出ヲ受ケタル學校ハ其ノ在學者タル旨ノ證明ヲ爲シ之ヲ取纏メ本市電氣局運輸部電車課乗客係又ハ同係四ツ橋分室ニ送付スヘシ

第八條 通勤回数券ヲ受ケントスル者ハ第四號様式ノ請求書ニ前條ニ掲ケタル所屬長ノ在職證明ヲ受ケ本市電氣局運輸部電車課乗客係又ハ同係四ツ橋分室ニ差出スヘシ

第九條 條例第九條第二項ノ規定ニ依ル有効期間ヲ經過シタル通學回数券及通勤回数券ハ直ニ本市電氣局運輸部電車課乗客係、同係四ツ橋分室又ハ電車運輸事務所ニ返付スヘシ但シ便宜車掌ニ託スルコトヲ妨ケス

第十條 電車内、停留場又ハ驛ニ於テ車掌其ノ他ノ電車係員カ條例第九條第二項、同條第四項、第十條第二項、第十三條第二項及第十四條第二項ニ依リ無効トナリタル乘車券ヲ發見シタルトキハ之ヲ收受スヘシ

第六類 運輸 第一章 軌道

第十一條 團體乘車ヲ希望スル者ハ豫メ路面軌道線ニ在リテハ本市電氣局運輸部電車課運輸係、電車運輸事務所又ハ別ニ定ムル箇所ニ、高速軌道線ニ在リテハ驛ニ申込ムヘシ但シ運輸上支障アリト認ムルトキハ其ノ申込ニ應セサルコトアルヘシ
貸切車ノ種類、料金及前項以外ノ運送上ノ條件ハ其ノ都度之ヲ定メテ通知ス
第十二條 條例第十九條ノ二ノ規定ニ依ル附帶業務ニ付テハ別ニ之ヲ定ム
附則 (昭九、九告示三四二)
本改正規定ハ昭和九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
第一號様式
大阪市電氣軌道使用料條例第七條ニ依ル學校認定申請書

- 一 學校ノ名稱
 - 二 學校ノ所在地
 - 三 學課程度
 - 四 設立認可年月日
 - 五 開校年月日
 - 六 (生徒)ノ定員(男女別)
- 本校ハ(中等學校令)高等女學校令(實業學校令)(小學校令)ニ依ル學校ト同等ノ學課程度ノモノニ有之候ニ付大阪市電氣軌道使用料條例第七條ニ依ル認定相成度本校設立ニ關スル監督官廳ノ認可寫相添此段申請候也
年 月 日

第六類 運輸 第一章 軌道

(何) 學校

大阪市長 (何) 某) 殿

第二號様式

大阪市電氣軌道使用料條例第八條ニ依ル通勤者認定申請書

- 一 申請者ノ所屬及職氏名
 - 二 現住所
 - 三 勤務所ノ位置
 - 四 給料額
- 右ハ通勤ノ爲乗車ノ必要有之候ニ付大阪市電氣軌道使用料條例第八條ニ依リ認定相成度此段申請候也
- 年月日

右

大阪市長 (何) 某) 殿

(何)

某) 印

第三號様式

通學回数券請求書

通學回数券ノ種類及冊數(二十五)回券(何)冊

通學期間 自 年月日 至 年月日

在學學校名

請求人ノ住所

備考

年月日

第(何)學年(男)(生徒)

請求人(何)

年齡(何)歲

昭和 年 月 日

大阪市電氣局御中

(何) 學校印

第四號様式

通勤回数券請求書

通勤回数券ノ種類及冊數(二十五)回券(何)冊

通學期間 自 年月日 至 年月日

職名及勤務場所

請求人住所

年月日

請求人(何)

年齡(何)歲

某) 印

前記請求人ハ本校在學者ナルコトヲ證明ス
道使用料條例第八條ノ認定ヲ受ケタル者ナルコトヲ證明ス

(何々)(學校)(課)(區)長

(大電)

大阪市電氣局御中

(何)

某) 印

電氣軌道高速軌道線附帶業務規程

制定 昭一、四、四告示二四九

大阪市電氣軌道高速軌道線附帶業務規程左ノ通相定メ昭和十一年四月五日ヨリ之ヲ施行ス

第一章 入場券及入場料

- 第一條 高速軌道線降車場ニ入り乗客ノ送迎ヲ爲サントスル者ハ入場料ヲ支拂ヒ入場券(第一號様式)ノ交付ヲ受クヘシ但シ保護者ノ同伴セル五歳未満ノ小兒及職務執行中ノ憲兵又ハ警察官吏ハ無料トス
- 第二條 入場料ハ一人ニ付一回五錢トス
- 第三條 入場券ハ發賣驛ニテ一回限り之ヲ使用スルコトヲ得
- 第四條 入場券ハ左ノ場合ニハ無効トシ之ヲ回收ス
 - 一 券面記載事項ヲ塗抹改變シタルトキ
 - 二 發賣驛以外ノ驛ニ於テ使用シタルトキ
- 第五條 入場券ノ所持者ハ入場ノ際入場券ニ係員ノ入缺ヲ受ケ其ノ使用ヲ終ヘ又ハ無効トナリタルトキハ之ヲ係員ニ交付スヘシ
- 第六條 入場者ハ電車内ニ立入ルヘカラス
- 第七條 市長管理上必要アリト認ムルトキハ入場ヲ制限スルコトアルヘシ

第六類 運輸 第一章 軌道

八〇六

(大電)

者ハ乗車シタル者ト看做シ最長區間ニ相當スル料金ヲ徵收ス但シ乗車セサルコト明ナリト認ムルトキハ第二條ノ規定ニ依ル入場料ヲ徵收ス

第二章 携帶品一時預

第八條 高速軌道線驛ニ於テ携帶品一時預ノ取扱ヲ爲ス但シ左ニ掲ケル物品ハ之ヲ取扱フ爲サス

- 一 長尺物及容積又ハ重量過大ニシテ保管ニ適セサルモノ
 - 二 危險品
 - 三 他ノ物品ヲ汚損スル虞アルモノ
 - 四 不潔ナルモノ又ハ臭氣ヲ發スルモノ
 - 五 變質、損傷又ハ腐敗シ易キモノ
 - 六 車輛類
 - 七 貴重品
 - 八 動物
 - 九 死體
 - 十 其ノ他前各號ニ準スヘキモノ
- 第九條 市長管理上必要アリト認ムルトキハ一時預ノ取扱ヲ爲ササルコトアルヘシ
- 第十條 携帶品ハ其ノ性質、形狀及重量ニ應ジ保管取扱上支障ナキ程度ノ荷造ヲ爲シ且其ノ種類及性質ヲ申告スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ荷造不完全ニシテ保管ニ適セスト認ムルトキ又ハ申告ヲ爲ササルトキハ預入ヲ拒絶スルコトアルヘシ
- 第十一條 一時預品ヲ受附ケタルトキハ一時預切符(第二號様式)ヲ交付ス
- 第十二條 一時預ノ期間ハ預入ノ日ヨリ十五日以内トス

八〇七

第六類 運輸 第一章 軌道

前項ノ期間満了スルモ引取人ナキ一時預品ハ大阪市公報ニ公告シ高
速軌道線驛備付ノ閱覽簿ニ登録ス
公告後六月以内ニ引渡請求ナキ一時預品ハ本市其ノ所有權ヲ取得ス
第十三條 一時預品ハ一時預切符ト引換ニ之カ引渡ヲ爲ス但シ預主カ
亡失其ノ他ノ事由ニ依リ一時預切符ヲ提出スルコト能ハサル場合ニ
於テ本市正當引取人ナリト認ムルトキハ其ノ受領證(第三號様式)、
正當引取人ナルコトヲ知り難キトキハ資力信用充分ナリト認ムル者
ヲ保證人トシテ之ト連署セル保證狀(第四號様式)ト引換ニ之カ引渡
ヲ爲ス
第十四條 一時預料一個一日ニ付十錢トシ一時預品引渡ノ際之ヲ徵收
ス
第十五條 前項ノ料金ハ一時預期間經過後ニ付テモ之ヲ徵收ス
一時預品一個ニ付五十圓ヲ限度トシテ本市ノ責ニ歸スヘキモノニ付テハ一
ノ規定ニ依ル申告ヲ偽リテ物品ヲ預入シタルトキハ其ノ損害ノ全部
又ハ一部ヲ賠償セサルコトアルヘシ
第十六條 第十條ノ規定ニ依ル申告ヲ偽リテ預入シタル物品ニ因リ本
市ニ損害ヲ及ホシタルトキハ市長ノ定ムル所ニ依リ其ノ損害ヲ賠償
セシム
第十七條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ電氣局長之ヲ定ム
附則
本規程中携帶品一時預ニ關スル規定ハ昭和十一年五月一日ヨリ之ヲ施
行ス

第二號様式

(面 表)	
大阪市電氣局 一時預切符	乙 (現品) 0001
一日ニ付10錢	
料金	
預日付印	引日付渡印
大阪市電氣局 一時預切符	
甲 (預主) 0001	
料金	
預日付印	引日付渡印

(面 裏)

◎ 預主住所氏名
殿
注 意
<p>1 預料ハ表面記載ノ通りデス。 2 預期間ハ十五日以内デス。十 五日ヲ過ギテモ御引取ナキト キハ適宜處理スルコトニナツ テ居リマス。 尙十五日以後ニ御引取ノ場合 モ其ノ日數ニ相當スル規定ノ 料金ヲ申受ケマス。 3 預料ハ荷物ヲ御渡シスル際ニ 申受ケマス。 4 預品ハ此ノ切符ト引換ニ御渡 シ致シマス。</p>

第六類 運輸 第一章 軌道

第一號様式

(色 灰 綠) 面 表	
入 場 券	
難 波 驛	
料 金 5 錢	
通 用 1 回 限	
(色 白) 面 裏	
電車内に入らぬ様願ひます	
(大阪市電氣局)	

第三號様式

受領證	
物品明細	
昭和 年 月 日	驛發行一時預切符第 號紛失致候ニ付特 ニ本證ヲ以テ前記物品御引渡相成正ニ受領致候也
昭和 年 月 日	
大阪市電氣局 御中	受取人 住 所 氏 名

第四號様式

參 照 印 紙 錢	
保 證 狀	
物品明細	
昭和 年 月 日	受取人 住 所 氏 名
昭和 年 月 日	受取人 住 所 氏 名
大阪市電氣局 御中	受取人 住 所 氏 名

●電氣軌道乘車規程

制 定 大六、一〇、一三告示七二
最近改正 昭二、二 告示四八

大阪市電氣軌道乘車規程左ノ通相定ム

大阪市電氣軌道乘車規程

第一條 乘客ハ大阪府令電氣軌道取締規定及本市ノ條例規則等ヲ守リ車内ノ揭示及車掌其ノ他ノ電車係員ノ指示スル所ニ從フヘシ

第二條 乘客ハ其ノ行先又ハ此ニ達スル順路ニ當ル方向ヲ示シタル電車ニ乗車スヘシ

第三條 本市乗合自動車乗車券ヲ以テ電車ニ乗車セムトスルトキハ之ヲ電車車掌ニ交付シ引換ニ電車軌道乘車券ヲ受取ルヘシ

第四條 乘客ハ車内ニテ受ケタル乗車券又ハ既ニ所持スル乗車券ヲ車掌ニ示シテ改換ヲ受ケヘシ但シ通學回数券又ハ通勤回数券ニ依ル場合ニハ必ス表紙ヲ附シタルママ之ヲ示スヘシ

第五條 車掌ニ於テ乘客ノ行先方其ノ電車ニ乗換ヲ要スルモノト認メタルトキハ乗換券ノ改換ト同時ニ乗換券ヲ交付スヘシ乘客ハ其ノ券面ニ入録セル指定事項ニ誤リナキヤ否ヤヲ確メタル上之ヲ受取ルヘシ再度以上乗換ヲ要スル場合又之ニ準ス

二 他ノ乘客又ハ車外ノ公衆ニ對シ寄附ヲ求メ又ハ物品ヲ配付シ若クハ販賣スルコト

三 講演、説教、勸誘又ハ廣告ヲ爲スコト

四 飲食、喫煙ヲ爲シ又ハ痰唾ヲ吐キ若クハ火ノ付キタル煙草ヲ携フルコト

五 運轉手臺ニ立チ止マリ又ハ釣手ヲ持タスシテ立ツコト

六 肢體ヲ車體外ニ出スコト

七 車扉又ハ窓硝子ニ凭リ掛リ若クハ腰掛ニ横臥スルコト

八 信號紐ニ觸レ又ハ運轉把手ヲ動かスコト

九 煙草ノ吸殻紙屑類其ノ他不潔ナル物ヲ車内ニ棄テ又ハ通行人ニ危険ナル物ヲ車外ニ棄ツルコト

十 揭示、廣告又ハ腰掛等ヲ汚損スルコト

十一 太股ヲ露ハシ又ハ肌ヲ脱ケ等ノ不體裁ヲ爲スコト

十二 放歌高聲ヲ發シ若クハ喧噪ニ互ルコト

十三 前各號ノ外他客ノ迷惑トナルコト

第十四條 天災事變其ノ他ノ事由ニ因リ電車ノ運轉ヲ中斷シタル場合又ハ電車ノ故障其ノ他運轉上已ムヲ得サル場合ニ於テハ車掌其ノ他ノ電車係員ハ乘客ニ對シ降車ヲ求メ又ハ他ノ電車ニ乗換ヲ求ムルコトアルヘシ

第十五條 車掌其ノ他ノ電車係員ハ職務上ノ必要ニ依リ乘客ニ對シテ其ノ氏名住所年齢及職業等ヲ示サムコトヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ乘客ハ速ニ之ヲ答フヘシ

第十六條 乘客ハ乗車料金を車内ニ於テ支拂フ場合ニハ可成釣錢ヲ要

乘客ハ乗換ノ都度其ノ所持スル乗換券ヲ車掌ニ示シテ改換ヲ求ムヘシ

第六條 乗車料金割引時間内ニ於テハ各電車ニ「わりびき」ノ札ヲ掲ケテ之ヲ表示ス乘客ハ割引乗車券ニ依ラサル者ト雖モ尙ホ其ノ電車ニ乗車スヘシ

第七條 乘客降車セムトスル際ニハ改換済ノ乗車券又ハ改換済ノ乗換券ヲ車掌其ノ他電車係員ニ交付スヘシ

第八條 定期ノ無料乗車券ヲ使用スル乘客ハ乗降ノ都度之ヲ示スヘシ

第九條 不用又ハ無効トナリタル乗換券ヲ所持スル乘客ハ車掌其ノ他ノ電車係員ニ之ヲ返付スヘシ

第十條 車掌其ノ他ノ電車係員ニ於テ乗降ニ不自由アリト認メタル者又ハ他ノ乘客ニ迷惑ヲ懸ケル虞アリト認メタル者ニハ其ノ乗車ヲ拒絶スヘシ

第十一條 車掌其ノ他電車係員ニ於テ必要ト認ムルトキハ乘客ノ座席又ハ位置ヲ指定スルコトアルヘシ

第十二條 乘客ハ自己ノ膝ニ載セ得ル程度ノ物品ニ限り之ヲ車内ニ携帯スルコトヲ得但シ車掌其ノ他ノ電車係員ニ於テ他ノ乘客ニ對シ危險若クハ迷惑ヲ懸ケル虞アリト認メタル物又ハ鳥獸類ノ携帯ハ之ヲ拒絶スヘシ

第十三條 乘客ハ車内ニ於テ左ノ行爲ヲ爲スヘカラス
一 電車ノ進行中運轉手ニ對シ談話ヲ爲スコト

セサル様用意スヘシ

第十七條 定期ノ無料乗車券ヲ使用スル者ニハ本規程第三條第四條及第六條ヲ適用セズ

附 則

附 則 (大九、七告示九二)

本規程ハ大阪市電氣軌道乘車料條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本改正規程ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●高速軌道線運輸開始ノ件

制 定 昭 八、五、二〇告示一六〇
最近改正 昭一〇、一〇 告示四三七

線名並運輸區間	停留場名	停留場間距離
高速電氣軌道第一號 線梅田・難波間	梅田驛	一、二七四
	淀屋橋驛	
	本町驛	
	心齋橋驛	
	難波驛	一、〇一八
		九二八

軍人往復券
(薄藍色)



割引往復券
(海老茶色)



割引片道券
(藍色)



片道券
(茶色)



往復券
(紅色)



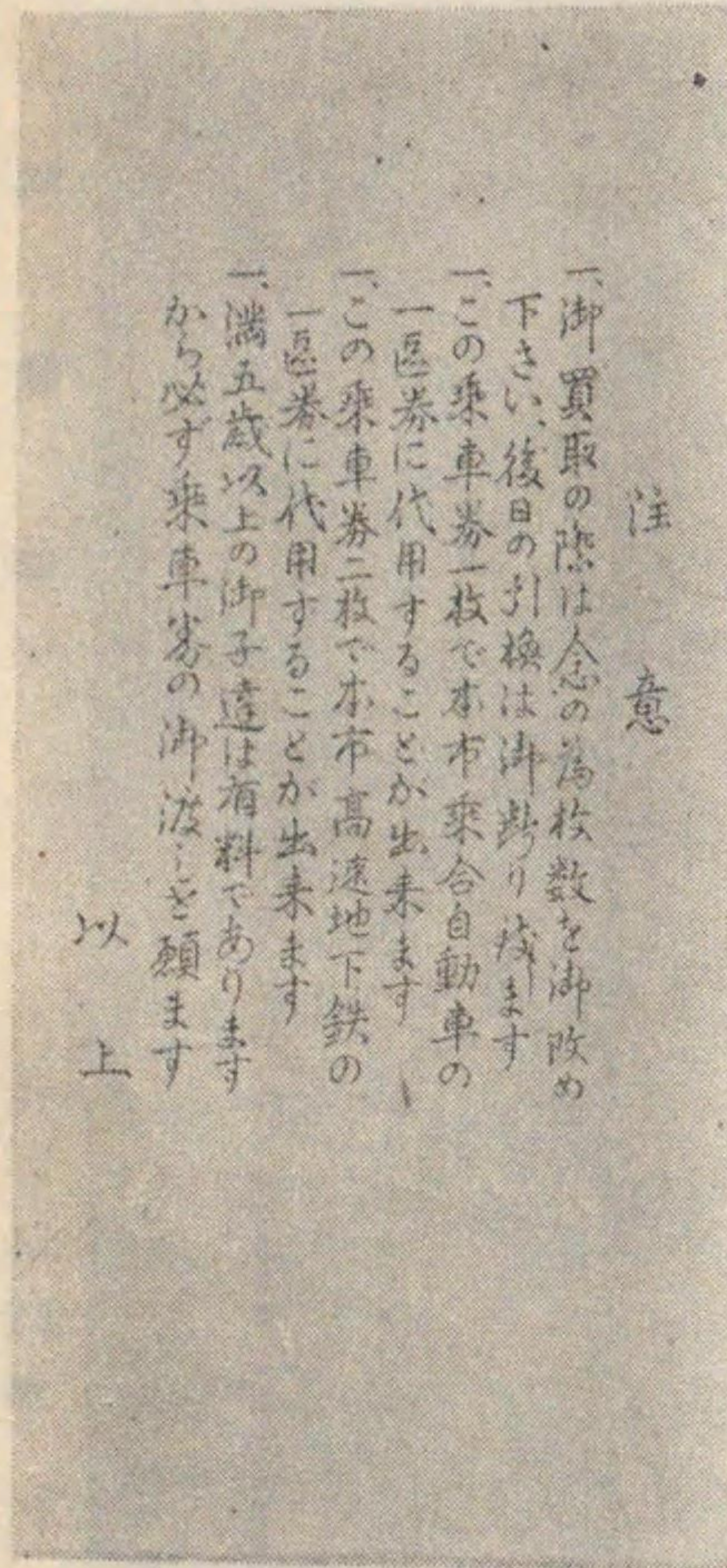
●電氣軌道乘車券様式

制定 大六、一〇、一三告示七三ノ二
最近改正 昭一、一、四 告示 二五三
本市電氣軌道乘車券ノ様式左ノ如シ
一 路面軌道線乘車券

面裏紙表

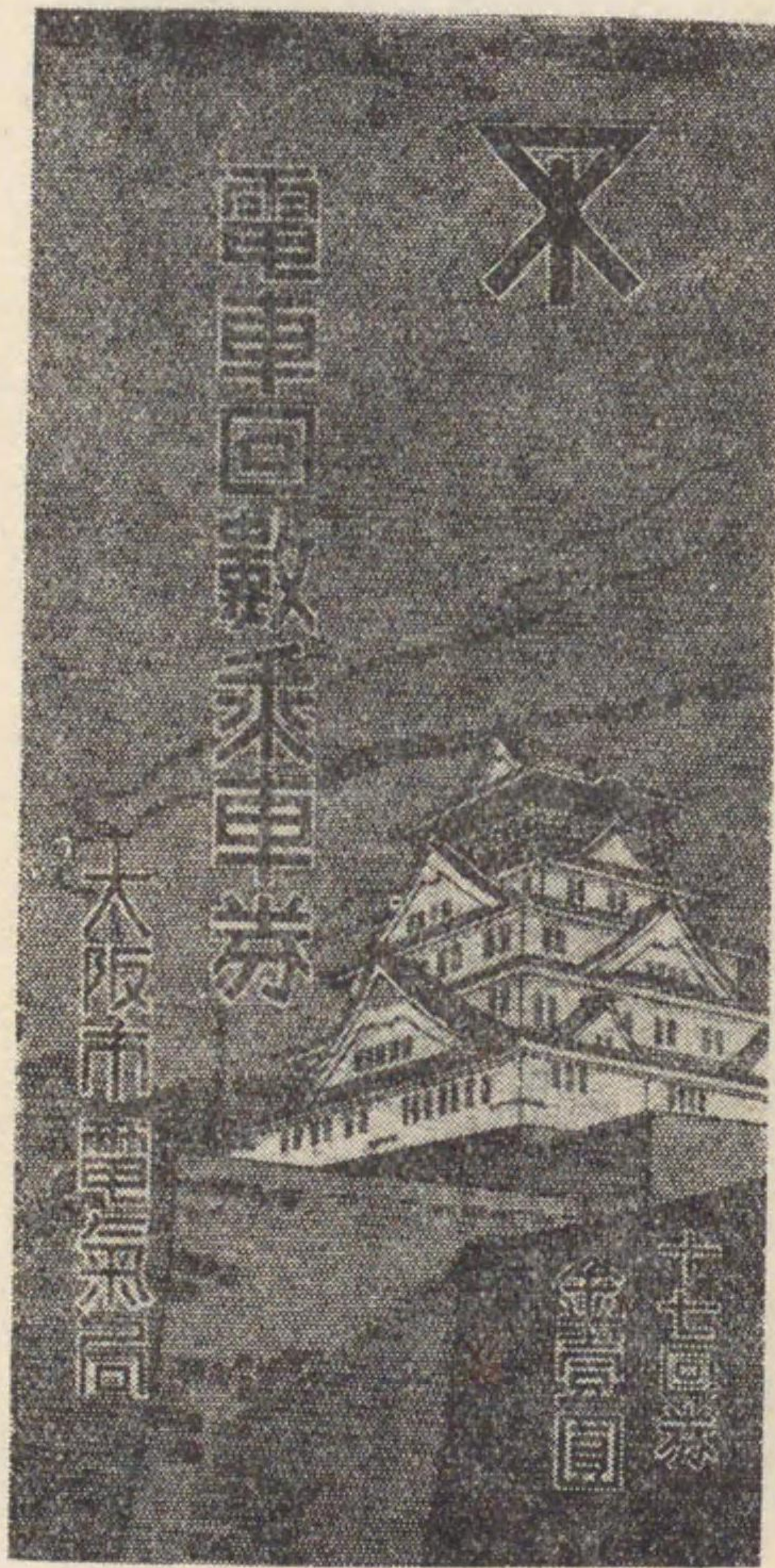
(色茶焦)面表紙表

第六類 運輸 第一章 軌道



注意

一 御買取の際は念の為枚数を御改め下さい。後日の引換は御断り致します。
二 この乗車券一枚で本市乗合自動車の一區券に代用することか出来ます。
三 この乗車券二枚で本市高速地下鉄の一區券に代用することか出来ます。
四 満五歳以上の御子達は有料でありますから必ず乗車券の御渡しを願います。
以上



回数券 十七回券

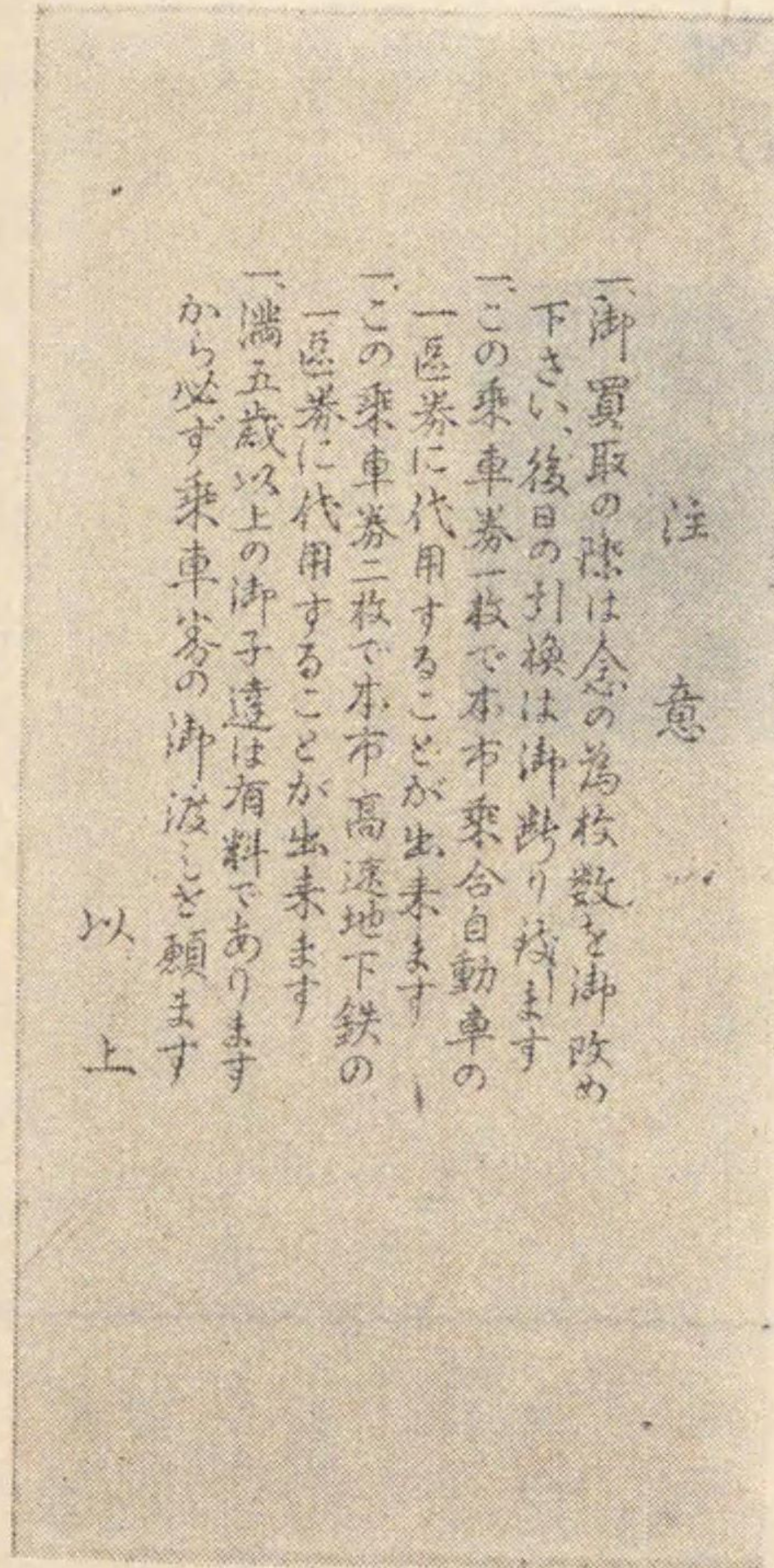
片各券數回



面裏紙表

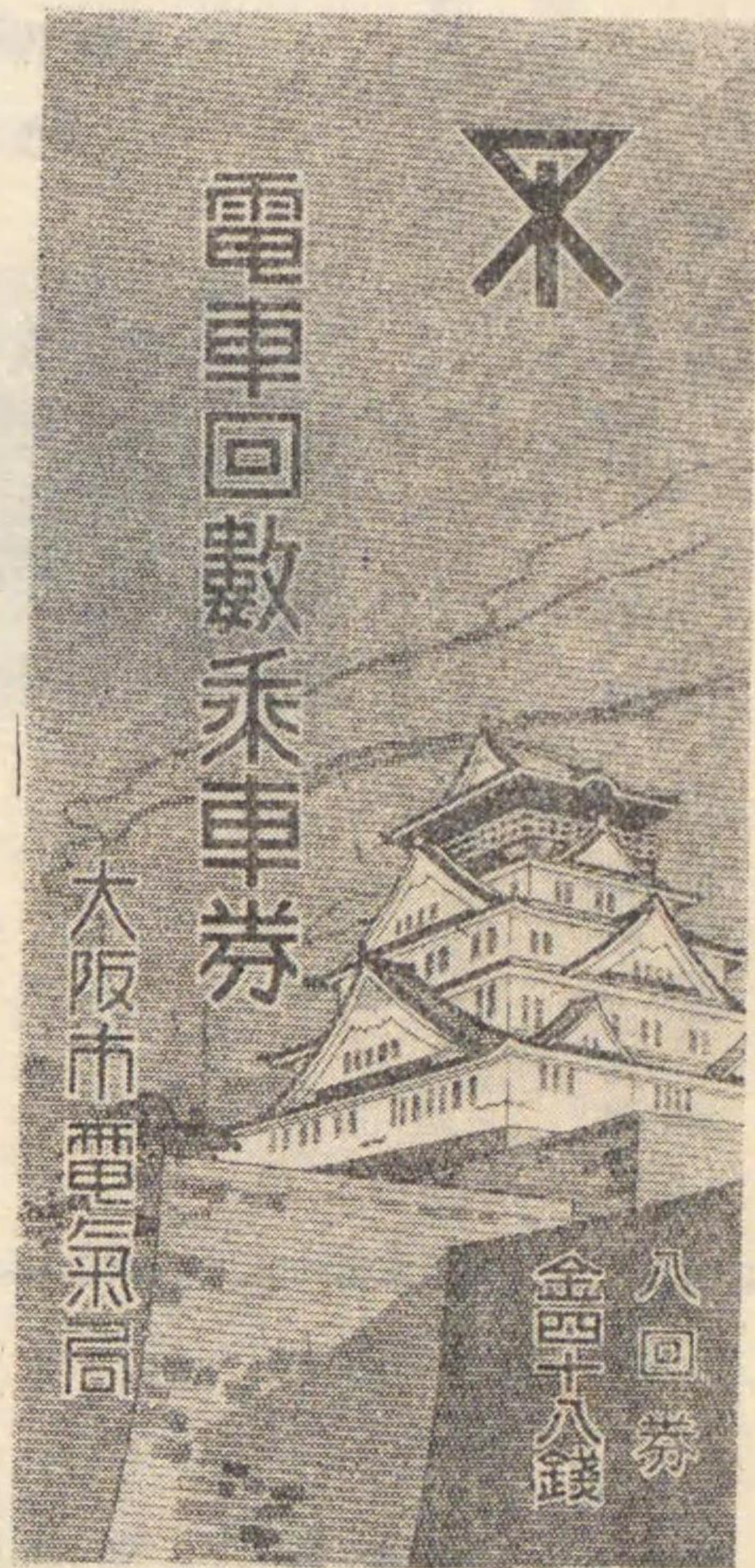
(色 樺)面表紙表

第六類 運輸 第一章 軌道



注意

一 御買取の際は念の為枚数を御改め下さい。後日の引換は御断り致します。
二 この乗車券一枚で本市乗合自動車の一區券に代用することか出来ます。
三 この乗車券二枚で本市高速地下鉄の一區券に代用することか出来ます。
四 満五歳以上の御子達は有料でありますから必ず乗車券の御渡しを願います。
以上



回数券 八回券

片各券數回



面裏紙表

第六類 運輸 第一章 軌道

金 壹 圓

注 意

一 本券は記名人に限り使用せらるべし若し記名人以外の人を使用せらるることは全部を無効として車掌は之を收受可致し

一 本券は表紙と背に有効のものに付改換を受けらるる場合及降車の際は必ず其表紙を車掌に示さるべし

一 本券の譲渡又は貸與は大坂市電車軌道乗車料條例を以て禁止せられ居り

一 尚ほ本券に穿する事項は大坂市電車軌道乗車料條例細則及乗車規程に詳記有るに

面表紙表

昭和五年 月 日 通用

大 阪 市 電 車 軌 道

通 學 回 數 券

二 十 五 回 券

黄 色

局 氣 電 市 阪 大

通學回数券

二十五回券 黄色

片各券數回學通



面裏紙表

注 意

一 御買取の際は念の為枚数を御改め下さい後日の引換は御断り致します

一 この乗車券一枚で本市乗合自動車の一區券に代用すること出来ます

一 この乗車券二枚で本市高速地下鉄の一區券に代用すること出来ます

一 満五歳以上の御子達は有料でありますから必ず乗車券の御渡しを願います

以 上

(色藍紺)面表紙表

第六類 運輸 第一章 軌道 回数券

大 阪 市 電 氣 局

電 車 回 數 乗 車 券

三 十 四 回 券

金 貳 圓

三十四回券

片各券數回

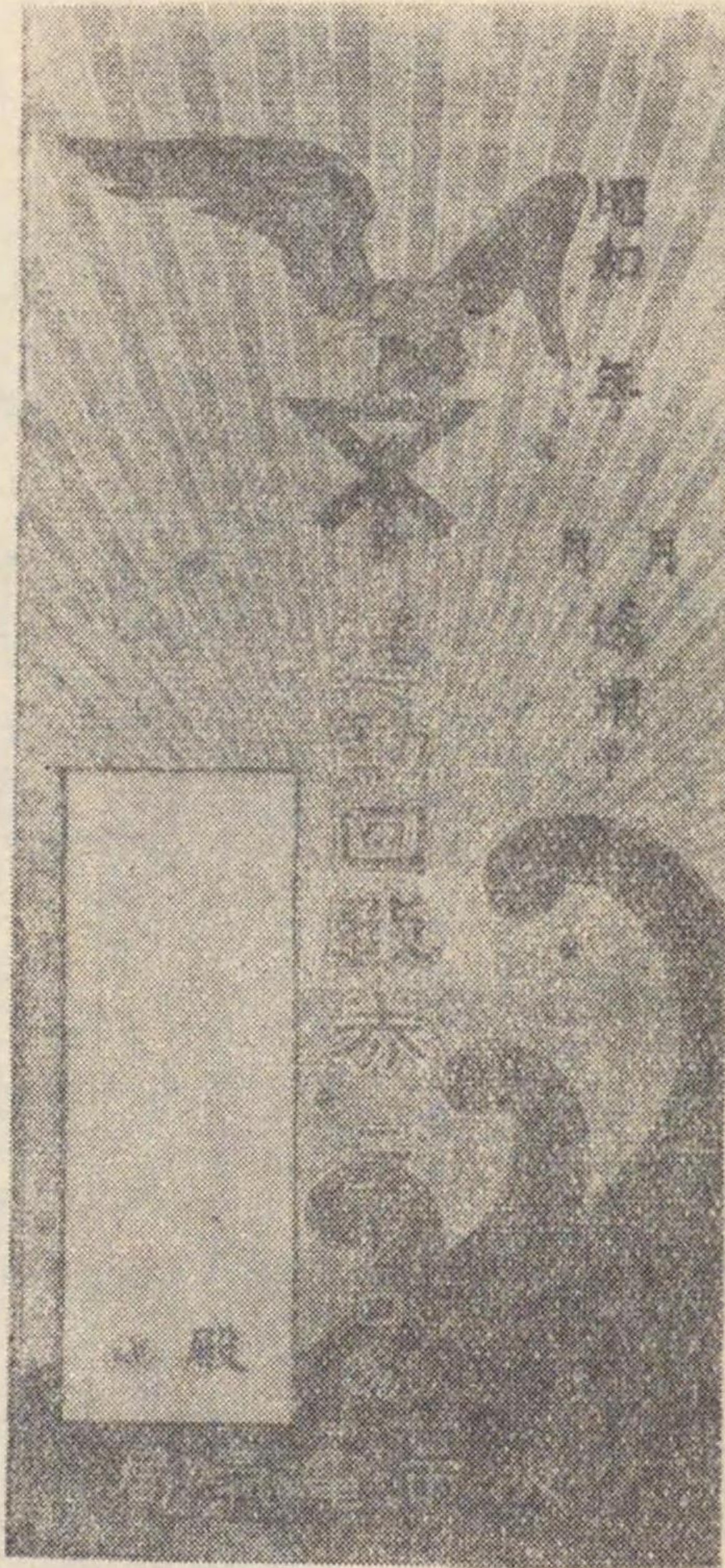


面裏紙表

圖壹金

注意
 一本券は記名人に限り使用せらるべし若し記名人以外の人を使用せらるるときは全部を無効として車掌は之を收受可致し
 一本券は表紙と共に有効のものに付改紙を受けらるる場合及降車の際は必ず其表紙を車掌に示さるべくし
 一本券の譲渡又は貸與は大阪市電車軌道業車料條例を以て禁止せられ居り
 尚ほ本券に課する事項は大坂市電車軌道業車料條例同細則及業車規程に詳記有る

面表紙表



通勤回数券

二十五回券 薄風色

片各券數回勤通

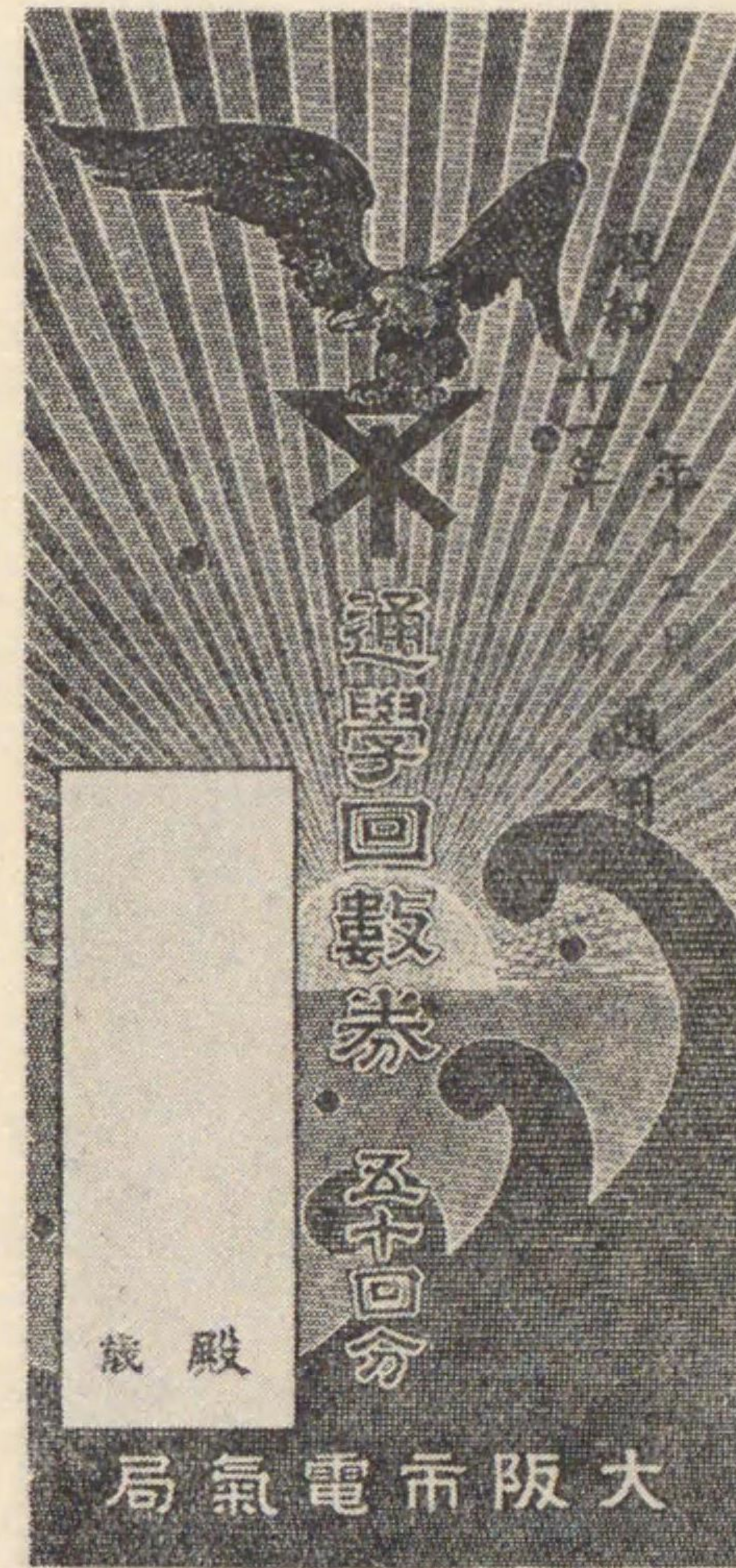


面裏紙表

圖貳金

注意
 一本券は記名人に限り使用せらるべし若し記名人以外の人を使用せらるるときは全部を無効として車掌は之を收受可致し
 一本券は表紙と共に有効のものに付改紙を受けらるる場合及降車の際は必ず其表紙を車掌に示さるべくし
 一本券の譲渡又は貸與は大坂市電車軌道業車料條例を以て禁止せられ居り
 尚ほ本券に課する事項は大坂市電車軌道業車料條例同細則及業車規程に詳記有る

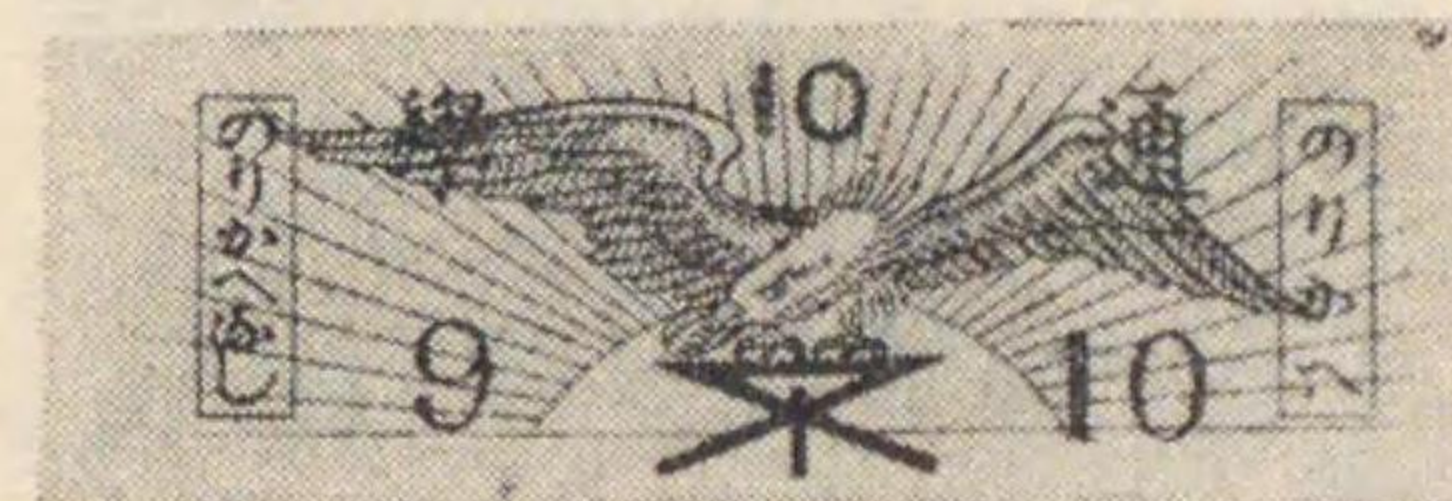
面表紙表

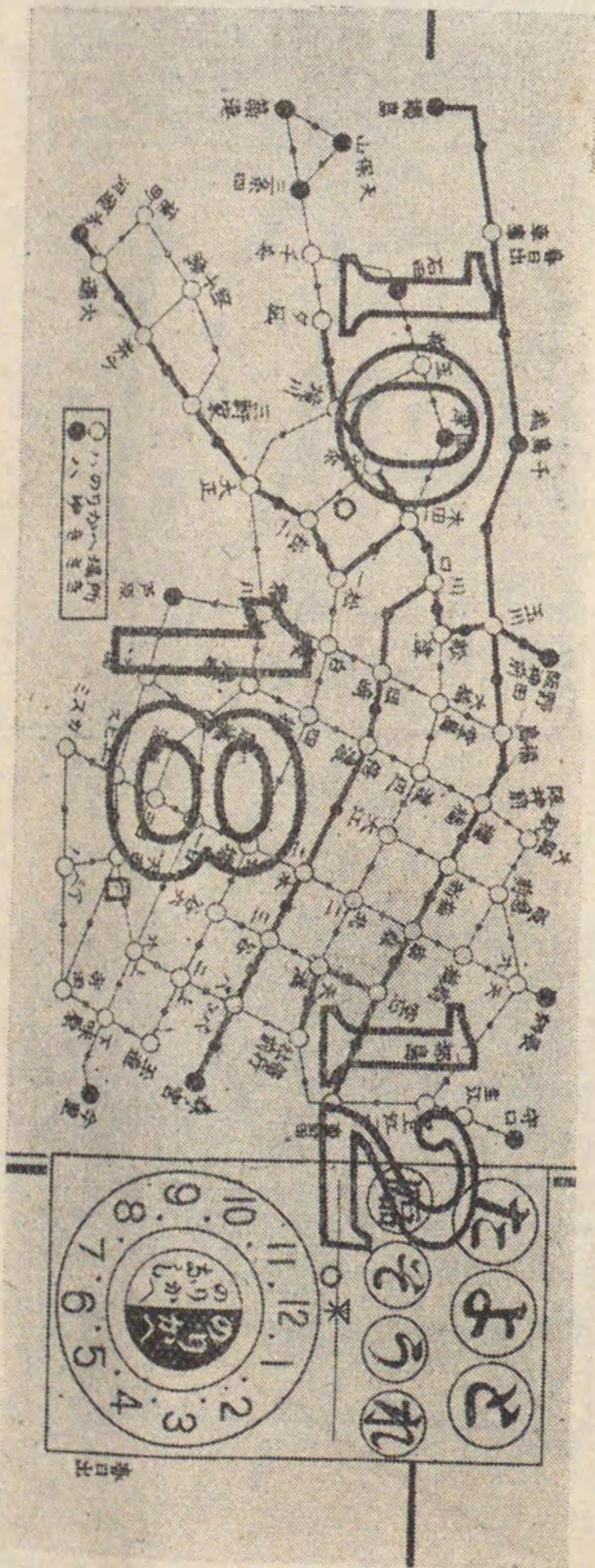


第六類 運輸 第一章 軌道
 通學回数券

五十回券 紫色

片各券數回學通





(又略種六下以) 券 換 乘

金 貳 圓

注 意

一 本券は記名人に限り使用せらるべし若し記名人以外の人を使用せらるるときは全部を無効として車掌は之を收戻可致し

一 本券は表紙と共に有効のものに付改紙を受けらる、場合及降車の際は必ず其表紙を車掌に示さるべくし

一 本券の譲渡又は貸與は大阪市電車軌道乗車料條例を以て禁止せられ居り

尚ほ本券に算する事項は大阪市電車軌道乗車料條例同細則及乗車規程に詳記有之

昭和十年十一月一日

大阪市電車局

通勤回数券 五十回分

歳 殿

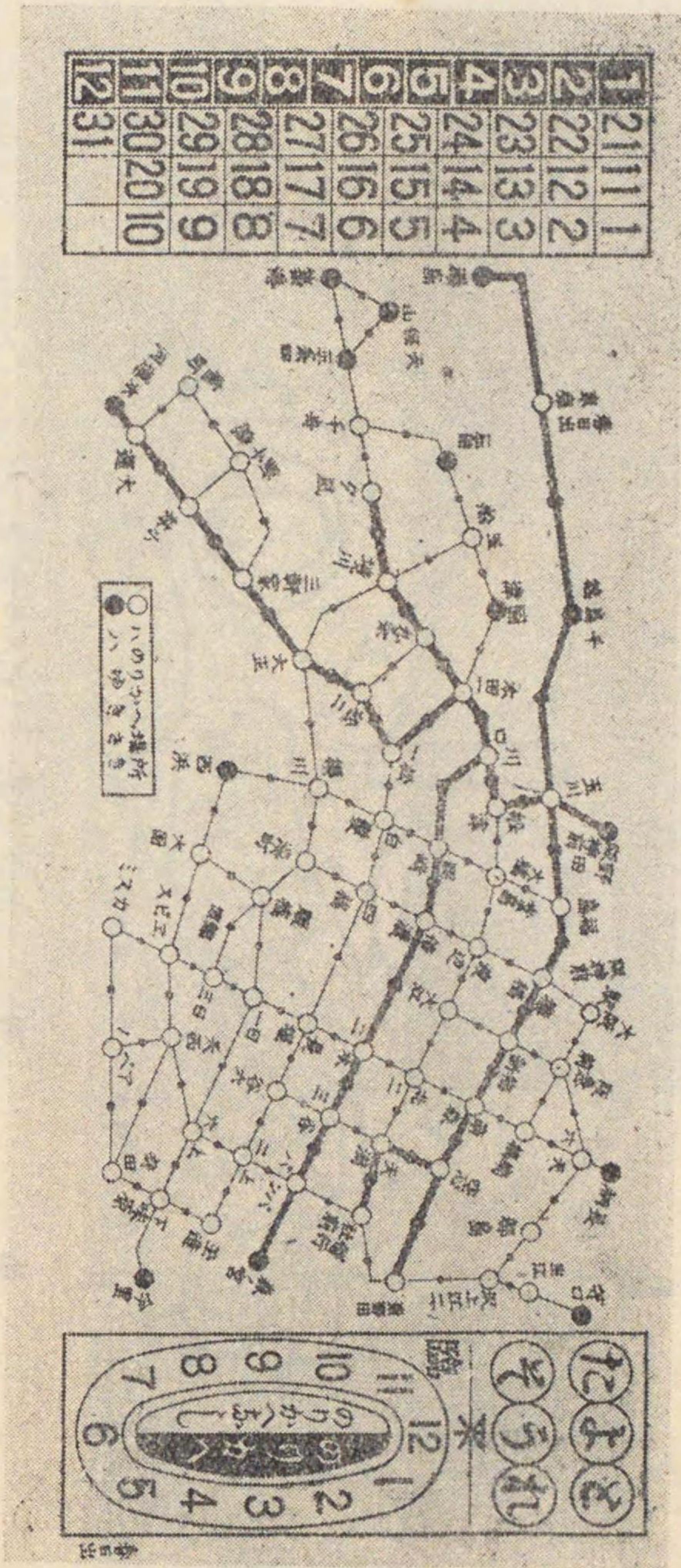
局 氣 電 市 阪 大

第六類 運輸 第一章 軌道
通勤回数券 五十回券 草色

片 各 券 數 回 勤 通

のりかへ	勤	10	通	のりかへ
	9	✳	10	

(ノ略種六下以) (用助補) 券 換 乘



貸切乗車券 白色

大 阪 市 電 氣 局

國 體 貸 切 乘 車 券

注 意

一 御乗車中ハ電氣鐵道取締規則御遵守相成度候
 一 係員本券ノ提示ヲ求メタル片ハ御示シ下サレ度候
 一 本券御使用済ノ上ハ御下車ノ際車掌ニ御渡シ下サレ度候
 一 乗越又ハ人員超過ノ節ハ相當賃金申受ケ可ク候
 一 如何ナル場合ニテモ拂戻ノ請求ニ應ジ不申候
 一 本券ノ通用ハ當日限
 一 本券ニ課印及係員ノ認印ナキモノハ無効ニ御座候

No. _____
 甲 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 發行 係員 _____
 乘車 日午 時 分 _____
 乘車人員 _____ 名 _____ 殿

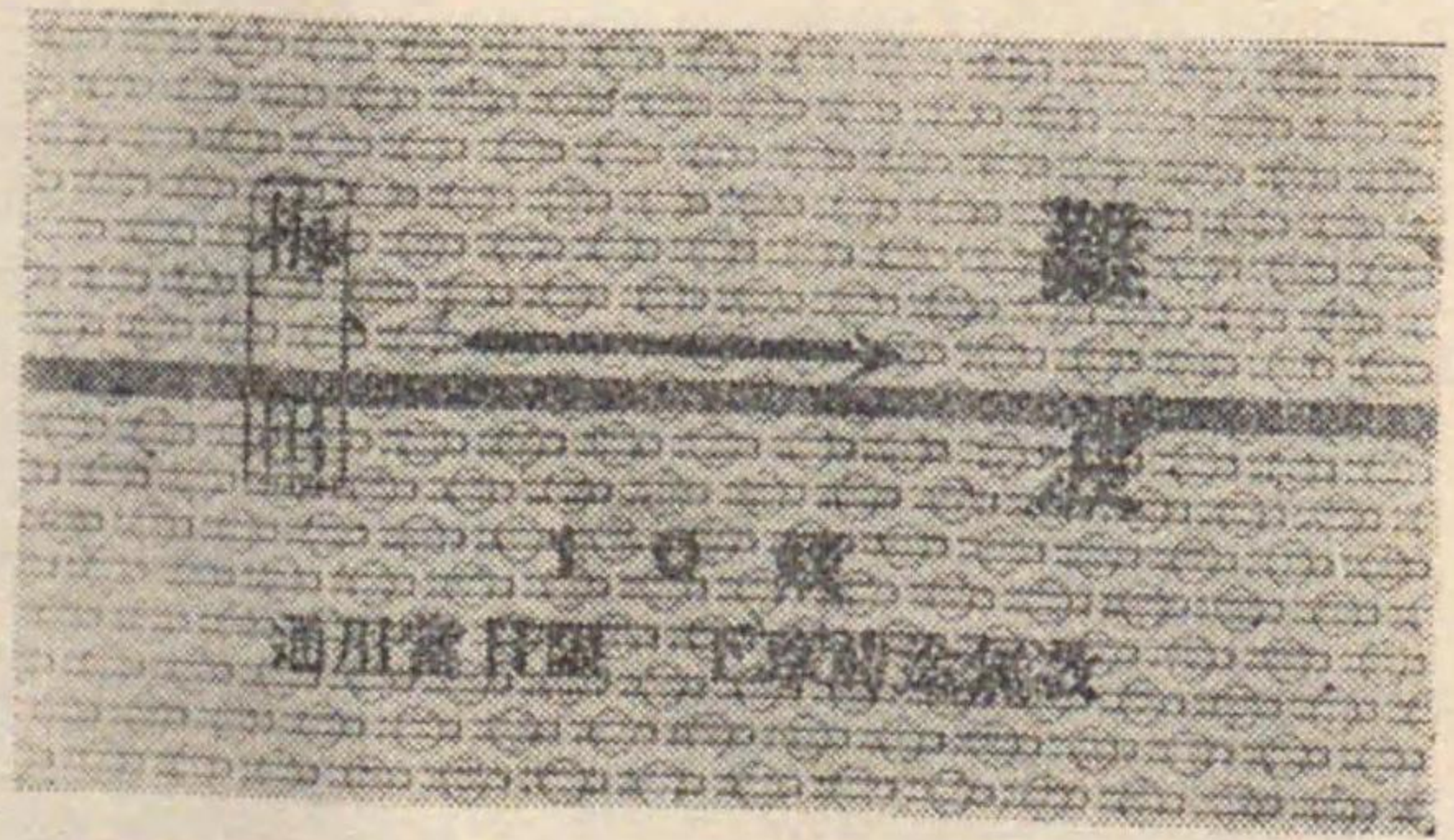
自 至
 乘車賃金 _____ 圓 _____ 錢 _____ 也
 停留場 _____ 圓 _____ 錢 _____ 也
 停留場 _____ 圓 _____ 錢 _____ 也
 合計金 _____ 圓 _____ 錢 _____ 也

二 高速軌道線乗車券

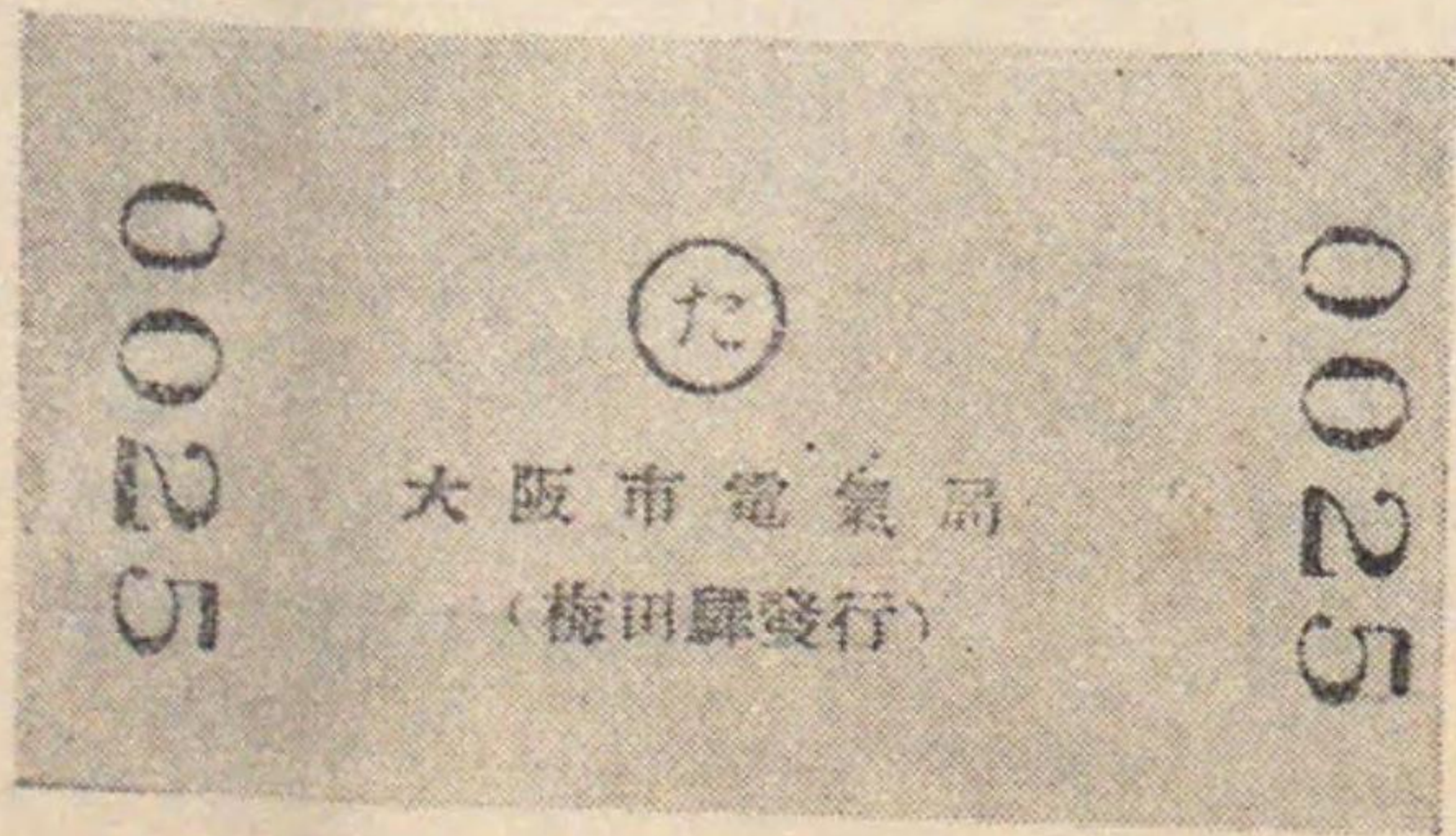
普通券

一 區券

表 面 (薄青 色)



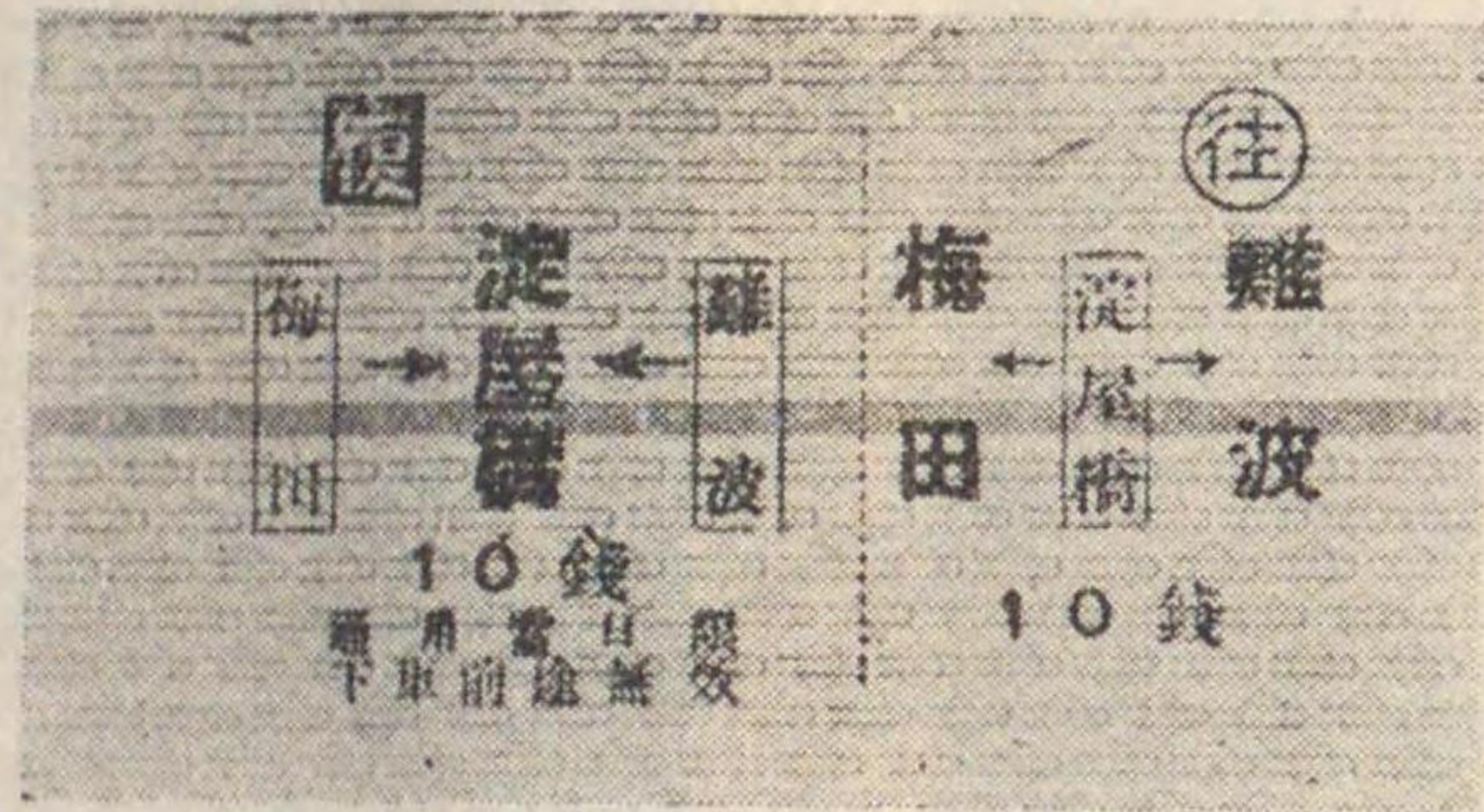
裏 面 (白 色)



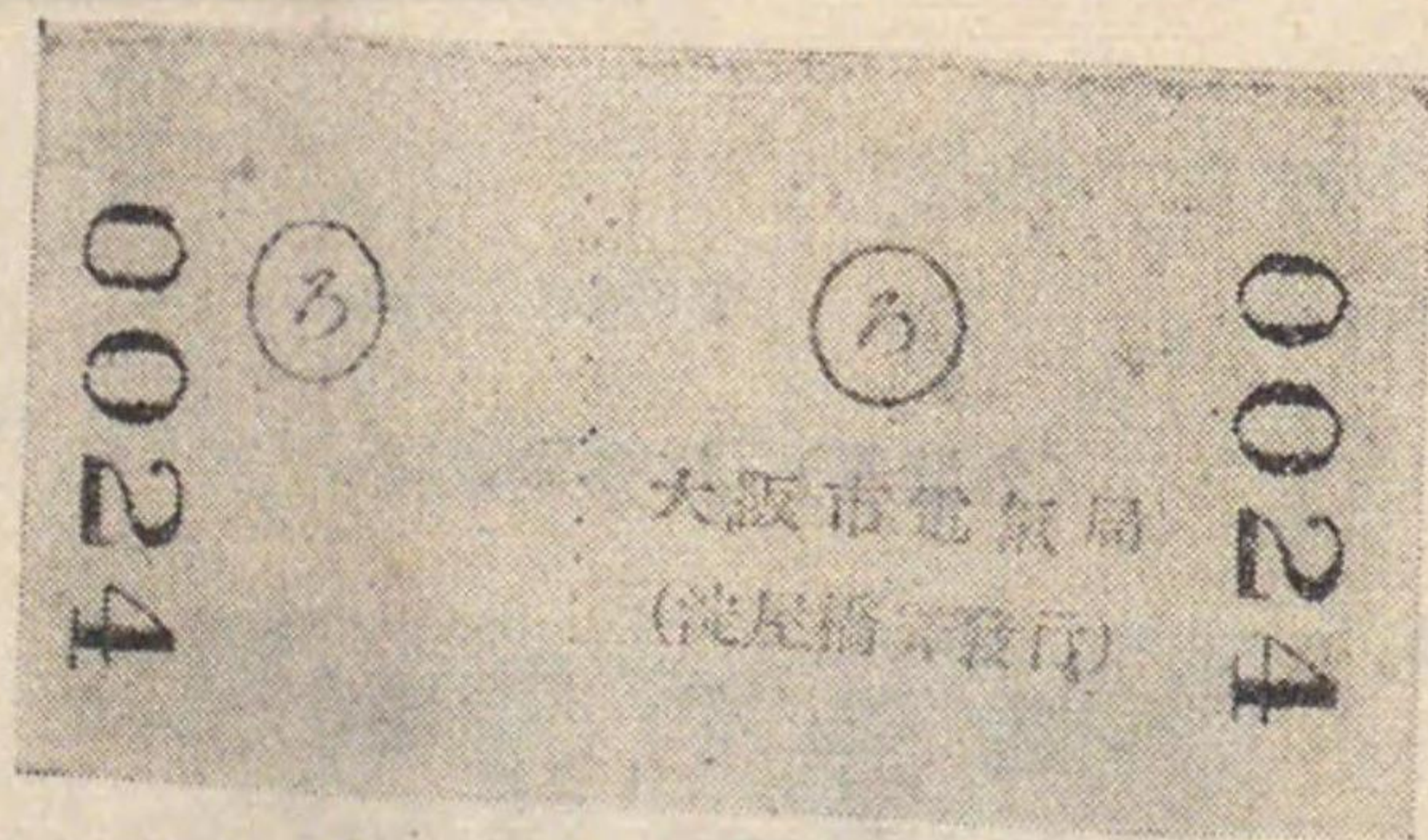
〔大電〕

〔大電〕

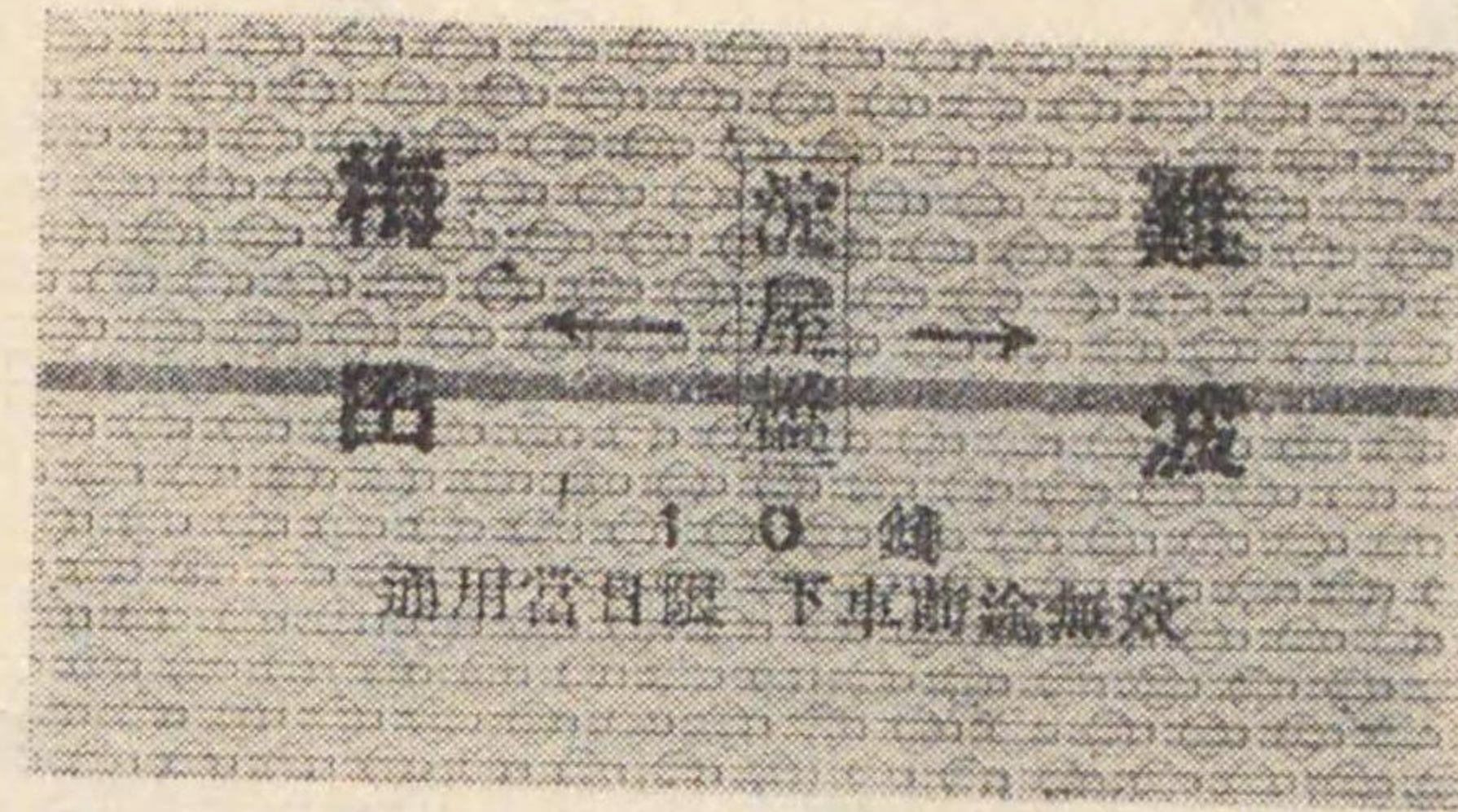
(色青薄) 面 表



(色白) 面 裏



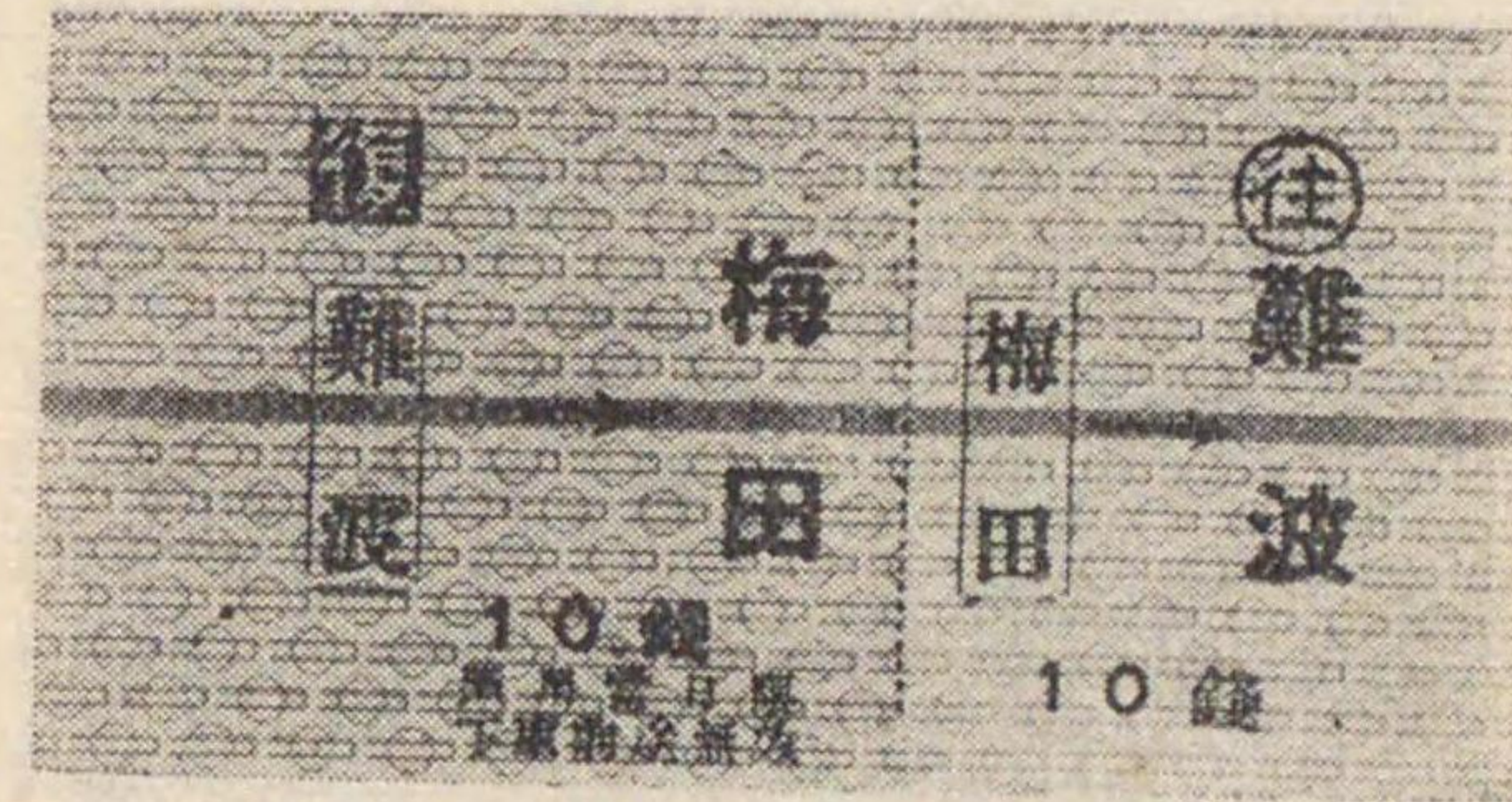
(色青薄) 面 表



(色白) 面 裏

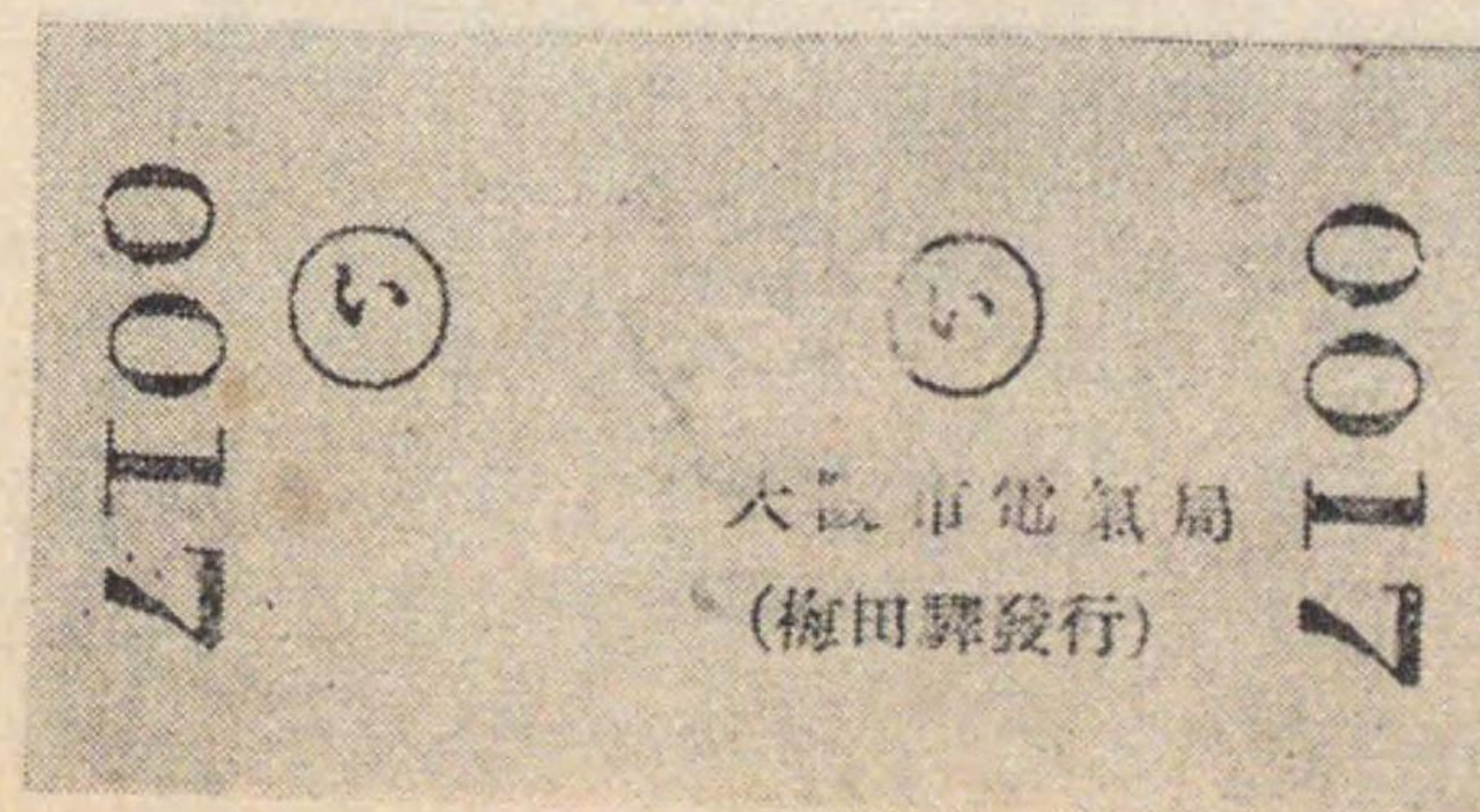


(色青薄) 面 表



一區連續券 (往復用)

(色白) 面 裏



大阪市高速軌道線



團體乗車券

甲No.

代住 所表 氏 者名				殿
乗人 車員				名
同日 時	月	日	午	時 分
同區 間	自	至		
基料 本金	錢	割引率	割	
料 金				圓 錢

昭和 年 月 日 發行

長 驛

團體乗車券 (白色)

表紙裏面

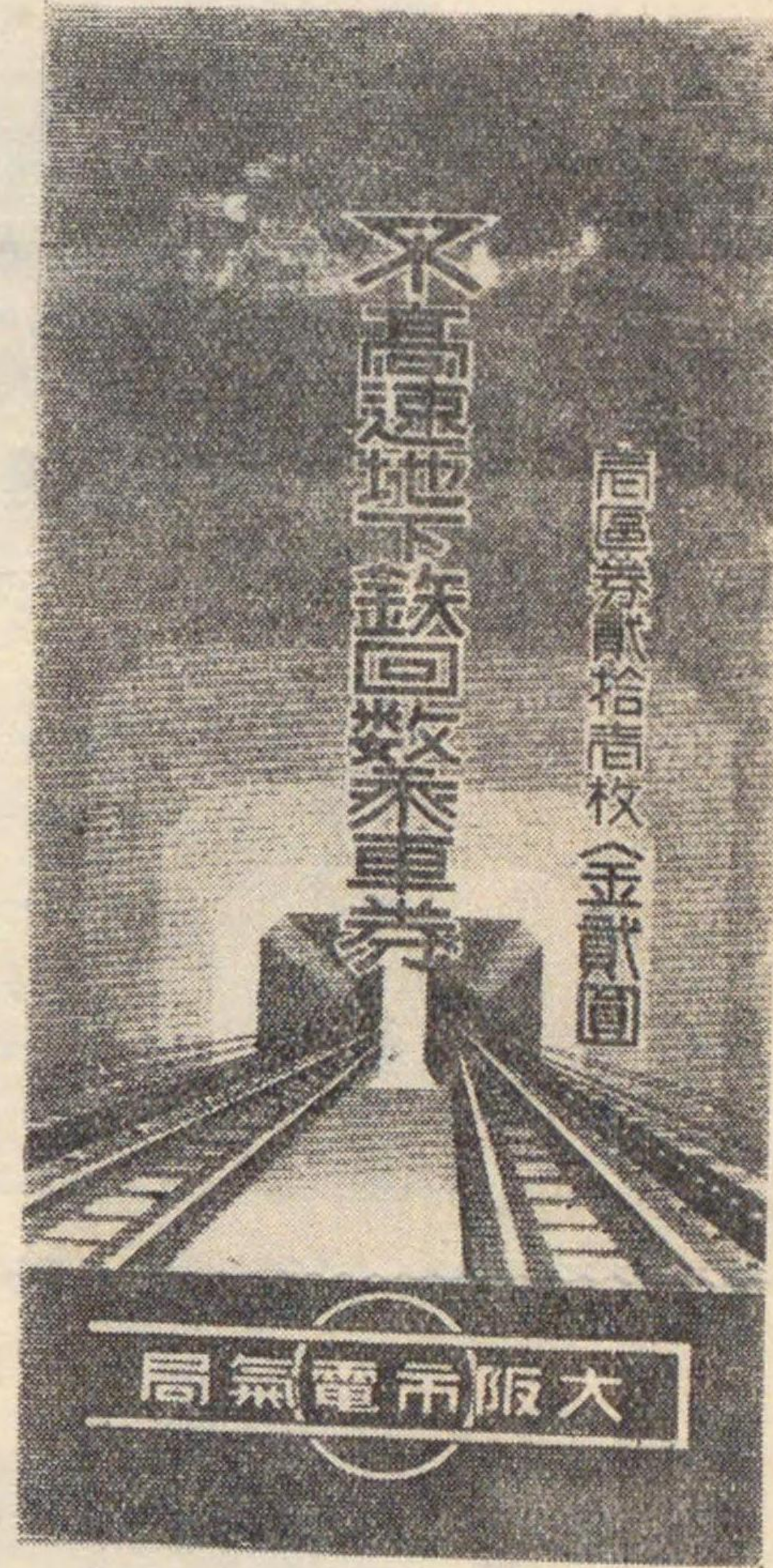
注意

一 御買取の際は念のため枚数を御改め下さい
後日の御引換は御断り下さい

一 この乗車券は本市路面電車にも高速地下鉄にも通用致しません

一 満五年以上の御子達は有料でありますから必ず切符の御添しを願います 以上

表紙面(紫色)



回数券各片(薄紫)

難波 心齋橋 本町 淀屋橋 梅田

第六類 運輸 第一章 軌道
回数券 一區券 二十一枚

(色 鼠 薄)

地下鐵—阪急
連絡片道乗車券

通用當日限

發歸へ最下段		賃金	
十	三	18	14
三	國	14	10
神	崎	10	7
石	川	18	13
伊丹、西宮北口	橋	20	15
花屋敷、箕面	三	22	17
御影、小林	國	25	20
寶	崎	26	21
神	川	30	25
	本		

連絡乗車券

1 阪神急行電鐵株式會社線へ連絡乗車券

(色 鼠 薄)

地下鐵—阪急
連絡片道乗車券

通用當日限

發歸へ最下段		賃金	
十	三	16	12
三	國	12	9
神	崎	9	7
石	川	12	9
伊丹、西宮北口	橋	14	11
花屋敷、箕面	三	16	12
御影、小林	國	18	14
寶	崎	19	15
神	川	22	18
	本		

(色 鼠 薄)

地下鐵—阪急
連絡片道乗車券

通用2日間

發歸へ最下段		賃金	
十	三	26	20
三	國	20	15
神	崎	15	11
石	川	20	15
伊丹、西宮北口	橋	23	18
花屋敷、箕面	三	26	20
御影、小林	國	29	23
寶	崎	31	25
神	川	37	31
	本		

(色 鼠 薄)

地下鐵—阪急
連絡片道乗車券

通用2日間

發歸へ最下段		賃金	
十	三	32	25
三	國	25	19
神	崎	19	14
石	川	25	19
伊丹、西宮北口	橋	29	23
花屋敷、箕面	三	32	25
御影、小林	國	36	29
寶	崎	38	31
神	川	46	39
	本		

(色 桃)

地下鐵—阪神
連絡片道乗車券

難波より

通用當日限
途中下車前途無効
差額・最下段 賃金

野田	13	
尼崎	15	野
西宮	20	尼
御影	25	西
神戶	30	御

地下鐵、阪神連絡券
片道

(色 桃)

地下鐵—阪神
連絡片道乗車券

難波より

通用當日限
途中下車前途無効
差額・最下段 賃金

野田	16	
尼崎	20	野
西宮	30	尼
御影	40	西
神戶	50	御

地下鐵、阪神連絡券
片道

阪神電氣鐵道株式會社線下ノ連絡乗車券

(色 桃)

復 地下鐵—阪神
連絡往復乗車券

難波より

通用二日間
途中下車前途無効
差額・最下段 賃金

野田	26	
尼崎	30	野
西宮	39	尼
御影	48	西
神戶	57	御

地下鐵、阪神連絡券
往復

(色 桃)

復 地下鐵—阪神
連絡往復乗車券

難波より

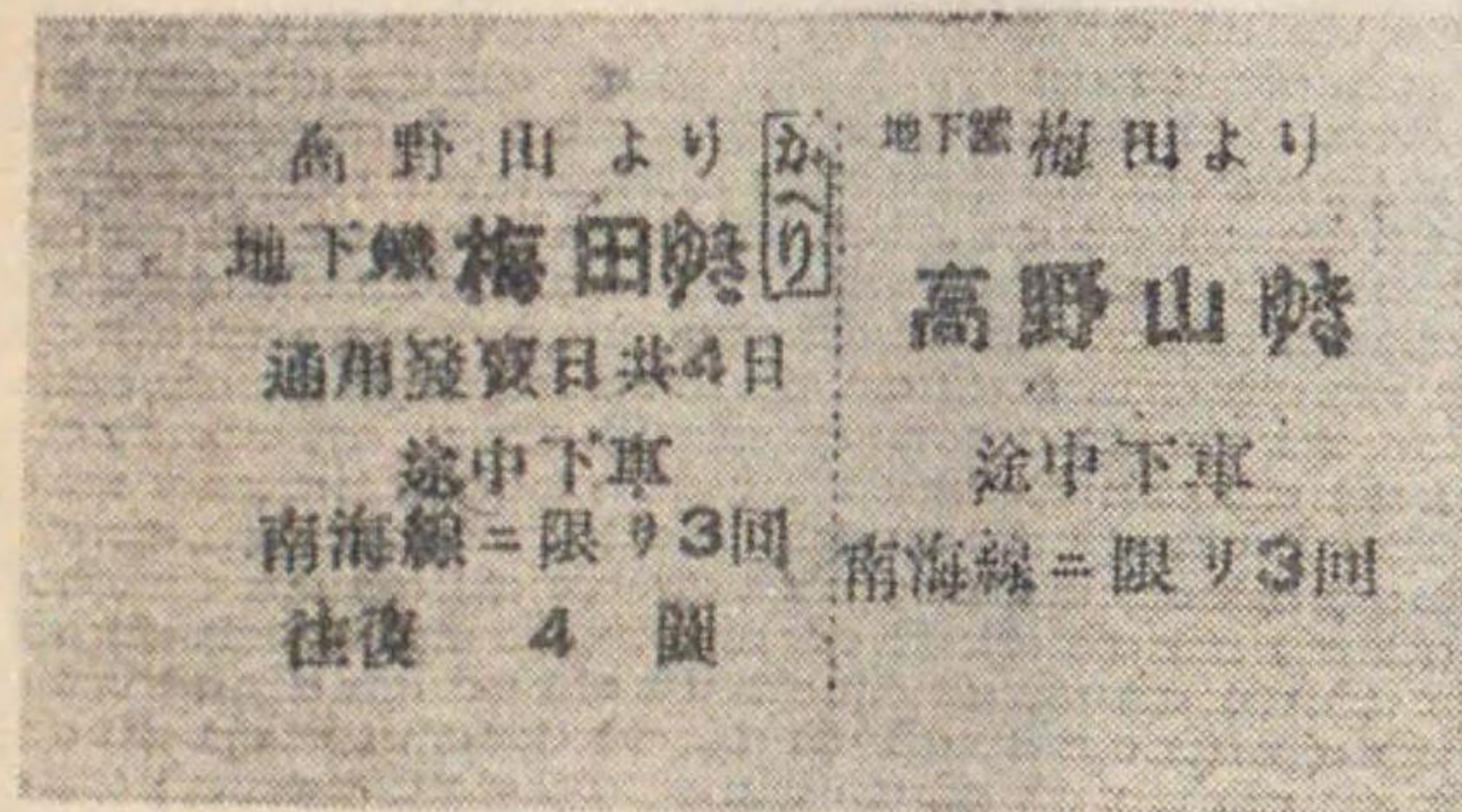
通用二日間
途中下車前途無効
差額・最下段 賃金

野田	32	
尼崎	40	野
西宮	58	尼
御影	76	西
神戶	94	御

地下鐵、阪神連絡券
往復

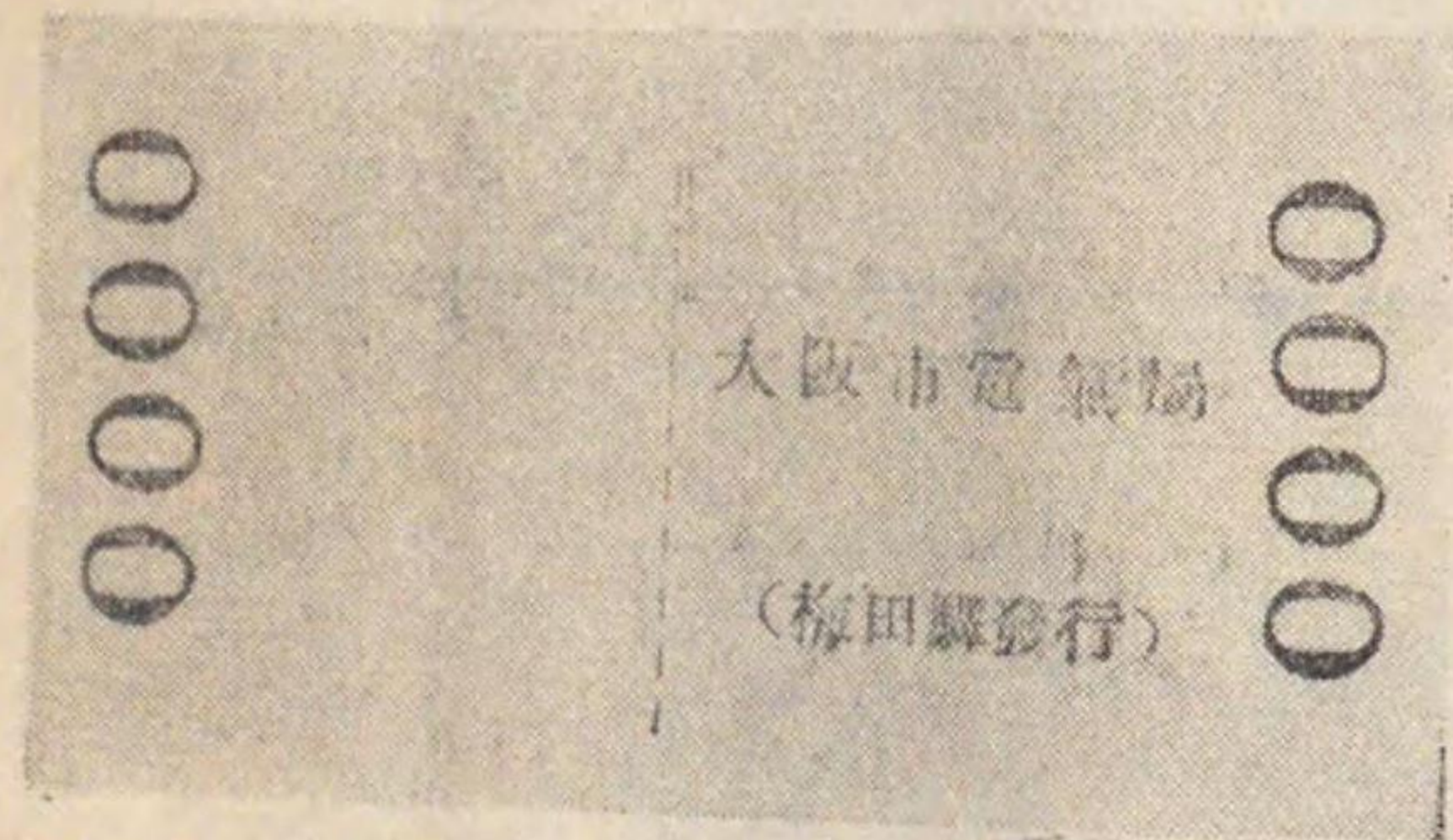
往復乗車券

(色紫薄) 面 表



往復券

(色白) 面 裏



(色桃薄)

地下鐵—南海
 連絡片道乗車券

梅田より 地下鐵南海
 通用2日間
 途中下車南海線
 =限リ3回

船驛ハ最下段	賃金
萩ノ茶屋	12
玉出	14 萩
住吉公園 住吉東	15 玉
七道、淺香山	17 住
湊、堺東	18 七
諏訪ノ森	20 湊
濱寺公園	21 諏

地下鐵南海連絡券
 片道

(色桃薄)

地下鐵—南海
 連絡片道乗車券

梅田より 地下鐵南海
 通用2日間
 途中下車南海線
 =限リ3回

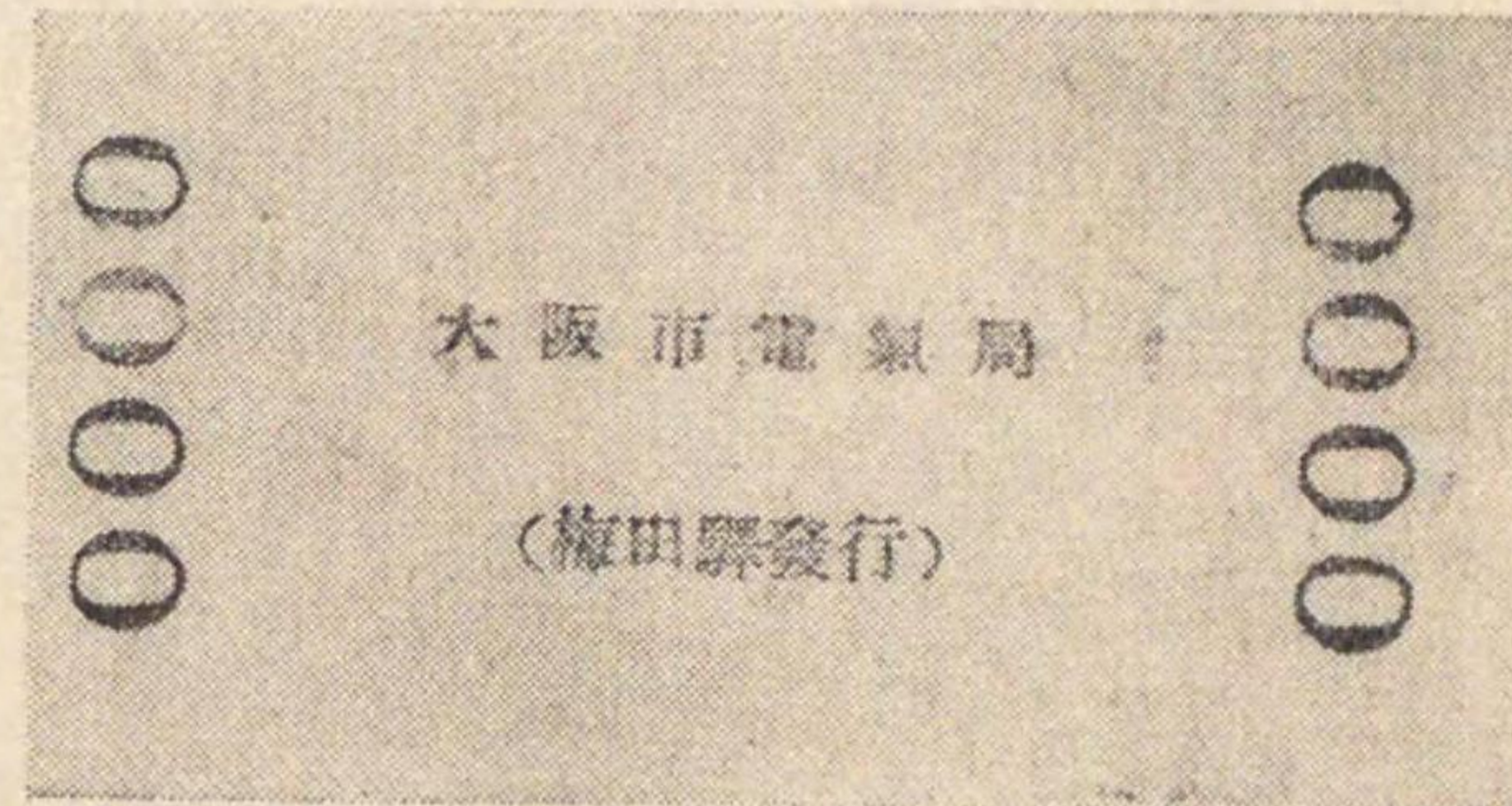
船驛ハ最下段	賃金
萩ノ茶屋	14
玉出	18 萩
住吉公園 住吉東	21 玉
七道、淺香山	24 住
湊、堺東	27 七
諏訪ノ森	30 湊
濱寺公園	33 諏

地下鐵南海連絡券
 片道

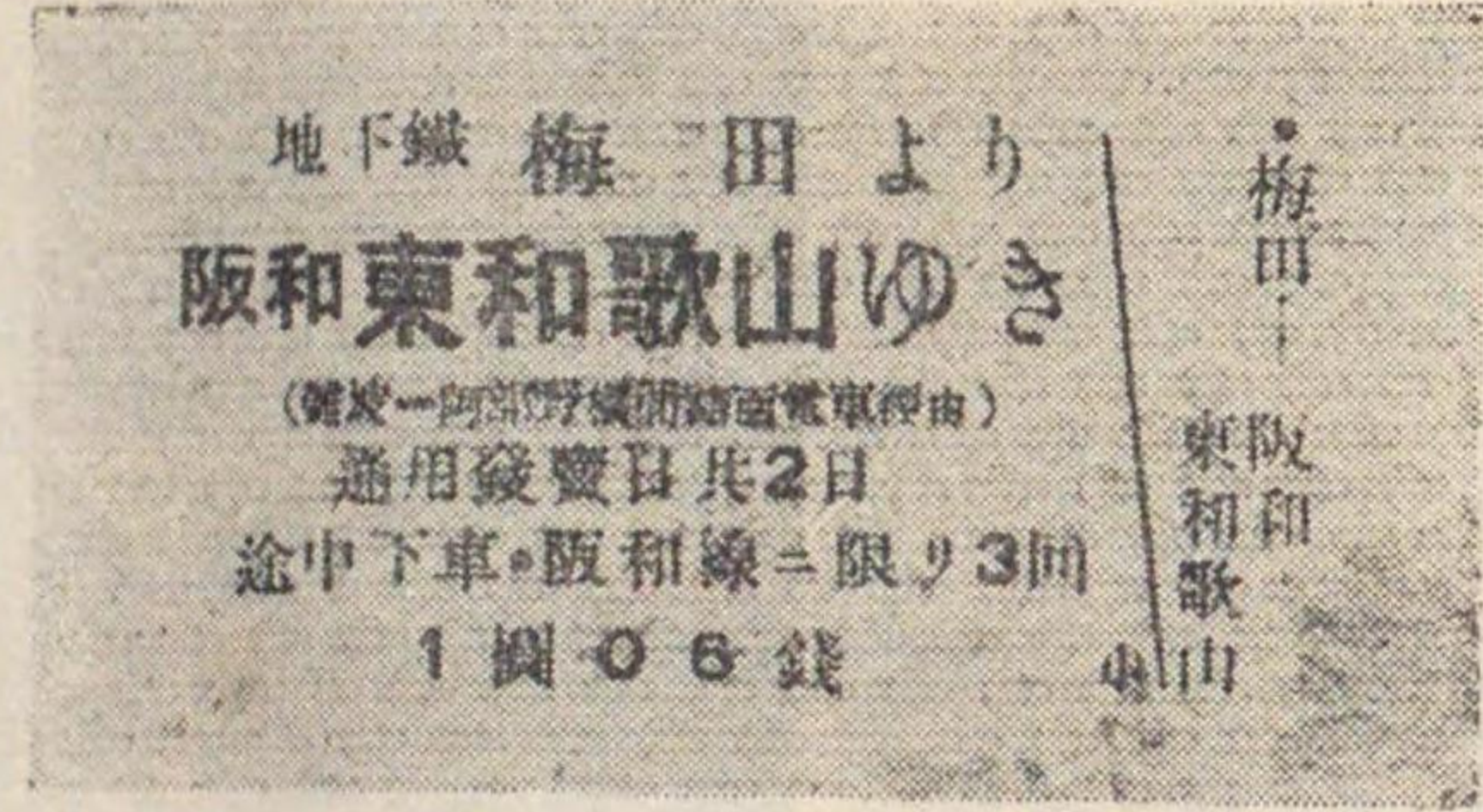
(色紫薄) 面 表



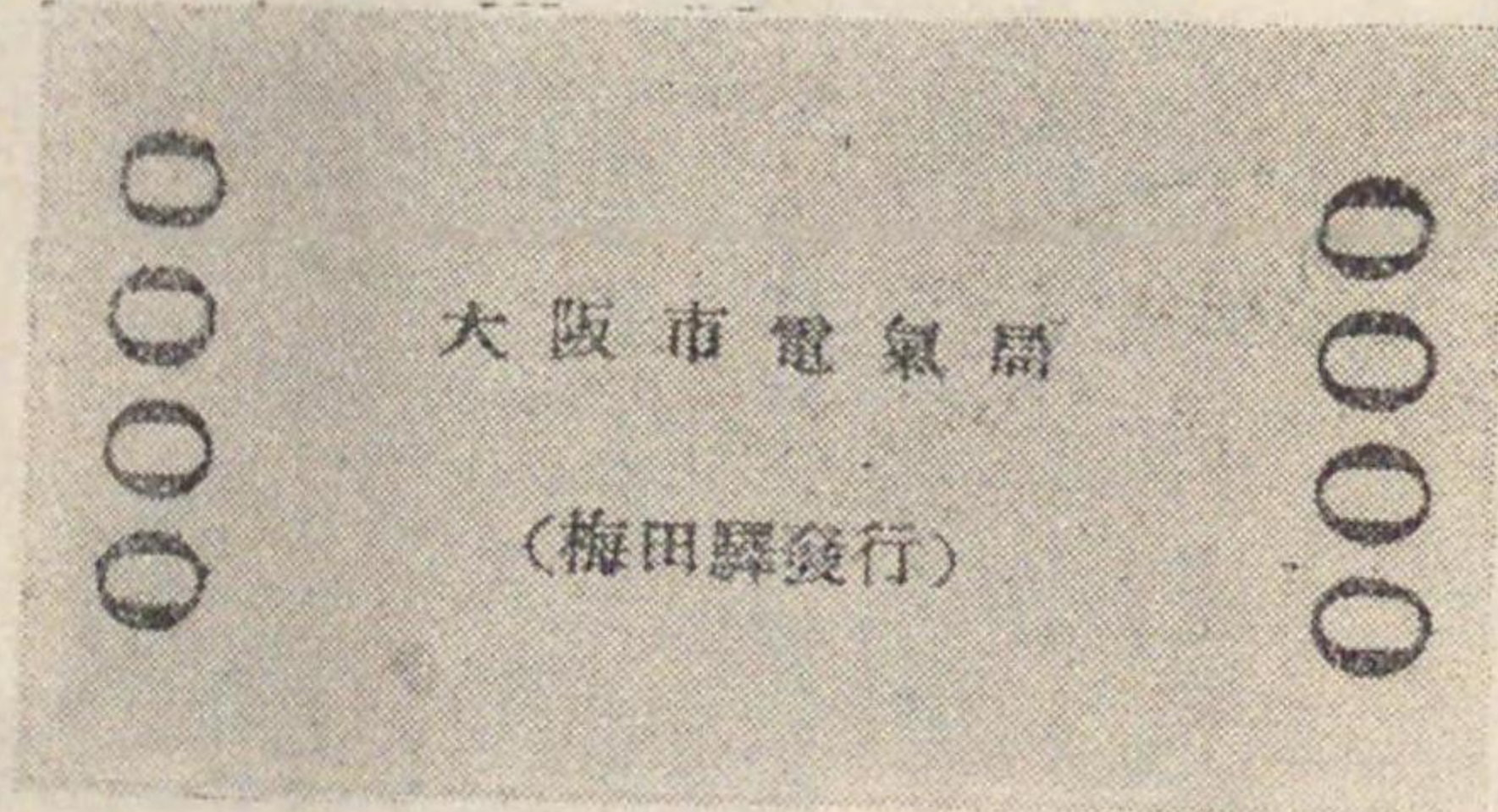
(色白) 面 裏



(色紫薄) 面 表

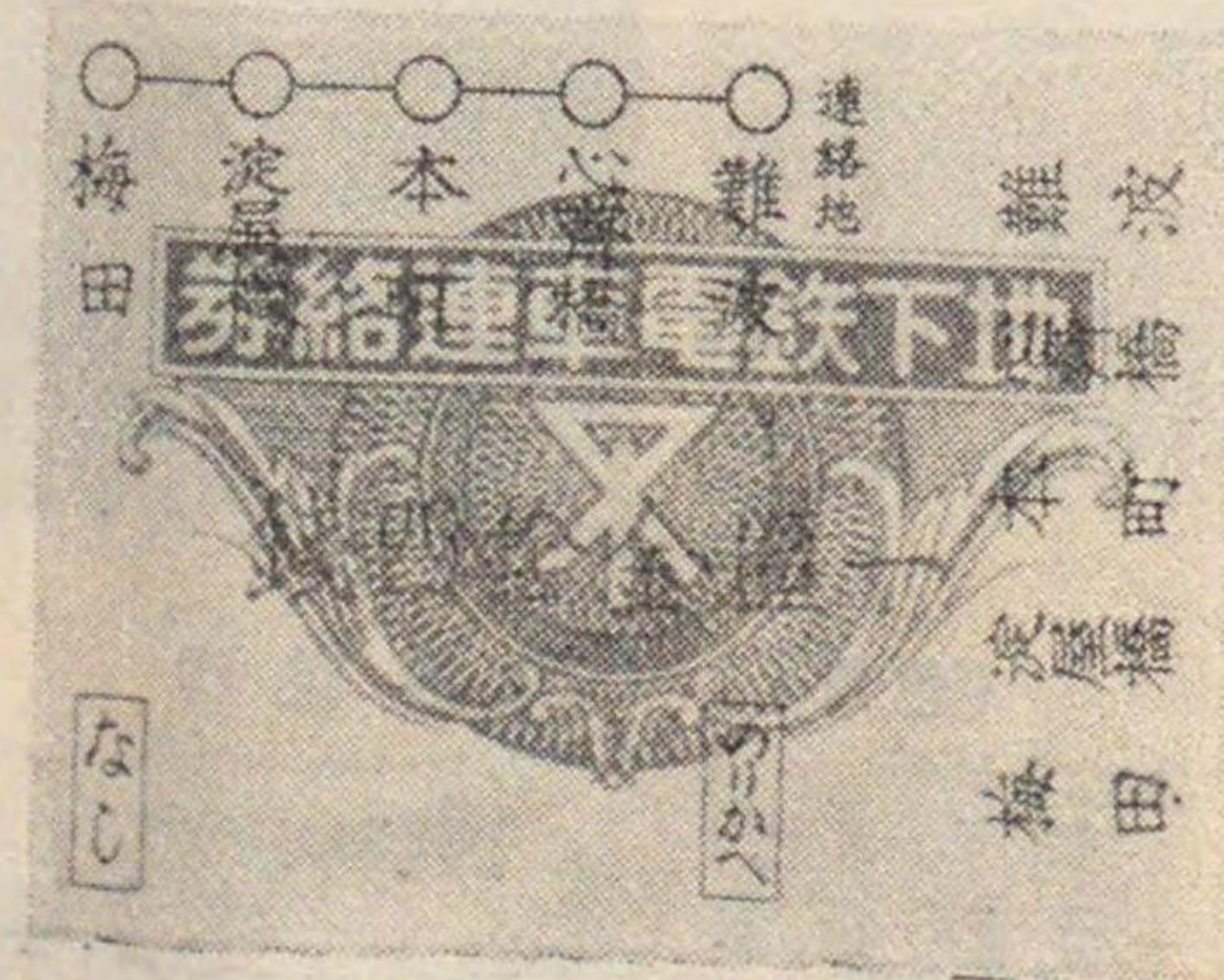


(色白) 面 裏



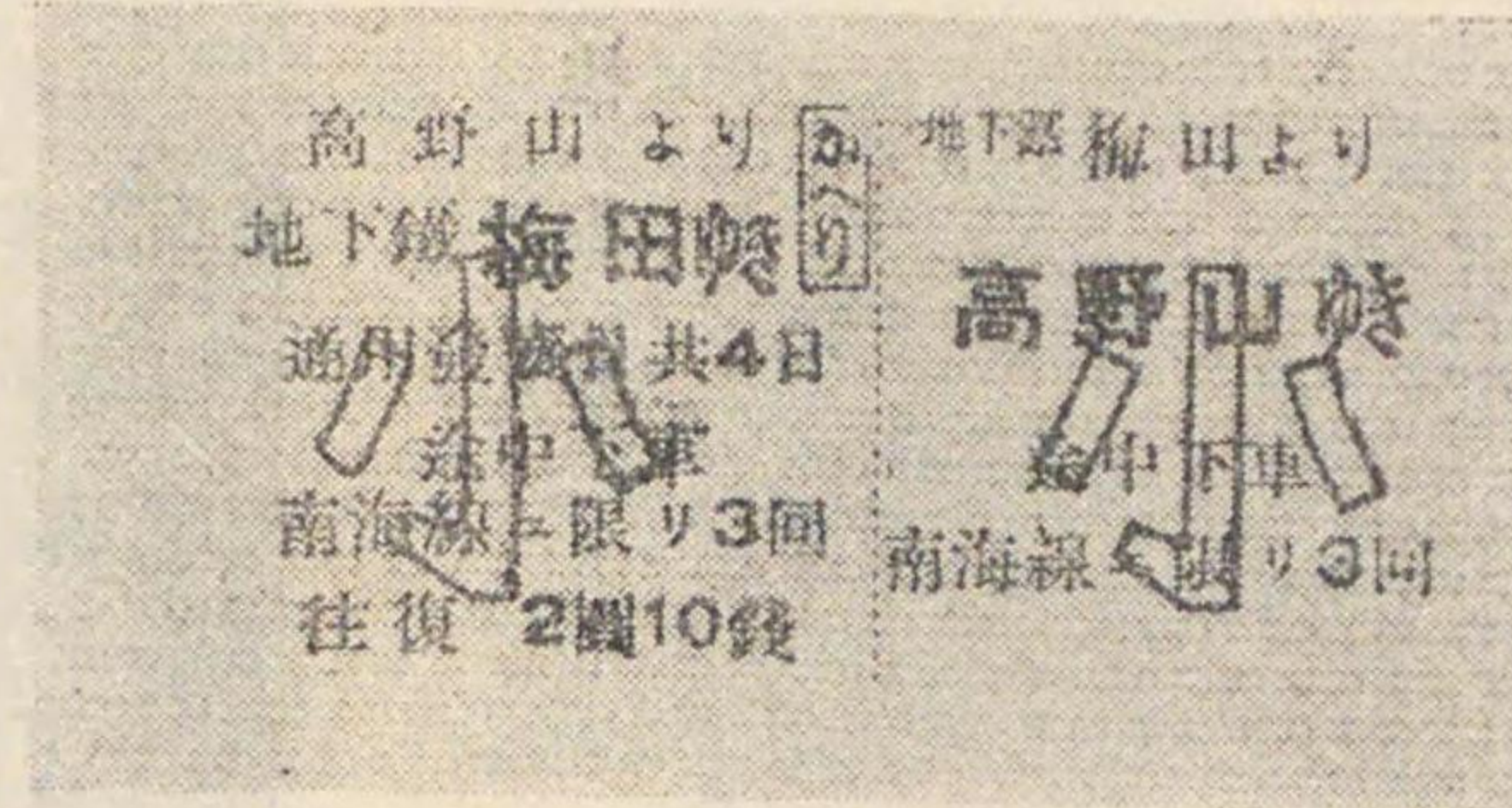
二 阪和電氣鐵道株式會社線トノ連絡乗車券

(色草) 面 表

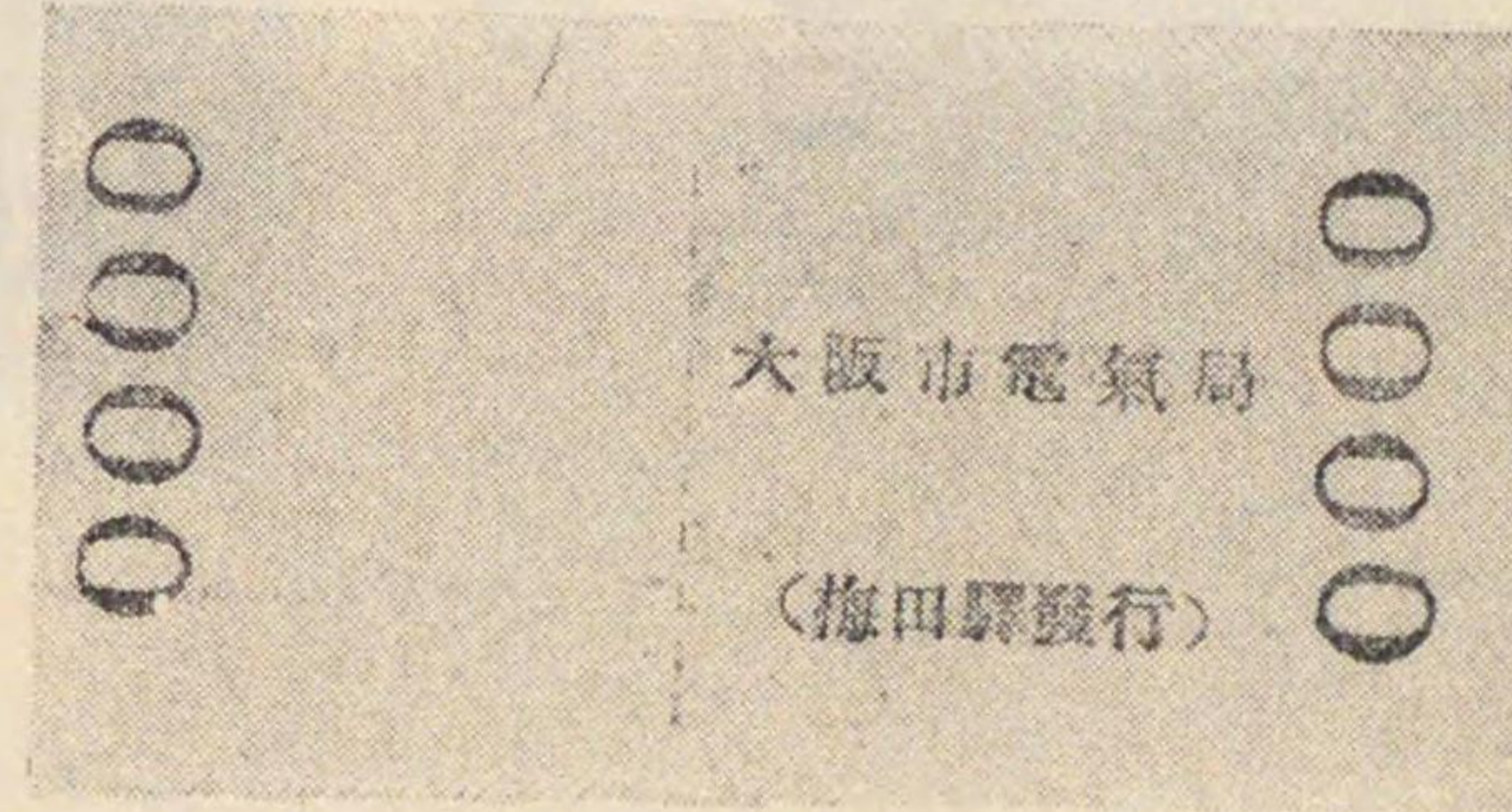


三 路面軌道線、高速軌道線連絡乗車券
一區間連絡券

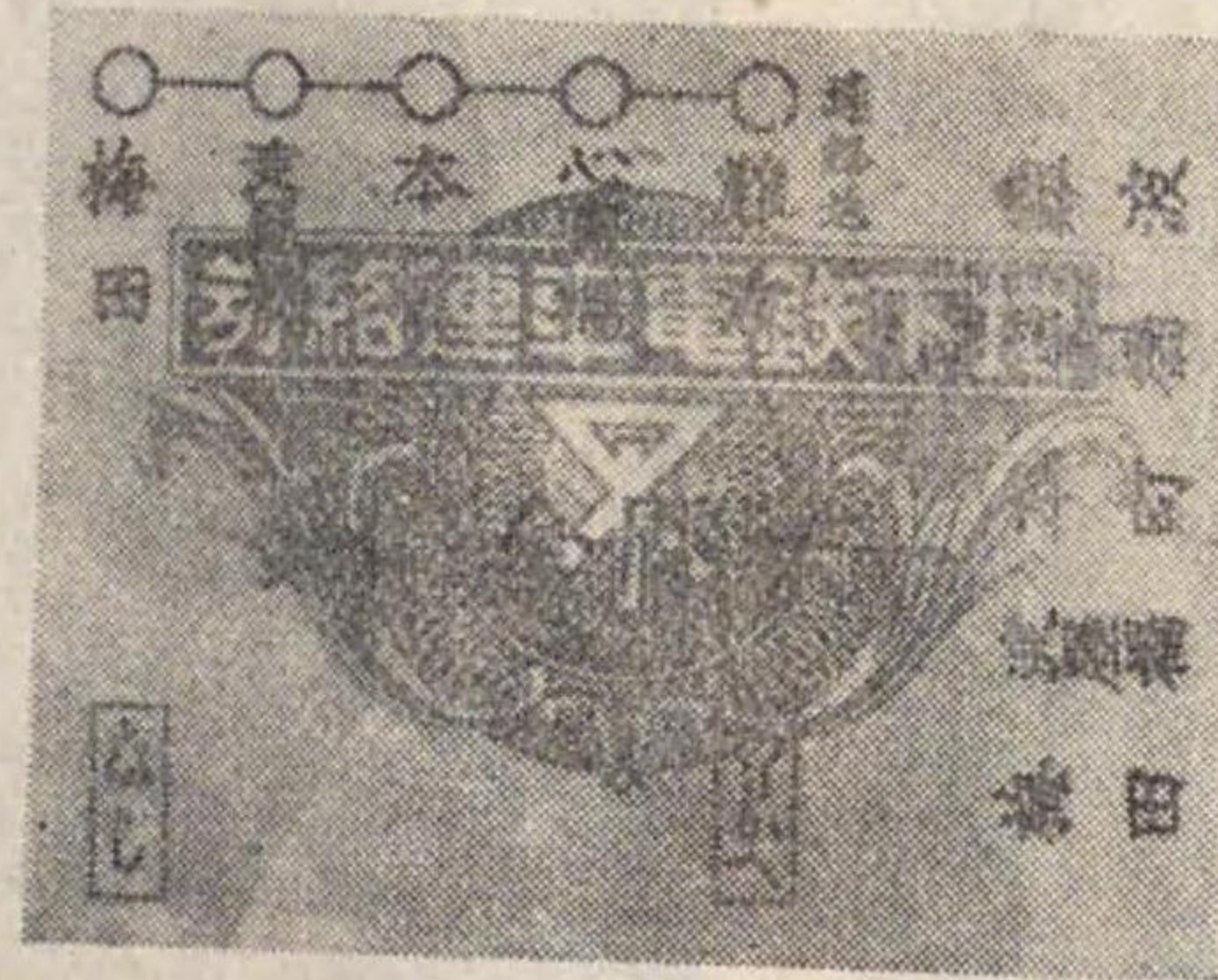
(色紫薄) 面 表



(色白) 面 裏

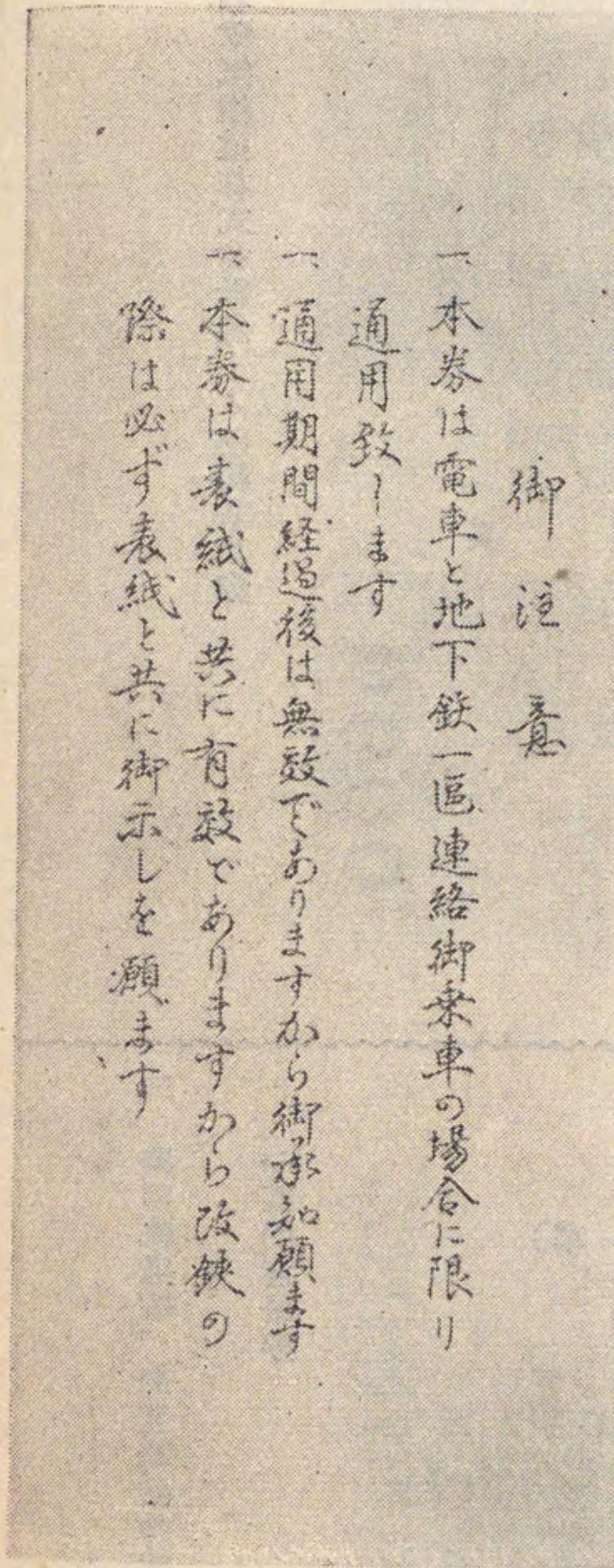


(色 紫 藤)



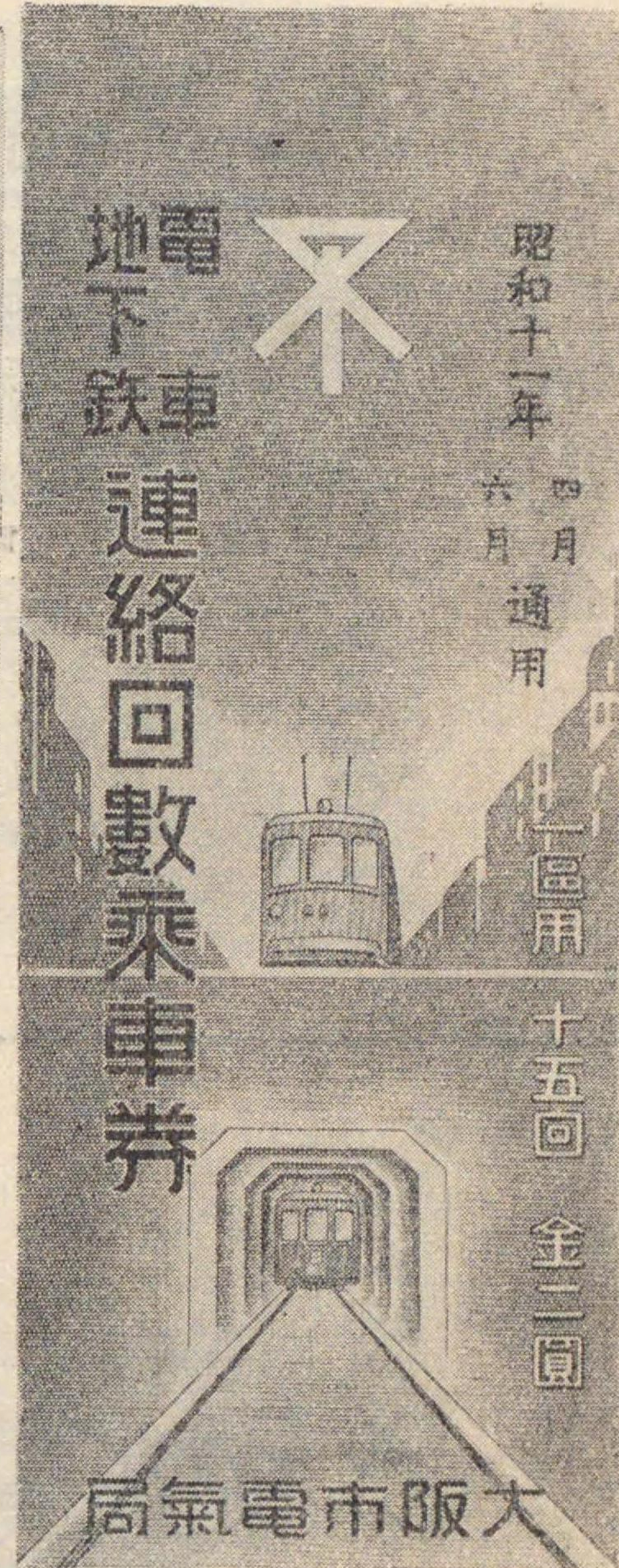
一 驛間連絡券

面 裏 紙 表



御注意
 一本券は電車と地下鉄一區連絡御乗車の場合に限り
 通用致します
 一 通用期間経過後は無効でありますから御承知願います
 一本券は表紙と共に有効でありますから改換の
 際は必ず表紙と共に御示しを願います

(色アフリカ)面 表 紙 表



電車
 地下鉄
 連絡回数乗車券

昭和十一年

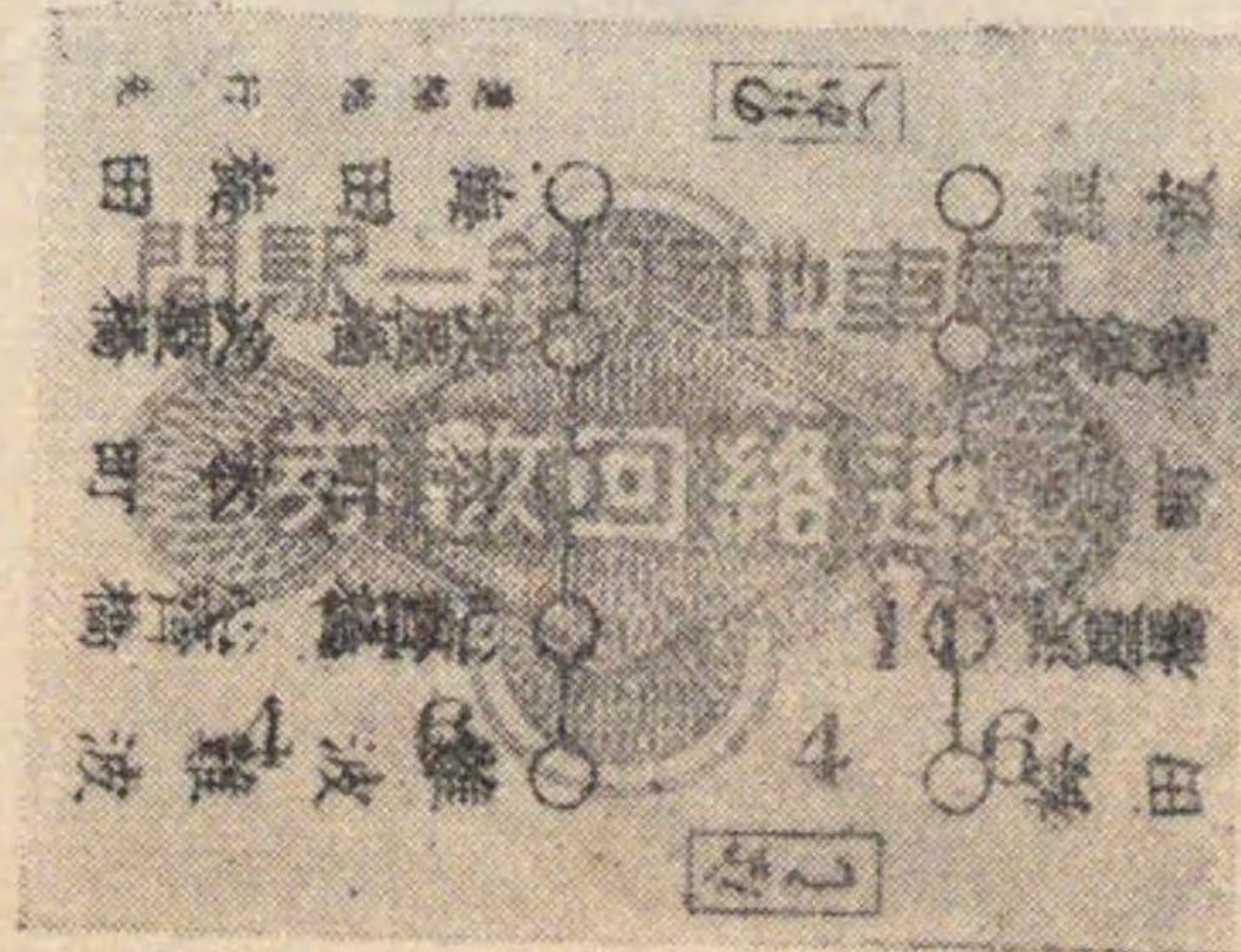
四月 六月 通用

一區用

十五回 金二圓

大 阪 市 電 氣 局

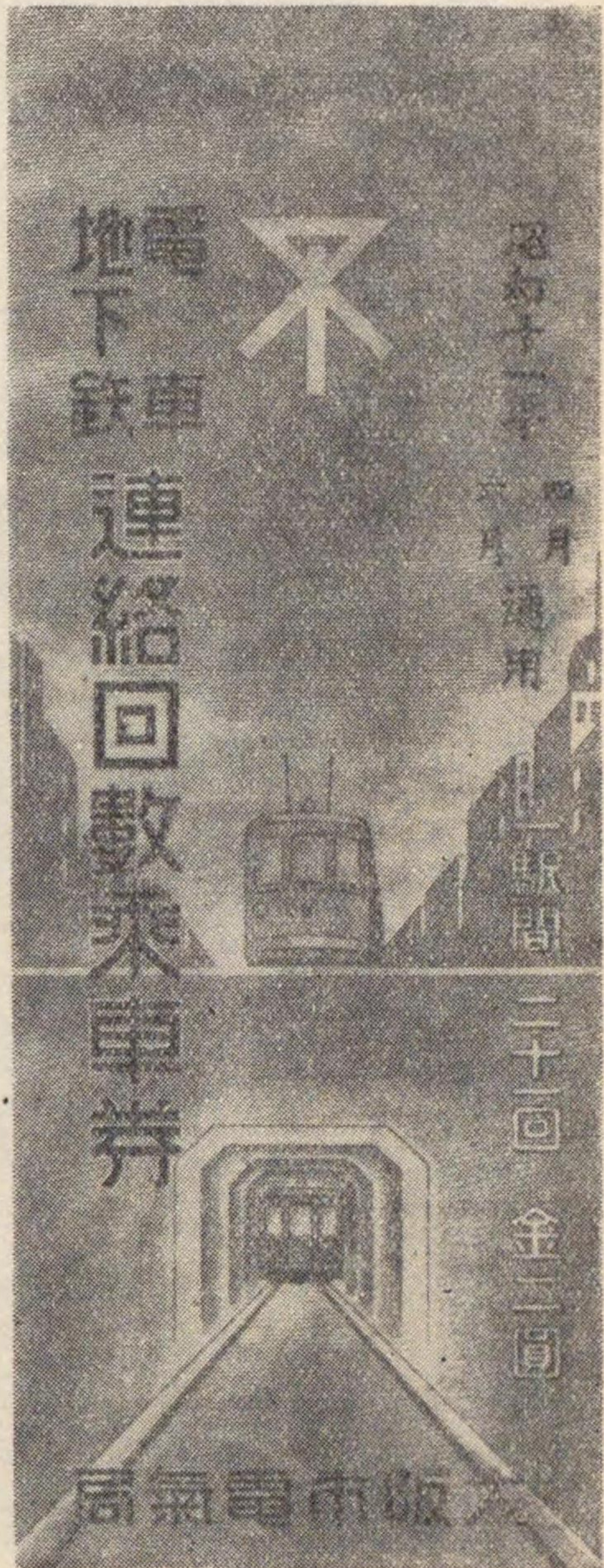
(色草) 片 各 券 數 回



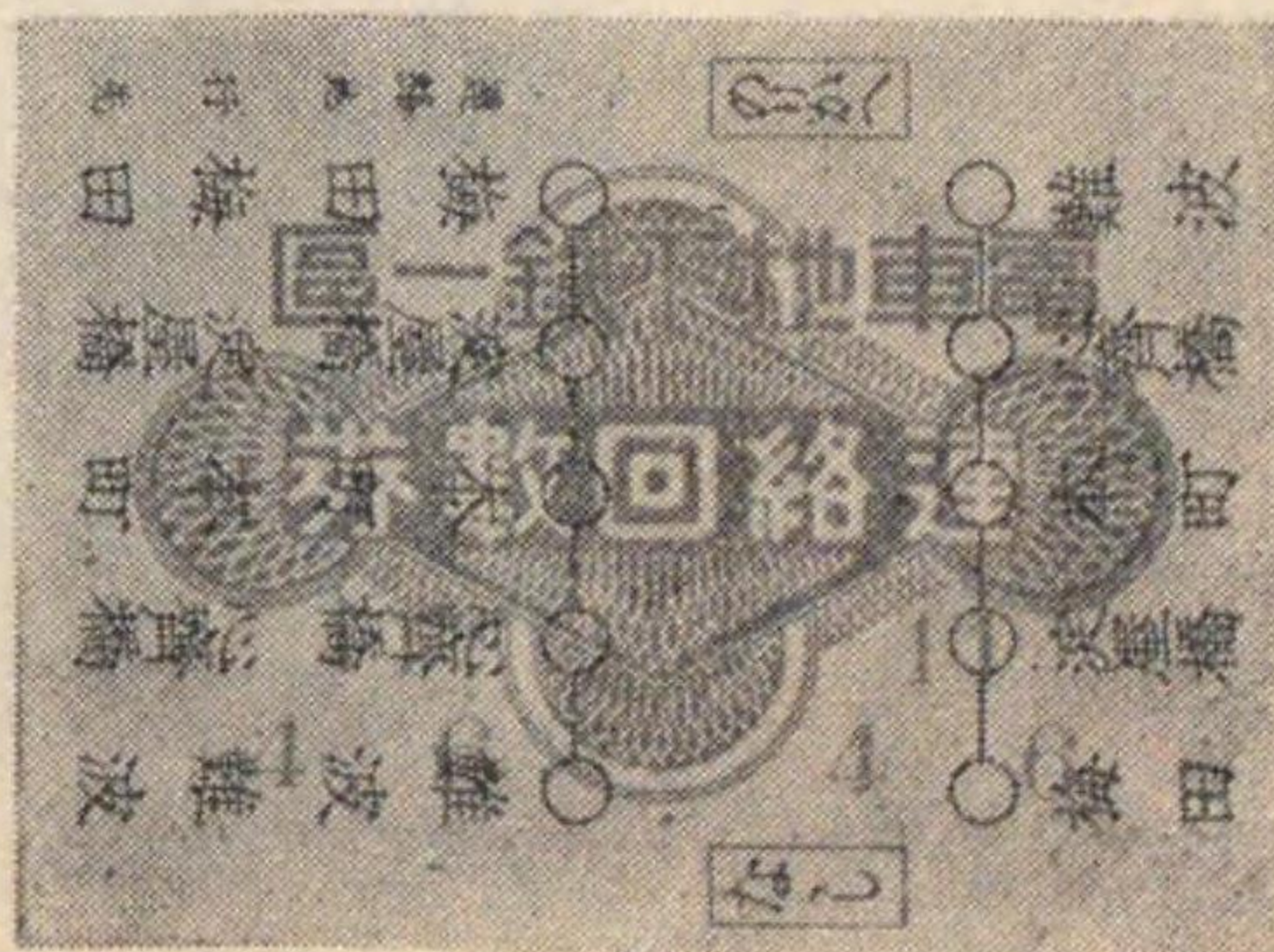
一 區 間 連 絡 回 數 券

十 五 回 券

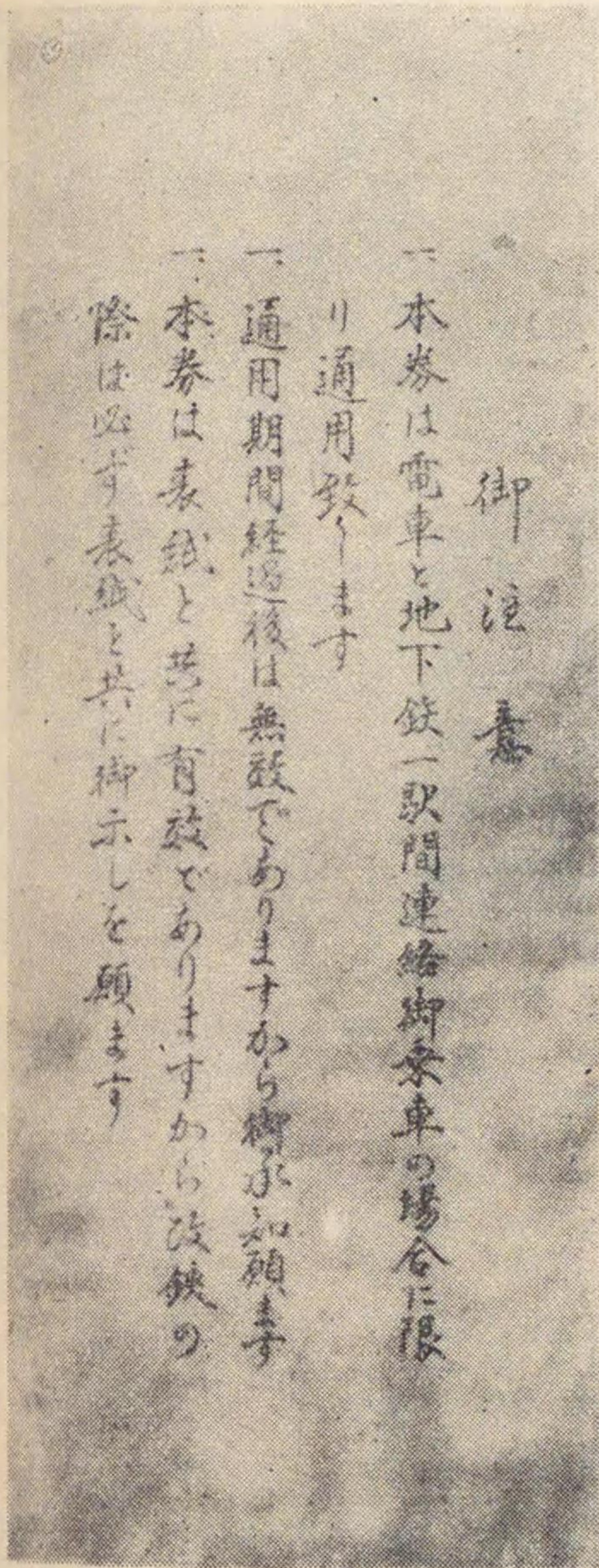
(色紫薄) 面表紙表



(色紫藤) 片各券數回



面裏紙表



附則 (昭七、一一告示二九六)
仍從來様式ノ乗車券ハ本市ノ都合ニ依リ當分ノ間發行スルコトアルヘシ

附則 (昭九、九告示三二八)
仍本様式ノ乗車券ハ當分ノ間本市ノ必要ト認ムルトキノ外ハ之ヲ發行セズ

●電氣軌道乗車券發賣場所

制 定 昭一、四、四告示二四七

昭和十一年四月五日ヨリ大阪市電氣軌道使用料條例施行細則第一條所定ノ乗車券發賣場所ノ所在並所定以外ノ乗車券發賣場所左ノ通相定ム
大阪市電氣軌道乗車券發賣場所
一 本市電氣軌道使用料條例施行細則第一條所定ノ乗車券發賣場所ノ所在地

- 電氣局運輸部電車課乗客係
- 港區九條南通一丁目百十九番地ノ一
- 電氣局運輸部電車課乗客係四ツ橋分室
- 西區西長堀北一丁目五番地ノ五
- 路面電車運輸事務所
- 天王寺運輸事務所
- 浪速區霞町二丁目五番地
- 築港運輸事務所

- 港區八幡屋元町三丁目七十五番地ノ二
- 都島運輸事務所
- 北區澤上江町三丁目二番地
- 鶴町運輸事務所
- 大正區鶴町一丁目二十一番地
- 春日出運輸事務所
- 此花區恩貴島南之町百二十四番地ノ二
- 今里運輸事務所
- 東成區大今里町六百八十四番地
- 乘合自動車運輸事務所
- 梅田運輸事務所
- 北區太融寺町九十一番地ノ一
- 天王寺運輸事務所
- 浪速區霞町二丁目五番地
- 野里運輸事務所
- 西淀川區野里町三百五十四番地
- 守口運輸事務所
- 北河內郡守口町大字土居七百二十六番地
- 高速軌道線驛
- 梅田驛
- 北區角田町四十六番地
- 淀屋橋驛
- 東區今橋四丁目七番地

●電氣軌道乘車料條例第七條ニ依ル職員認定ノ件

乘車料條例第七條ニ依ル本市立學校職員及市區役所所屬職員左ノ通認定スルモノトス

- 一 市立諸學校及幼稚園職員
- (一) 校長及園長以下諸職員
但年俸者及專任ニアラサル囑託員ハ之ヲ除ク
- (二) 給仕、使丁
- 二 市區所屬職員
- (一) 書記、技手及之ニ準スヘキモノ
- (二) 雇、工手及之ニ準スヘキモノ
- (三) 給仕、使丁

●路面軌道線、高速軌道線間連絡乘車ノ取扱ノ件

昭和十一年四月十日ヨリ左ノ通本市電氣軌道路面軌道線、高速軌道線間ニ連絡乘車ノ取扱ヲ開始ス

- 本町驛
- 東區本町四丁目十九番地ノ一
 - 心齋橋驛
 - 南區鯉谷西之町七番地
 - 難波驛
 - 南區難波新地五番町四十二番地
- 二同條所定以外ノ乘車券發賣場所並發賣乘車券ノ種類
- 路面軌道線及高速軌道線同數券
- ジャパン・ツーリスト・ビューロー(日本旅行協會)案内所
- 安土町案内所
- 東區安土町二丁目六十三番地
- 三越案内所
- 東區高麗橋二丁目六十三番地株式會社三越大阪支店內
- 大丸案内所
- 南區心齋橋筋一丁目百十八番屋敷株式會社大丸内
- 松坂屋案内所
- 南區日本橋筋三丁目四十九番地株式會社松坂屋大阪支店內
- 新大阪ホテル案内所
- 北區中之島三丁目五番地新大阪ホテル内
- 附則
- 昭和九年大阪市告示第三百八十三號本市電氣軌道及乘合自動車乘車券發賣場所ハ之ヲ廢止ス

〔大電〕

- 一 連絡乘車券料金
- 路面軌道線、高速軌道線一區間連絡券 十四錢
- 同 連絡同數券(十五回券) 二圓
- 路面軌道線、高速軌道線一驛間連絡券 十錢
- 同 連絡同數券(二十一回券) 二圓
- 二 連絡ノ範圍
- 路面軌道線及高速軌道線全線相互間
- 三 連絡停留場
- 路面軌道線
- 阪急電車前
 - 淀屋橋
 - 本町四丁目
 - 心齋橋
 - 難波驛前又ハ戎橋筋
- 高速軌道線
- 梅田驛
 - 淀屋橋驛
 - 本町驛
 - 心齋橋驛
 - 難波驛

〔大電〕

- 四 連絡乘車券通用期間
- 連絡券 發行當日限
- 連絡同數券 發行月共三月間
- 五 連絡乘車券發賣場所
- 本市電氣局運輸部電車課乘客係
- 同 四ツ橋分室
- 電車運輸事務所

自動車運輸事務所
高速軌道線各驛

● 高速軌道線乗車料金ノ割引並 特別乗車券發行ノ件

制 定 昭一〇、一〇、三〇告示四三九

昭和十年十月三十日ヨリ昭和十年十二月三十一日迄左ノ通本市電氣軌道高速軌道線乗車料金中割引ヲ爲シ其ノ特別乗車券ヲ發行ス
(昭和十一年一月八日告示第一號)

昭和十年大阪市告示第四百三十九號本市電氣軌道高速軌道線乗車料金ノ割引並其ノ特別乗車券ノ發行ハ引續キ昭和十一年十二月三十一日迄之ヲ繼續ス

一 特別割引區間

梅田驛、淀屋橋驛間
淀屋橋驛、本町驛間
本町驛、心齋橋驛間
心齋橋驛、難波驛間

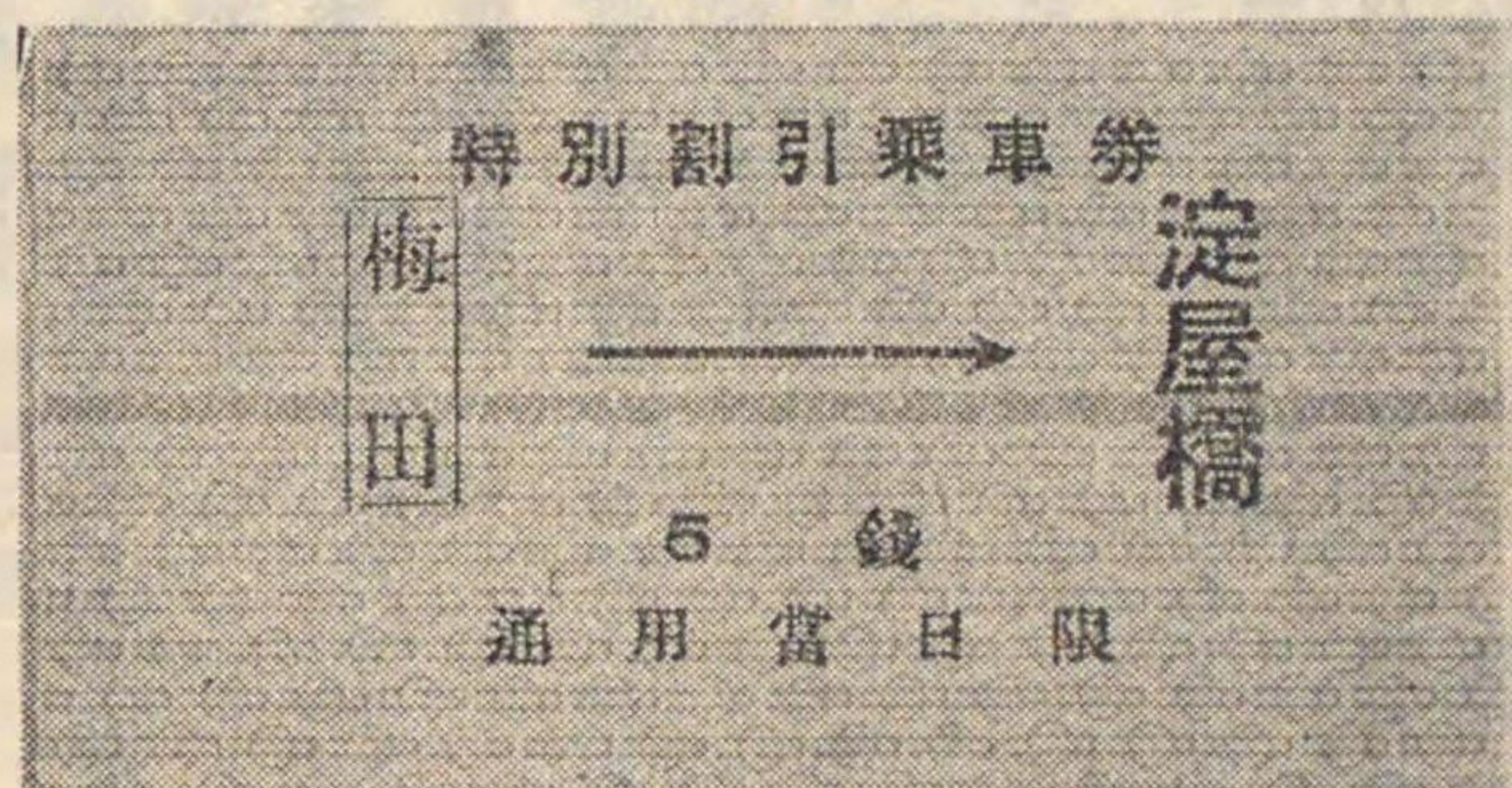
二 特別割引乗車券

- 特別割引區間券
- 特別割引區間連續券(往復用)
- 特別割引區間回数券(二十回券)
- 特別割引乗車券様式

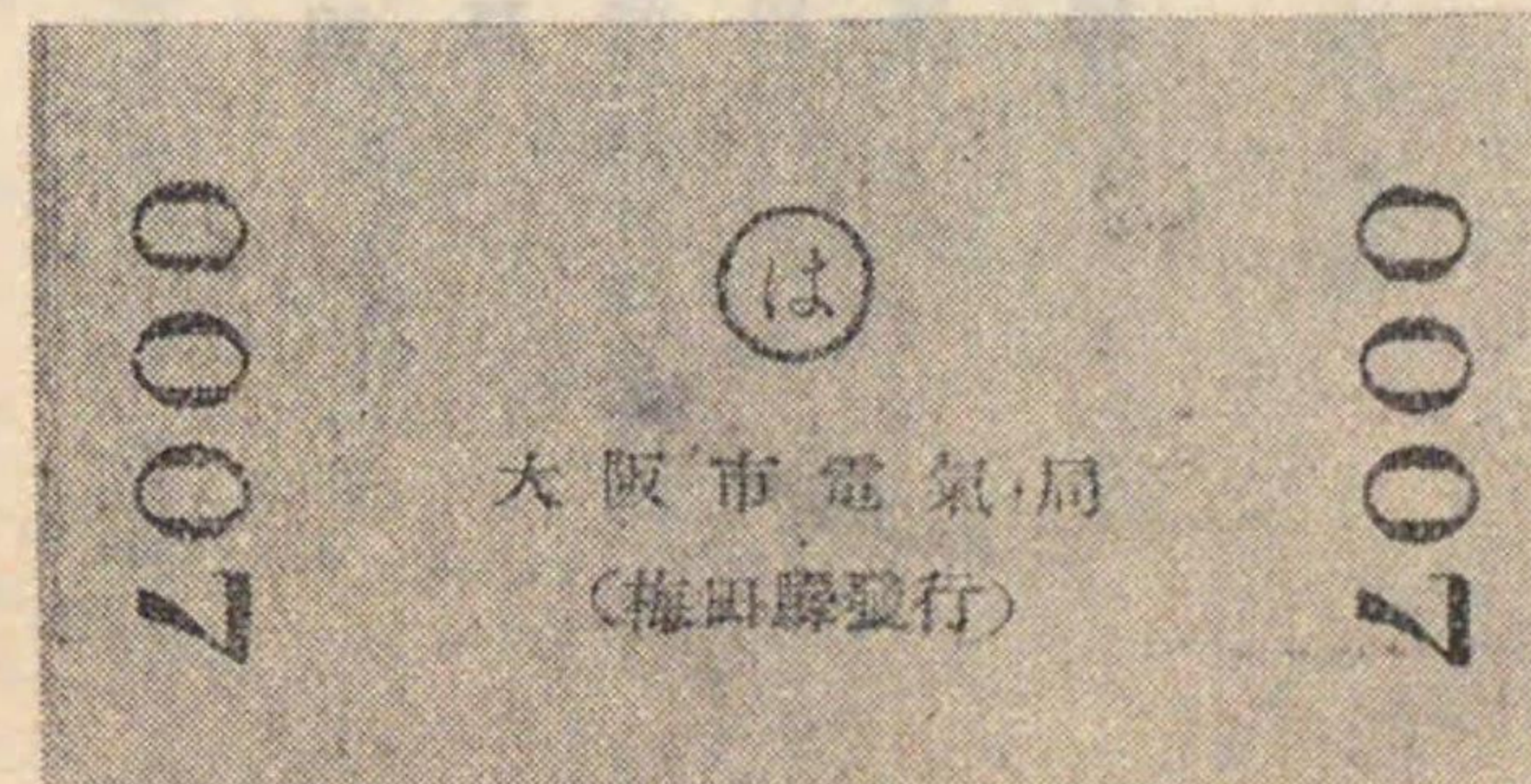
一 十 五
圓 錢 錢

特別割引區間券

(色赤)面表



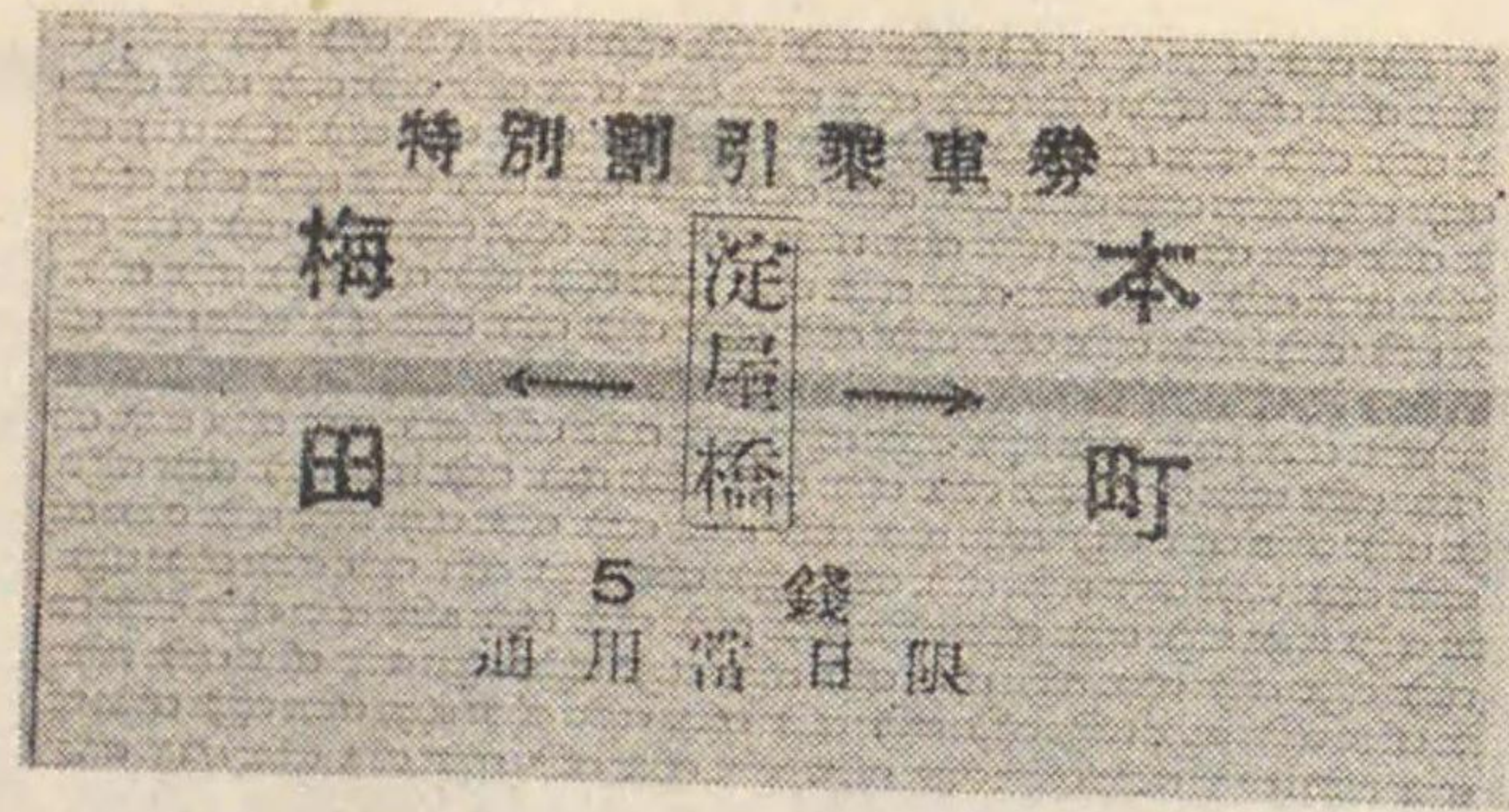
(色白)面裏



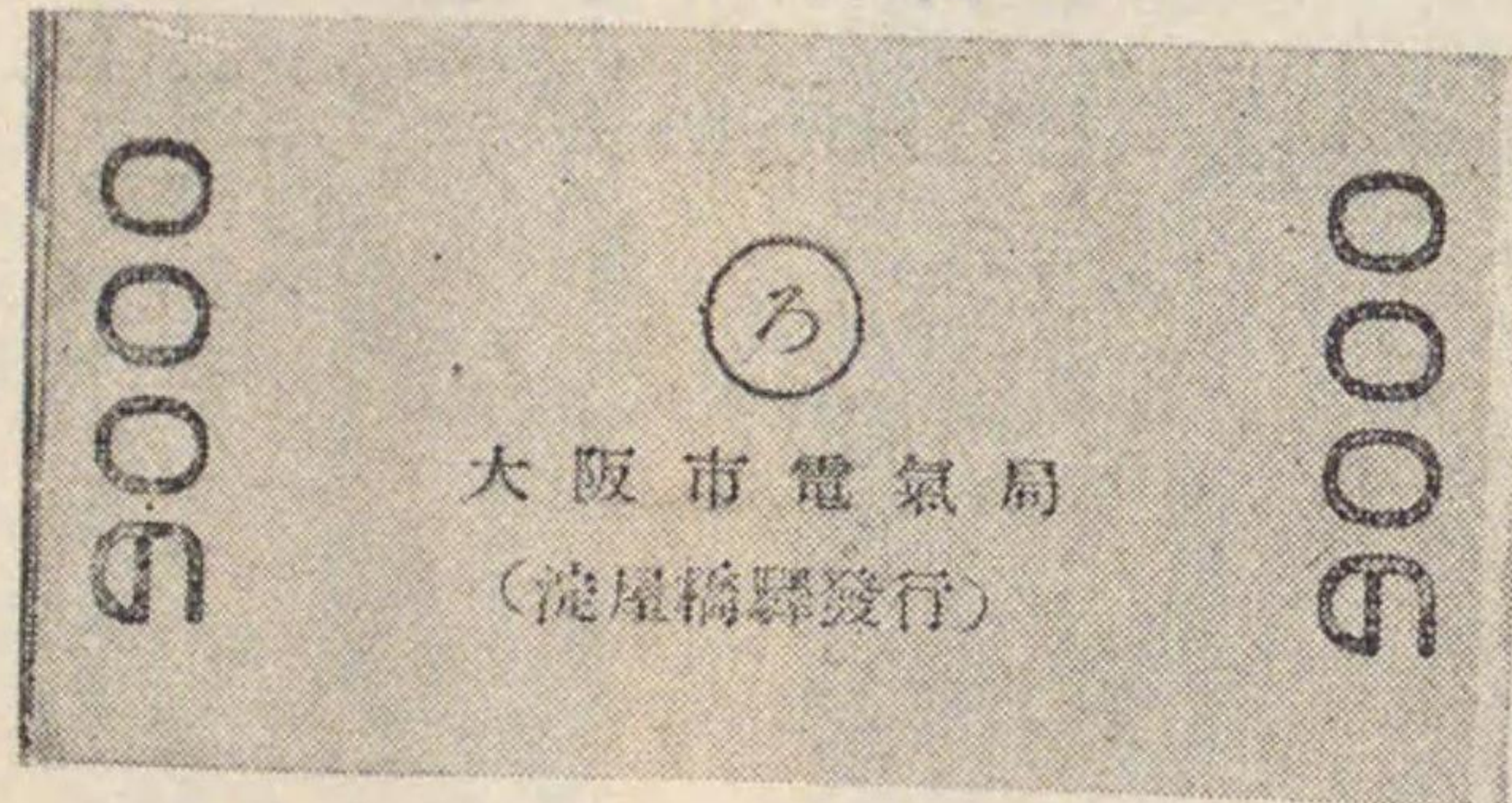
〔大電〕

〔大電〕

(色赤)面表

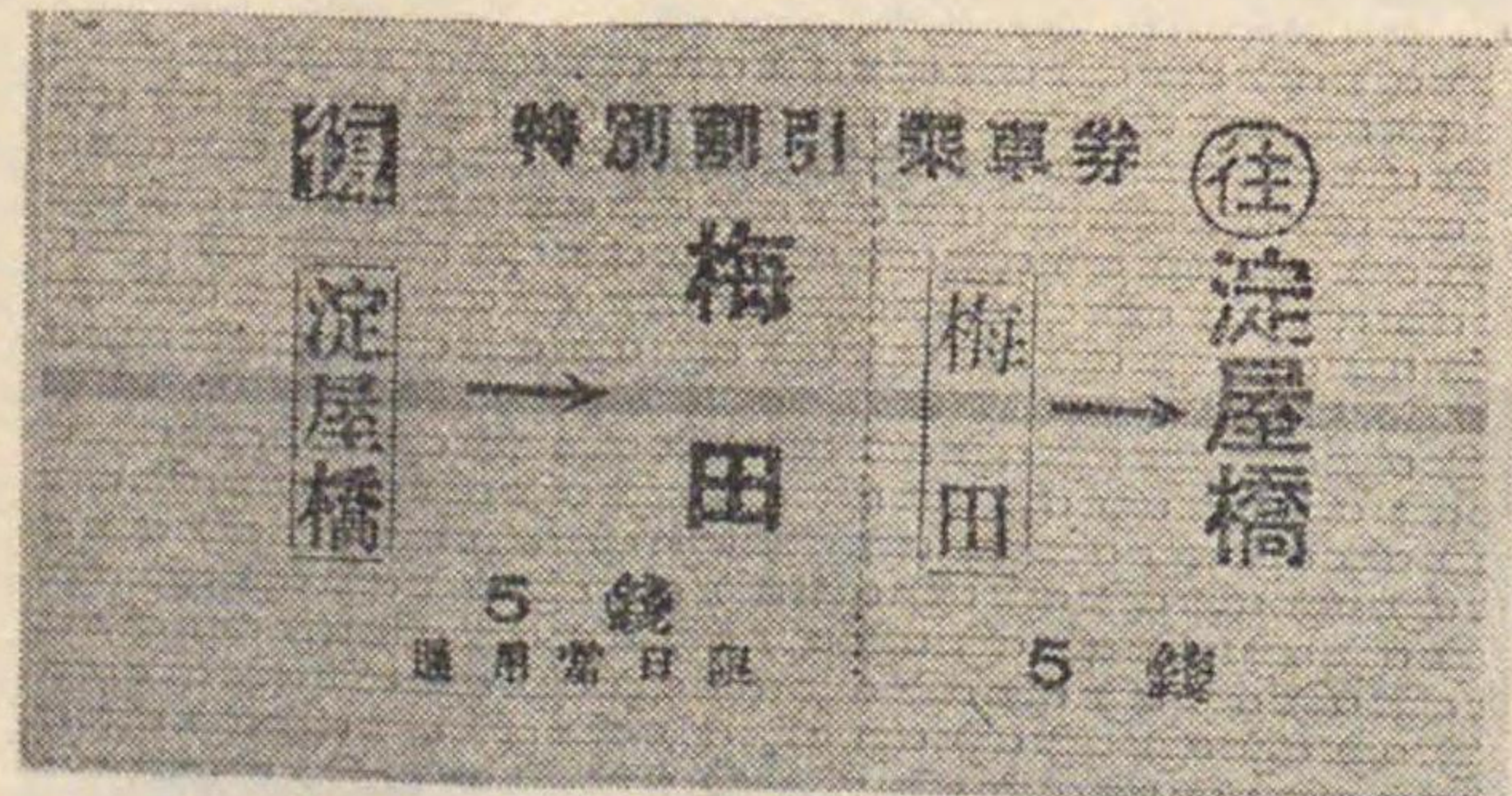


(色白)面裏

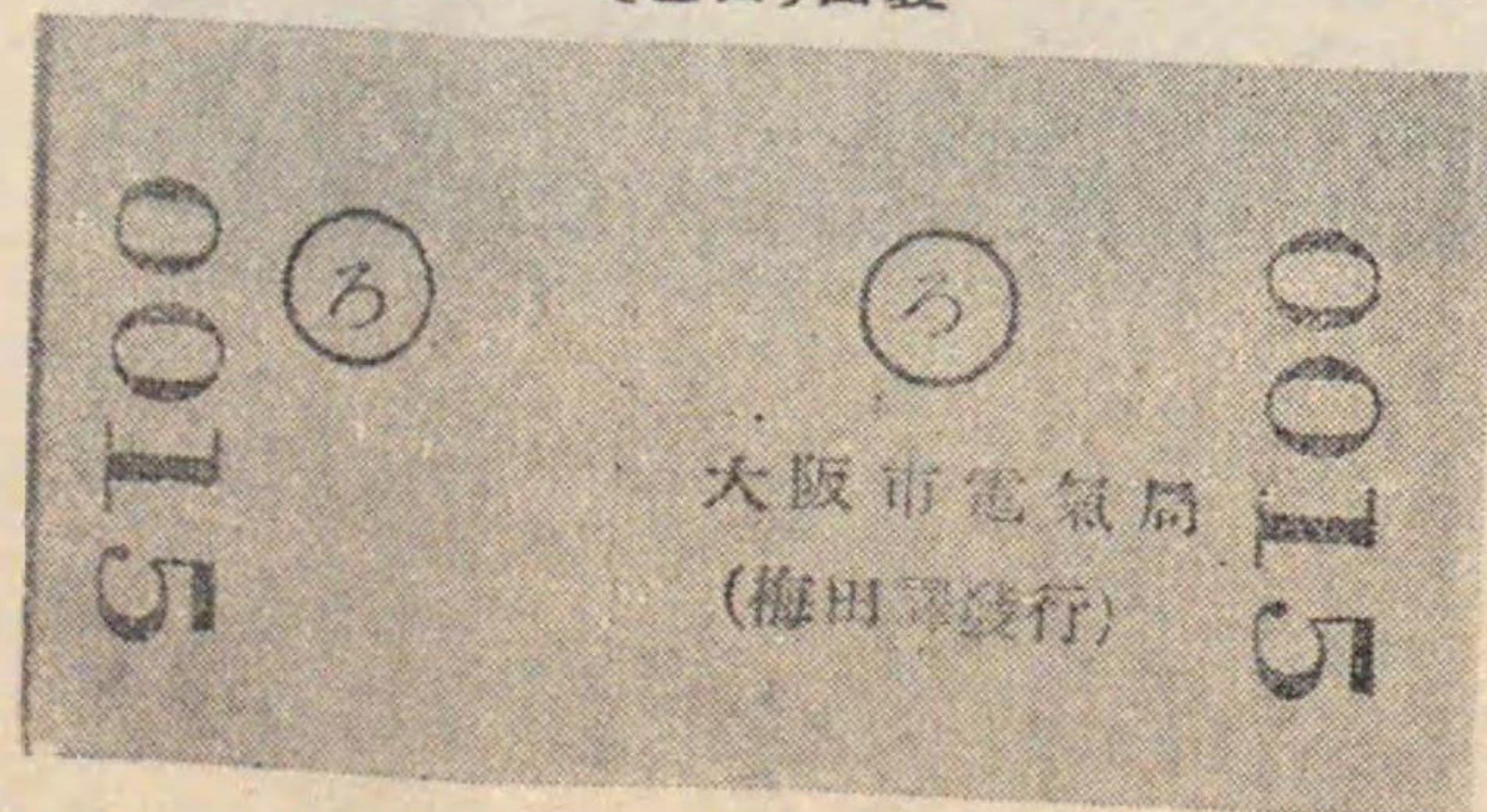


特別割引區間連續券(往復用)

(色赤)面表



(色白)面裏



面裏紙表

注意

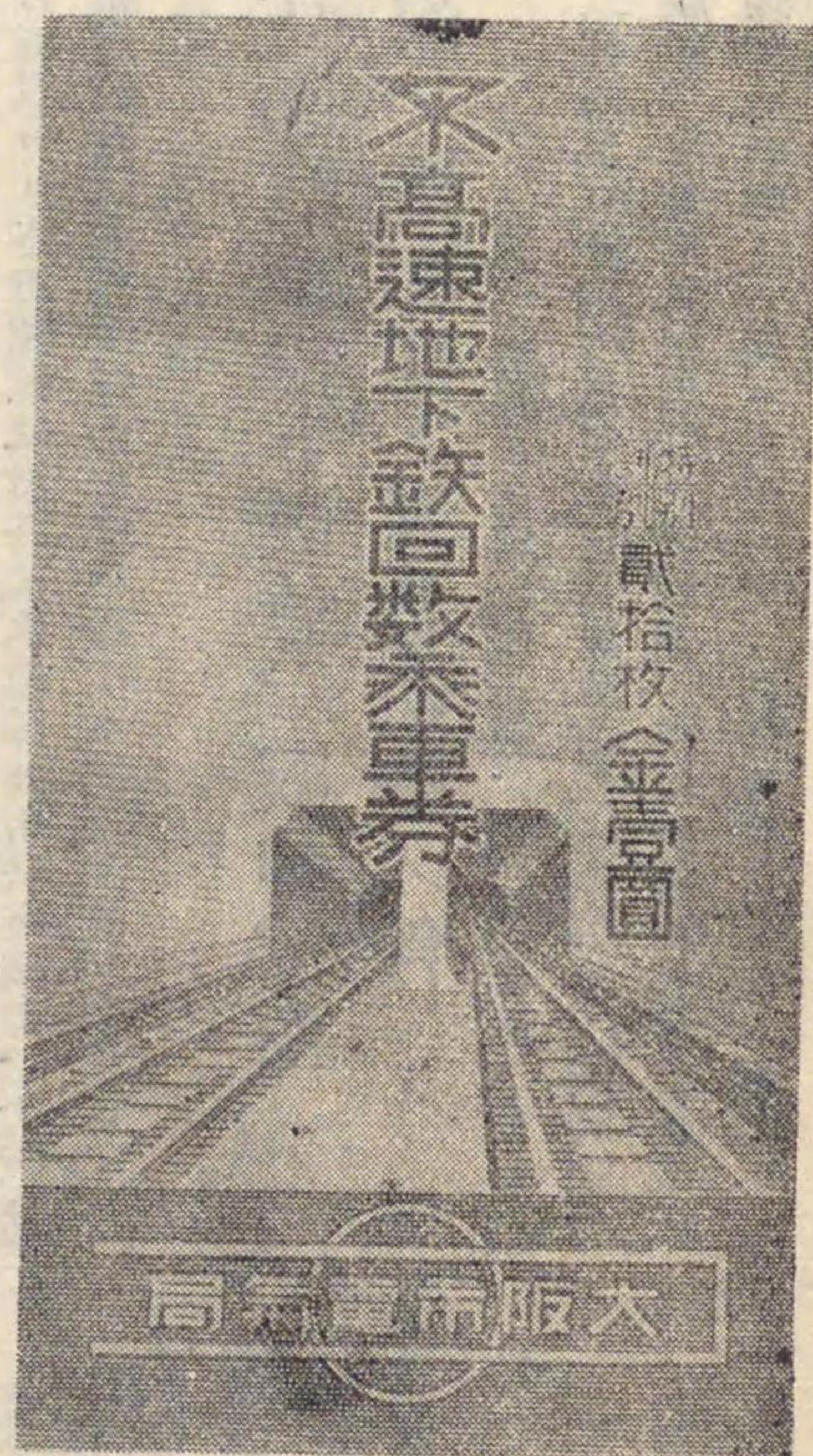
一、御買取の際は念の爲め枚数を御改め下さい、後日の引換は御断り致します。

一、この乗車券は梅田、淀屋橋間、淀屋橋-本町間、本町-心齋橋間、心齋橋-難波間各相互間に限り有効です。

一、この乗車券は地下鉄一區券に代用する事が出来ません。

一、満五歳以上の御子達は有料でありますから必ず乗車券の御渡しを願います。

(色緑)面表紙表

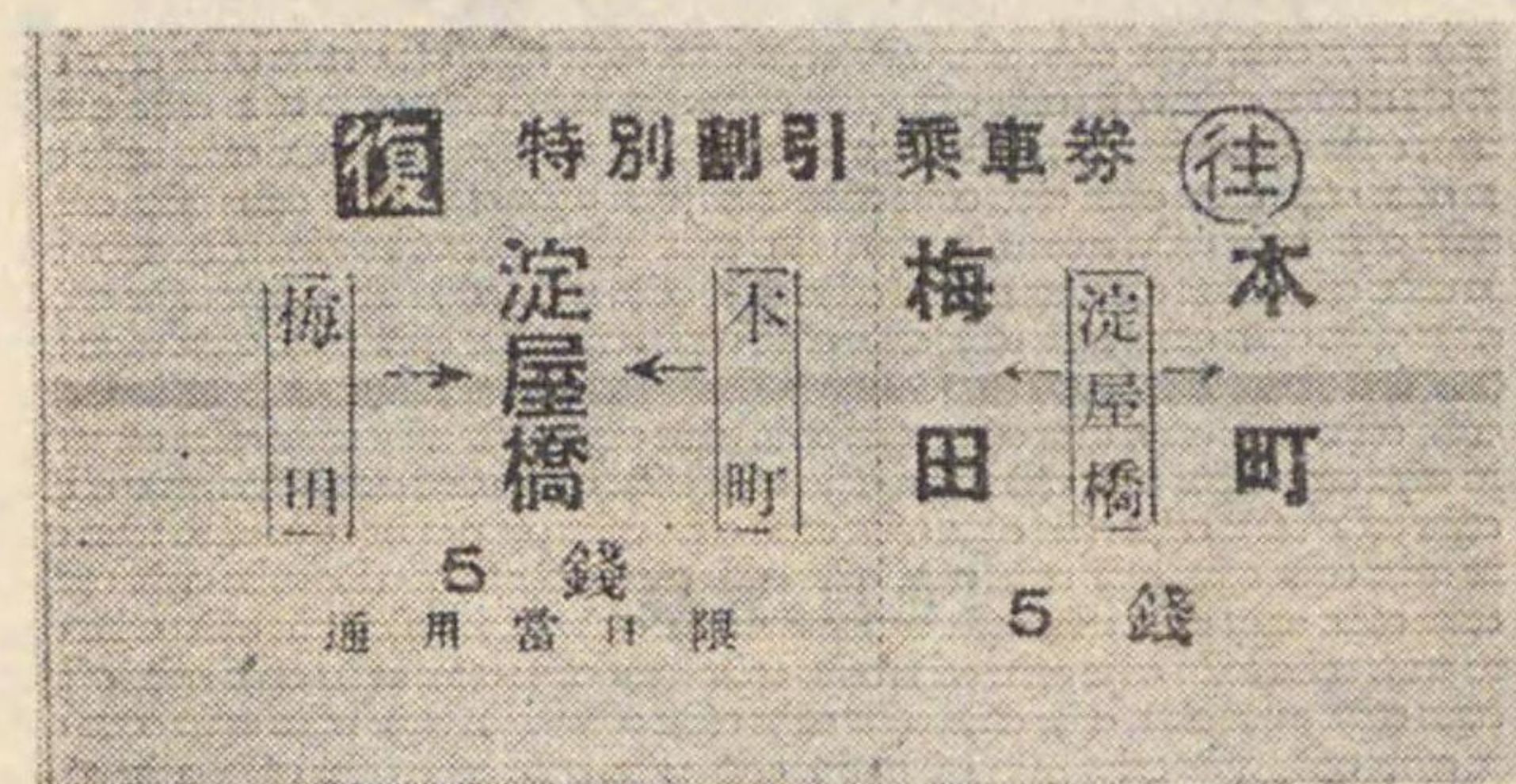


特別割引區間回数券(二十回券)

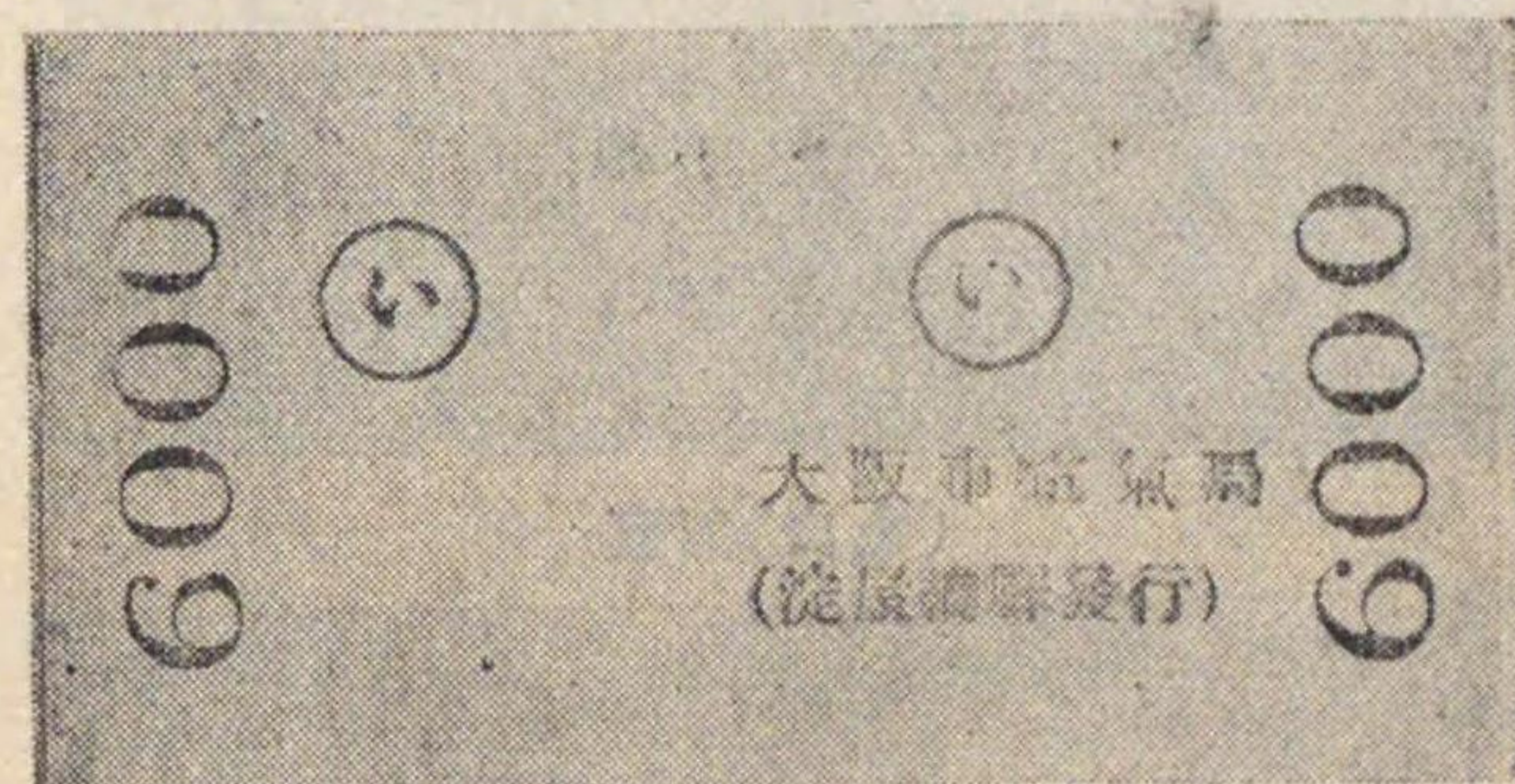
(色赤薄)片各券數回

特別割引乗車券
梅田 淀屋橋 本町 心齋橋 難波

(色赤)面表



(色白)面裏



附則

昭和十年大阪市告示第五號本市電氣軌道高速軌道線乘車料金ノ割引並特別乘車券發行ノ件及昭和十年大阪市告示第百十四號本市電氣軌道高速軌道線特別割引區間連續券發行ノ件ハ之ヲ廢止ス

●路面軌道線經由國有鐵道、大阪商船間ノ連帶運輸ノ件

制 定 昭八、一〇、四告示三四四
最近改正 昭九、七 告示二四四

大阪市電氣軌道連帶運輸開始ノ件

昭和八年十月五日ヨリ本市電氣軌道路面軌道線經由國有鐵道、大阪商船株式會社紀州航路並同航路經由紀勢中線間ニ連帶運輸ヲ開始ス

●高速軌道線ト阪急、阪神、南海、阪和間ノ連帶運輸ノ件

制 定 昭一一、二、一告示三五

昭和十一年二月一日ヨリ本市電氣軌道高速軌道線各停留場ト阪神急行電氣株式會社線、阪神電氣鐵道株式會社線、南海鐵道株式會社線及阪和電氣鐵道株式會社線トノ間ニ左記ニ依リ連帶運輸ノ取扱ヲ開始ス

一連帶ノ範圍

株式會社線又ハ阪神電氣鐵道株式會社線ト南海鐵道株式會社線相互間ニ左記ニヨリ連帶運輸ヲ開始ス

一、連帶ノ範圍

イ、阪神急行電氣株式會社線

十三、三國、石橋、箕面、花屋敷、寶塚、神崎川、伊丹、西宮北口、夙川、御影、小林、神戸ノ各停留場

ロ、阪神電氣鐵道株式會社線

野田、千船、大物、尼崎、出屋敷、甲子園、西宮、香櫨園、蘆屋、御影、神戸ノ停留場

ハ、南海鐵道株式會社線

難波、濱寺公園間各驛、大津、岸和田、貝塚、佐野、淡輪、深日、和歌山市ノ各驛

ニ、連絡停留場及驛

岸ノ里、堺東間各驛、中百舌鳥、初芝、北野田、長野、三日市町、天見、高野山ノ各驛

イ、本市電氣軌道高速軌道線

梅田及難波停留場

ロ、阪神急行電氣株式會社線

梅田停留場

ハ、阪神電氣鐵道株式會社線

梅田停留場

ニ、南海鐵道株式會社線

第六類 運輸 第一章 軌道

イ 阪神急行電氣株式會社線

各停留場

ロ 阪神電氣鐵道株式會社線

本線各停留場

ハ 南海鐵道株式會社線

本線 難波、濱寺公園間各驛、大津、岸和田、貝塚、佐野、淡輪、深日、和歌山市ノ各驛

高野線 岸ノ里、堺東間各驛、中百舌鳥、初芝、北野田、長野、三日市、天見、高野山ノ各驛

ニ 阪和電氣鐵道株式會社線

上野芝、阪和砂川、阪和東和歌山ノ各驛

但シ本市電氣軌道高速軌道線難波驛、阪和電氣鐵道株式會社線阪和天王寺驛間ハ本市電氣軌道路面軌道線ヲ經由スルモノトス

二 連帶乘車料金

本市電氣軌道高速軌道線所定乘車料金ト連帶會社線普通乘車料金トノ合算額(但シ阪和電氣鐵道株式會社線トノ連帶乘車料金ハ右料金ニ本市電氣軌道路面軌道線所定料金ヲ合算ス)

●高速軌道線經由阪急、阪神ト南海間ノ連帶運輸ノ件

制 定 昭一一、二、八告示四九

昭和十一年二月十一日ヨリ本市電氣軌道高速軌道線經由阪神急行電氣

〔大電〕

〔大電〕

難波驛

●高速軌道線經由阪急、阪神ト阪和間ノ連帶運輸ノ件

制 定 昭一一、二、八告示五三

昭和十一年二月十一日ヨリ本市電氣軌道高速軌道線經由阪神急行電氣株式會社線又ハ阪神電氣鐵道株式會社線ト阪和電氣鐵道株式會社線相互ノ間ニ左記ニ依リ連帶運輸ノ取扱ヲ開始ス

一、連帶ノ範圍

イ、阪神急行電氣株式會社線

十三、三國、石橋、箕面、花屋敷、寶塚、神崎川、伊丹、西宮北口、夙川、御影、小林、神戸ノ各停留場

ロ、阪神電氣鐵道株式會社線

野田、千船、大物、尼崎、出屋敷、甲子園、西宮、香櫨園、蘆屋、御影、神戸ノ各停留場

ハ、阪和電氣鐵道株式會社線

東和歌山驛

ニ、連絡停留場及驛

梅田及難波停留場

八四七

王寺驛間ハ本市電氣軌道路面軌道線ヲ經由スルモノトス

口、阪神急行電鐵株式會社線

梅田停留場

ハ、阪神電氣鐵道株式會社線

梅田停留場

ニ、阪和電氣鐵道株式會社線

阪和天王寺驛

團體貸切乗車取扱内規

制 定 大六、一〇、一二 達 六

最近改正 大九、七、 達 三七

團體貸切乗車取扱内規左ノ通相定メ大阪市電氣軌道乗車料條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

團體貸切乗車取扱内規

第一條 本内規ニ於テ團體トハ特定ノ團體名ヲ以テ一時ニ三十人以上乗車スルモノヲ謂フ

第二條 團體貸切乗車料金ハ左ノ通りトス

普通團體	貸切車ノ乗車 一人ニ付金九錢ノ割合	一團體ニ付通行税金五錢
中學校高等女學校及之レト同等ノ學校團體	同	同
	金六錢以上金九錢以下ノ割合	同
	上	上

大正二年五月七日達第一〇號團體及貸切乗車取扱内規ハ之ヲ廢止ス

營業車授受内規

制 定 大四、一〇、二九 達 二七

營業車授受内規左ノ通相定メ大正四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

營業車授受内規

第一條 運輸係ハ平日ノ運輸ニ要スル客車ノ所要車輛數ヲ定メ之ヲ車輛係ヘ通告スヘシ但其ノ定數ヲ改正シ又ハ特別運輸ヲ爲ス場合ハ豫メ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第二條 車輛係各出張所(以下單ニ車庫ト稱ス)ハ毎朝出庫開始前豫メ出庫車輛數及其ノ番號ヲ車輛配置表ヲ以テ運輸係各出張所(以下單ニ運輸ト稱ス)ニ通知スヘシ

第三條 運輸ハ前條ノ通知ニ依リ擔當員ヲ派出シ車庫員立會ノ上之ヲ受領スヘシ但シ授受ノ際車庫員ハ運輸員ニ對シ電燈及豫備燈ノ不備ヲキコトヲ特ニ明示スヘシ

第四條 前各條ニ依リ毎朝出庫(朝出庫ニハ車庫員立會ノコト)ヲ終リタルトキハ運輸ハ現出庫車ノ番號ヲ車庫ニ通知シ之ニ對シテ車庫ハ車輛票ヲ運輸ニ交付スヘシ

第五條 毎朝出庫ヲ終ルト共ニ車庫ハ一定ノ線ニ豫備車ヲ配置シ車輛配置表ニ依リ車數及番號ヲ運輸ニ通知スヘシ但其ノ授受並ニ出庫ニ關シテハ第三條及第四條ヲ準用ス豫備車ノ授受完了後之ヲ變更シ若クハ増減スル場合又同シ

小學校及之レト同等ノ學校 同 上 金三錢以上金六錢以下ノ割合 同 上

第三條 團體貸切乗車ハ割引時間内ニ限り之レヲ取扱フナスコトヲ得ス但シ學校團體ニ對シテハ此ノ限ニアラス

第四條 日曜、祭日、一日、十五日其他乘客多數ノ場合ハ團體貸切乗車ノ申込ニ應セサルコトヲ得

第五條 團體乗車場所ハ車庫所在地ノ停留場又ハ各運輸系統ノ終點停留場トシ其ノ輸送ハ運輸系統ニ依ルモノトス

但特別ノ事情アリテ規定以外ノ停留場ヨリスル乗車又ハ運輸系統以外ニ互ル乗車ノ申込アリタルトキハ運輸課長ノ指示ヲ受ケヘシ

第六條 團體貸切乗車料金ハ總テ前拂トシ之レト引換ニ團體貸切乗車券ヲ發行スルモノトス

第七條 團體貸切乗車券ヲ發行シタルトキハ乗車料金ハ所屬出張所現金取扱者ニ交付シ團體貸切乗車券發行通知書ハ運輸課庶務係ニ回付スヘシ

第八條 團體乗車ノ場合ハ必ラス係員又ハ運輸監督ヲシテ之レニ立會セシメ團體人員ノ調査及輸送上必要ナル指揮ヲナサシムヘシ

第九條 團體貸切乗車ノ申込ヲ受ケタル場合其ノ乗車區域外他ノ出張所ニ關係アルトキハ當該出張所ト打合ノ上其ノ取扱ヲナスヘシ

第十條 團體貸切乗車料金ハ其ノ支拂ヲ受ケタル出張所ノ收入トス但他ノ出張所所屬電車ヲ以テ輸送セル場合ハ直ニ之ヲ當該出張所ヘ移牒スヘシ

附則

第六條 定例入庫時間(各運輸ト當該車庫ト協定)ニ營業車ノ入庫スル場合ハ一定ノ線ヨリ入庫セシメ車庫ハ該入庫線ニ擔當者ヲ配置シ逐次之ヲ迅速ニ點檢シタル後受領スヘシ但故障車ニ對シテハ特ニ其ノ擔當乗務員ヨリ詳細ニ其ノ模様ヲ聽取シ一應之ヲ特定ノ線ニ配置スヘシ

第七條 前條ニ依リ入庫ヲ終リタルトキハ車庫ハ其ノ車輛番號及入庫終了時間ヲ運輸ニ通知スヘシ

第八條 定例入庫時間以外ニ入庫スル場合ハ該入庫車庫ヲ一旦一定ノ線ニ配置シタル後入庫傳票ヲ以テ其都度之ヲ車庫ニ通知シ車庫ハ直ニ之ヲ點檢ノ上受領スヘシ但本入庫車中故障車ニ對シテハ第六條但書ヲ準用ス

第九條 運輸ハ當日受領シタル車輛票ニ車輛各部ノ狀態ニ關スル良否ヲ相當欄ニ記入シ翌日午前中ニ之ヲ車庫ニ返付スヘシ

第十條 明治四十一年七月制定車庫操車規程ハ本内規施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

電車信號取扱方

制 定 大二、六、二〇 達 一六

最近改正 大四、五、 達 一七

第一 信號ノ種類左ノ如シ

一 電燈 信號

- 二 手 合 圖
- 三 手 笛 信 號
- 四 乘 務 員 信 號
- 第二 電燈信號及手合圖ハ左ノ法式ニ依リ之ヲ表示ス
 - 一 危害信號 (電車停車スヘシ)
 - 赤色旗又ハ赤色燈
 - 但シ止ヲ得サル場合ハ兩腕ヲ高ク舉ク
 - 二 注意信號 (電車徐行スヘシ)
 - 綠色旗又ハ綠色燈
 - 但シ止ヲ得サル場合ハ片腕ヲ高ク舉ク
- 第三 何色ノ燈又ハ旗又ハ如何ナル物體ニテモ急ニ之ヲ振り廻ストキハ危害信號トス
- 第四 信號ヲ表示スヘキ箇所ニ信號ヲ欠キタルトキ又ハ異狀ノ信號表示アリタルトキハ危害信號ト見做ス
- 第五 乘務員ニ注意ヲ促ス場合ハ左ノ手笛合圖ヲ爲ス
 - 一 短急笛數聲 電車停車スヘシ
 - 二 長緩笛壹聲 電車進行スヘシ
- 第六 乘務員相互間ノ信號ハ左ノ法式ニ依ル
 - 一 車掌ヨリ運轉手ニ對スル信號鈴
 - 一點 停留場ニ停車セヨ
 - 二點 發車セヨ又ハ「トロリー」差支ナシ
 - 三點 直ニ停車セヨ又ハ「トロリー」異狀アリ「停車セヨ
 - 四點 滿員札ヲ掲ケヨ又ハ掲ケアル場合ハ撤去セヨ

- 亂打 危險ナリ急停車セヨ又ハ危險アリ急キ發車セヨ
- 二 運轉手ヨリ車掌ニ對スル信號鈴
 - 一點 用事アリ運轉手臺ニ來レ
 - 二點 「トロリー」ニ注意セヨ又ハ發車差支ナキヤ
 - 三點 「トロリー」引下ケヨ
 - 四點 滿員札ヲ掲ケヘキヤ又ハ撤去シタリ
- 亂打 車掌臺ノ「ブレーキ」ヲ緊結セヨ
- 三 故障車索引又ハ推進ノ場合ニ於ケル信號鈴
 - 一 索引ノ場合
 - 後車ノ車掌ヨリ信號ヲ爲シ前車ノ車掌之カ中繼ヲ爲スヘシ
 - 二 推進ノ場合
 - 前車運轉手後車車掌双方ノ信號ニ依リ出發シ執レカ一方ノ信號アリタルトキハ停車スヘシ但シ此ノ場合ニ於ケル前車運轉手ノ信號ハ車掌信號法ニ依ルヘシ

●電車及乗合自動車内遺留物件取扱規程

制 定 大一二、二、二七達電 六
最近改正 昭 二、二 達電一四

電車及乗合自動車内遺留物件取扱規程左ノ通相定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電車及乗合自動車内遺留物件取扱規程

〔大電〕

- 第一條 電車及乗合自動車内ニ於ケル遺留物件ハ本規程ニ依リ取扱フヘシ
- 第二條 車掌若ハ運轉手ノ自己擔當ノ電車及乗合自動車内ニ於テ遺留物件ヲ拾得シ又ハ乘客ヨリ其ノ届出ヲ受ケタルトキハ該電車及乗合自動車力所屬運輸出張所ニ歸還後直ニ當該係員ニ現品ノ届出ヲ爲シ且參考トナルヘキ事項アルトキハ同時ニ報告スルコトヲ要ス
- 第三條 前條ノ届出ヲ受ケタル當該係員ハ直ニ所定ノ傳票ニ物件ノ名稱、種類、數量並拾得シタル場所日時其ノ他該物件ヲ知得スルニ足ルヘシト思料スル事項ヲ詳細ニ記入シ捺印ノ上所長ノ認印ヲ受クヘシ
- 第四條 運輸出張所ニ於テハ届出ヲ受ケタル翌日現品ニ前條ノ傳票ヲ添付シ運輸課乘客係ニ送付スヘシ但シ滅失毀損ノ虞アル物、腐敗シ易キ物、保管ニ相當ノ費用若ハ手數ヲ要スル物ハ速ニ送付シ火藥類、爆發質、燃燒質等危險ノ虞アル物ハ直ニ乘客係ニ通報ノ上機宜ノ處置ヲ採ルヘシ
- 第五條 運輸各出張所ヨリ遺留物件ノ送付ヲ受ケタル乘客係ニ於テハ所定ノ帳簿ニ適當ノ登錄ヲナシ相當ノ設備アル一定ノ場所ニ四日間保管シ遺失者判明セザルトキハ所轄警察署ニ届出ツヘシ但前條但書ハ本條ニ之ヲ準用ス
- 第六條 遺留物件ノ處理ハ傳票ニ明確ニ記載スルコトヲ要ス又保管中遺失者判明シ還付方申出テ受ケタルトキハ係員ハ其ノ申出力正當ナルコトヲ確認シタル後住所氏名ヲ明記シタル領收證ヲ徴シ係長(運輸出張所ニ於テハ所長)ノ承認ヲ得テ之ヲ還付スヘシ

- 第七條 民法第二百四十條ニヨリ所有權ヲ取得シタル遺留物件ヲ所轄警察署ヨリ引渡ヲ受ケタルトキハ當該係員ハ傳票ト照合ノ上之カ引渡ヲ受クヘシ
- 第八條 前條ニヨリ取得シタル物件中ノ通貨ハ直ニ收入ノ手續ヲ爲シ其ノ他ノ物件ハ目錄ヲ添付シテ調度課ニ引渡スヘシ
- 第九條 調度課ニ於テ前條ニヨリ物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ正規ノ手續ヲ經テ賣却其ノ他ノ處分ヲナスヘシ
- 附 則
- 第十條 本規程ニ關スル取扱手續ハ運輸課長之ヲ定ム
- 第十一條 大正三年三月達電第六號電車内遺失物取扱内規ハ本規程發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●電車内傳染病取扱規程

制 定 大一一、一一、九達電五三

電車内傳染病取扱規程左ノ通相定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電車内傳染病取扱規程

- 第一條 電車内ニ於テ吐瀉又ハ眩暈等異狀ヲ呈シ傳染病ノ疑アル者アルトキハ車掌、運轉手ハ速ニ最寄運輸監督ニ報告スヘシ
- 第二條 運輸監督ハ警官ノ立會ヲ求メ乘客及患者ニ對シ適當ノ處置ヲ爲シ該電車ハ故障車トシテ入庫セシメ直ニ保健課及所屬車庫ニ通知スルモノトス
- 第三條 前條ニ依リ入庫シタル電車ハ所屬車庫ニ於テ他ノ電車ト隔離

シ之ニ「隔離車」ノ札ヲ掲ケ患者診察ノ結果ヲ承合シ必要ニ應シ遅滞ナク之ヲ消毒ヲ行フヘシ

第四條 電車ノ消毒ハ硝子窓及一方ノ入口ヲ密閉シ八倍ノ稀「フオルマリン」液ヲ迅速ニ車内ニ噴霧シ他ノ一方ノ入口ヲ閉チ七時間以上經過シタル後窓戸ヲ開放シ瓦斯ヲ發散セシムヘシ

第五條 車輛課長ハ常時各車庫ニ消毒藥其ノ他前條施行ニ必要ナル器具ヲ備ヘ置クヘシ

第六條 第二條ノ場合ニ於テ運輸課長及車輛課長ハ保健課長ヲ經由シ遅滞ナク其ノ情況ヲ部長ニ報告スヘシ

●高速電車運轉取扱心得

制定 昭八、五、二〇達電一五

高速電車運轉取扱心得左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
高速電車運轉取扱心得

目次

- 第一章 總則
- 第二章 運轉
- 第一節 組成
- 第二節 運轉
- 第三節 入換
- 第四節 運轉速度
- 第五節 停止中ノ防護

第六節 轉轍器ノ取扱

第三章 閉塞

第一節 通則

第二節 自動閉塞式

第三節 指導法

第四章 信號

第一節 通則

第二節 常置信號機

第三節 閉塞信號機

第四節 臨時信號機

第五節 手信號

第六節 發火信號

第七節 合圖

第八節 標識

第五章 事故ノ處置

高速電車運轉取扱心得

第一章 總則

第一條 高速電車ノ運轉ニ關シテハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外本心得ニ依ルヘシ

第二條 本心得ノ用語ハ次ノ例ニ依ル

一 本線路トハ電車ノ運轉ニ常用スル軌道ヲ謂ヒ側線トハ本線路ニ非サル軌道ヲ謂フ

二 驛トハ電車ヲ停止シ旅客ヲ取扱フ爲設ケラレタル場所ヲ謂フ

〔大電〕

〔大電〕

第八條 電車ハ乗務員乗務スルニ非レハ運轉スルコトヲ得ス但シ入換ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 電車ハ驛内ノ運轉其ノ他特別ノ場合ヲ除クノ外左方ノ線路ヲ進行スヘシ

第十條 本線路ハ之ヲ閉塞區間ニ分チテ運轉スヘシ但シ驛内ノ本線路ハ之ヲ閉塞區間ト爲ササルコトヲ得

第十一條 一閉塞區間ニハ二以上ノ電車ヲ同時ニ運轉スルコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 閉塞信號機ノ停止信號現示ノ場合ニ於テ第十四條ニヨリ閉塞區間ニ進入スルトキ

二 故障電車ノ在ル閉塞區間ニ於テ救援車ヲ運轉スルトキ

第十二條 電車ハ停止信號現示アリタルトキハ其ノ現示箇所ヲ超エテ進行スルコトヲ得ス

發火信號ノ現示アリタルトキ及手信號ニ依リ停止信號ノ現示アリタルトキハ速ニ停止スヘキモノトス

第十三條 閉塞信號機以外ノ停止信號現示ニ依リ停止シタル電車ハ進行ヲ指示スル信號ノ現示又ハ通告アル迄ハ進行スルコトヲ得ス

第十四條 電車ハ閉塞信號機ノ停止信號現示ニ依リ停止シタル場合一分時ヲ經過シタル後ハ停止信號現示中ト雖モ一時間十秒ヲ超エサル速度ヲ以テ前途支障ナキ箇所迄進行スルコトヲ得

前項ノ場合運轉手ハ自動停止裝置ヲ無難ノ位置ニ復歸セシメタル上進行スヘシ

第十五條 電車ハ注意信號現示アルトキハ次ノ信號機ニ停止信號ノ現示ス

第七條 車輛ハ安全ニ運轉スルコトヲ得ヘキモノノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第六條 電車ハ所定ノ運轉時刻表ニ依リ運轉スルヲ原則トス
電車ハ運轉時刻表ニ依リ示サレタル時刻ヨリ早ク驛ヲ出發スルコトヲ得ス

第五條 電車ニハ二箇ノ手齒止ヲ備ヘ付クヘシ

第四條 車輛ヲ連結セムトスルトキハ連結器ヲ連結シタル後制動管電纜等ノ接続ヲ爲スヘシ車輛ヲ解放セムトスルトキハ制動管電纜等ヲ切離シタル後連結器ヲ解放シ切離シタル制動管電纜等ハ其ノ端ヲ所定ノ箇所ニ整置スヘシ

第三條 電動車ハ前部ニ之ヲ連結スヘシ但シ總括制御法ニ依リ前部ヨリ操縱セラルルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 乗務員トハ車掌、運轉手ヲ謂フ
四 閉塞區間トハ一電車ノ外他ニ電車ヲ同時ニ運轉セシメサル爲定メタル區域ヲ謂フ
五 電車ノ退行トハ電車ノ標識ヲ變更セシテ最初ノ進行ノ方向ト反對方向ニ運轉スルヲ謂フ
六 電車ノ推進トハ電動車ヲ先頭ト爲サスシテ運轉スルヲ謂フ但シ總括制御法ニ依リ電車ノ前部ヨリ操縱セラルルトキハ此ノ限ニ在ラス

示アルコトヲ豫期シテ進行スヘシ

第十六條 電車ハ進行信號現示アルトキハ其ノ現示箇所ヲ超エテ進行スルコトヲ得

第十七條 電車ハ徐行信號現示アルトキハ其ノ速度ヲ低減スヘシ

第十八條 電車ハ出發合圖アルニ非レハ驛ヲ出發スルコトヲ得ス

第十九條 電車ハ乗降客ナク且停車ノ必要ナキトキハ驛ヲ通過スルコトヲ得

第二十條 電車カ驛ノ常置信號機ノ停止信號現示ニ依リ停止シタル場合其ノ事由不明ナルトキハ長緩氣笛一聲ノ合圖ヲ爲シ尙注意信號又ハ進行信號ヲ現示セサルトキハ車掌ハ驛ニ至リ其ノ事由ヲ糺スヘシ

第二十一條 運轉手ハ其ノ進路ニ於ケル信號ヲ注視スヘシ

電車ノ退行又ハ推進ノ場合車掌ハ常ニ前途ノ狀態ニ注意シ相當手信號ヲ現示スヘシ

第二十二條 乗務員ハ電車出發ノ際並運轉中ハ電車ノ狀態ニ注意スヘシ

第二十三條 電車カ驛ニ到着ノ際停止位置ヲ誤リタルトキハ運轉手ハ車掌ノ指示ヲ待チテ電車ヲ進退セシムヘシ

第二十四條 指導法ヲ施行スルトキハ運轉手ハ先發電車ニ追及スルコトヲ豫期シテ運轉スヘシ尙前途見透シ難キトキハ時々短急氣笛數聲ノ合圖ヲ爲スヘシ

信號機ニ停止信號ヲ現示シ尙必要ニ應シ相當ノ防護ヲ爲スヘシ

第四節 運轉速度

第三十二條 下リ勾配及曲線ニ於ケル運轉速度ハ特ニ注意スヘシ

第三十三條 電車カ轉轍器附帶ノ曲線ヲ通過スル場合ニ於ケル速度ハ一時間十六秒ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十四條 電車ハ徐行信號現示セラレタルトキハ其ノ速度ヲ低減スヘシ

第三十五條 不良ノ閉塞信號機ヲ超エテ進行スル場合ニ於ケル電車ノ速度ハ一時間十六秒ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十六條 停止信號現示中ノ閉塞信號機ヲ超エテ進行スル場合ニ於ケル電車ノ速度ハ一時間十秒ヲ超ユルコトヲ得ス

第五節 停止中ノ防護

第三十七條 本線路ニ停止中ノ電車ハ制動機ヲ緊締シテ其ノ自動ヲ防止シ尙必要ニ應シ手齒止ヲ爲シ置クヘシ

第三十八條 側線ニ停止中ノ車輛ニシテ本線路ニ逸出シ又ハ不測ノ轉動ニヨリ之ヲ支障スル虞アル場合ハ制動機ヲ緊締シ尙必要ニ應シ車輪止又ハ手齒止ヲ爲シ置クヘシ

第三十九條 運轉手運轉臺ヲ離ルルトキハ制御機ノ把手ヲ外シ且制動機ヲ緊締シ置クヘシ

第六節 轉轍器ノ取扱

第四十條 轉轍器ハ左ノ方向ニ開クヲ定位トス

第六類 運輸 第一章 軌道

停止セシムヘシ

第二十五條 電車ノ貫通制動機ハ電車ヲ組成シ又ハ其ノ組成ヲ變更シタルトキハ運轉手ハ壓力計ニ依リ其ノ機能ヲ試驗シ其ノ完全ナルコトヲ確認スヘシ

第二十六條 電車ヲ運轉スルニハ故障其ノ他已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外先頭運轉臺ノ制御器ヲ使用スヘシ

第二十七條 指定驛長及車掌ハ別ニ定ムル様式ニヨリ電車運轉報告ヲ作製スヘシ

第三節 入換

第二十八條 電車ノ入換ヲ爲サムトスル場合ハ信號掛ハ乗務員其ノ他關係者ニ豫メ必要ナル通告ヲ爲シタル上運轉手ニ對シ入換合圖ヲ現示スヘシ但シ入換信號機ヲ使用シ入庫出庫ヲ爲ストキハ驛長又ハ其ノ指定シタル係員ニ於テ入換開始ノ時期ヲ指示シ入換合圖ノ現示ヲ爲ササルコトヲ得

第二十九條 信號掛ハ入換ヲ爲スヘキ線路ニ支障ナキコト及信號機轉轍器ノ正當ナルコトヲ確認シタル後ニ非レハ入換ヲ爲スコトヲ得

如何ナル場合ト雖モ突放入換ヲ爲スヘカラス

第三十條 夜間入換ノ場合信號掛ハ特ニ線路ノ長短停留車輛ノ有無ニ注意シ尙必要ニ應シ運轉手ニ適當ナル注意ヲ與フヘシ

第三十一條 入換ヲ爲スコトキハ之カ爲支障ヲ及ボス線路ニ關スル常置

〔大電〕

一 本線路ト本線路トノ場合ハ主要ナル方向

二 本線路ト側線トノ場合ハ本線ノ方向

三 本線路又ハ側線ト安全側線トノ場合ハ安全側線ノ方向

四 側線ト側線トノ場合ハ主要ナル方向

第四十一條 轉轍器ハ電車通過ノ必要ニ應シ之ヲ反位ニ開キ其ノ使用ヲ終リタルトキハ直ニ定位ニ復スヘシ

第三章 閉塞

第一節 通則

第四十二條 閉塞區間ニ於ケル閉塞ハ閉塞信號機ニ依ル

第四十三條 閉塞信號機不良ノ場合ニ於テ電車ヲ閉塞區間ニ進入セシメントスルトキハ電話ニ依リ豫メ前方驛ノ承認ヲ受クヘシ

第四十四條 線路故障ノ爲一時單線運轉ヲ爲ストキハ指導法ニ依ルヘシ

第四十五條 指導法ヲ施行セムトスル場合ハ電車課高速係長ノ許可ヲ受クヘシ

緊急ノ場合前項ノ許可ヲ受ケ難キトキハ關係驛長ニ於テ打合施行ノ上之ヲ報告スヘシ

第二節 自動閉塞式

第四十六條 自動閉塞式ヲ施行スル區間ノ閉塞信號機ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合自動作用ニ依リ停止信號ヲ現示スルモノトス

- 一 閉塞區間ニ電車アルトキ
- 二 裝置ニ故障ヲ生シタルトキ
- 三 閉塞區間ニ在ル轉轍器カ正當ノ方位ニ非サルトキ或ハ分岐點若ハ交叉點ニ於ケル電車カ閉塞區間ヲ支障セルトキ
- 第四十七條 自動閉塞式ヲ施行スル區間ニ於テ單線運轉ヲ施行スル場合ハ其ノ區間ニ於ケル運轉ハ自動閉塞式ニ依ラサルモノトス

第三節 指導法

- 第四十八條 指導法ヲ施行スル區間ニハ指導者ヲ定ムヘシ
- 指導者ハ對向電車ニ對スル一閉塞區間ニ一人トス
- 第四十九條 指導者ハ赤地ニ指導者ト白書シタル腕章ヲ付クヘシ但シ赤色ノ布片ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 第五十條 指導者ハ驛長ノ指示ヲ受ケ運轉手ト同乗スルカ又ハ指導券ヲ發行スヘシ驛長ハ電話ニ依リ前方驛長ノ承認ヲ受クルニ非サレハ指導者ヲ電車ニ乗込マシメ又ハ指導券ヲ發行セシムルコトヲ得ス

指導券様式

大阪市電氣局	
NO	間
電車指導券	
電車ニ指導者乗務	
年月日發行	
指導者	

其ノ現示ノ正確ナラサルトキハ停止信號ノ現示アルモノト看做スヘシ

- 第六十條 手信號ト他ノ信號トカ同一地點ニ同時ニ現示アリタルトキハ手信號ニ依ルヘシ
- 第六十一條 電車ノ進路ニ支障ナキ場合ニ非サレハ之ニ對シ進行ヲ指示スル信號ヲ現示スルコトヲ得ス
- 電車ニ對シ進行ヲ指示スル信號ノ現示アル場合ニ於テハ其ノ進路ヲ支障スルコトヲ得ス

第二節 常置信號機

- 第六十二條 常置信號機ハ一定ノ場所ニ於テ色燈又ハ燈列ニ依リ信號ヲ現示シ電車ニ對シ進行ノ條件ヲ指示ス
- 第六十三條 常置信號機ノ種類左ノ如シ
 - 一 場内信號機
 - 驛ニ進入セムトスル電車ニ對シ信號ヲ現示スルモノニシテ該信號機ヨリ内方ヘ進入ノ可否ヲ指示ス
 - 二 遠方信號機
 - 場内信號機ニ從屬シ其ノ前方ニ在リテ電車ニ對シ場内信號機ニ向ツテ進行スル運行ノ條件ヲ示ス
 - 三 出發信號機
 - 驛ヨリ進出セムトスル電車ニ對シ信號ヲ現示スルモノニシテ該信號機ヨリ外方ヘ進出ノ可否ヲ指示ス
 - 四 入換信號機
 - 電車ノ入換ニ對シ信號ヲ現示スルモノニシテ其ノ信號機ヲ超エ

- 第五十一條 電車ハ當該區間ノ指導者之ニ乗込ムカ又ハ指導券ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス
- 第五十二條 指導券ハ指導者自ラ之ヲ運轉手ニ授與スヘシ運轉手ハ指導者ヨリ直接交付ヲ受クルニ非サレハ指導券ヲ受領スルコトヲ得ス

- 第五十三條 指導法ヲ施行セムトスル場合ハ兩端ノ驛長ハ指導法ニ依リ運轉スル最初ノ電車ト指導車トヲ定メ相互ニ之ヲ記録シ置クヘシ
- 電話ニ依リ前項ノ打合ヲ爲ス場合ハ其ノ記録ヲ複唱シ錯誤ナキヲ期スヘシ
- 第五十四條 指導法ハ可成當該線路ヲ正當方向ニ運轉スル電車ヨリ開始スヘシ
- 第五十五條 運轉手ハ指導券ノ使用ヲ終リタルトキハ之ヲ終端驛長ニ納付スヘシ

- 第五十六條 指導法ヲ廢止セムトスルトキハ兩端驛長ニ於テ打合セ最終電車ニ指導者ヲ乗込マシメタル上自動閉塞式ヲ併用セシムヘシ

第四章 信號

第一節 通則

- 第五十七條 信號ハ色燈式又ハ燈列式ニ依ル
- 第五十八條 一信號ヲ以テ二以上ノ線路又ハ二種以上ノ目的ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ入換信號又ハ場内信號誘導信號ニシテ進入線路ヲ表示シアル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五十九條 信號ヲ現示スヘキ場所ニ所定ノ信號ノ現示無キトキ若ハ

〔大電〕

〔大電〕

テ進行スルノ可否ヲ指示ス

- 三 誘導信號機
 - 場内信號機ニ停止信號ノ現示アル場合誘導ヲ受クヘキ電車ニ對スルモノニシテ當該信號機ヲ超エテ進行シ得ルコトヲ指示ス
- 第六十四條 常置信號機ハ左ノ方式ニ依リ信號ヲ現示ス
 - 場内信號、出發信號、遠方信號
 - 停止信號（停止スヘシ）
 - 赤色燈
 - 注意信號（徐行スヘシ）
 - 橙黄色燈
 - 進行信號（進行スルコトヲ得）
 - 綠色燈
 - 入換信號
 - 白色燈水平ニ二個（停止スヘシ）
 - 白色燈斜ニ二個（進行スルコトヲ得）
 - 誘導信號
 - 橙黄色燈（進行スルコトヲ得）

- 第六十五條 場内信號機出發信號機ハ停止信號ヲ遠方信號機ハ注意信號ヲ現示スルヲ定位トシ誘導信號機ハ信號ヲ現示セサルヲ定位トス但シ場内信號機出發信號機及遠方信號機ニ在リテハ注意又ハ進行信號ヲ現示スルヲ定位ト爲スコトヲ得
- 第六十六條 驛ニ於テ停止スヘキ電車ヲ進入セシムル場合ハ出發信號機ニ停止信號ヲ現示シタル儘場内信號機ニ注意信號ヲ現示スルモノ

トス

第六十七條 驛ニ於テ通過スヘキ電車ヲ通過セシムル場合ハ出發信號機ニ注意又ハ進行信號ヲ現示シタル後場内信號機ニ進行信號ヲ現示スルモノトス

第六十八條 驛ニ於テ通過スヘキ電車ヲ停止セシムルトキハ場内信號機ニ停止信號ヲ現示シ一旦電車ヲ停止セシメタル後注意信號ヲ現示シ進入セシムルモノトス但シ此ノ場合出發信號機ハ停止信號ヲ現示シタル儘トス

第三節 閉塞信號機

第六十九條 閉塞信號機ハ其ノ閉塞區間ニ進入セムトスル電車ニ對シ運行ノ條件ヲ指示ス

第七十條 閉塞區間ニ進入シタル電車ハ退行スヘカラス

第七十一條 閉塞信號機ハ左ノ方式ニ依リ信號ヲ現示ス

- 一 停止信號(停止スヘシ) 赤色燈
- 一 注意信號(徐行スヘシ) 橙黃色燈
- 一 進行信號(進行スルコトヲ得) 綠色燈

第四節 臨時信號機

第七十二條 線路ノ狀態カ一時電車ノ平常運輸ヲ許ササルトキハ電車ノ停止ヲ要スル箇所又ハ徐行ヲ要スル區域ノ兩端ニ臨時信號機ヲ設クルモノトス

第七十三條 臨時信號機ノ種類及信號現示ノ方式左ノ如シ

- 一 停止信號機(停止スヘシ) 赤色燈
- 一 注意信號機(徐行スヘシ) 橙黃色燈

〔大電〕

一 徐行解除信號機(徐行ヲ解除ス)

第五節 手信號

第七十四條 信號機ノ設ケナキ場合、又ハ之ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テ電車ニ對シ之ヲ現示スルノ必要アルトキハ左ノ方式ニ依リ手信號ヲ現示スルモノトス

- 一 停止信號(停止スヘシ) 赤色燈
- 一 注意信號(徐行スヘシ) 橙黃色燈
- 一 進行信號(進行スルコトヲ得) 綠色燈

第七十五條 驛ニ於テ電車ニ對シ停止ノ位置ヲ示ス必要アルトキハ其ノ位置ニ於テ停止手信號ヲ現示スヘシ

第七十六條 故障其ノ他ノ事由ニ因リ常置信號機(遠方信號機ヲ除ク)ニ注意又ハ進行信號ヲ現示スルコト能ハサルトキハ一旦電車ヲ該信號機ノ位置ニ停止セシメ運輸手ニ其ノ要旨ヲ通告シタル後該箇所ニ於テ進行手信號ヲ現示スヘシ

第六節 發火信號

第七十七條 發火信號ハ赤色ノ火焰ニ依リ停止信號ヲ現示スルモノニシテ點火ニ依リ火焰ヲ發シ一定時分ノ後自然滅火スルモノトス

第七十八條 發火信號ハ對向電車又ハ後續電車ニ對シ防護信號ヲ爲ストキ之ヲ停止手信號トシテ使用スルモノトス

第七十九條 後續電車ニ對スル發火信號ハ電車ノ後方二百五十米以上ニシテ見透ノ良好ナル地點ニ敷設スヘシ

〔大電〕

ヲ以テ發車合圖ヲ爲スヘシ

- 下リ電車 長 一聲
- 上リ電車 短長 各一聲

第八十五條 電車力途中ニ停止シ再ヒ進行セムトスルトキハ車掌ノ發車合圖ニ依ルヘシ

第八十六條 運輸手ノ爲ス氣笛合圖ノ方式左ノ如シ

- 運轉ヲ始ムルトキ及注意ヲ促ストキ 一 聲
- 適度ノ氣笛 一 聲

出庫ヲ知ラストキ

- 上リ線出庫 適度ノ氣笛 二 聲
- 下リ線出庫 同 三 聲

入庫ヲ知ラストキ

- 上リ線入庫 短氣笛 二 聲
- 下リ線入庫 同 三 聲

事故ノ警告ヲ爲ストキ

- 短急氣笛 數聲

第八十七條 乘務員間ニ於ケル電鈴合圖ノ方式左ノ如シ

對向電車ニ對スル發火信號モ亦前項ニ準スルモノトス

第八十條 發火信號ヲ認メタル電車ノ乘務員ハ其ノ信號カ他ノ電車ニ對シテ爲サレタルモノナルコト明カナル場合ノ外必ス急停車ノ處置ヲ爲スヘキモノトス

第八十一條 電車ニハ發火信管三箇ヲ備ヘ車掌其ノ保管ノ責ニ任スルモノトス

驛其ノ他特ニ指定シタル場所ニハ發火信管四箇ヲ備ヘ當該責任者其ノ保管ノ責ニ任スルモノトス

第七節 合圖

第八十二條 入換ヲ爲ストキノ合圖方式左ノ如シ

- 一 信號者ノ方ニ來レ 綠色燈ヲ左右ニ振ル
- 二 信號者ヨリ去レ 綠色燈ヲ上下ニ振ル
- 三 停止セヨ 赤色燈ヲ現示ス

前項第一號及第二號ノ合圖ハ繼續シテ之ヲ現示スヘシ

第八十三條 信號掛ハ前條「信號者ノ方ニ來レ」ノ合圖ニ依リ自己ノ位置ニ來リタル電車ニ對シ尙其ノ進行ヲ繼續セシメントスル場合ハ運輸手方其ノ位置ニ到達シタルトキヲ見計ヒ「信號者ヨリ去レ」ノ合圖ニ改ムヘシ

第八十四條 電車出發ニ際シ車掌(二人以上乗務ノ場合ハ後部車掌)ハ乗客ノ安全ニ乗降シ終リタルコトヲ確認シタル上運輸手ニ對シ手笛

車掌ノ爲ス合圖

急停車セヨ 連續電鈴 一點

急發車セヨ 短電鈴 二點

運轉手ノ爲ス合圖

運轉臺ニ來レ短電鈴 三點

進行スヘキヤ 同 四點

終著驛ニ於テ

左側ヨリ降車スル場合 短電鈴 一點

右側ヨリ降車スル場合 短電鈴 二點

前部 白色燈 一箇

後部 赤色燈 一箇

第八節 標識

第八十八條 電車ニハ次ノ方式ニ依リ標識ヲ掲グヘシ

前部 白色燈 一箇

後部 赤色燈 一箇

第八十九條 驛ニ於テ電車ノ停止位置ヲ表示スル停車標ハ次ノ方式ニ

告シ其ノ指示ヲ受クヘシ

第九十五條 電車運轉中死傷者ヲ生シタルトキハ乗務員ハ次ニ依リ取

扱フヘシ

(イ) 死者ニ在リテハ適當ノ監視人ヲ附スルコト

(ロ) 負傷者ニ在リテハ當該電車又ハ反對電車其ノ他適當ナル方法

ニテ迅速ニ最寄醫師ニ付手當ヲ受ケシムル様手配スルコト

(ハ) 最寄驛長又ハ乗務所主任ニ急報スルコト

第九十六條 最寄驛長前各條ノ通知ヲ受ケタルトキハ相當處理ノ上乘

務所主任及電車課高速係長ニ急報スヘシ

第九十七條 乗務所主任前各條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ性質輕重

ニ應シ機宜ノ處置ヲ講スルト共ニ電車課高速係長並關係ノ向ニ通報

スヘシ

第九十八條 乗務所主任ハ事故報告書(第一號様式)ニ乗務員ノ事故報

告書(第二號様式)ヲ添ヘ事故發生後翌日迄ニ報告スヘシ

驛内ニ於テ發生シタル事故ニ就テハ別ニ當該驛長ヨリ前項ニ依リ報

告スヘシ

運輸部長

電車課長

高速係長
車輛係長
庶務係長

係員

第一號様式

第 號 事故報告(甲)

第六類 運輸 第一章 軌道

依ル

單車ノ場合 白色線 一條

二輛連結ノ場合 同 二條

三輛連結ノ場合 同 三條

第九十條 本線路ノ終端、折返線入換頻繁ナル側線ノ車止ニハ其ノ位

置ヲ示ス爲次ノ方式ニ依ル車止標識ヲ掲グルモノトス

車止標識 X形白色燈

第九十一條 運轉手ニ對シ運轉上ノ注意ヲ與ヘ操作スヘキ箇所ヲ示ス

諸標識左ノ如シ

電路遮斷

電路接續

制 動

速度低減

第五章 事故ノ處置

第九十二條 電車又ハ線路故障ノ爲電車力途中ニテ停止シタル場合乘

務員ハ應急修理ヲ爲シ若ハ救援ヲ迎フル等臨機ノ處置ヲ執リ他ノ電

車ノ運轉ニ影響ヲ與ヘサルコトニ努ムヘシ

第九十三條 故障ニテ電車力途中ニ停止シタルトキハ先ツ二百五十米

突以上ノ距離ニ於テ發火信號ヲ以テ續行電車ニ對シ充分ナル防護ヲ

爲シタル上乘務所主任又ハ最寄驛長ニ報告シ其ノ指示ヲ受クヘシ

第九十四條 事故ノ爲隣接線路ヲ支障スルトキハ上下兩線ニ於テ電車

ノ進行シ來ル方向ニ對シ支障箇所ヨリ二百五十米以上ノ箇所ニ發火

信號ヲ裝置シ充分ノ防護ヲ爲シタル上乘務所主任又ハ最寄驛長ニ報

昭和年月	日提出	職名	氏名
事故ノ種別	原因		
擔當者及關係者氏名	車掌	運轉手	
發生日時	昭和年月日	時分	天候
發生場所	間	料	
電車番號	上下第	電車	停止自午時
負傷又ハ損害ノ程度	車輛	番號	時分
			時分
醫院名	入院別	手當	
所轄警察名	警察二屆	出否	
被害者ノ姓名及年齡			
住業所			
職業			
場所			
現場ノ狀況及當時			
置處			

高速係長 係員 驛務主任

第二號様式

第 號	事 故 報 告 (乙)	
	昭和年月日提出	乘務事務所 職名 氏名
種別	發生日時	昭和年月日午後時分
	停止自午後時分至午後時分	天候
場所	電車番號	車輛番號
	電車番號	車輛番號
被害者ノ住所氏名職業年齢		
事故ノ概況ト當時ノ處置		
監督者ノ意見		

● 高速軌道遺留品取扱規程

制 定 昭八、五、二〇達電一四
高速軌道遺留品取扱規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
高速軌道遺留品取扱規程

- 第一條 高速軌道ノ驛、電車、線路敷其ノ他軌道用地ニ於ケル遺留品ノ取扱ハ本規程ニ依ル
- 第二條 驛ノ遺留品ハ驛長、電車ノ遺留品ハ車掌、線路敷其ノ他軌道用地ノ遺留品ハ最寄驛長之ヲ處理ス
- 第三條 乘務中ノ電車ニ於テ遺留品ヲ發見シ又ハ其ノ引渡ヲ受ケタルトキハ終著驛ニ、途中交代乘務ノ場合ニ在リテハ交代驛ニ引渡スヘシ
- 第四條 驛、車庫其ノ他ニ於ケル停留車ニ於テ發見シタル遺留品ハ最寄驛ニ引渡スヘシ
- 第五條 左ノ遺留品ヲ發見シタルトキハ直ニ最寄驛ニ引渡スヘシ
 - 一 爆發燃焼シ易キモノ又ハ危險ノ虞アルモノ
 - 一 犯罪者ノ置去リタルモノト認ムルモノ
 - 一 腐敗又ハ變質シ易キモノ
 - 一 保管ニ困難ナルモノ又ハ保管ノ爲特ニ費用又ハ手數ヲ要スルモノ
 - 一 其ノ他臨機ノ處置ヲ要スルモノ
- 第六條 各驛ニ遺留品整理簿ヲ備ヘ車掌ヨリ引渡ヲ受ケタルモノ、自驛發見ノモノ、他驛ヨリ廻送シ來リタルモノ其ノ他ヲ記入シ其ノ處理ヲ明瞭ナラシムヘシ
- 第七條 驛、車掌間ノ遺留品引渡ニハ物品受授證ヲ用フヘシ

〔大電〕

- 第八條 驛長又ハ車掌カ係員以外ノ者ヨリ遺留品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ拾得者ノ住所氏名ヲ聽取シ遺留品整理簿又ハ物品受授證ニ記載シ置クヘシ
- 第九條 遺留品ヲ遺留品整理簿ニ記入ノ際鎖錠又ハ封印アルモノノ外必要ニ應シ内容ヲ點檢スルコトヲ得
- 第十條 遺留品ヲ他驛ニ廻送スルトキハ遺留品整理簿ニ記入ノ上其ノ記載事項及廻送ノ要旨ヲ物品受授證ニ記入スヘシ
- 第十一條 驛長ハ遺留品ニ對スル處置ヲ爲シタル上現品ヲ浚屋橋驛長ニ送付スヘシ
- 第十二條 驛ニ於テ乘客ヨリ遺留品搜索ノ申出アリタルトキハ左ノ各號ニ依ルヘシ
 - 一 電車力運轉中ナルトキハ便宜驛ヲ介シテ車掌ニ依頼スルコト
 - 一 電車力終著驛ニ到着後ナルトキハ終著驛ニ照合スルコト
 - 一 搜索ノ結果ハ速ニ申出者ニ通知スルコト
 - 一 現品判明セサルトキ其ノ物品高價ナル場合ハ電車課高速係長ニ報告スルコト
- 第十三條 遺失者ヨリ遺留品受取ノ申出アリタルトキハ其ノ特徴又ハ在中品等ヲ問合シ正當權利者ナルコトヲ確メ遺留品整理簿ニ住所氏名ヲ記入捺印セシメタル上還付スヘシ
- 第十四條 遺失者印判ヲ所持セサルトキハ捺印ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 第十五條 遺留品整理簿ニ記入前ニ於テ受取ノ申出アリタルトキハ記

- 入ノ上還付スヘシ
- 第十五條 浚屋橋驛長ハ遺留品ノ品名、形狀、數量、發見日、發見場所、其ノ他必要ナル事項ヲ待合室ニ揭示スヘシ
- 第十六條 浚屋橋驛長ハ遺留品ニ整理番號、品名其ノ他必要ナル事項ヲ記シタル荷札ヲ附シ整理スヘシ
- 高價品又ハ通貨ナルトキハ金庫内ニ收藏スル等適當ナル處置ヲ講スヘシ
- 前項ノ遺留品ニシテ推定價格五十圓ヲ超ユルトキハ電車課高速係長ニ報告スヘシ
- 第十七條 浚屋橋驛長ハ遺留品發見後四日ヲ經過スルモ受取ノ申出ナキトキハ其ノ目錄ヲ添ヘ所轄警察署ニ届出テ領收證ノ交付ヲ受ケ目錄寫ト共ニ電車課高速係長ニ送付スヘシ
- 第十八條 前條ノ手續ヲ爲シタル後ニ於テ遺失者ヨリ受取ノ申出アリタルトキハ浚屋橋驛長ハ證明書ヲ交付シ直接警察署ヨリ受取ラシメ其ノ旨電車課高速係長ニ報告スヘシ
- 第十九條 第十七條ノ届出ヲ爲ストキニ於テ遺留品カ遺骨、位牌其ノ他取引價值ナキモノナルトキハ遺失物法第七條ニ依リ一切ノ權利ヲ拋棄スル旨ヲ申告スヘシ
- 第二十條 民法第二百四十條ニ依リ所有權ヲ取得シタル遺留品ハ電車課高速係長ニ於テ警察署ヨリ還付ヲ受ケタル上通貨ハ直ニ收入ノ手續ヲ爲シ其ノ他ノ物品ハ目錄ヲ添付シテ調度課ニ引渡スヘシ
- 調度課ニ於テ遺留品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ正規ノ手續ヲ經テ賣却其ノ他ノ處分ヲ爲スヘシ

第二章 乗合自動車

●乗合自動車料金條例

制定 昭二、二、九條例 五
最近改正 昭四、一〇 條例二五

本市會ノ議決ヲ經内務大臣大藏大臣ノ許可ヲ受テ大阪府乗合自動車料金條例左ノ通相定メ昭和二年二月十日ヨリ之ヲ施行ス

大阪府乗合自動車料金條例

第一條 乗車券ノ種類及其ノ料金左ノ如シ

一 普通券	金六
一 一區券	金十二
二 二區券	金十八
三 三區券	金二十
四 四區券	金四十八
一 回数券	金一
八 區券	金二
十七 區券	金二
三十四 區券	金二
一 差額券	金二

市長事業上必要ト認ムルトキハ前項料金ノ四割以内ノ割引ヲ爲スコトヲ得

第六類 運輸 第二章 乗合自動車

〔大電〕

車賃切ハ十二時間以内トシ其ノ料金ハ一車ニ付金一百圓以下ニ於テ市長別ニ之ヲ定ム

第一條ノ二 市長事業上必要ト認ムルトキハ前條ノ料金ニ依リ他ノ交通機關トノ連絡乗車券ヲ發行スルコトヲ得

第二條 乗車區間四區ヲ超ユルモノハ四區分ノ料金ニ止ム

第三條 五歳未満ノ小兒ハ保護者一人ニ付一人ヲ限り無料トシ二人以上ハ二人毎ニ一人分ノ料金ヲ徴ス

第四條 第一條ノ回数券一區分ヲ以テ本市電氣軌道ノ一回乗車券ニ代用スルコトヲ得

第五條 本市電氣軌道ノ回数乗車券及往復券ノ復券ハ其ノ一枚ヲ以テ乗合自動車一區券ニ代用スルコトヲ得但シ割引往復券、軍人往復券、通勤回数券及通學回数券ハ此限ニアラス

第六條 前條ノ代用券又ハ第一條ノ回数券ヲ以テ四區以上乗車セムトスルモノハ代用券又ハ回数券三枚ニ差額券一枚ヲ添付スヘシ

第七條 區間ハ市長之ヲ定ム但シ一區間ハ一「キロメートル」以上トス

第八條 乗車券ハ區間ノ中途ニ於テ下車シタルトキハ殘區間アル場合ト雖モ其ノ效力ヲ失フ

第九條 既納ノ料金ハ事由ノ如何ニ拘ラス之ヲ還付セス

第十條 市長ハ事業監督上必要アル場合ニ限り市吏員ニ對シ監査票ヲ交付シ無料ニテ乗車セシムルコトヲ得

第十一條 料金ヲ變更シタル場合ニ於テ舊乗車券ヲ所有スル者ハ施行ノ日ヨリ滿一箇年以内ニ限り之ヲ新乗車券ト引換ヲ請求スルコトヲ得但シ料金増額ノ場合ニ在リテハ新舊乗車料金ノ差額ヲ納付シ料金

減額ノ場合ニ在リテハ其ノ差額ノ拂戻ヲ受ケヘシ

前項所定ノ期間内ニ引換ヲ爲ササル舊乗車券ハ無効トス

第十二條 不正ノ手段ニ依リ料金ヲ免レタル者ニ對シテハ相當料金ヲ支拂ハシメ且其ノ三倍ニ相當スル金額(金五圓未満ナルトキハ金五圓)以下ノ過料ヲ科スルコトアルヘシ

第十三條 本條例施行ニ必要ナル細則ハ市長之ヲ定ム

附則

本條例施行期日ハ市長之ヲ定ム

●乗合自動車料金條例施行細則

制定 昭二、二、二六告示四四

最近改正 昭五、四 告示八八

大阪市乗合自動車料金條例施行細則左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市乗合自動車料金條例施行細則

第一條 乗車券ハ其ノ種別ニ依リ左ニ掲グル場所ニ於テ之ヲ發賣ス但シ市長ニ於テ必要ト認ムル場合ハ回数券ニ限り其ノ他ノ場所ニ於テ發賣スルコトアルヘシ

乗車券種別 發賣所
普通券 乗合自動車(以下單ニ自動車ト稱ス)内
差額券 自動車内及本市電氣局運輸課及乗合自動車運輸事務所
回数券 自動車内及本市電氣局運輸課及乗合自動車運輸事務所

第二條 普通券ハ乗客一人ニ付一回分ヲ限リ發賣ス

待合時間ハ前後之ヲ通算ス

第九條 時間貸ハ六時間貸及十二時間貸ノ二種トシ其ノ料金左ノ如シ

六時間貸	一 大型自動車 一車ニ付 金六十圓
	一 小型自動車 同 金四十圓
十二時間貸	一 大型自動車 一車ニ付 金百圓
	一 小型自動車 同 金七十圓

第十條 一車貸切乗車料金ハ前拂トシ之ト引換ニ貸切乗車券ヲ發行ス但シ待合時間料ニ限り豫定スルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

●乗合自動車乗車規程

制定 昭二、二、二六告示四六

大阪市乗合自動車乗車規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市乗合自動車乗車規程

第一條 乗客ハ乗合自動車(以下單ニ自動車ト稱ス)ニ關スル法令及本市ノ條例規則等ヲ遵守セラルルハ勿論車内ノ揭示並自動車員ノ指示ニ從ハルヘシ

第二條 乗客ハ自動車カ停留場ニ於テ停車シタル後降乗セラルヘシ

第三條 自動車ニ乗車シタルトキハ乗車券ヲ自動車車掌(以下單ニ車掌ト稱ス)ニ呈示シ之カ改缺ヲ受ケラルヘシ

第六類 運輸 第二章 乗合自動車

第三條 乗車券ノ様式、自動車ノ運輸區間及營業時間ハ別ニ之ヲ定ム

第三條ノ二 條例第一條第二項ニ依ル割引料金左ノ如シ

- 一 普通乗車券四區券 金十八錢
- 一 條例第一條ノ回数券又ハ同第五條ノ代用券ヲ以テ三區以上乗車セムトスルトキハ回数券又ハ代用券三枚
- 一 特區券(第一種) 金九錢
- 一 同(第二種) 金十錢
- 一 同(第三種) 金十五錢

前項ノ特區券ニ依リ乗車シ得ヘキ區間ハ市長別ニ之ヲ定ム

第四條 本市電氣軌道ノ回数乗車券及往復券ノ復券ヲ以テ自動車ニ乗車シタルトキハ乗合自動車乗車券ト引換フルコトヲ要ス

第五條 一車貸切乗車ヲ希望スル者ハ豫メ本市電氣局ニ申込ムヘシ但シ車輛ノ都合ニ依リ其ノ申込ニ應セサルコトアルヘシ

第六條 一車貸切ハ區間貸及時間貸ノ二種トス

第七條 區間貸ハ一人一區金六錢ノ割合ヲ以テ乗車人員ニ相當スル料金ヲ徴收ス但シ乗車人員力定員ニ滿タサルトキハ定員ニ相當スル料金ヲ徴收ス運輸區間力二運輸系統以上ニ互ルトキハ各運輸系統毎ニ計算シタル料金ヲ徴收ス

第八條 區間貸ニ依リ待合時間料金左ノ如シ

- 一 大型自動車(定員十六人以上) 金六圓
- 一 時間又ハ一時間未満ニ付 同
- 一 小型自動車(定員十三人乗以下) 金四圓

第四條 本市電氣軌道乗車券ヲ以テ自動車ニ乗車シタルトキハ之ヲ車掌ニ交付シ引換ニ自動車乗車券ヲ受取ラルヘシ

第五條 乗客降車セムトスルトキハ改缺濟ノ乗車券ヲ車掌又ハ其ノ他ノ自動車係員ニ交付セラルヘシ

第六條 監査票ヲ以テ乗車スル者ハ乗降ノ都度之ヲ自動車係員ニ呈示スヘシ

第七條 車掌其ノ他ノ自動車係員ニ於テ乗降ニ不自由アリト認メタル者又ハ他ノ乗客ニ迷惑ヲ懸クル虞アリト認メタル者ニ對シテハ乗車ヲ拒絕スルコトアルヘシ

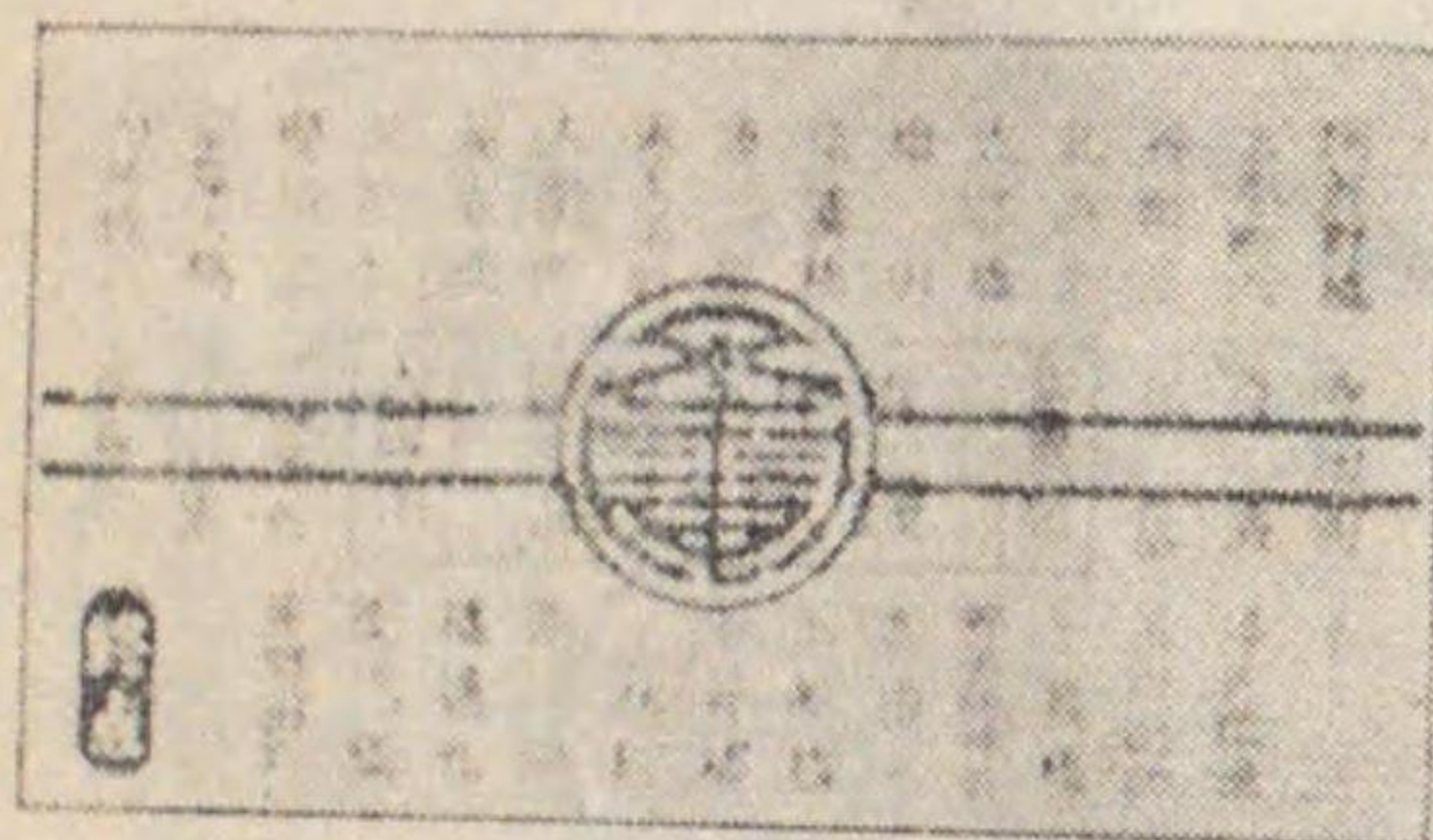
第八條 車掌其ノ他ノ自動車係員ニ於テ必要ト認ムルトキハ乗客ノ座席又ハ位置ヲ指定スルコトアルヘシ

第九條 乗客ハ自己ノ膝ニ乗セ得ル程度ノ物品ニ限り之ヲ車内ニ携帯スルコトヲ得但シ車掌其ノ他ノ自動車係員ニ於テ他ノ乗客ニ對シ危險若ハ迷惑ヲ懸クル虞アリト認メタル物ノ携帯ハ之ヲ拒絕スルコトアルヘシ

第十條 天災事變其ノ他不可抗力ニ因リ自動車ノ運輸ヲ中止シタル場合又ハ自動車ノ故障其ノ他運輸上已ムヲ得サル場合ニ於テハ車掌其ノ他ノ自動車係員ハ乗客ニ對シ降車ヲ求メ又ハ他ノ自動車ニ乗換ヲ求ムルコトアルヘシ

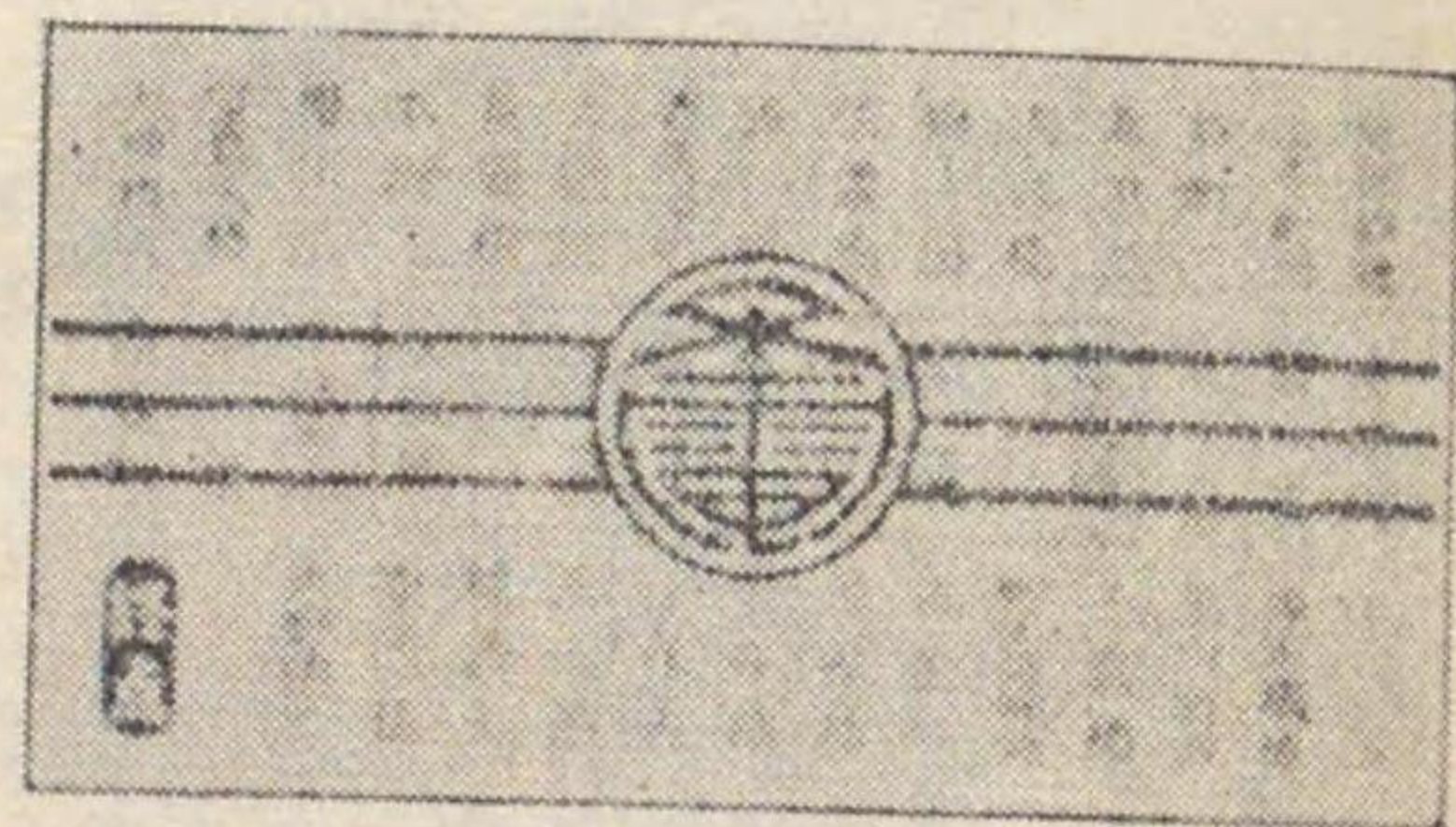
第十一條 車内ニ於ケル乗客ノ禁止事項左ノ如シ
一 自動車ノ進行中運輸手ニ對シ談話ヲ爲ササルコト

(色緑種一第) 券區特

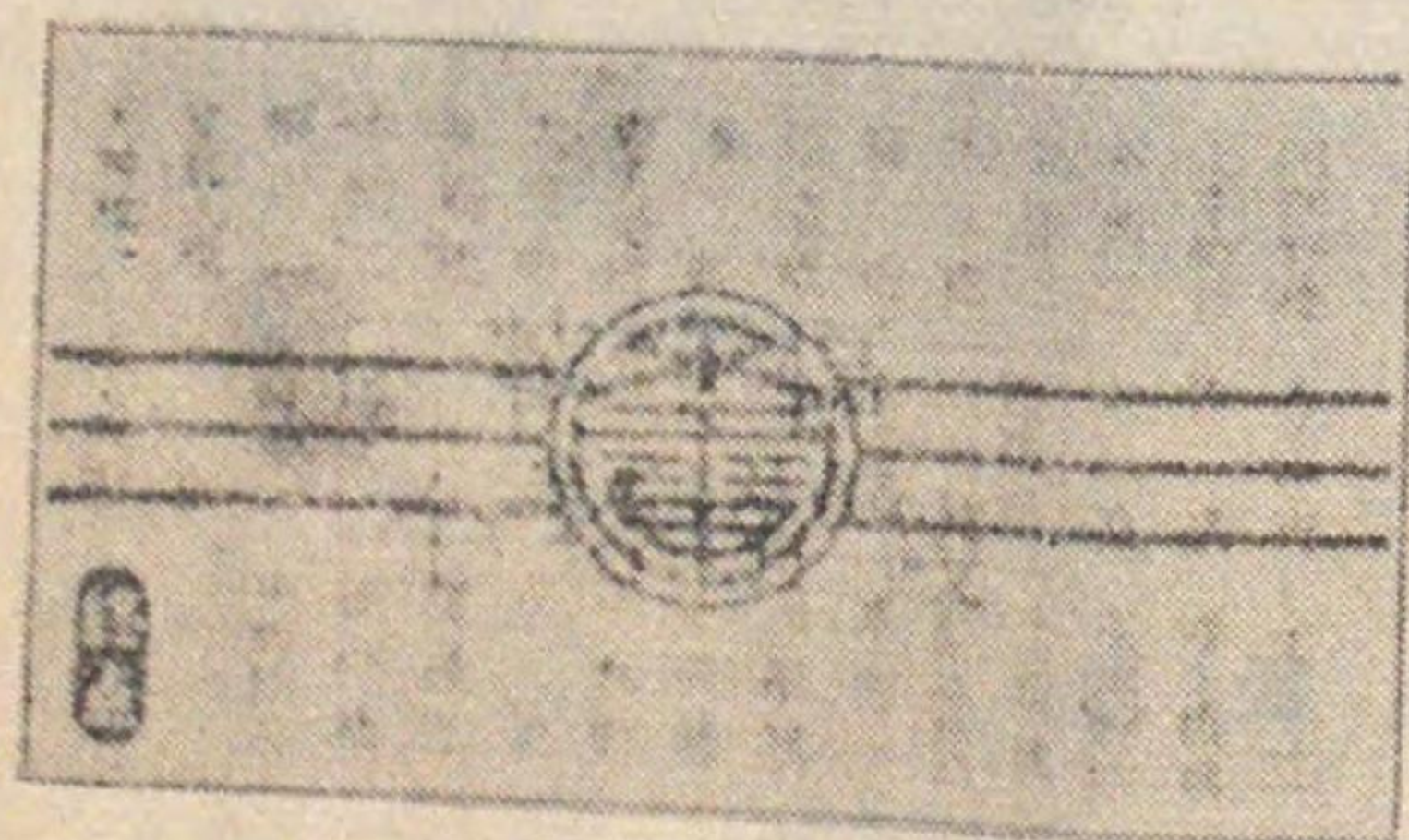


※印捺字赤ハ「錢九金區特」シ但

(色黄) 券區三同

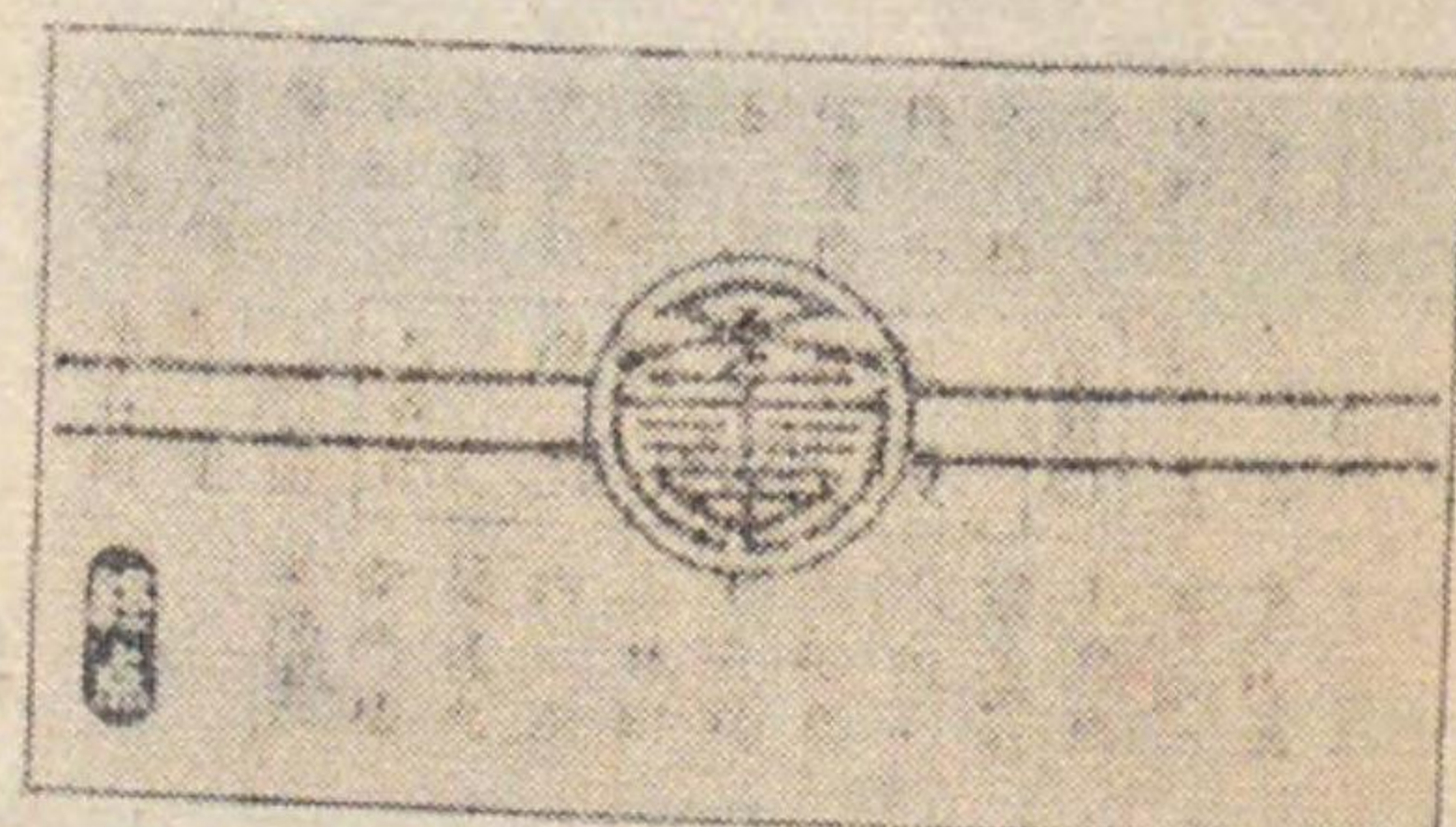


(色黄種三第) 同



※印捺字茶ハ「錢五拾金區特」シ但

(色緑種二第) 同



※印捺字紫ハ「錢拾金區特」シ但

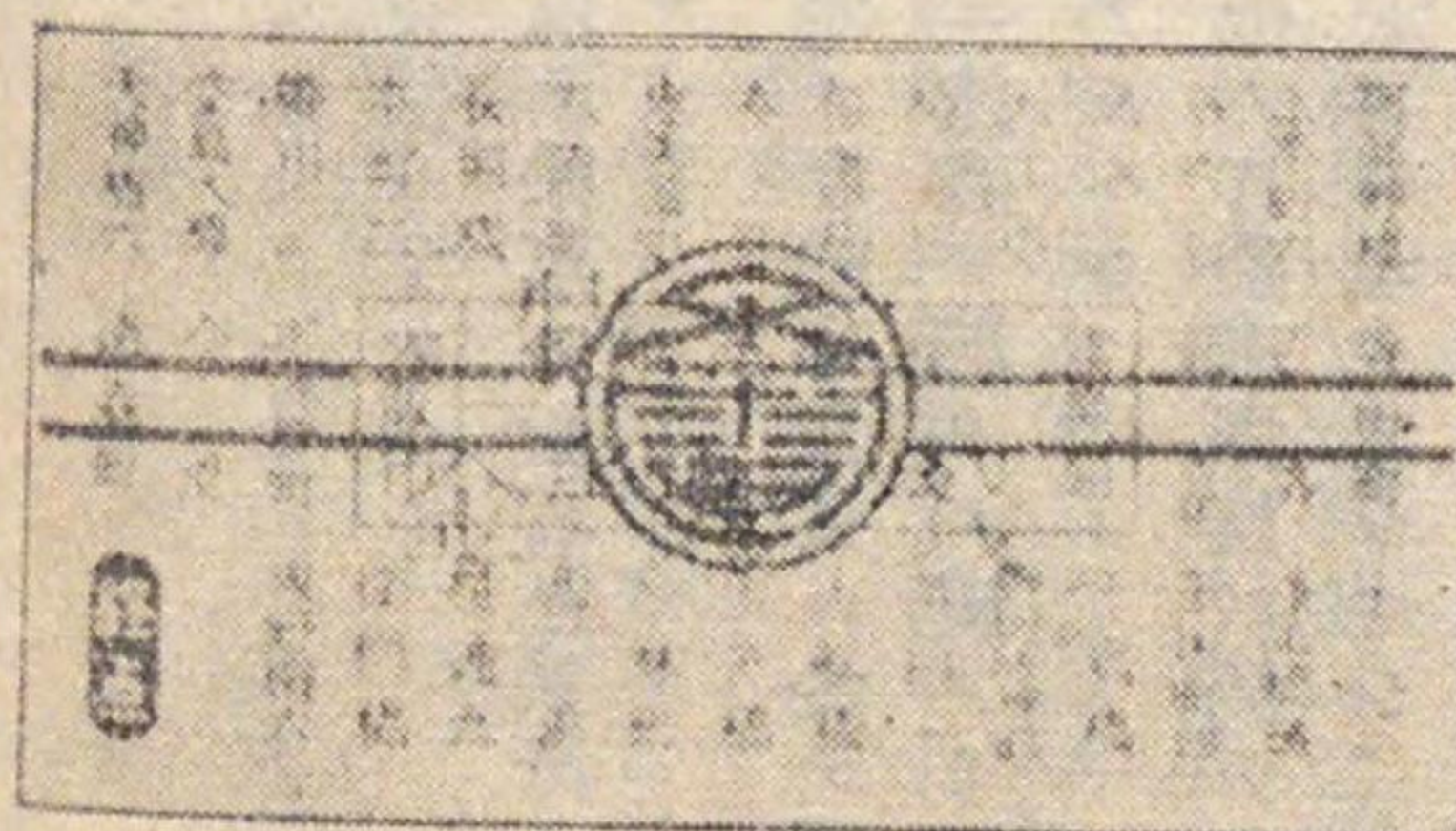
- 二 他ノ乗客又ハ車外ノ公衆ニ對シ寄附ヲ求メ又ハ物品ヲ配付シ若ハ販賣セサルコト
 - 三 演説、説教、勸誘又ハ廣告ヲ爲ササルコト
 - 四 飲食ヲ爲シ又ハ痰唾ヲ吐方サルコト
 - 五 喫煙ヲ爲シ若ハ火氣アル物ヲ携帯セサルコト
 - 六 車扉又ハ窓ニ凭リ掛リ若ハ腰掛ニ横臥セサルコト
 - 七 紙屑類其ノ他不潔ナル物ヲ車内ニ棄テ又ハ通行人ニ危險ナル物ヲ車外ニ棄テサルコト
 - 八 車内ノ器具裝飾物掲示又ハ廣告等ヲ汚損セサルコト
 - 九 太股ヲ露シ又ハ肌ヲ脱ケ等ノ不體裁ヲ爲ササルコト
- 第十二條 左ノ場合ニ於テハ自動車係員ハ乗客ニ降車ヲ求ムルコトアルヘシ
- 一 有效ノ乗車券又ハ監査票ヲ所持セス又ハ檢札改竄ヲ拒ミ若ハ料金ノ支拂ヲ肯セサルトキ
 - 二 第十一條各號ノ一ニ該當シ自動車係員ノ制止ヲ肯セサルトキ

●乗合自動車乗車券様式

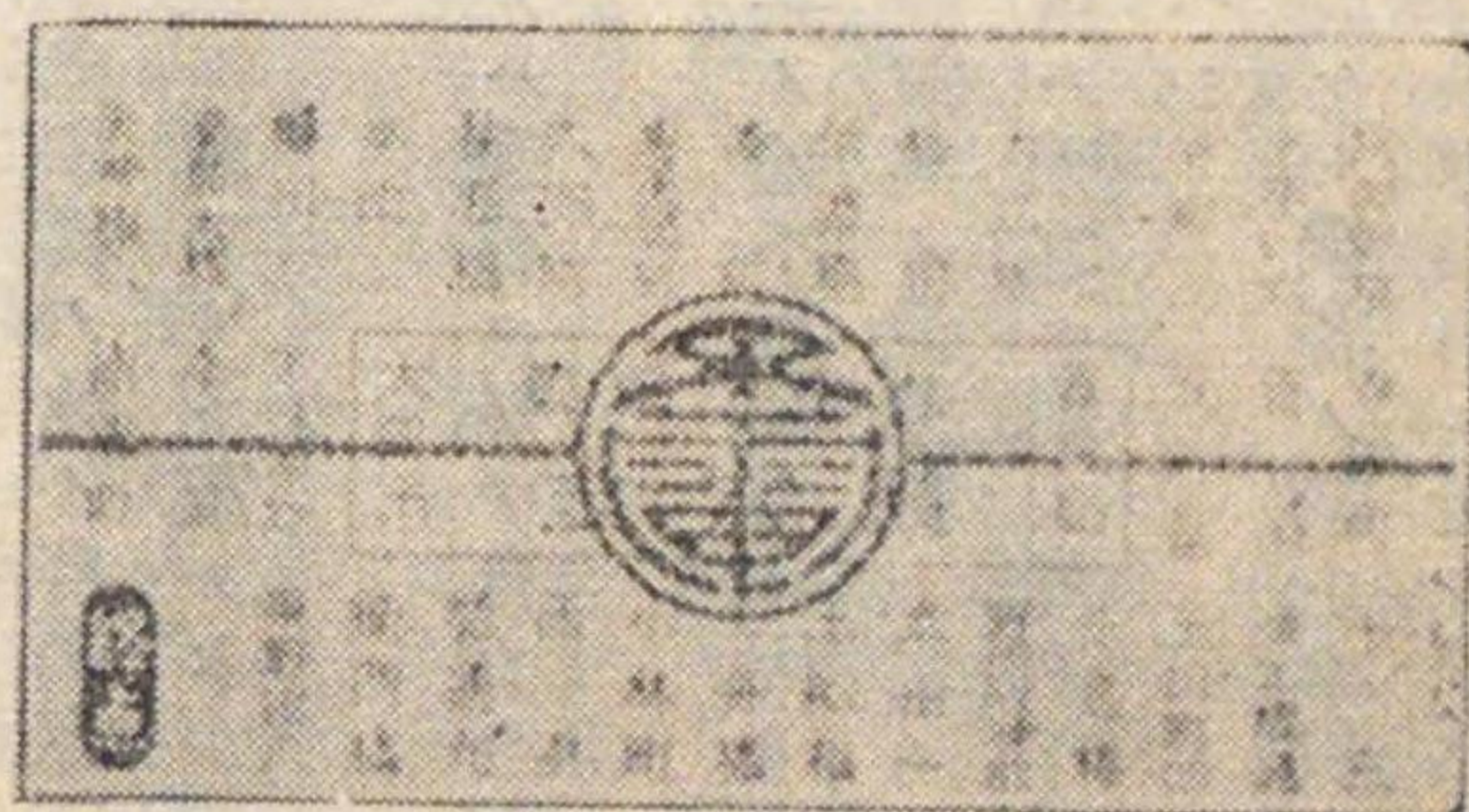
制定 昭二、二、二六告示 四二
最近改正 昭五、五、 告示一三〇

大阪市乗合自動車乗車券様式左ノ通相定ム
大阪市乗合自動車乗車券様式
本市乗合自動車乗車券様式左ノ如シ

(色緑) 券區二同



(色赤) 券區一券通普



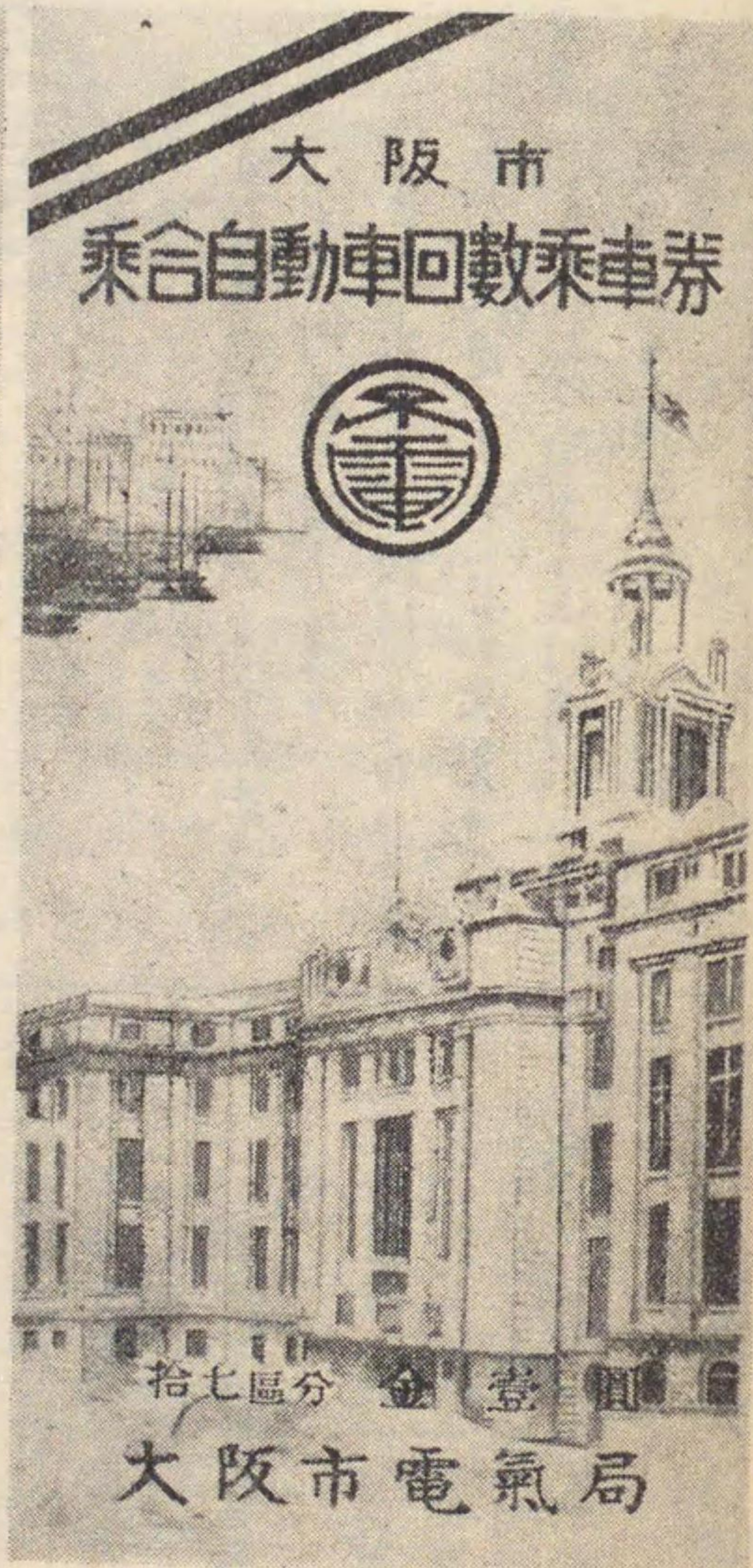
券 區 七 十 券 數 回

面 裏 紙 表

(色 綠) 面 表 紙 表

御買取りの際は念のため枚数を御改め下さい後日の引換は御断り致します
この壹區乗車券一枚は當市營電車に一回乗車するのに代用することが出来ます
満五年以上の御子達は有料であります必ず切符の御渡しを願います
以上

注 意



片 各 券 數 回



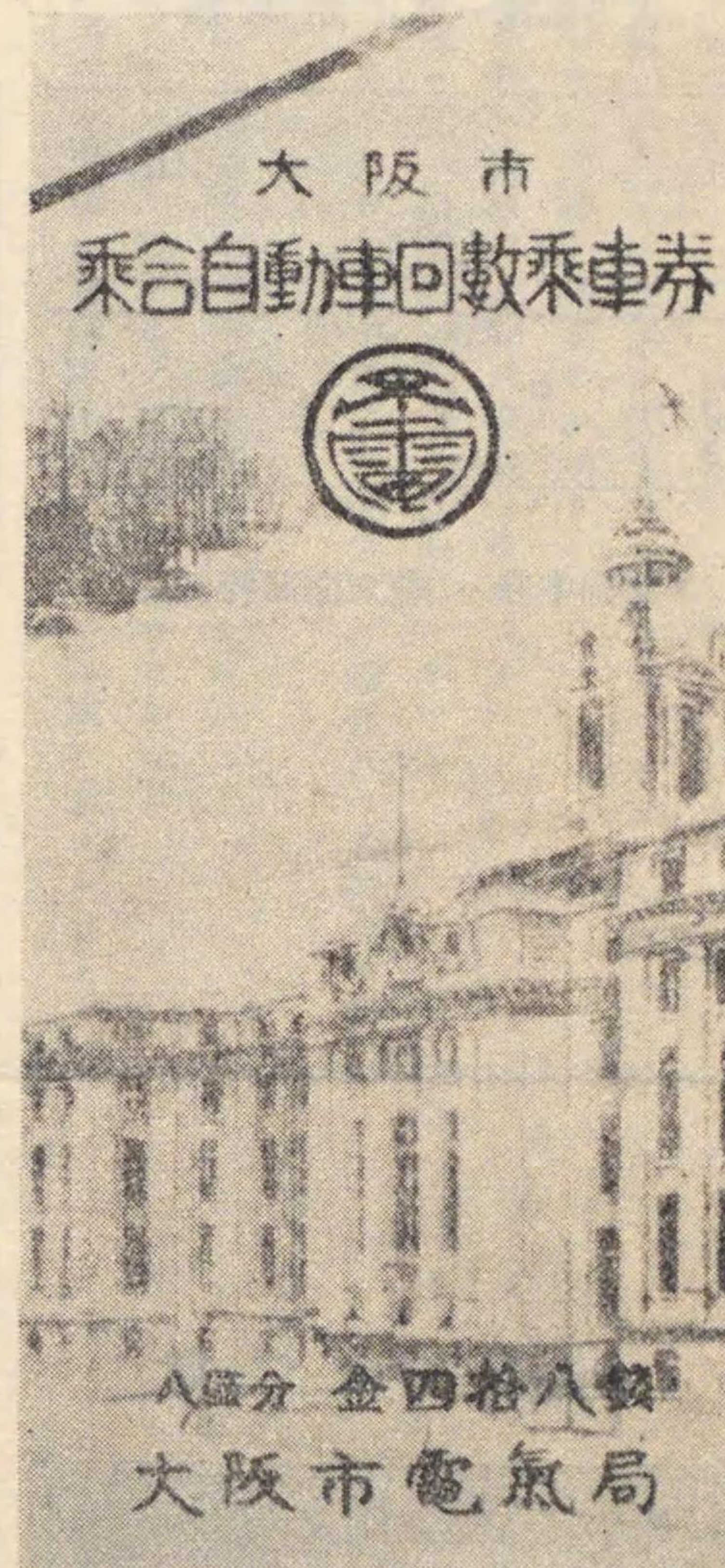
券 區 八 券 數 回

面 裏 紙 表

(色 樺) 面 表 紙 表

御買取りの際は念のため枚数を御改め下さい後日の引換は御断り致します
この壹區乗車券一枚は當市營電車に一回乗車するのに代用することが出来ます
満五年以上の御子達は有料であります必ず切符の御渡しを願います
以上

注 意



片 各 券 數 回



大阪市乗合自動車

No. (甲)

昭乘
和車
年
月
日
日
午
行
係
員
分
名

自至自至自
待乘至自至自
合車午午午
料料料料料
金金金金金
時時時時時
分分分分分
圓圓圓圓圓
也也也也也

停停
留留
場場

區
間
(片道)
往復
率率
金金

錢錢

切 乘 車 券

(1) 御乗車中ハ大阪府令自動車取締令施行規則御遵守被下度候
 (1) 係員本券ノ呈示ヲ求メタルトキハ御示シ被下度候
 (1) 本券ハ御下車ノ際係員ニ御渡シ被下度候
 (1) 乗越又ハ時間經過ノ節ハ相當料金申受ク可ク候
 (1) 時間貸ハ十二時間以内トシ時間經過ノ際ハ更ニ御契約可申候
 (1) 如何ナル場合ニテモ料金拂戻ノ請求ニ應シ不申候
 (1) 本券ノ通用ハ當日限
 (1) 本券ニ課印及係員ノ認印ナキモノハ無効ニ御座候

● 乗合自動車乗車券發賣場所

昭和十一年四月五日ヨリ大阪市乗合自動車料金條例施行細則第一條所定ノ乗車券發賣場所並所定以外ノ乗車券發賣場所左ノ通相定ム

一 大阪市乗合自動車乗車券發賣場所

二 乘合自動車料金條例施行細則第一條所定ノ乗車券發賣場所ノ所在地

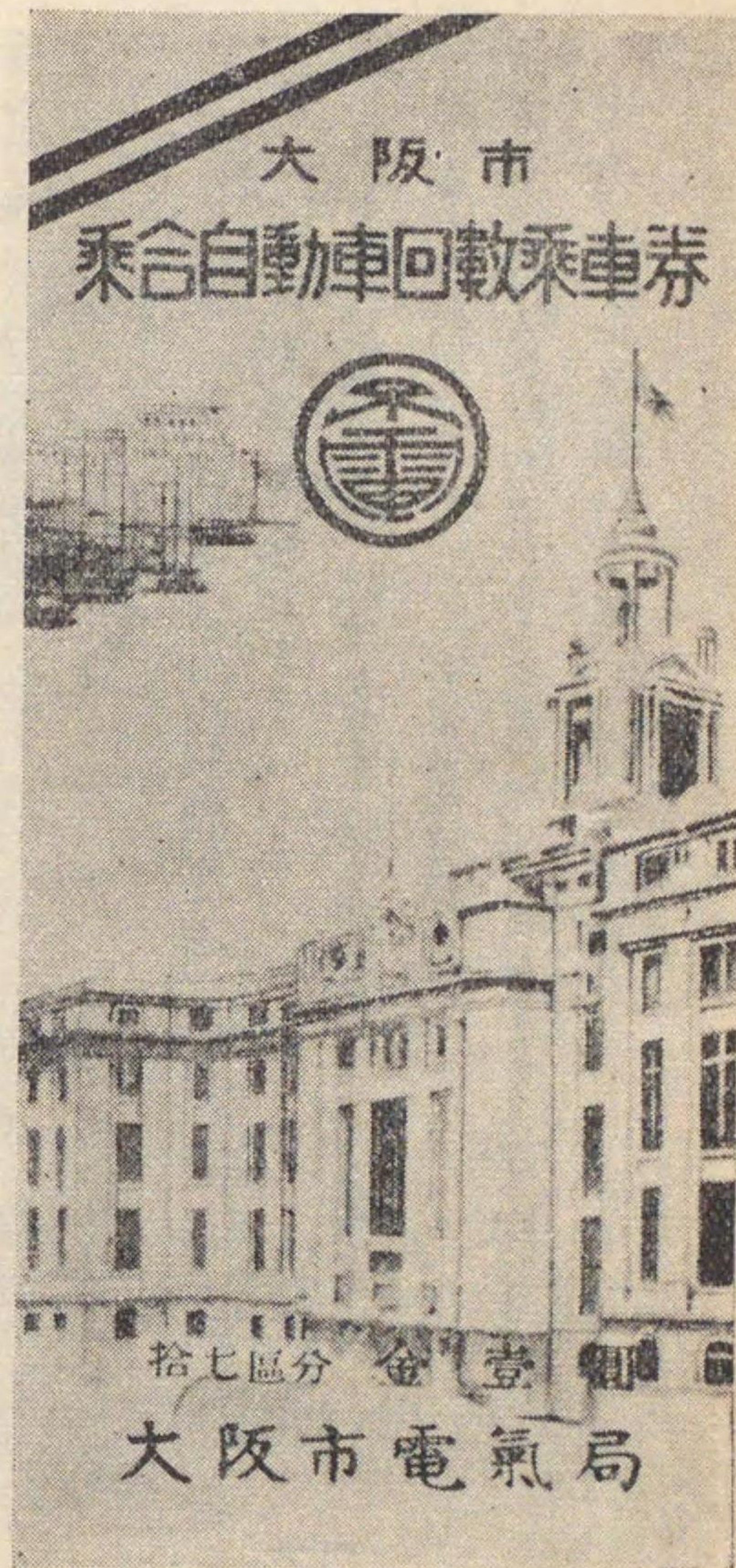
電氣局運輸部電車課乘客係
 港區九條南通一丁目百十九番地ノ一
 乘合自動車運輸事務所
 梅田運輸事務所
 北區大融寺町九十一番地ノ一
 天王寺運輸事務所
 浪速區霞町二丁目五番地
 野里運輸事務所
 西淀川區野里町三百五十四番地守口運輸事務所
 北河内郡守口町大字土居七百二十六番地

同條所定以外ノ乗車券發賣場所並發賣乘車券ノ種類
 回数券
 電氣局運輸部電車課乘客係四ノ橋分室
 西區西長堀北一丁目五番地ノ五
 路面電車運輸事務所

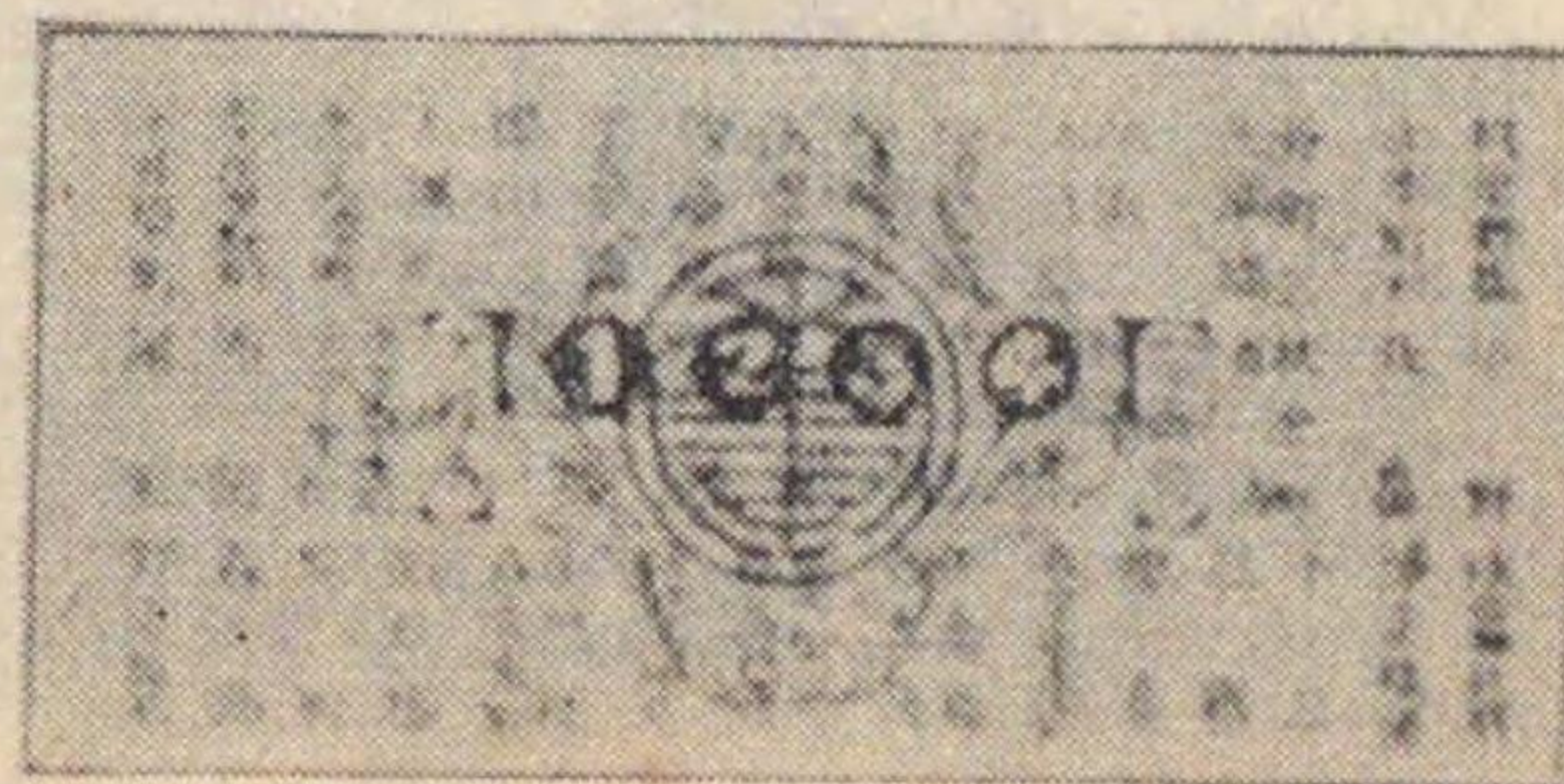
券 區 四 十 三 券 數 回
面 裏 紙 表 (色紫紺) 面 表 紙 表

注意

御買取りの際には念の爲め枚数を御改め下さい候日の引換は御断り致します
 この臺區乗車券一枚は當市營電車に一同乗車するのに代用することが出来ます
 滿五年以上の御子達は有料であります必ず切符の御渡しを願ひます
 以上



片 各 券 數 回



第六類 運輸 第二章 乗合自動車

天王寺運輸事務所

浪速區霞町二丁目五番地

築港運輸事務所

港區八幡屋元町三丁目七十五番地ノ二

都島運輸事務所

北區澤上江町三丁目二番地

鶴町運輸事務所

大正區鶴町一丁目二十一番地

春日出運輸事務所

此花區恩貴島南之町百二十四番地

今里運輸事務所

東成區大今里町六百八十四番地

高速軌道線驛

梅田驛

北區角田町四十六番地

淀屋橋驛

東區今橋四丁目七番地

本町驛

東區本町四丁目十九番地ノ一

心齋橋驛

南區鰻谷西之町七番地

難波驛

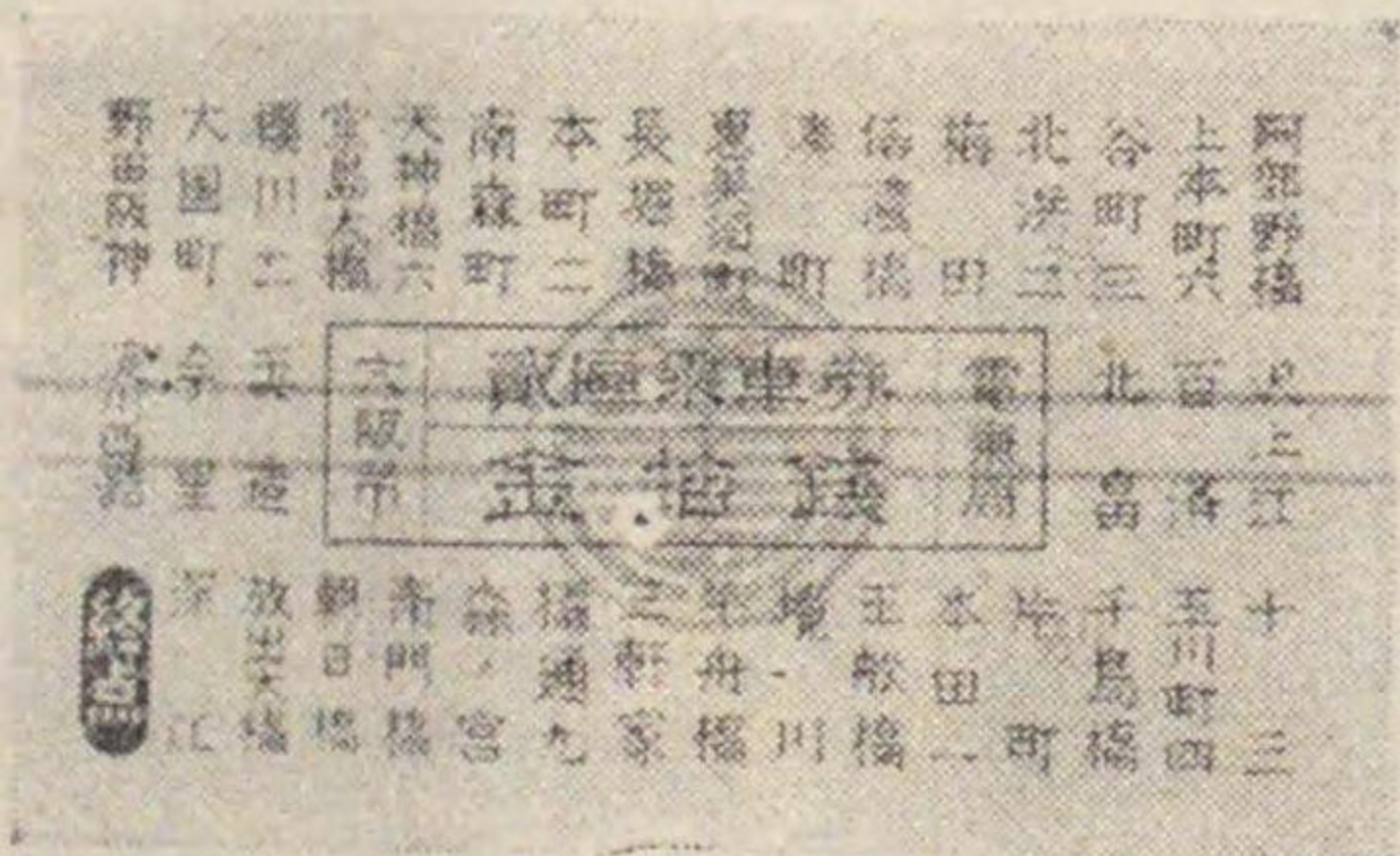
南區難波新地五番町四十二番地

二區券 金 十 錢
 三區券 金 五 錢
 十一區券 金 一 圓
 二十二區券 金 一 圓

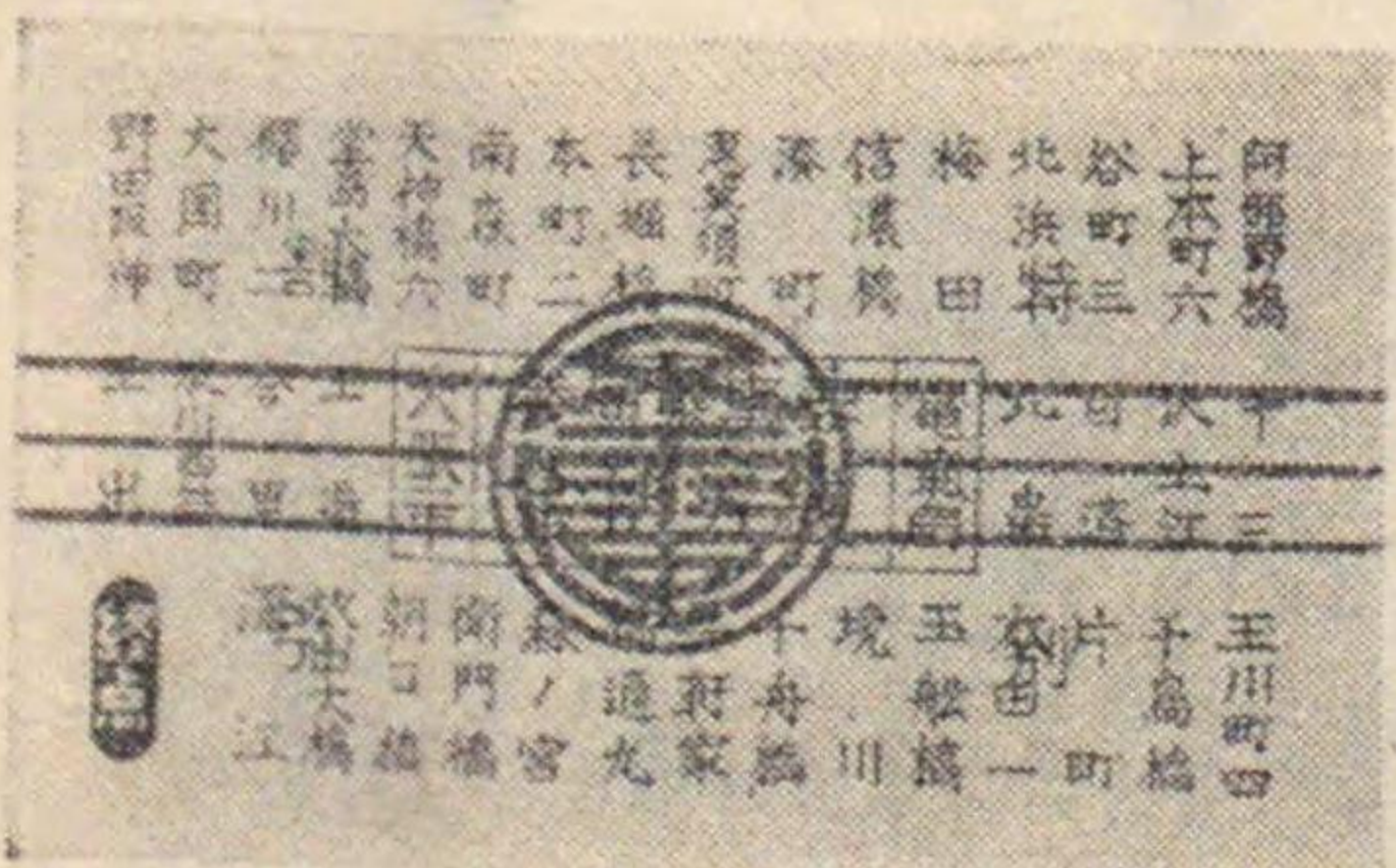
(色黄淺) 券 區 一



(色紫) 券 區 二



(色榻茶) 券 區 三



二 特別割引券様式左ノ如シ
 四十五區券 金 二 圓
 百十三區券 金 五 圓

〔大電〕

シヤパン・ツォーリスト・ビュロー(日本旅行協會案内所)

安土町案内所

東區安土町二丁目六十三番地

三越案内所

東區高麗橋二丁目六十三番地株式會社三越大阪支店內

大丸案内所

南區心齋橋筋一丁目百十八番屋敷株式會社大丸内

松坂屋案内所

南區日本橋筋三丁目四十九番地株式會社松坂屋大阪支店內

新大阪ホテル案内所

北區中之島三丁目五番地新大阪ホテル内

● 乗合自動車乗車料金割引並特別割引券様式
 別割引券様式

制 定 昭六、九、九告示二〇二
 最近改正 昭七、一、一、告示二九五

昭和六年九月十一日ヨリ當分ノ間本市乗合自動車乗車料金中左ノ通割引ス

一 特別割引券
 一區券 金 五 錢

〔大電〕

面裏紙表

(色紫藤) 面表紙表

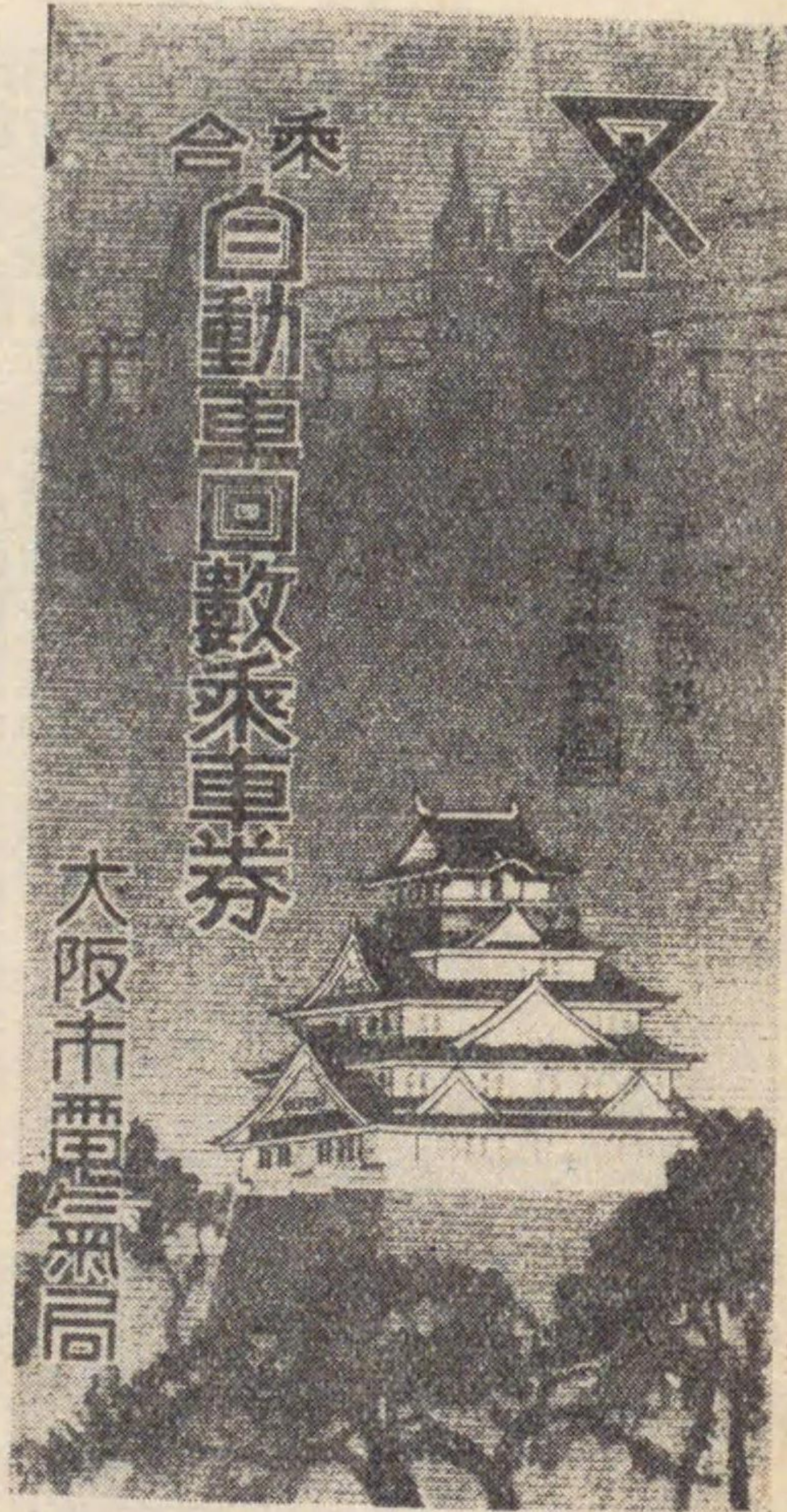
第六類 運輸 第二章 乗合自動車

注意

一 御買取の際は念分枝数を御改め下さい
後日の御引換は御断り致します

一 この乗車券は本市路面電車にも高速地下鉄にも通用致しません

一 満五年以上御子遣は有料でありますから必ず切符の御渡しと願います 以上



二十二區券

片 各

阿部野	十三	玉野町
上本町	十二	十鳥橋
谷町	十一	片町
北法	十	本町
南法	九	王塚橋
南法	八	境川
南法	七	十鳥橋
南法	六	三軒家
南法	五	森宮
南法	四	森宮
南法	三	森宮
南法	二	森宮
南法	一	森宮
南法	0	森宮

八七七

〔大電〕

面裏紙表

(色丹牡) 面表紙表

第六類 運輸 第二章 乗合自動車 十一區券

注意

一 御買取の際は念分枝数を御改め下さい
後日の御引換は御断り致します

一 この乗車券は本市路面電車にも高速地下鉄にも通用致しません

一 満五年以上御子遣は有料でありますから必ず切符の御渡しと願います 以上



片 各

十三	次上江	阿部野
十二	百濟	上本町
十一	北法	谷町
十	南法	北法
九	南法	南法
八	南法	南法
七	南法	南法
六	南法	南法
五	南法	南法
四	南法	南法
三	南法	南法
二	南法	南法
一	南法	南法
0	南法	南法

八七六

〔大電〕

仍從來様式ノ乗車券ハ本市ノ都合ニ依リ當分ノ間發行スルコトアルヘシ

●乗合自動車早朝時特別區間並 早朝時特別割引往復乗車券様式

本市乗合自動車早朝時特別區間並早朝時特別割引往復乗車券發賣方左ノ通相定メ昭和六年十二月一日ヨリ當分ノ間之ヲ施行ス

一 早朝時特別區間

- 左ノ時間内ヲ限リ一系統ヲ一區トス
- 自十一月一日至翌年二月末日 午前六時ヨリ同八時迄
- 自三月一日至十月三十一日 午前六時ヨリ同七時三十分迄

一 早朝時特別割引往復乗車券

- (一) 發賣時間 前掲時間中
- (一) 料 金 金九錢
- (一) 復 券 發賣時間外ハ一區券トシテ使用スルコトヲ得
- (一) 様 式 左ノ如シ

●營業用自動車検査及修理手續規程

營業用自動車検査及修理手續規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 營業用自動車検査及修理手續規程
- 第二條 營業用自動車車輛ノ検査及修理手續ハ本規程ニ依ル

〔大電〕

〔大電〕

行困難ナルモノニ關シテハ自動車課車輛係(以下單ニ車輛係ト稱ス)及各自動車運輸事務所(以下單ニ運輸事務所ト稱ス)協力シテ之ヲ行ヒ支障ナカラシムルヘシ

第三條 自動車ノ検査ハ通常検査、千籽検査、一萬五千籽検査、三萬五千籽検査、臨時検査及大阪府定期検査受檢用検査ノ六種トス

第四條 運轉手ハ擔當車輛運轉中ハ左ノ各部ノ機能ニ注意シ不良箇所ヲ發見シタルトキハ歸庫後之ヲ車輛報告書ニ詳記シ擔任局員ニ報告スヘシ

- 一 發動機
- 二 換向裝置一式
- 三 制動裝置一式
- 四 冷却裝置一式
- 五 燃料裝置一式
- 六 車 輪
- 七 車臺發條及其ノ附屬裝置
- 八 點燈裝置一式
- 九 音響器
- 十 飛沫泥除裝置一式
- 十一 其ノ他部分一式

第五條 車掌ハ擔當車乘務中ハ左ノ各部ノ整備ニ注意シ不完全ナルモノヲ發見シタルトキハ歸庫後之ヲ車輛附屬裝置報告書ニ詳記シ擔任

第六類 運輸 第二章 乗合自動車

八八一

- 局員ニ報告スヘシ
- 一 乗降ニ關スル箇所
 - 「ステップ」及踊場
 - 「ドア」及附屬「ラッチ」
- 二 方向幕
 - 方向幕卷取裝置
 - 方向幕
- 三 天井握棒
- 四 窓
 - 窓及其ノ開閉狀態
 - 窓附屬物
 - 窓保護棒
- 五 床ノ狀態
- 六 其ノ他

第六條 通常検査ハ毎日車庫ニ歸著後前二條ノ報告ニ基キ擔任局員ニ於テ之ヲ行ヒ不良箇所ノ手入ヲ爲シ且第四條ニ掲ケタル各部ニ付點檢修理ノ上翌日ノ營業ニ支障ナカラシムヘシ若シ損傷ノ程度大ニシテ直ニ修理シ能ハサルトキハ其ノ要項ヲ車輛報告書及車輛附屬裝置報告書ニ詳記シ所屬運輸事務所長ニ報告スヘシ

第七條 千籽検査ハ走行千籽毎ニ左ノ各部ニ付擔任局員又ハ車庫内ノ監督者ニ於テ之ヲ行ヒ不良箇所ヲ發見シタルトキハ之ヲ修理ノ上其ノ要項ヲ千籽検査報告書ニ詳記シ所屬運輸事務所長ニ報告スヘシ

八八〇



八八一

- 一 發動機
 - 曲柄室油
 - 給油唧筒及濾過器
 - 給油管各部
 - 其ノ他各部注油筒ノ注油
- 二 變速裝置
 - 變速機室油
 - 注油筒所ノ注油
 - 變速裝置
- 三 連軸裝置
 - 注油筒所ノ注油
 - 連軸裝置
- 四 推進軸及自由接合
 - 注油筒所ノ注油
 - 各部分ノ外狀
- 五 差動裝置
 - 差動裝置室
 - 注油筒所ノ注油
- 六 制動裝置
 - 注油筒所ノ注油
 - 制動裝置ノ外狀
- 七 車輪

- 「タイヤ」
 - 注油筒所ノ注油
 - 「ハブホール」其ノ他
 - 八 換向裝置
 - 注油筒所ノ注油
 - 換向裝置
 - 九 冷却裝置
 - 注油筒所ノ注油
 - 冷却裝置
 - 十 燃料裝置
 - 十一 車臺發條
 - 注油筒所ノ注油
 - 車臺發條及附屬裝置
 - 十二 其ノ他必要ナル部分
- 第八條 一萬五千籽検査ハ走行一萬五千籽毎ニ左ノ各部ニ付各運輸事務所ニ於テ之ヲ行ヒ擔當運輸手ト共ニ不良箇所ノ修理ヲ爲シタル上其ノ要項ヲ工場(車庫)修理報告書ニ詳記シ所屬運輸事務所長ニ報告スヘシ
- 一 發動機
 - 氣筒及「リング」
 - 瓣及瓣座
 - 曲柄室
 - 曲柄軸軸受

- 給油唧筒及濾過器
- 給油管各部
- 電氣裝置各部
- 冷却裝置各部
- 燃料裝置各部
- 二 變速裝置
 - 變速機室
 - 變速機各齒車及軸受
- 三 連軸裝置
 - 連軸機室
 - 連軸機及軸受
- 四 推進軸及自由接合
- 五 差動裝置
- 六 消音器及排氣管
- 七 制動裝置
- 八 飛沫泥除裝置
- 九 車輪
- 十 換向裝置
- 十一 車臺發條
- 十二 點燈裝置
- 十三 車體

第九條 車體各部及車輛番號板必要ナル塗粧
 三萬五千籽検査ハ走行三萬五千籽毎ニ左ノ各部ニ付自動車修

第六類 運輸 第二章 乗合自動車

- 理工場ニ於テ之ヲ行ヒ不良箇所ノ大修理ヲ爲シタル上其ノ要項ヲ工場(車庫)修理報告書ニ詳記シ車輛係長ヲ經テ自動車課長ニ報告スヘシ
- 一 第八條ニ掲ケタル各部
 - 二 「フレーム」
- 第十條 前條ノ大修理ヲ爲シタルトキハ適當ナル行程ノ試運転ヲ行ヒ異狀ナシト認メタルトキハ試運転報告書ヲ以テ之ヲ車輛係長ニ報告スヘシ
- 第十一條 第八條及第九條ノ検査行程ハ車輛ノ狀態ニ依リ短縮又ハ左ノ範圍内ニ於テ延長スルコトヲ得
- 一 一萬五千籽検査ハ一萬八千籽迄
 - 二 三萬五千籽検査ハ四萬二千籽迄
- 第十二條 臨時検査ハ左ノ各部ニ付營業線ニ於テ自動車課業務係ノ運輸監督又ハ係員隨時之ヲ行ヒ其ノ要項ヲ臨時検査報告書ニ詳記シ業務係長ヲ經テ自動車課長ニ報告スヘシ
- 一 車體外狀
 - 外部外狀
 - 内部外狀
 - 二 點燈裝置
 - 前照燈
 - 尾燈
 - 室內燈
 - 方向燈其ノ他

三 車輛番號板

四 「シート」外狀

五 其ノ他

第十三條 大阪府定期検査受檢用検査ハ第八條ニ掲ケタル各部ニ付各運輸事務所ニ於テ之ヲ行ヒ擔當運轉手ト共ニ不良箇所ノ修理又ハ手入ヲ爲シタル上其ノ要項ヲ工場(車庫)修理報告書ニ詳記シ運輸事務所長ヨリ車輛係長ヲ經テ自動車課長ニ報告スヘシ

第十四條 一萬五千軒検査、三萬五千軒検査、大阪府定期検査受檢用検査及各修理ヲ爲シタルトキハ自動車履歷簿ニ其ノ要項ヲ精確ニ記入スヘシ

第十五條 自動車課長ハ大阪府定期検査終了後車輛維持ノ狀況及其ノ收支計算ニ關シ別ニ調書ヲ作成シ運輸部長ニ報告スヘシ

第十六條 自動車修理工場ニ於テ修理ヲ爲スヘキ車輛ノ翌月分豫定表ハ車輛係及各運輸事務所協議ノ上之ヲ定ムルモノトス

第十七條 部分品ノ請求ハ修繕材料請求傳票ト共ニ廢品ヲ擔任局雇ニ差出シ承認ヲ經タル後倉庫員ヨリ新品ノ交付ヲ受ケヘシ

第十八條 廢品中再製可能ト認メラルモノハ修理ノ上再製品戻入傳票ト共ニ倉庫員ニ引渡スヘシ

前項ノ引渡ヲ受ケタル倉庫員ハ之カ一月分ヲ取纏メ翌月五日迄ニ再製品戻入報告書ニ詳記シ運輸事務所長ヲ經テ自動車課長ニ報告スヘシ

第十九條 運輸事務所又ハ修理工場倉庫員ハ拂出部分品ノ品名、員數及金額等一月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ自動車部分品拂出報告書ニ記

入シ運輸事務所長又ハ車輛係長ヲ經テ自動車課長ニ報告スヘシ
第二十條 各種ノ報告書及傳票ノ様式ハ運輸部長ニ於テ之ヲ定ム

第七類 電氣

第七類 電 氣

●電氣使用條例

制 定 大一二、八、三一條例一二
最近改正 昭五、一二、條例一八

本市會ノ議決ヲ經内務大臣、大藏大臣ノ許可ヲ受ケ大阪市電氣使用條例左ノ通相定ム

第一章 總則

第一條 本市ハ本條例ノ定ムル所ニ依リ電燈、電動力、電氣扇、電熱其ノ他一般ノ電氣應用ニ關スル目的ノ爲電氣ヲ供給ス

第二條 本市ノ供給スル電氣ヲ使用セムトスル者ハ本市ノ承認ヲ受ケルコトヲ要ス

第三條 電氣使用ノ承認ヲ受ケタル者カ本條例ノ規定ニ依リ有スル權利、義務ハ讓受又ハ相續、遺贈等ニ因リ之ヲ包括シテ承繼スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ承繼者ハ其ノ承繼ノ事實ヲ證明シテ名義變更ノ申出ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 需用場所ニ達スル配電線路(變壓器及附屬器具ヲ含ム)及引込線ノ施設並維持ハ本市ノ負擔トス但シ需用者ノ請求又ハ施設地ノ狀況ニ因リ其ノ新設若ハ延長ノ爲特殊ノ設備ヲ必要トシ又ハ多額ノ費用ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ施設費ノ一部ヲ需用者ノ負擔トナスコ

第七類 電 氣

〔大電〕

トアルヘシ此ノ場合ト雖モ其ノ施設シタル電氣工作物ハ本市ノ所有トス

第五條 需用場所ニ於ケル電氣工作物ノ施設及維持ハ本條例ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外需用者ノ負擔トス

需用者ニ於テ前項ノ電氣工作物ニ關スル工事ヲ施行セムトスルトキハ工事著手前其ノ設計方法ニ付本市ノ承認ヲ受ケルコトヲ要ス

第六條 需用場所ニ於ケル既設電氣工作物ニ付電氣使用ノ承認ヲ請求スル場合ハ其ノ工作物ノ設計方法ニ付テモ亦承認ヲ受ケルコトヲ要ス

第七條 需用者ニ於テ施設シタル電氣工作物ニ付テハ其ノ使用前本市ノ検査ヲ受ケルコトヲ要ス

前項ノ検査ニ要スル費用ハ需用者ノ負擔トス

第八條 需用場所ニ於ケル電氣工作物ニシテ左ニ掲グルモノハ本市ノ負擔ヲ以テ之ヲ施設シ且ツ維持ス

- 一 自熱定額電燈並之ニ關スル布線及附屬器具
- 二 孤光燈並之ニ關スル布線及附屬器具
- 三 電氣扇電熱器並之ニ關スル布線及附屬器具
- 四 積算電力計
- 五 電動機及附屬品

前項ノ場合ト雖モ請求アルトキハ需用者ヲシテ電氣工作物ノ施設及維持ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條 需用者ニ於テ電氣使用ノ全部又ハ一部ヲ中止若ハ廢止セムトスルトキ又ハ其ノ中止ニ係ルモノノ復舊使用ヲ爲サムトスルトキハ

八八五

少クとも二十四時間前ニ本市ニ申出ツルコトヲ要ス

第十條 引込線及需用場所ニ於ケル本市所有ノ電氣工作物ハ其ノ使用ヲ廢止シタル場合ト雖モ本市ニ於テ全部又ハ一部ヲ存置スルコトヲ得但シ需用者又ハ利害關係人ヨリ取除ノ請求アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 需用者ノ請求ニ因リ引込線又ハ需用場所ニ於ケル本市所有ノ電氣工作物ノ位置ヲ變更スル場合及前條但書ノ場合ニ於テハ其ノ工事費ハ請求者ノ負擔トス

第十二條 本市ニ於テ保安上必要ト認ムルトキハ需用場所ニ於ケル電氣工作物ニシテ需用者ノ負擔ヲ以テ施設シタルモノニ付其ノ變更修繕若ハ特別裝置ノ施設ヲ求メ又ハ其ノ取除ヲ求ムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テモ其ノ工事費ハ需用者ノ負擔トス

第十三條 需用場所ニ於ケル電氣工作物ニ關シテハ需用者ニ於テ其ノ負擔ニ屬スル工事ノ施行ヲ本市ニ委託スルコトヲ得

第十四條 第五條第二項第六條及第七條ノ規定ハ本市ニ於テ工事ヲ施行シタルモノニ關シテハ之ヲ適用セズ

第十五條 故意又ハ過失ニ因リテ需用場所ニ於ケル本市所有ノ電氣工作物ヲ毀損若クハ亡失シタルトキ又ハ電氣ノ使用ニ關シ本市ニ損害ヲ生セシメタルトキハ需用者ハ其ノ損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第十六條 需用者ニ於テ負擔スル電燈器具、電動機、電氣扇、電熱器其ノ他電力裝置ノ容量、燭光、能率等ハ記銘又ハ試験ニ依リ本市之ヲ認定ス
前項ノ試験ニ要スル費用ハ需用者ノ負擔トス

電氣ノ使用ニ關シ本市ニ損害ヲ生セシメタルトキ

第六條 第十二條ノ規定ニ依リ本市ヨリ求メタル工事ヲ怠リタルトキ

第七條 第十八條ノ規定ニ違背シタルトキ

第八條 第二十六條第二項第二十七條又ハ第五十三條ノ規定ニ違背シタルトキ

第二十一條 法令ノ規定又ハ前二條ノ規定ニ依リ電氣ノ供給ヲ中止若ハ停止シ又ハ其ノ使用ノ承認ヲ取消シタル爲メ需用者ニ於テ損害ヲ受ケルコトアルモ本市ハ其ノ責ニ任セス

第二十二條 定額料金、器具料、準備料、工事費、検査費、試験料及賣品代金ハ之ヲ前納トシ其ノ他ノ料金若ハ前納シ能ハサル事由アリト認ムルモノハ別ニ其ノ納期ヲ定ム
前項ノ料金及工事費等ニ充當スル爲保證金ヲ提供セシムルコトアルヘシ但シ場合ニヨリテハ保證人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二十三條 公益ヲ目的トスル事業ニ電氣ヲ供給スルトキ又ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本條例ニ規定セル料金ヲ輕減スルコトヲ得

第二章 電燈

第二十四條 電燈ノ供給時間ハ左ノ二種トス

一 夜 間 日没三十分前ヨリ翌日ノ日出時迄送電スルモノ

但シ雨天曇天等ノ場合ハ點燈時間ヲ伸長スルコトアルヘシ

二 晝夜間 晝夜間斷ナク送電スルモノ

但シ毎月二日以内ニ於テ日出ヨリ日没三十分前マテ送電ヲ中止スルコトアルヘシ

第二十五條 電燈ノ供給方法ハ左ノ二種トス

第七類 電 氣

第十七條 需用者ハ需用場所ニ於ケル電氣工作物若ハ電氣作用ニ異狀又ハ故障アルコトヲ認メタルトキハ遲滞ナク其ノ旨本市ニ通知スルコトヲ要ス

第十八條 需用者ハ電氣工作物ニ直接關係ヲ及スヘキ物件ヲ新設、増設、變更又ハ修繕セムトスルトキハ工事著手三日前ニ其ノ旨ヲ本市ニ通知シ立會ヲ求ムルコトヲ要ス

第十九條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ電氣ノ供給ヲ中止スルコトアルヘシ

一 電氣工作物ニ故障ヲ生シ若ハ生セムトスル虞アルトキ又ハ修繕其ノ他工事上已ムヲ得サルトキ

二 非常變災其ノ他不可抗力ニ因ルトキ

第二十條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ電氣ノ供給ヲ停止シ又ハ其ノ使用ノ承認ヲ取消スルコトアルヘシ

一 電燈電動力電氣扇電熱料金、器具使用料、準備料、工事費、検査費、賣品代金、試験料又ハ賠償金等本市ニ對シ支拂フヘキ金額ノ支拂ヲ延滞シタルトキ

二 第二十二條第二項ノ保證金ヲ指定期間内ニ提供セサルトキ又ハ保證人ヲ立テサルトキ

三 濫リニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シ若ハ之ヲ分解シ又ハ他ノ物件ヲ之ニ接続シタルトキ

四 故ナク本市係員ノ電氣工作物ニ關スル監査若ハ作業ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨害シタルトキ

五 故意又ハ重大ナル過失ニ因リ電氣工作物ヲ毀損若ハ亡失シ又ハ

一 定額供給 電燈各箇ノ燭光ヲ基準トシテ供給スルモノ

二 從量供給 電燈ノ使用電力量ヲ積算シテ供給スルモノ

從量供給ニ依ルモノハ之ヲ定額供給ニ變更スルコトヲ得ス

第二十五條ノ二 一 需用場所ニ於ケル定額供給ニ依ル屋内電燈ハ取付箇數五箇未滿又ハ總容量百五十「ワット」未滿ノモノニ限ル但シ已ムヲ得サル事由アリト認ムルモノニ付テハ取付箇數十箇未滿又ハ總容量三百「ワット」未滿ノ場合ニ限り定額供給ニ依ルコトアルヘシ

前項ノ取付箇數及總容量中ニハ使用ノ延期又ハ中止ニ係ルモノヲ含ム此ノ場合ニ於テハ一箇ノ容量ヲ三十「ワット」ト看做ス

第二十六條 定額供給ニ依ル白熱真空電燈球ハ本市ノ負擔ヲ以テ交付ス但シ需用者ニ於テ破損又ハ滅失セシメタル場合ハ需用者ノ負擔トス

前項ノ電燈ニハ本市ヨリ交付シタル以外ノ電燈球ヲ取付クルコトヲ得ス但シ特種ノモノハ需用者ノ負擔ヲ以テ之ヲ取付クルコトヲ得

第二十七條 前條第二項但書ノ定額供給ニ依ル白熱電燈球ハ金屬纖維ニシテ本市ノ檢定ヲ經タルモノニ限ル需用者ノ負擔ヲ以テ孤光燈ヲ取付クル場合モ亦本市ノ檢定ヲ經ルコトヲ要ス

第二十八條 同一ノ需用場所ニ於ケル白熱電燈ニ付テハ定額供給ト從量供給トヲ併用スルコトヲ得ス但シ屋外ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 定額供給ニ依ル電燈ノ需用者ハ其ノ使用ノ種類ニ依リ左表ノ料金ヲ支拂フコトヲ要ス但シ需用者ニ於テ屋内工作物ノ施設並維持ニ要スル費用ヲ負擔スル場合ニ於テハ第一表ノ料金ヨリ五分ノ

第七類 電 氣

場合ニシテ十二時間ヲ超ユルトキハ一馬力時又ハ其ノ未滿毎ニ金三錢八厘ノ割合ヲ以テ其ノ料金を増徴ス
直流ヲ以テ供給スル場合ノ定額料金を前各項ノ料金を十分ノ五以下

電動機ノ種類	半馬力	一馬力	二馬力	三馬力	四馬力	五馬力	七馬力	十馬力	十五馬力	二十馬力
器具使用料月額	一圓八十錢	二圓五十錢	三圓二十錢	四圓	五圓	八圓	九圓	十二圓	十四圓	十四圓

二十馬力ヲ超ユル電動機及附屬品ノ使用料ハ一馬力ニ付月額七拾錢以下ニ於テ其ノ都度市長之ヲ定ム
前二項ノ使用料ハ使用ノ有無ニ拘ラス之ヲ徴收ス

第五十一條 本市所有ノ電動機及附屬品ハ需用者ノ希望ニ依リ本市ニ於テ之ヲ賣渡スコトアルヘシ
前項賣渡代金ハ其ノ都度市長之ヲ定ム

第五十二條 電動機需用者ノ屋内電氣工事ノ費用ハ需用者ノ負擔トス修繕變更ノ場合亦同シ但シ第十三條ノ規定ニ依リ屋内工事(基礎工事ヲ除ク)ノ施行ヲ本市ニ委託シタルトキハ本市ノ見積リタル工事費ヲ徴收ス
電動機及附屬品ノ位置替又ハ取除工事(基礎工事ヲ除ク)ハ本市ニ於テ之ヲ施行スルモノトシ之ニ要スル費用負擔ハ前項但書ニ依ル

第五十三條 電動機ニ使用スル電力ヲ電燈用ニ供スルコトヲ得ス但シ遞信省自家用電氣工作物施設規則ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラス
第五十四條 四分ノ一馬力以下ノ單相電動機ニ關シテハ特別ノ規定ナキ限リ電燈ニ關スル規定ヲ準用ス
前項電動機ノ定額供給ニ依ルモノハ定額燈ノ需用者ニ限リ其ノ料金を

ヲ増シタル額ノ範圍内ニ於テ其ノ都度市長之ヲ定ム
第五十條 第八條ノ規定ニ依リ本市ノ電動機及附屬品ヲ使用スル需用者ハ左表ノ器具使用料ヲ支拂フコトヲ要ス

種 別	晝夜間(一臺ニ付)料金	夜間(一臺ニ付)料金
三百五十ワット以下(約四分ノ一馬力以下)	六圓	三圓五十錢
百五十ワット以下(約二分ノ一馬力以下)	四圓二十錢	二圓四十錢

第五十五條 前條第一項ノ電動機ニシテ從量供給ニ依ルモノハ從量燈ノ需用者ニ限ル
第五十六條 三相三線式四分ノ一馬力以下ノ電動機ノ定額料金を一月一臺ニ付金五圓トス

第五十七條 電熱用電力ノ供給時間及供給方法ハ第二十四條及第二十五條ノ規定ニ準ス
第五十八條 定額供給ヲ更ニ月極(一月)及一冬期(冬期三月)ニ區別シ其ノ使用方法及電熱器ノ大サニ依リ左表ノ料金を支拂フコトヲ要ス

但シ需用者負擔ノ電熱器ヲ使用スル者ハ器具使用料ヲ支拂フコトヲ要セス

第一表 一冬期電熱料金及器具使用料 (一箇ニ付)

種 別	電熱料金	器具使用料	計
反射型ストリア(五五〇ワット)	晝夜間 二十八圓五十錢	三十圓五十錢	五十八圓五十錢
コタツ(四〇ワット)	晝夜間 十七圓五十錢	五圓五十錢	二十三圓
コタツ(四〇ワット)	晝夜間 三圓	四圓	七圓
コタツ(四〇ワット)	晝夜間 一圓	三圓	四圓

第二表 月極電熱料金及器具使用料 (一箇ニ付)

種 別	電熱料金	器具使用料	計
反射型ストリア(五五〇ワット)	晝夜間 十二圓	十四圓	二十六圓
コタツ(四〇ワット)	晝夜間 七圓五十錢	九圓五十錢	十六圓五十錢
コタツ(四〇ワット)	晝夜間 一圓二十錢	一圓六十錢	一圓八十錢
コタツ(四〇ワット)	晝夜間 八圓	十圓	一十八圓

前項二表以外ノモノノ定額供給ハ一箇ノ容量三百ワット以下ニ限ルモノトシ其ノ料金を百ワットニ付一月金三圓以下ニ於テ市長之ヲ定ム

第五十九條 從量供給ニ依ル需用者ハ左ノ料金を支拂フコトヲ要ス
一「キロワット」時ニ付 金四錢

第七類 電 氣

本市ノ積算電力計ヲ使用スル者ハ第三十九條ノ計器使用料ヲ支拂フコトヲ要ス

第六十條 前條第一項ノ場合ニ於テ一月ノ電氣使用料左ノ割合ニ依リ算出シタル金額ニ滿タサルトキハ其ノ金額ヲ最低料金トシテ徴收ス但シ契約容量六百ワット以下ノ場合ニ於ケル最低料金ハ金一圓トス
契約容量一「キロワット」ニ付 金一圓六十錢

第六十一條 電熱供給設備ノ新設又ハ増設ニ當リ「コタツ」等ノ如ク電燈ト兼用シ得ルモノヲ除ク外本市ニ於テ施設スル屋内工事ニ對シテハ工事費ノ一部ヲ徴收スルコトヲ得此ノ場合ニ於テモ該工作物ハ本市ノ所有トス
第六十二條 需用者負擔ノ電熱器ヲ使用スル需用者又ハ從量電燈使用ノ需用者ニ於ケル電熱用屋内設備ハ需用者ノ負擔トス

第六章 雜則

第六十三條 本條例ニ定メタルモノノ外電氣供給ノ條件其ノ他本條例ノ施行ニ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム
第六十三條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ電流制限器ヲ取付ケルモノトス

一 電燈又ハ電熱需用者ノ希望ニ依ルトキ
二 本市ニ於テ必要ト認ムルトキ

前項第一號ノ場合ニ要スル費用ハ需用者ノ負擔トス
第六十三條ノ三 前條第一項第一號ニ該當スルモノニシテ本市ノ電流

第七類 電 氣

制限器ヲ使用スル者ハ左ノ制限器使用料ヲ支拂フコトヲ要ス

十「アムペア」以下

一月一 金 十 錢

六十「アムペア」以下

同 金 三十五 錢

百「アムペア」以下

同 金 七十五 錢

第六十三條ノ四 從量電燈需用者電流制限器ヲ使用スル場合ニ於テハ

其ノ準備料及電氣使用料金ハ制限容量ヲ積算電力計容量ト看做シ之ヲ算定ス

第六十三條ノ五 從量電熱需用者電流制限器ヲ使用スル場合ニ於テハ

其ノ最低料金ハ制限容量ヲ契約容量ト看做シ之ヲ算定ス

第六十四條 電動機設置ニ關シ官廳ニ對スル諸願届出等ハ需用者ノ便

宜ヲ圖リ本市ニ於テ代辨スルコトアルヘシ

第六十五條 第二十九條、第三十一條、第三十二條、第三十四條、第

三十七條、第四十二條第二表、第四十八條ノ準備料、第四十九條、第

第五十四條、第五十六條、第五十八條第二表及第六十條ノ規定ニ依

リ支拂フヘキ其ノ月分ノ諸料金ハ左ノ場合ニ於テハ使用日數ニ應シ

日割ヲ以テ之ヲ計算ス

一 電氣使用ヲ開始シタルトキ

二 第九條ノ規定ニ依リ申出ヲナシテ電氣使用ノ中止廢止又ハ其ノ

中止中ニ係ルモノノ復舊使用ヲナシタルトキ

三 電燈ノ燭光ヲ増減シテ料金率ヲ異ニシタルトキ

四 電氣扇、電熱器等ノ種類ヲ變更シテ料金率ヲ異ニシタルトキ

五 電動機ノ馬力數ヲ變更シテ料金率ヲ異ニシタルトキ

六 電氣工作物(電燈球ヲ除ク)ノ減失ニ因リ電氣ノ使用不能トナリ

「大電」

サルモノトス

第七十二條 本市ニ於テ左ニ掲グル事實アルコトヲ確認シタルトキハ

其ノ事實ニ因リテ免レタリト認ムル電氣使用料ヲ支拂ハシム此ノ場

合ニ於テ其ノ事實アリタル期間不明ナルトキハ六月以内ニ於テ市長

之ヲ定ム

一 定額供給ヲ受クル者其ノ承認ヲ受ケタル燭光又ハ容量ヲ超エ電

氣ヲ使用シタルコト

二 從量供給ヲ受クル者其ノ使用電力量ヲ積算セシメサル方法ヲ施

シ電氣ヲ使用シタルコト

三 承認ヲ受ケサル場所又ハ方法ニ於テ電氣ヲ使用シ若ハ中止中又

ハ停止中ニ係ルモノヲ使用シタルコト

四 規定ニ依ルノ外電動力又ハ電熱ニ使用スル電力ヲ電燈用ニ使用

シタルコト

前項ノ場合ニ於テハ其ノ電氣使用料ノ三倍ニ相當スル金額(其ノ金

額五圓未満ナルトキハ金五圓)以下ノ過料ヲ徵收スルコトアルヘシ

第七十三條 第三十三條、第四十八條、第六十條ニ於テ一ヶ月間ト稱

スルハ積算電力計檢針ノ時ヨリ次ノ檢針ノ時ニ至ル期間ヲ謂ヒ其ノ

檢針ハ積算電力計使用開始ノ月ニ在リテハ其ノ開始ノ日ニ於テ之ヲ

行ヒ爾後毎月本市ノ定ムル一定日ニ之ヲ行フモノトス但シ電氣使用

ノ全部ヲ中止又ハ廢止シタルトキ又ハ積算電力計ノ取替ヲナシタル

トキハ其ノ都度檢針スルモノトス

第七十四條 第六十條ノ規定ニ依リ支拂フヘキ最低料金ハ前條但書ノ

規定ニ依ルトキハ一ヶ月間最低料金一其ノ使用日數ヲ乘シ三十ヲ以

第七類 電 氣

八九四

タルトキ

七 前各號ノ外料金率ニ異動ヲ生スヘキ變更アリタルトキ

第六十六條 第三十九條、第四十二條、第五十條、第五十八條及第六

十三條ノ三ニ依リ支拂フヘキ其ノ月分ノ器具使用料及計器使用料ハ

左ノ場合ニ於テハ使用日數ニ應シ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

一 器具使用ヲ開始シ又ハ廢止シタルトキ

二 前條第四號乃至第七號ニ該當スルトキ

三 器具ノ施設並維持ノ負擔者ニ異動アリタルトキ

第六十七條 前二條ニ依ル日割計算ハ月額料金ニ使用日數ヲ乘シ三十

ヲ以テ除シタルモノトス

第六十八條 定額電燈、月極電氣扇及月極電熱器ノ需用者ニシテ送電

中止ノ請求アリタル場合ハ其ノ月十五日迄ハ半月分ヲ十六日以後ハ

一ヶ月分ヲ徵收ス

第六十九條 一夏期電氣扇、一冬期電熱器需用者ハ其ノ使用期間ノ長

短ニ拘ラス其ノ料金並器具使用料ノ金額ヲ徵收シ途中中止ノ場合ニ

於テモ徵收シタル金額ハ還付セサルモノトス

第七十條 需用場所ニ裝置セル積算電力計ノ故障其ノ他ノ原因ニ因リ

使用電力量ヲ算定シ能ハサルトキハ當該計算期ノ前三ヶ月間ニ於ケ

ル平均使用電力量ニ依ル但シ電動機ノ負荷率著シク不同ナル事實明

瞭ナルトキハ需用場所ニ於ケル設備並其ノ使用ノ狀況ヲ斟酌シ市長

ニ於テ需用者トノ協定ニ依リ當該計算期ノ使用電力量ヲ定ム

第七十一條 第二十條ノ規定ニ依リ電氣ノ供給ヲ停止シタル場合ト雖

電氣使用料、器具使用料及其ノ他ノ料金ニ關シテハ日割計算ヲナサ

「大電」

テ除シタルモノヲ其ノ期間ノ最低料金ト看做ス

第七十五條 法令ノ規定又ハ第十九條ノ規定ニ依リ供給ヲ中止シタル

場合ニ於テ其ノ停電一日中ニ引續キ四時間以上ニ互ルトキハ第二十

九條、第三十一條、第三十二條、第三十六條、第四十二條、第四十

九條、第五十四條、第五十六條及第五十八條ノ規定ニ依リ支拂フヘ

キ料金ノ計算ニ關シテハ其ノ停電日數ニ對スル日割料金を除算シ第

六十條ノ規定ニ依ル料金ノ計算ニ關シテハ其ノ停電日數ヲ當該計算

期間内ノ使用日數ニ算入セス

第二十四條第二號但書及第四十六條但書ノ規定ニ依リ送電ヲ中止シ

タル場合ト雖モ料金ノ計算ニ關シテハ之ヲ中止セサルモノト看做

ス

附 則

第七十六條 本條例ハ大阪電燈株式會社ノ事業及財産ノ引渡ヲ受ケタ

ル日ヨリ之ヲ施行ス

第七十七條 本條例施行前本市及大阪電燈株式會社ト需要者間ニ於テ

特ニ料金其ノ他供給條件ヲ協定シタルモノニ在リテハ其ノ協定ノ條

件ニ依ルモノトス

第七十八條 本條例施行前大阪電燈株式會社ニ於テ認定シタル布線器

具其ノ他ノモノニシテ現ニ使用中ノモノハ本條例ニ依リ本市ノ承認

又ハ檢査ヲ經タルモノト看做ス

第七十九條 大正六年大阪市條例第二號電力使用條例ハ本條例施行ノ

日限之ヲ廢止ス

附 則 (昭五、一二、條例一八)

第七類 電 氣

本改正條例施行ノ際現ニ定額供給ニ依ル電燈需要者ノ第二十五條ノ二ノ適用ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●電氣使用條例施行細則

制 定 大一二、九、二九告示二二一
最近改正 昭六、九 告示二二一

大阪市電氣使用條例施行細則左ノ通相定メ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一章 總則

第一條 大阪市電氣使用條例(以下單ニ條例ト稱ス)第二條ニ依リ電氣使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ別ニ定ムル様式ニ依リ本市ニ申込ヲナスヘシ其ノ承認ノ要件ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二條 條例第三條ニ依リ電氣使用ノ承認ヲ受ケタル者ノ權利義務ヲ包括シテ承繼シタル者ハ速ニ名義變更ノ書面ヲ本市ニ差出スコトヲ要ス

第三條 電氣使用ノ承認ヲナシタルトキ本市ハ一需用場所毎ニ本市所定ノ門標ヲ門口又ハ其ノ他諸易キ箇所ニ貼付スルモノトス

第四條 本市ニ於テ必要ト認ムルトキハ從量燈需用者ト雖モ其ノ屋内工作物ハ本市ノ費用ヲ以テ施設シ該工費用ノ一部ヲ徵收シ之ヲ貸付クルコトアルヘシ但シ電燈球ハ需用者ノ負擔トス

前項ノ場合ハ一燈一ヶ月ニ付金五錢ノ布線使用料ヲ徵收ス

第四條ノ二 條例第三十七條ニ依ル需用者ハ左表ノ料金ヲ支拂フコト

表ノ料金ヲ支拂フコトヲ要ス

種 別	暖房用其ノ他之ニ類スルモノ		上記以外ノモノ
	一月一箇	一冬期一箇	
六十「ワット」以下	一圓六十錢四	圓	一月一箇
百 同	二圓五十錢六	圓七十錢	
百五十 同	三圓五十錢八圓五十錢一	圓	
二百 同	四圓六十錢十	一圓一圓三十錢	
二百五十 同	五圓六十錢十三圓五十錢	一圓六十錢	
三百 同	六圓七十錢十六	一圓九十錢	

第五條 本市ニ於テ工事ヲ施行セサル需用場所ノ電氣工作物ニシテ其ノ新設増設若ハ既設ニ係ルモノ又ハ其ノ變更工事ニ付検査ヲ受ケムトスル者ハ其ノ旨書面又ハ口頭ヲ以テ本市ニ請求スルコトヲ要ス

第六條 前條ノ請求者ハ左表ノ検査料ヲ支拂フコトヲ要ス

一 電燈及電氣扇其ノ他之ニ類スル屋内工事検査料	一箇ニ付 金七十五錢
十 箇 以 下	同 金三十錢
十一箇以上ハ其ノ超過分	同 金二十五錢
五十一箇以上ハ其ノ超過分	同 金十五錢
百一箇以上ハ其ノ超過分	同 十 錢
二百一箇以上ハ其ノ超過分	同 十 錢

第七類 電 氣

ヲ要ス

種 別	晝夜間		夜 間	
	一月一箇	一月一箇	一月一箇	一月一箇
十「ヴォルトアンペア」以下	三十五錢	二十五錢	二十五錢	二十五錢
二十 同	五十錢	三十五錢	三十五錢	三十五錢
二十「ヴォルトアンペア」ヲ超ユルモノハ十「ヴォルトアンペア」以下ヲ増ス毎ニ	二十錢増	二十錢増	十五錢増	十五錢増

豆變壓器ニシテ大正十五年九月遞信省告示第六百八十五號豆變壓器仕様書ニ適合スルモノニ對スル料金左ノ如シ

晝 夜 間 一月一箇 金二十五錢
夜 間 同 金二十錢

第四條ノ三 條例第四十三條ノ料金ハ左表ニ依ル

種 別	晝夜間		夜 間	
	一月一箇	一月一箇	一月一箇	一月一箇
三十「ワット」以下	二圓四	圓八	圓八	圓八
五十 同	二圓七十五錢五圓五十錢	十一圓	十一圓	十一圓
百 同	四圓二十五錢八圓五十錢	十七圓	十七圓	十七圓
百五十 同	五圓五十錢十一圓	二十二圓	二十二圓	二十二圓
二百 同	六圓五十錢十三圓	二十六圓	二十六圓	二十六圓

第四條ノ四 條例第五十八條第二項ニ依ル需用者ハ其ノ種別ニ依リ左

〔大電〕

五百一箇以上ハ其ノ超過分 同 金五錢

二 電動力屋内工事検査料 同 金五錢
低壓三相誘導電動機設備
二十馬力(又ハキロワット)以下 一臺ニ付 金二圓
二十馬力ヲ超ユルモノハ十馬力(又ハキロワット)以下ヲ増ス 每ニ 金一圓増

高壓三相誘導電動機設備
右検査料ノ倍額

三 電熱屋内工事検査料 一箇所ニ付 金五十錢
第七條 需用者カ自己ノ電氣器具ヲ使用セムトスルトキハ豫メ本市ノ試験ヲ受ケ之ニ要スル左表ノ試験料ヲ支拂フヘシ

一 白熱電燈球	一箇ニ付 金一錢
二 バイブ、シヤンテリヤ類	一燈用 金十五錢
三 コード自在器	一箇ニ付 金八錢増
四 エリミネーターラザオ	同 金十五錢
五 電氣扇	同 金五十錢
十臺以下	一臺ニ付 金一圓
十一臺以上其ノ超過分	同 金六十錢
三十臺以上其ノ超過分	同 金五十錢
五十臺以上其ノ超過分	同 金四十錢

天井用ハ右試驗料ノ倍額トス
六 電動機及附屬品

- 半馬力以下 一臺ニ付 金一圓半錢
- 三馬力以下 同 金二圓
- 五馬力以下 同 金三圓
- 七馬力半以下 同 金四圓
- 十馬力以下 同 金五圓
- 十五馬力以下 同 金七圓
- 二十馬力以下 同 金十圓
- 二十馬力ヲ超ユルモノハ一馬力以下ヲ増ス毎ニ金五十錢増

七 電熱器

- 五百五十「ワット」以下 一箇ニ付 金五十錢
- 一「キロワット」以下 同 金一圓
- 一「キロワット」ヲ超ユルモノハ一「キロワット」以下ヲ増ス毎ニ 金五十錢増

八 電流制限器

一箇ニ付 金五十錢
第八條 前二條以外ノモノノ検査料及試驗料ハ其ノ都度市長之ヲ定ム

第二章 電球、電動機其ノ他機械器具

第十四條 條例第三十五條ニ依リ從量電燈ト併用シ得ル電氣扇、電氣
號斗其ノ他之ニ類スル電氣器具ハ電壓百「ヴォルト」ニ適合シ其ノ名
稱、番號、電壓「ワット」(又ハ「アマペア」)製造者名、周波數等ヲ表
示シタル「ネームプレート」ヲ附シ本市ノ検査ヲ經タルモノナルコト
ヲ要ス

第十五條 條例第三十五條第二號ノ電氣設備ハ左ニ掲クルモノニシテ

- 一 X光線装置「オゾン」發生器「バイブレーター」「ラザオレーヤ
- 一「電氣殺菌器其ノ他醫療電機器
- 二 空氣冷却器、電氣掃除器、電氣蒲團、電氣火鉢
- 三 其ノ他之ニ類スルモノ

第十六條 白熱電燈球及弧光燈ハ其ノ燭光「ワット」若ハ「アマペア」及

電壓ヲ表示シタルモノトス

第十七條 定額電氣ニシテ本市負擔ノ白熱電燈球ハ金屬纖維電燈球ヲ
交付スルモノトス但シ本市ニ於テ震動其ノ他ノ事由ニ因リ金屬纖維
電燈球ヲ不適當ト認ムル場合ニ於テハ炭素纖維電燈球ヲ交付スルモ
ノトス

第十八條 白熱電燈球、弧光燈、電氣扇、電熱器、電動機其ノ他ノモ
ノニシテ本市ヨリ交付又ハ貸付タルモノハ本市所定ノ徽章ヲ付スル
モノトス

第九條 條例第九條ニ依リ電氣使用ノ中止又ハ中止分ノ復舊使用ノ申
出アリタルトキハ之ニ必要ナル作業ヲ完了シタル日ヲ以テ中止又ハ
復舊使用ヲナシタルモノト看做ス

第十條 條例第二十四條第二號但書及條例第四十六條但書ニ依リ送電
中止ハ毎月一日及十五日ノ兩日中ニ於テ爲スモノトス但シ需用場所
ノ情況ニ依リ其ノ他ノ日ヲ以テ中止ノ定日トナスコトアルヘシ

第十一條 條例第十九條又ハ法令ノ規定ニ依リ電氣供給ノ中止ハ急遽
ノ場合ヲ除クノ外豫メ其ノ事由及日時ヲ書面又ハ口頭ヲ以テ需用者
ニ通知スルモノトス

第十二條 條例第二十條ニ依リ電氣ノ供給ヲ停止シ又ハ其ノ使用ノ承
認ヲ取消ス場合ニ於テハ豫メ書面又ハ口頭ヲ以テ需用者ニ戒告ヲ爲
スモノトス
電氣ノ供給ヲ停止シタル後需用者ニ於テ停止ノ原因トナリタル本市
ノ要求事項ヲ履行シタルトキハ停止ヲ解除スルモノトス

第十三條 需用場所ニ於ケル電氣工作物カ火災其ノ他ノ原因ニ依リ滅
失毀損シタルタメ全部又ハ一部ノ電氣使用不能トナリタルトキハ其
ノ全部又ハ一部ニ對スル電氣使用ヲ中止シタルモノト看做ス

第十九條 定額供給ニ依ル本市負擔ノ電燈球ヲ毀損又ハ亡失シタルト

キハ燭光ノ區別ニ從ヒ左ノ金額ヲ辨償スルコトヲ要ス

燭 光 別	電球種別	金 額
自八燭光	長 型	金 二 十 六 錢
至二十五燭光	同	同
四十燭光	同	金 三 十 錢
五十燭光	同	同
八十燭光	同	金 一 圓 二 十 錢
百 燭 光	同	金 一 圓 二 十 五 錢
二 百 燭 光	長 型	金 二 圓 八 十 五 錢
三 百 燭 光	丸 型	金 二 圓 八 十 五 錢
四 百 燭 光	丸 型	金 三 圓 三 十 錢
五 百 燭 光	同	金 四 圓
千 燭 光	同	金 四 圓 五 十 錢
同	同	金 八 圓 二 十 五 錢

第二十條 定額供給ニ依ル本市負擔ノ白熱電燈球ニシテ左記各項ニ該
當スルトキハ需用者ノ請求ニ依リ無償ニテ新ナル電燈球ト取替ヲナ
スモノトス

一 電燈球ノ外部ニ異狀ヲ呈スルコトナク自然ニ纖維ノ切斷シタル
トキ

二 電燈球ノ光力カ其ノ表示電壓ニ於テ表示燭光數ノ百分ノ八十以
下ニ低下シタルトキ

第二十一條 電動機ハ其ノ名稱、番號、電氣方式、電壓、回轉數、周波數、馬力數(又ハ「キロワット」若ハ「アマペア」)及製造者名ヲ表示シタルモノナルコトヲ要ス

第二十二條 電燈球、弧光燈、電氣扇、電熱器、電動機其ノ他ノ電氣機械器具ニシテ本市ノ檢定ヲ受ケムトスルモノハ其ノ物件ヲ本市ニ差出スコトヲ要ス但シ場合ニ依リ便宜當該需用場所ニ於テ檢定ヲナスコトアルヘシ

第三章 工事施行

第二十三條 需用者負擔ノ電氣工事(取除工事ヲ除ク)ニシテ本市以外ノモノ其ノ工事ヲ施行スル場合ハ工事著手前其ノ仕様書圖面及工事前項ノ工事竣工シタル場合ハ竣工圖面ヲ添ヘ工事竣工届ヲ本市ニ差出スコトヲ要ス

第二十四條 需用者負擔ノ電氣工作物ニ關シ各種工事ノ施行ヲ本市ニ委託セムトスルモノハ其ノ旨書面ヲ以テ本市ニ申込ムコトヲ要ス其ノ申込方第一條ニ依ル申込ト同時ナルトキハ該申込書ニ其ノ旨記載スルコトヲ得

第二十五條 前條ノ申込アリタルトキハ本市ハ工事費見積書ヲ作成シテ之ヲ申込者ニ送付スヘシ此ノ場合ニ於テ申込者ハ本市ノ指定シタル期間内ニ之ニ對スル諸否ヲ申出ツルコトヲ要ス其ノ申出ナキトキハ申込ハ之ヲ取消シタルモノト看做ス但シ特種ノ事情アリト認メタ

大 同増設

七 電流制限器取付、取除又ハ取替

同 金二圓半錢
一箇ニ付 金一圓

八 積算電力計取除

同 金二圓

天井用電氣扇取付其ノ他特別ノ工事費ハ其ノ都度市長之ヲ定ム

第三十二條 建造物ノ全部又ハ一部ヲ改築スル爲其ノ需用場所ニ於ケル電氣工作物ノ取除ヲ要スルトキハ需用者ハ取除三日前本市ニ一時取除ノ申込ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 料金ノ測定及集金

第三十三條 定額料金ハ需用場所毎ニ毎月一日現在ニ依リテ測定シタル金額ヲ其ノ月分ノ料金トシテ需用者ニ請求シタル日ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ要ス但條例第四十二條第一表及條例第五十八條第一表ニ依ル料金ハ其ノ金額ヲ請求シタル日ニ於テ支拂フコトヲ要ス

第三十四條 定額料金ニシテ測定後ニ於テ該測定額ヲ増減スヘキ事實生シタルトキハ其ノ都度其ノ金額ヲ計算シ超過額ハ之ヲ還付シ不足額ハ需用者ニ請求シタル日ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ要ス

第三十五條 從量料金ハ積算電力計ノ檢針日ニ於テ測定シタル當該計算期内ノ料金額ヲ需用者ニ請求シタル日ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ要ス

第三十六條 條例第三十六條ニ依ル料金ハ電氣使用ノ申込ト同時ニ之ヲ支拂フコトヲ要ス

第七類 電 氣

ル場合ニ於テハ見積書ヲ作成セス工事竣工後精算スルコトアルヘシ

第二十六條 委託工事著手後ニ於テ需用者ノ希望ニ依リ設計又ハ材料ノ變更ヲ要スル場合ハ再見積ヲナスモノトス

第二十七條 第二十四條ニ依ル委託工事ニ付キ其ノ工事著手後ニ於テ申込者カ其ノ工事ノ委託ヲ取消シタルトキハ既ニ工事ニ要シタル費用ハ之ヲ支拂フコトヲ要ス其ノ費額ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 本市以外ノモノニ於テ施設スル工事ニ關シテハ其ノ工事中本市自ラ指揮監督スルコトアルヘシ

第二十九條 條例第八條第一項第一號ニ依ル本市ノ負擔ニ屬スル工事ハ同一需用場所ニ於ケル布線及附屬器具ノ全部カ本市ノ所有ニシテ且本市所定ノ普通工事標準ニ依リ施行シ得ルモノニ限ル

第三十條 引込線又ハ需要場所ニ於ケル本市所有電氣工作物ノ施設位置、種別變更又ハ取除ヲ請求スルモノハ本市所定ノ様式ニ依リ申込書ヲ本市ニ差出スコトヲ要ス

第三十一條 前條ノ請求者ハ其ノ種類ニ依リ左表ノ工事費ヲ支拂フコトヲ要ス

- 一 電燈取除 一箇ニ付 金一圓半錢
- 二 引込線取除 一箇所ニ付 金七十五錢
- 三 電燈又ハ電氣扇位置替 一箇ニ付 金七十五錢
- 四 引込線又ハ室内線位置替 一箇所ニ付 金七十五錢
- 五 晝夜間卓上用電氣扇新設 同 金五圓

第三十八條 第二十五條及第二十六條ニ依ル工事費ハ工事竣工後第二十七條ノ所要費用ハ委託取消後本市ノ請求シタル日ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ要ス

第三十九條 各種料金及器具使用料其ノ他本市ニ支拂フヘキ金額ハ本市ヨリ派出スル集金係員ニ對シ之ヲ支拂フコトヲ要ス但シ本市ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ需用者ノ申出アルトキハ直接本市ニ支拂ハシメ又ハ集金郵便若ハ郵便振替貯金ノ方法ニ依リ之ヲ支拂ハシムルコトアルヘシ

第四十條 官廳及公署ニ於テ條例及本則ノ規定ニ依リ支拂フヘキ料金其ノ他ノ費用ニ關スル測定期並支拂期日ニ付テハ本則ノ規定ニ依ラス隨時之ヲ定ムルコトヲ得

第四十一條 電氣ノ使用ニ關スル領收書ハ本市電氣局長領收印並取扱人ノ印アルモノニ限り有效トス

第四十二條 電氣扇又ハ電熱器使用中一夏期又ハ一冬期ヲ月極ニ變更スル場合ハ申込當初ニ週リ月極料金ヲ以テ計算スルモノトス
月極ヲ一夏期又ハ一冬期ニ變更スル場合ハ申込當初ニ週リ一夏期又ハ一冬期料金ヲ以テ計算スルモノトス

第五章 雜則

第四十三條 電燈用電線ハ長サ四「メートル」ヲ以テ取付限度トス
條例第八條第一項第一號ニ依リ本市ノ負擔ヲ以テ施行スル電氣工作物ニ對スル附屬電線ハ「メートル」迄トシ其ノ制限ヲ超ユル場合

又ハ特種ノ電線ヲ必要トスル場合ハ各其ノ全長線ヲ需用者ノ負擔トス

第四十四條

左ノ各號ニ該當スルトキハ手数料トシテ金二十錢ヲ支拂フコトヲ要ス

一 電氣扇又ハ電熱器ノ供給ニ於テ一夏期又ハ一冬期ヲ月極ニ變更ノ場合

二 電氣扇ノ種類變更ノ場合

三 電氣扇又ハ電熱器ニ於テ本市貸付品ヲ需用者品ニ又ハ需用者品ヲ本市貸付品ニ變更ノ場合

第四十五條

定額電燈需用者ニシテ低燭光ニ變更セムトスル場合ハ一箇ニ付金二十錢ノ變更手数料ヲ支拂フコトヲ要ス

第四十六條

(削除)

第四十七條

(削除)

第四十八條

(削除)

第四十九條

(削除)

第五十條

(削除)

第五十一條

條例第十八條ニ依リ左記ニ付キ本市ニ立會ヲ求ムル者ハ其ノ旨書面又ハ口頭ヲ以テ本市ニ申出ツルコトヲ要ス

一 他ノ事業者ニ屬スル電氣工作物

●局員家庭用電熱規程

制 定 大二三、四、二一達電二〇
最近改正 昭一一、二 達 三

電氣局員家庭用電熱規程左ノ通制定シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局員家庭用電熱規程

第一條 一般家庭電熱ノ普及並ニ宣傳ニ資スル爲電氣局員(以下單ニ局員ト稱ス)ニ對シ本規程ニヨリ電熱ノ特別取扱ヲ爲ス

第二條 本規程ノ適用ヲ受クル局員並其ノ他受電口數ハ左ノ通トス但シ從量電熱需用者ニ限ルモノトス

一 受電口數

種別	理事以上	技主	師事	技書	手記	雇員、現業 其ノ從業員 他
受電口	拾箇内	八箇内	五箇内	四箇内	四箇内	四箇内

二 前號ノ受電口數ハ契約容量ニ應シ左ノ範圍ヲ超過スルコトヲ得ス但百ワット未満ノ受電口數ハ此ノ限ニ在ラス

契約容量

百ワット以上

一キロワット以上

一、五キロワット以上

二キロワット

契約容量カ二キロワットヲ超過スル場合ハ其ノ超過一キロワット

第七類 電 氣

二 電話線電鈴線其ノ他ノ電氣信號線

三 瓦斯管及水道管

四 家屋、庭園其ノ他ノ工作物

五 其ノ他之ニ類スルモノ

第五十二條

條例第十五條ニ依リ本市ニ損害ヲ生セシメタル場合又ハ本市貸付ノ電氣扇、電熱器、電動機其ノ他ノ物件ヲ毀損若ハ亡失セシメタルトキノ賠償金額ハ第十九條ニ規定スルモノノ外其ノ實況ニ應シ本市之ヲ定ム

第五十三條

需用場所ニ裝置セル積算電力計ニ付當該係員カ其ノ檢針ヲナシタルトキハ當該計算期間内ノ使用電力量ヲ檢針表ニ記載シ之ヲ需用者ニ呈示認印ヲ受クルモノトス

第五十四條

集金員(男子ハ制服)及電氣工作物ノ檢査又ハ積算電力計ノ檢針其ノ他供給上必要ナル作業ノタメ該係員ヲシテ需用場所ニ立入ラシムル場合ニ於テハ本市所定ノ證券ヲ携帶セシムルモノトス

第五十五條

定額電燈需用者ニ於テ燭光變更ノ申込ヲ爲サスシテ契約燭光ヨリ小ナル電球ヲ使用セシ場合又ハ條例第四十二條第一表及條例第五十八條第一表ニ依ル需用者ニ於テ途中中止セル場合ト雖モ料金ノ割戻ハ爲ササルモノトス

第五十六條

從量需用者ト雖モ本市ニ申出ナク電氣扇又ハ電熱器其ノ他ノ器具ノ使用ヲナスコトヲ得ス

第三條

ト毎ニ受電口一箇所ヲ増ス
每年十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル夕刻ノ電熱使用ハ電燈點燈時一時間後ヨリ一時間半迄ハ成ルヘク之ヲ避ケ其前後ニ於テ使用スヘシ

第四條

電氣使用料ハ一キロワット時ニ付金參錢トシ每一ヶ月間ノ消費電氣量ニ之ヲ乘シタル料金ヲ毎月末日迄ニ支拂フコトヲ要ス

第五條

電氣使用條例(以下單ニ條例ト稱ス)第六十條ノ最低電力量ハ契約容量一キロワットニ付三十キロワット時ノ割合トシテ之ニ金參錢ヲ乘シタル金額ヲ最低料金トス

第六條

條例第三十九條ノ計器使用料ハ同條所定ノ各半額トス
左ノ各號ニ該當スル工事費ハ之ヲ徵收セス

第七條

電熱ヲ使用セムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シ所屬長ヲ經テ所管電燈部電燈營業所ニ申込ムヘシ其ノ使用中、契約容量又ハ設備ノ變更、取除ヲセムトスルトキ亦同シ

第八條

器具ノ種類、受電口數、設備並契約容量
局員使用ノ電熱器ニシテ修繕ヲ要スルトキハ左ノ事項ヲ記載シ所屬長ヲ經テ所管電燈營業所又ハ同出張所ニ申込ムヘシ

一 所屬職氏名

二 住所及門標番號

三 器具ノ種類、受電口數、設備並契約容量

四 局員使用ノ電熱器ニシテ修繕ヲ要スルトキハ左ノ事項ヲ記載

五 所屬長ヲ經テ所管電燈營業所又ハ同出張所ニ申込ムヘシ

六 所屬職氏名

七 住所及門標番號

八 器具ノ種類、受電口數、設備並契約容量

九 局員使用ノ電熱器ニシテ修繕ヲ要スルトキハ左ノ事項ヲ記載

十 所屬長ヲ經テ所管電燈營業所又ハ同出張所ニ申込ムヘシ

十一 所屬職氏名

十二 住所及門標番號

十三 器具ノ種類、受電口數、設備並契約容量

十四 局員使用ノ電熱器ニシテ修繕ヲ要スルトキハ左ノ事項ヲ記載

十五 所屬長ヲ經テ所管電燈營業所又ハ同出張所ニ申込ムヘシ

十六 所屬職氏名

十七 住所及門標番號

十八 器具ノ種類、受電口數、設備並契約容量

十九 局員使用ノ電熱器ニシテ修繕ヲ要スルトキハ左ノ事項ヲ記載

二十 所屬長ヲ經テ所管電燈營業所又ハ同出張所ニ申込ムヘシ

二十一 所屬職氏名

二十二 住所及門標番號

二十三 器具ノ種類、受電口數、設備並契約容量

二十四 局員使用ノ電熱器ニシテ修繕ヲ要スルトキハ左ノ事項ヲ記載

二十五 所屬長ヲ經テ所管電燈營業所又ハ同出張所ニ申込ムヘシ

二十六 所屬職氏名

一 器具ノ種類容量及箇數

前項ニ依リ修繕シタルトキハ其ノ實費ヲ徴收ス

第九條 左ノ第一號並第二號ニ該當スル場合ハ本規程ヲ適用セシ第三號ニ該當スル場合ハ其ノ事實アリタル翌月分ヨリ本規程ヲ適用セシ

一 就職後六ヶ月ヲ經過セサル期間

二 家庭用以外ニ電熱ヲ使用スルトキ

三 退職又ハ當局以外ニ轉職シタルトキ

第十條 所屬長ハ名簿ヲ備ヘ第七條各號ノ事項ヲ記載スヘシ

局員退職又ハ轉勤シタルトキハ直ニ名簿記載事項ヲ訂正シ所管電燈

營業所並ニ料金課ニ通知スヘシ

第十一條 第四條ノ電氣使用料並第五條ノ計器使用料ハ毎月集金係ノ

委託ニヨリ當該所屬長ニ於テ集金ヲナスモノトス

第十二條 電熱使用ニ關シ不都合ノ行爲アリタル者ハ本規程ニ依ル特

別扱ヲ停止ス

第十三條 本規程ニ定メサル事項ハ條例並同施行細則ニ依ル

第十四條 本規程ハ之ヲ電氣局共濟組合職員並ニ附屬員ニ準用ス

附 則

本改正規程施行ノ際大正十三年四月達電第二〇號電氣局員家庭用電熱

規程ノ適用ヲ受クル局員ニ對シテハ左ノ通處理スルモノトス

一 既設受電口數ハ爾後中止又ハ取除ノ申込ヲ爲スニ至ル迄ハ變更

セサルモノトス

二 本規程第四條ノ電氣料ハ昭和二年一月分ヨリ第十一條ノ規定ハ

二月分ヨリ之ヲ施行ス

四 案ニ陳列品又ハ「スキッチ」ニ觸ルルコト

五 前各號ニ準スル行爲ヲ爲スコト

第六條 館内ニ於テハ本規程ニ定ムルモノノ外必要ト認メ指示セル事

項ヲ遵守スヘシ

第七條 前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ退館ヲ命スルコトアルヘ

シ

第八條 本館ノ縱覽、舞臺照明室ノ使用、出品其ノ他ニ關シテハ特ニ

定ムル場合ヲ除クノ外無料トス

第二章 縱覽

第九條 縱覽セムトスル者ハ縱覽申込名簿ニ所定事項記載ノ上承諾ヲ

受クルコトヲ要ス

團體ニ在リテハ一週間前ニ團體縱覽申込書(第一號様式)ニ依ルコト

ヲ要ス

第十條 縱覽者ニ對スル説明ハ左ノ時間ニ於テ行フ但シ團體ニ對シテ

ハ此ノ限ニ在ラス

午前 十時

午前 十一時

午後 二時

午後 三時

第十一條 縱覽者カ係員ノ許諾ナクシテ陳列品ニ觸レ之ヲ毀損シタル

トキハ損害ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第三章 舞臺照明室其ノ他ノ使用

第十二條 本館ノ舞臺照明室ハ電氣ニ關スル講演並實演ニシテ第一條

●電氣普及館規程

制 定 昭五、一二、一五達電三九

大阪市電氣局電氣普及館規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市電氣局電氣普及館規程

第一章 通則

第一條 本館ハ電氣知識ノ普及、宣傳並本市電氣事業ノ發展ニ資スル

ヲ以テ目的トス

第二條 本館ノ休館日左ノ如シ但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ休館

日ト雖開館スルコトアルヘシ

一 大祭祝日

二 日曜日

三 自十二月二十九日至翌年一月三日

第三條 本館ノ開館時間左ノ如シ但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ伸

縮スルコトアルヘシ

自四月一日至七月二十日

自七月二十一日至八月三十一日

自九月一日至翌年三月三十一日

自午前九時至午後三時三十分

自午前九時至午後二時

自午前九時至午後三時三十分

第四條 入館者ハ年齢十三歳以上タルコトヲ要ス

第五條 館内ニ於テハ左ノ行爲ヲ禁ス

一 所定以外ノ場所ニ於テ飲食又ハ喫煙スルコト

二 風紀ヲ紊シ又ハ喧騒ニ亘ルコト

三 物品ヲ販賣スルコト

ノ目的ニ適フモノト認ムルトキハ之カ使用ヲ爲サシムルコトアルヘ

シ

第十三條 前條ニ依リ舞臺照明室ヲ使用セムトスル者ハ舞臺照明室使

用申込書(第二號様式)ニ依リ一週間前ニ申込ミ承諾ヲ受クルコトヲ

要ス

活動寫眞映寫又ハ其ノ他ニシテ主務官廳ニ届出ヲ要スルモノハ使用

者ニ於テ之カ必要ナル手續ヲ爲シ許可書又ハ之ニ代ル可キ書類ノ寫

ヲ前項申込書ニ添ヘ提出スヘシ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ使用ノ承諾ヲ取消スコトアル

ルヘシ但シ之カ爲生シタル損害ニ付テハ其ノ責ニ任セス

一 第一條ノ目的ニ反スルト認メタルトキ

二 前條第二項ノ手續ヲ爲ササルコト

三 直接營利ヲ目的ト爲スモノト認メタルトキ

四 建物又ハ附屬物ヲ毀損スル虞アリト認メタルトキ

五 其ノ他管理上支障アリト認メタルトキ

第十五條 使用者カ搬入シタル機械器具、材料其ノ他ニ付テハ保管ノ

責ニ任セス

第十六條 電氣局ハ使用者ニ對シ必要ナル設備ヲ命スルコトアルヘ

シ

使用者ハ電氣局ノ承認ヲ受ケ特別ノ設備ヲ爲スコトヲ得

使用者カ前二項ニ依リ設備ヲ爲シタルトキハ使用後直ニ之ヲ撤去シ

原狀ニ復スヘシ

第十七條 使用者前條ノ義務ヲ履行セサルトキハ使用者ノ費用ヲ以テ

電氣局之ヲ撤去シ保管ノ責ニ任セス

第十八條 舞臺照明室ノ使用期間ハ五日以内トス但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ延長ヲ承認スルコトアルヘシ

第十九條 講演並實演ニ關スル費用ハ使用者ノ負擔トス但シ電氣料ハ時宜ニ依リ之ヲ減免スルコトアルヘシ

第二十條 使用者舞臺照明室ノ使用ニ關シ電氣局ニ損害ヲ生セシメタルトキハ何人ノ所爲タルヲ問ハス之カ賠償ノ責ニ任ス

第二十一條 講義室並電熱料理講習室其ノ他ノ使用ニ關シテハ本章ノ規定ヲ準用ス

第四章 出品

第二十二條 電氣機械器具並一般什器ニシテ第一條ノ目的ニ適フモノト認ムルトキハ之カ出品ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十三條 出品物ハ本電氣局所定ノ試験規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス但シ参考品ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 出品セムトスルモノハ出品申込書(第三號様式)ニ依リ申込ミ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第二十五條 出品物ノ種類、數量並陳列方法其ノ他ニ關シテハ電氣局之ヲ定ム

第二十六條 出品ニ關スル一切ノ作業並設備ハ出品者自己ノ費用ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十七條 出品期間ハ四月以内ニ於テ電氣局之ヲ定ム但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ延長ヲ承認スルコトアルヘシ

第二十八條 出品物ニ對シテハ相當ノ保護注意ヲ爲スト雖不可抗力又

ハ火災盜難其ノ他ノ事故ニ因ル損害ニ付テハ之カ賠償ノ責ニ任セス

第二十九條 第十六條ノ規定ハ出品者ニ之ヲ準用ス

第三十條 出品物ハ出品期間滿了後直ニ搬出スルコトヲ要ス

第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ出品物ノ變更又ハ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

一 出品物カ他ニ損害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アリト認ムルトキ

二 其ノ他管理上支障アリト認ムルトキ

第三十二條 第十七條ノ規定ハ出品者カ前三條ノ義務ヲ履行セサルトキ之ヲ準用ス

(第一號様式)

電氣普及館團體縱覽申込書

- 一 縱覽日時
- 二 團體名
- 三 縱覽人員
- 四 團體ノ性質

右ノ通覽致度候條御承諾相成度大阪市電氣局電氣普及館規程承認ノ上此段及申込候也

年月日

右團體代表責任者

住所

大阪市電氣局長 殿

(第二號様式)

電氣普及館舞臺照明室使用申込書

一 使用日時

二 使用ノ目的

三 使用ノ方法

四 豫定入場人員

五 會費其ノ他徴收ノ有無

右ノ通電氣普及館舞臺照明室使用致度候條御承諾相成度大阪市電氣局電氣普及館規程承認ノ上此段及申込候也

年月日

住所

職業

使用者

大阪市電氣局長 殿

(第三號様式)

電氣普及館出品申込書

一 出品期間

二 出品ノ目的

三 出品物ノ種類

四 出品物ノ數量 (別紙明細書ノ通)

右ノ通電氣普及館ニ出品致度候條御承諾相成度大阪市電氣局電氣普及館規程承認ノ上別紙明細書相添ヘ此段及申込候也

年月日

第七類 電 氣

(別紙)

電氣普及館出品明細書

出品者				
出品年月日				
品名	數量	單價	摘要	

大阪市電氣局長 殿

住所
職業
出品者

●陳列所規程

制 定 昭六、三、二達電一六
最近改正 昭八、一二、達電三四

大阪市電氣局陳列所規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市電氣局陳列所規程

第一條 本所ハ電氣機械器具材料ノ陳列販賣ヲ爲シ電氣利用ノ指導ヲ以テ目的トス

第二條 本所ノ休日左ノ如シ但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ休日ト雖開所スルコトアルヘシ

一 大 祭 祝 日

二 日 曜 日

三 自十二月二十九日至翌年一月三日

第三條 本所ノ開所時間左ノ如シ但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ伸縮スルコトアルヘシ

自午前九時至午後五時

第四條 本所ノ陳列品ハ之ヲ賣品ト參考品ニ分チ其ノ種類左ノ如シ

一 照 明 器 具

二 家庭用電氣機械器具

三 職業用電氣機械器具

四 醫療用電氣機械器具

五 屋内配線器具材料

六 其ノ他電氣利用ノ指導上必要ト認メタルモノ

第五條 本所ニ於ケル販賣方法ハ即賣トス但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ月賦ニ依ルコトアルヘシ

第六條 前各條ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ニ關シテハ本局ノ定ムルトコロニ依ル

●電氣機械器具材料販賣委託規程

制 定 昭六、三、二達電一七

電氣機械器具材料販賣委託規程左ノ通相定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣機械器具材料販賣委託規程

第一條 本局ニ於テ電氣利用ノ指導上優秀ナリト認ムル電氣機械器具材料販賣ノ委託ハ本規程ニ依ル

第二條 委託セムトスルモノハ委託申込書ニヨリ申込ミ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 委託品ハ本局所定ノ試験ニ合格シタルモノタルコトヲ要ス

第四條 委託者ハ本局ノ指示シタル納期其ノ他ヲ嚴守シ委託品ノ不足其ノ他販賣ニ支障ヲ生セシムルカ如キ虞アルトキハ豫メ通知スヘシ

第五條 委託品ノ原價及賣價ハ委託者ト協定ス但シ其ノ種類、數量其ノ他ニ關シテハ本局之ヲ定ム

第六條 委託者ハ自己ノ一般賣價並第三者ニ對スル委託原價及賣價ヲ

●請負電氣工事違約金規程

制 定 大 一四、四、二八達電一九

最近改正 昭一一、五、達電三一

大正十三年五月達電第二四號電燈請負工事違約金規程左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

請負電氣工事違約金規程

第一條 本市ト本市指定電燈並ニ電力工事請負商會トノ間ニ於ケル請負電氣工事ニ關スル違約金ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 違約金ノ單位額ハ之ヲ金二十錢トシ金二十錢ヲ以テ一個ト定ム

第三條 工事方法ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ一箇所ニ對シ各下記ノ違約金ヲ徵收ス

一 指定ノ方法ニ違反シテ引込線又ハ屋内線ヲ施工セルモノ 二十個

二 電線分岐ノ場合支持點際ニテ爲ササルモノ 一個

三 電線支持點間ノ距離規定ヨリ過大ナルモノ 一個

四 架空引込線ノ途中ニ接續點ヲ設ケタルモノ 十個

五 低壓電線ヲ直接高壓電線ニ接續シタルモノ 一千個

六 低壓電線ノ相互接續ヲ誤リタルモノ 五個

七 導管又ハ護謨管内ニテ電線ヲ接續シタルモノ 十個

八 木製線樋内ニテ電線ヲ接續シタルモノ 二十個

九 金屬管又ハ金屬線樋内ニテ電線ヲ接續シタルモノ 五十個

本局ノ當該價格ヨリ低廉ナラシムルコトヲ得ス

第七條 委託品ノ販賣方法ハ即賣トス但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ月賦ニ依ルコトアルヘシ

第八條 委託品ノ原價支拂ハ毎月二十日(三月ハ三十一日)現在ニ於ケル販賣濟品ニ對シ之ヲ爲スモノトス但シ代價未收入ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第九條 委託品ニ對シテハ相當ノ保護注意ヲ爲スト雖不可抗力其ノ他本局ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニヨリ生シタル損害ニ付テハ之カ賠償ノ責ニ任セス

第十條 委託品販賣後生シタル自然故障ニ對シテハ相當期間無償修繕セシムルコトアルヘシ

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ委託承諾ノ取消又ハ委託品ノ返付ヲ爲スコトアルヘシ

一 委託者カ本規程ニ違反セリト認メタルトキ

二 本局ニ於テ支障アリト認メタルトキ

第十二條 委託品ニ關スル納入搬出其ノ他ニ要スル一切ノ費用ハ委託者ノ負擔トス

第十三條 委託者ニ於テ宣傳等ニ關シ本市名ヲ記載セムトスルトキハ豫メ本局ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第十四條 前各條ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ニ關シテハ本局ノ定ムルトコロニ依ル

第七類 電 氣

- 十 電線ヲ「スリープ」接続スル場合捻廻數規定ニ合ハサルモノ 十箇
- 十一 電線ヲ「スリープ」接続スル場合添線必要ナル時添線ヲ爲ササルモノ 十箇
- 十二 電線ヲ「ハンダ」揚接続スル場合線ノ捲數規定ヨリ少キモノ又ハ三〇二耗以上ノ電線ヲ捲接続セルモノ 二箇
- 十三 電線ヲ「ハンダ」揚接続スル場合線ノ捲數規定通りナルモノ「ハンダ」揚不良ナルモノ又ハ電線ヲ地中銅板ニ接続スル場合「ハンダ」揚不良ナルモノ 三箇
- 十四 電線ヲ「ハンダ」揚接続スル場合線ノ捲數規定通りナルモノ「ハンダ」揚ヲ爲ササルモノ又ハ電線ヲ地中銅板ニ接続スル場合「ハンダ」揚ヲ爲ササルモノ 二十箇
- 十五 第十二號ニ該當セル上「ハンダ」揚ヲ爲ササルモノ 三十箇
- 十六 電線接続箇所ニ於テ電線心線ノ甚シク損傷セルモノ 五箇
- 十七 計量器取付ノ箇所ニ於テ配線配置ヲ反對ニ爲セルモノ 五箇
- 十八 電線又ハ電線線末端ノ被覆始末規定ニ適合セス或ハ必要ナル「ハンダ」揚ヲ爲ササルモノ 一箇
- 十九 「バインド」掛ノ不完全ナルモノ 一箇
- 二十 必要ナル場合碍管又ハ護謨管ノ固定ヲ爲ササルモノ 一箇

九一〇

- 二十一 天井ニ棧アル場合電燈ヲ之ニ取付ケサルモノ但シ特殊ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス 三箇
- 二十二 既設工作物ニ損害ヲ與ヘタル儘之ヲ放置シタルモノ 五箇
- 二十三 工事竣工後三月以内ニ於テ其ノ工事ニ起因シ絶縁不良トナリタルモノ 十箇
- 二十四 架空引込線ヲ道路(幅員三米以上)ヲ横斷シテ架渉スル場合需用場所ニ於ケル取付點ノ高サ地表上ニ、五米未滿ノモノ 二箇
- 二十五 架空引込線ノ需要場所ノ取付點ニ於テ電線相互間ノ距離ヲ左記以上ニ保持セサルモノ 一箇
- (イ) 電線徑間二〇米以下ノ場合 二十五種
- (ロ) 電線徑間二〇米ヲ超ユル場合 三十種
- (ハ) 四線乗出型腕木ヲ使用シタル場合 二十種
- 二十六 引込腕木ヲ洋釘ヲ以テ打付ケル場合ニ洋釘四本以上ヲ以テ二箇所以上ニ打付ケサルモノ 二箇
- 但シ特殊ノ場合ニハ此ノ限ニ在ラス
- 二十七 引込口ニ於テ雨水浸入ノ防止ヲ爲サ、ルモノ 一箇
- 二十八 必要ナル箇所ニ支ヘ腕木又ハ二耗以上ノ電線ヲ以テ支線ヲ施サ、ルモノ 一箇
- 二十九 電燈ヲ直接取付ケル場合ヲ除キ看板又ハ物干ニ引込腕木ヲ取付ケタルモノ 三箇

〔大電〕

- 三十 他事業者ノ腕木ニ碍子類ヲ取付ケタルモノ 五箇
- 三十一 同一茶臺碍子ニ二組ヲ超過シテ架空引込線ヲ架渉シタルモノ 三箇
- 三十二 工事上已ムヲ得サル場合ヲ除キ電柱ニ直接腕木ヲ取付ケ引込線ヲ架渉シタルモノ 三箇
- 三十三 工事上已ムヲ得サル場合ヲ除キ裏引込ヲ爲セルモノ 二箇
- 三十四 一〇〇「ヴォルト」電線ト二〇〇「ヴォルト」電線トノ接続ヲ誤リタルモノ 三十箇
- 三十五 一電柱ニ同一種類ノ二個以上ノ電源アル場合ニ引込線ノ接続ヲ左記ニ依リ爲ササルモノ 十箇
- (イ) 既設引込ノ接続ナキ場合ハ變壓器容量ノ大ナル側ニ接続スルコト但シ同一容量ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- (ロ) 既設引込線アル場合ハ其ノ電源側ニ接続スルコト
- (ハ) 同種類ノ引込線力電源ヲ異ニシテ數條接続セル場合ニハ引込線數多キ側ニ接続スルコト

第四條

- 取付器具及使用材料ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ一箇所ニ對シ各下記ノ違約金ヲ徴收ス
- 一 検査規定ニ適合セサル材料ヲ使用セルモノ 三箇
 - 二 新增設工事ニ古キ材料ヲ使用セルモノ 三箇
 - 三 「パイプ」類「シャシナリヤ」「ラムプスタンド」等ニ検査済ノモノヲ使用セサルモノ 一箇

第七類 電 氣

九一一

- 四 引込線工事ニ指定ノ太サノ電線ヲ使用セサルモノ 二十箇
- 五 「ケッチホールター」ニ「フェーズ」ヲ直接「ハンダ」附セサルモノヲ使用セルモノ 一箇
- 六 必要ナル箇所ニ顛倒碍子ヲ使用セサルモノ 一箇
- 七 電線ヲ碍子ニ取付ケル場合「バインド」線ヲ使用セサルモノ 一箇
- 八 電線接続箇所又ハ心線露出ノ部分ニ必要ナル木綿又ハ護謨「テープ」ヲ施ササルモノ 二箇
- 九 必要ナル箇所ニ碍管又ハ護謨管ヲ使用セサルモノ 一箇
- 十 必要ナル場合密閉型開閉器ヲ取付ケサルモノ 二箇
- 十一 配電盤ニ取付ケルモノヲ除キ双型開閉器ニ外函ヲ取付ケサルモノ 二箇
- 十二 器具及材料ニ必要ナル捻子釘類ノ不足セルモノ 一箇
- 十三 保護板下ニ第二種絶縁電線ヲ使用セルモノ但シ棚等ノ上ニテ保護板ノ長サ一米以下ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス 一箇
- 十四 木製線種金屬線種又ハ金屬管工事ニヨリ施設スル電線ニ第四種絶縁電線ヲ使用セサルモノ 五箇
- 十五 人ノ容易ニ觸ルル虞アル所又ハ外物ノ損傷ヲ受ケル虞アル所ニ保護板等ニテ保護裝置ヲ施ササルモノ 一箇
- 十六 「ローゼット」ヲ天井ノ棧ニ取付ケル場合木製「ローゼット」臺ヲ使用セサルモノ 一箇
- 十七 「ローゼット」裏ニ乙一號碍管ヲ使用セサルモノ 二箇
- 十八 必要ナル場合「コード」接続器或ハ「セードホルダー」ノ取付

- ケナキモノ
- 十九 電球線ニ釘付「ボール」ノ取付ケナキモノ但シ特殊ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス 一個
- 二十 架空電線ノ徑間五米ヲ超ユル場合顛倒碍子又ハ乙二號碍子ニテ之ヲ支持シタルモノ 一個
- 二十一 引込口(但シ電流制限器ヲ取付クル裝置ヲ爲シタルトキハ接地側ノモノ)ニ乙三號碍管ヲ使用セサルモノ 二個
- 二十二 引込線ノ引下線方地表上ヨリ手ノ觸ルル虞アル個所ニアルトキ第四種絶緣電線ヲ使用セサルモノ 三個
- 二十三 手ノ觸ルル虞アル場所ニシテ小角安全器磁器閉閉器ノ取付場所アルニモ拘ラス「ケツチホールダー」ヲ取付セルモノ 二個
- 二十四 屋外工事ニ於テ縛縛線ニ銅「バインド」線ヲ使用セサルモノ 三個
- 二十五 取付場所ニ從ヒ所定ノ電球線ヲ使用セサルモノ但シ取付場所ノ狀況ニ依リ特ニ取替ヲ命スルトキハ本號ニ依ラサルコトアルヘシ 一個
- 二十六 引込線ニ於テ使用電線ノ太サ及徑間ニ從ヒ左ノ材料ヲ使用セサルモノ但シ工事上已ムヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス 一個

使用電線ノ太サ 二十二平方耗又ハ五 耗以上	徑 間	碍子ノ種類	檜 腕 木
		大茶臺碍子	大 腕 木

二十二平方耗又ハ五 耗未滿	十五米以上	中茶臺碍子	大 腕 木
同	十五米未滿	又ハ小碍子	小 腕 木

- 二十七 必要ナル個所ニ「コーチスクリュー」又ハ「ホルト」ヲ使用セサルモノ 二個
- 第五條 安全裝置ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ一箇所ニ對シ各下記ノ違約金ヲ徴收ス
 - 一 「ケツチホールダー」ヲ「アース」側ニ取付ケタルモノ 三個
 - 二 屋内ニ施設スル電線ト弱電流電線又ハ其ノ他ノ金屬物ト十五糎以内ニ接近セル部分ニ對スル完全ナル接觸豫防裝置ヲ爲ササルモノ 五個
 - 三 必要ナル箇所ニ接地線ナキモノ 五個
 - 四 地中銅板ヲ要スル接地裝置ニ銅板ノ取付ケナキモノ 百個
- 第六條 手續ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ一件ニ對シ各下記ノ違約金ヲ徴收ス
 - 一 工事ノ一部竣工又ハ手直未済ニシテ完了ノ報告ヲ爲シタルモノ 五個
 - 二 工事ノ全部未済ニシテ完了ノ報告ヲ爲シタルモノ 十個
 - 三 竣工期日力契約ニ依ル指定ノ期間ヲ經過シタルモノ 一個

●露店電氣工事規程

制 定 昭八、四、二〇達電八

- 四 竣工期日ヲ特定セル場合期日ヲ經過シタルモノ
 - 但シ電動力工事ノ場合 一日ニ付 二個
 - 同一事件ニ關シ手直傳票ヲ三回以上交附シ尙之ヲ完了セサルモノ 一日ニ付 六個
- 五 交付傳票ヲ紛失シタルモノ 三十個
- 六 需用家ノ意思ニ反シテ施工セルモノ 五個
- 七 虚偽ノ理由ニヨリ傳票ヲ返納セルモノ 十個
- 八 遣拂材料明細書ニ過大ノ遣拂ヲ記載シタルモノ 十個
- 九 前各條ニ明記セサル事項ト雖工事項方法、使用器具材料其ノ他手續ニ關シ不都合アリト認メタル場合ニハ前各條ニ準シ違約金ヲ徴收スルコトアルヘシ
- 第八條 第三條第五號、第九號乃至第十一號、第十四號乃至第十六號、第五條第四號及第六條第七號、第八號ニ該當スル工事ニ關シテハ之ヲ施工セル工事請負商會ニ對シ豫メ通告ノ上違約金ヲ徴收スルモノトス
- 第九條 第四條第八號ニ該當スルモノハ本市ニ於テ檢査ノ際適當ニ手直ヲ完了シ之方檢査報告書ニ手直完了ノ旨需用家ノ證印ヲ徴シ事後右工事ヲ施行セル工事請負商會ヨリ他ノ手直事項ト同一方法ニ從ヒ違約金ヲ徴收ス

大正十三年四月達電第二一號露店電燈工事規程左ノ通改正シ昭和八年四月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

露店電氣工事規程

- 第一條 左ニ掲ケル臨時工事に露店電氣工事に稱シ本規程ニ依ルモノトス
 - 一 祭日、緣日ニ於ケル露店ノ電燈、單相四分ノ一馬力以下ノ電動力並三百「ワット」以下ノ電熱ニ電氣ヲ供給スル場合ノ工事
 - 二 前項ニ依ル電氣供給期間中ニ於ケル其ノ露店區域内ノ神社、佛閣ノ獻燈並臨時興行用電燈ニ電氣ヲ供給スル場合ノ工事
- 第二條 露店電氣設備ハ臨時架空電線、臨時配線及電球線等ヨリ成ルモノトシ之ニ對シ電氣ヲ供給スル爲専用引込線ヲ施設スルモノトス
- 第三條 臨時架空電線トハ露店ニ電氣ヲ供給スル爲ノ配線ヲ謂ヒ、臨時配線トハ神社、佛閣並臨時興行用電燈ニ電氣ヲ供給スル爲ノ配線ヲ謂フ
- 第四條 露店電氣ハ専用引込線ヨリ使用スルモノトシ一般需用家ノ電線ヨリ分岐使用スルコトヲ得ス
- 第五條 専用引込線ノ引止碍子際ニハ之ニ近ク其ノ引込線ヨリ供給シ得ル最大「ワット」數ヲ明記セル札ヲ貼付スルコトヲ要ス
- 第六條 専用引込線末端ノ二次線接地側ニハ接續金物ヲ、他方ニハ「ケツチホールダー」ヲ取付クルコトヲ要ス

- 第七條 専用引込線ニ臨時架空電線又ハ臨時配線ヲ接続スル場合ハ必ス接続金物並「ケッチホールダー」ヲ通過シタル側ニ於テ爲スコトヲ要ス
- 第八條 臨時架空電線又ハ臨時配線ハ濫リニ道路ヲ横斷シテ施設スルコトヲ得ス
- 第九條 臨時架空電線ニハ二耗以上ノ第四種絶縁電線ヲ使用スルコトヲ要ス
- 第十條 臨時架空電線ハ専用引込線ニ接続シ引止碍子又ハ玉碍子等ヲ用ヒ麻繩ニテ電柱其ノ他ノ造管物ヨリ離隔シテ堅固ニ引止ムルコトヲ要ス
- 第十一條 臨時架空電線ハ電線支持竿ヲ以テ地表上三米以上ノ高サニ保持シ且支持點間ノ距離ヲ二十米以下タラシムルコトヲ要ス
- 第十二條 電氣支持竿ハ其ノ支持點ニ綿「テープ」其ノ他ノ適當ナル材料ヲ以テ電線被覆ノ損傷ヲ爲ササル様保護裝置ヲ施スコトヲ要ス
- 第十三條 臨時配線ニハ第四種絶縁電線ヲ使用シ架空部分ハ二耗以上、其ノ他ノ部分ハ一・六耗以上タルヲ要ス
- 第十四條 臨時配線ハ専用引込線ニ接続スルモノトス但シ已ムヲ得サル場合ハ臨時架空電線ニ接続スルコトヲ得
- 第十五條 臨時配線ノ架空部分ハ電柱其ノ他ノ造管物ヨリ離隔シテ堅固ニ引止ムルコトヲ要ス
- 第十六條 臨時配線ヲ臨時架空電線ヨリ分岐スル場合ニハ其ノ分岐箇所ニ近ク兩極ニ「ケッチホールダー」ヲ取付クルコトヲ要ス
- 第十七條 臨時配線ノ架空部分ハ地表上三米以上ノ高サニ保持スルコトヲ要ス

コトヲ要ス

●露店電氣工事違約金規程

制 定 昭八、四、二〇達電九

昭和二年四月達電第二三號露店電燈工事違約金規程左ノ通改正シ昭和八年四月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

露店電氣工事違約金規程

- 第一條 本市ト露店電氣工事請負人トノ間ニ於ケル本市ノ委託露店電氣工事ニ關スル違約金ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 違約金ノ單位額ハ之ヲ金二十錢トシ金二十錢ヲ以テ一個ト定ム
- 第三條 工事方法ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ一箇所ニ對シ各下記ノ違約金ヲ徵收ス
 - 一 専用引込線端ト臨時架空電線又ハ臨時配線トノ接続ヲ所定ノ方法ニ依ラスシテ施工セルモノ 十 個
 - 二 臨時架空電線又ハ臨時配線ヲ一般需用家ノ電線ヨリ分岐セルモノ 二十 個
 - 三 専用引込線ニ其ノ最大供給容量以上ノ負荷ヲ接続セルモノ 五 個
 - 四 臨時架空電線又ハ臨時配線ノ架空部分ニシテ地表上ノ高サ三米未滿ノモノ 二 個
 - 五 臨時架空電線ノ支持點間ノ距離二十米ヲ超過セルモノ 二 個

トヲ要ス

- 第十八條 臨時配線ヲ屋内ニ施設スル場合ハ引込口ニ近キ場所ニ開閉器及自動遮斷器ヲ兩極ニ裝置シ且開閉器ハ容易ニ電路ヲ遮斷シ得ル様施設スルコトヲ要ス
- 第十九條 臨時配線ハ「ノツプ」碍子又ハ玉碍子等ヲ以テ電線相互間及電線ト造管材トヲ離隔シ且造管材ニ沿ヒテ布設スル場合ハ工事上已ムヲ得サルモノノ外一米以下毎ニ之ヲ支持スルコトヲ要ス
- 第二十條 臨時配線ニハ電球線以下ノ重量ヲ負ハシメサル様電球線ヲ「ノツプ」碍子又ハ玉碍子ニテ支持スルコトヲ要ス
- 第二十一條 臨時架空電線並臨時配線ノ接続ハ電線張力ノ加ハラサル點ニ於テ「ハンダ」揚、「スリ」ア「接続」又ハ「接続金物」ヲ以テシ且臨時架空電線ニ在リテハ其ノ専用引込線ニ接続スル箇所以外ノ接続點ヲ、臨時配線ニ在リテハ總テノ接続點ヲ「ゴム」及綿「テープ」ニテ被覆スルコトヲ要ス
- 第二十二條 電球線又ハ器具附屬紐線等ヲ臨時架空電線又ハ臨時配線ニ接続スル場合接続箇所ハ兩線相互五種以上喰違ハシムルコトヲ要ス且臨時配線ニ接続スル場合ハ其ノ接続點ヲ「ゴム」及綿「テープ」ニテ被覆スルコトヲ要ス
- 第二十三條 電球線ニハ〇・九平方米耗第四種絶縁電線ヲ使用スルコトヲ要ス
- 第二十四條 「ソケット」ニハ金屬製「ソケット」ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第二十五條 臨時架空電線並臨時配線ハ其ノ露店終了當日中ニ取除ク

- 六 臨時配線ヲ造管材ニ沿ヒテ布設スル場合理由ナクシテ其ノ支持點間ノ距離一米ヲ超過セルモノ 二 個
- 七 臨時架空電線又ハ臨時配線ニシテ其ノ接続箇所ニ「ハンダ」揚ヲ爲ササルモノ又ハ接続金物ヲ使用セルモノ 五 個
- 八 臨時架空電線又ハ臨時配線ノ接続點ニシテ必要ナル箇所ニ所定ノ「テープ」捲ヲ爲ササルモノ 五 個
- 九 臨時架空電線並臨時配線架空部分ノ引止方法規程ニ違反セルモノ 五 個
- 十 専用引込線ヲ損傷又ハ亂線セシメタルモノ 五 個
- 十一 臨時配線ヲ臨時架空電線ヨリ分岐スル場合其ノ分岐箇所ニ近ク兩極ニ「ケッチホールダー」ヲ取付ケサルモノ 五 個
- 十二 臨時配線ヲ屋内ニ施設スル場合引込口ニ近ク兩極ニ開閉器及自動遮斷器ヲ裝置セサルモノ 五 個
- 十三 臨時配線ニ接続スル電球線ヲ「ノツプ」碍子又ハ玉碍子ニテ支持セルモノ 二 個
- 第十四條 取付器具及使用材料ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ一箇所ニ對シ各下記ノ違約金ヲ徵收ス
 - 一 臨時架空電線及臨時配線ニシテ材料検査規定ニ適合セサルモノ 二 個
 - 二 臨時架空電線（電球線又ハ器具附屬紐線等ヲ接続スル爲豫メ被覆ヲ剥奪シアル箇所ヲ除ク）臨時配線又ハ電球線ニシテ甚ダシク被覆ノ損傷セルモノヲ使用シタルモノ 三 個
 - 三 電球線「ソケット」並碍子類ニシテ材料検査規定ニ適合セサルモノ 二 個

電燈營業所又ハ同出張所之ヲ行フ但シ必要アリト認ムルトキハ計量係之ヲ行フコトアルヘシ

第二條 事務上已ムヲ得サル事由アルトキハ定期檢針ハ定日ノ前後ニ之ヲ行フ

需用者ノ不在其ノ他ノ事由ニ依リ第一條第二項又ハ前項ニ定ムル日ニ定期檢針ヲ行フコトヲ得サルトキハ其ノ事由止ミタル後直ニ檢針シ其ノ事由ヲ檢針カードノ餘白又ハ裏面ニ記載スヘシ

第三條 計量係檢針員其ノ擔任檢針ヲ完了シタルトキハ檢針カードヲ翌日中ニ料金課計算係ニ送付スヘシ

計算係ハ檢針カード受領ノ日ヨリ三日以内ニ計算カードニ轉記シ之ヲ計量係ニ返戻スヘシ

第四條 電燈營業所計器ヲ取付、取除又ハ取替タルトキハ直ニ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 取付(送電中止ノ爲一時取除タルモノノ復舊ヲ含ム)ヲ爲シタルトキハ電燈、電力又ハ電熱ノ區別及乘數ノ有無ニ從ヒ適當ノ檢針カードニ取付當時ノ指示數其ノ他必要事項ヲ記入シ送電開始後送付簿ト共ニ之ヲ計量係ニ送付スルコト

二 取除ヲ爲シタルトキハ臨時檢針票ニ取除理由其ノ他必要事項ヲ記入シ送付簿ト共ニ之ヲ計量係ニ送付スルコト

三 取替ヲ爲シタルトキハ新計器ニ付テハ第一號、舊計器ニ付テハ前號ヲ準用シ關係書類ニハ取替ノ理由ヲ記入スルコト

第五條 從量需用者ノ名義變更ヲ爲ストキハ電燈營業所ハ所屬出張所ノ發行シタル電燈讓受通知書(電力需用者ノ名義變更ノトキハ電動

力名義變更證明書)ニ依リ計器カードヲ整理シタル後直ニ送付簿ト共ニ該通知書ヲ計量係ニ送付スヘシ

計量係ハ前項通知書ニ依リ檢針カードニ必要事項ヲ記入シ之ヲ電燈營業所ニ返戻スヘシ

第六條 計器ヲ取付タル儘送電ヲ中止シタルトキハ電燈營業所又ハ同出張所ハ直ニ臨時檢針票ニ中止當時ノ指示數其ノ他必要事項ヲ記入シ之ヲ計量係ニ送付スヘシ右中止分ヲ送電シタルトキ亦同シ

第七條 需用者ノ轉居其ノ他ノ事由ニ依リ直ニ料金ヲ取立ツル必要アルトキハ電燈營業所又ハ同出張所ハ臨時檢針ヲ爲シ檢針控票ニ依リ前回檢針時以後ノ使用量ヲ計算シ料金ヲ徵收シ且前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 計器ノ取替ヲ爲サスシテ契約容量ヲ變更シタルトキハ電燈營業所ハ臨時檢針票ニ指示數其ノ他必要事項ヲ記入シ之ヲ計量係ニ送付スヘシ

第九條 電燈營業所ハ計器ノ取付場所ニ檢針控票ヲ備付クヘシ檢針員ハ檢針毎ニ其ノ指示數及日附ヲ記入ノ上署名シ檢針控票ニ餘白無キニ至リタルトキハ之ヲ書換フヘシ

第十條 檢針員檢針ヲ爲ストキハ左ノ各號ノ事項ヲ調査スヘシ
一 乘數ノ有無
二 計器ノ廻轉不良、封印毀損、コイル燒損、ガラス破損其ノ他ノ異狀ノ有無
三 計器接續方法ノ誤、需用者ノ故意ニ因ル計器廻轉停止又ハ逆廻轉其ノ他ノ異狀ノ有無

〔大電〕

四 計器ノ容量、整理番號其ノ他ノ點ニ付檢針カード記載事項ト相違ノ有無

第十一條 檢針員前條各號其ノ他ノ事故ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ所屬長ニ報告スヘシ

計量係ノ發見シタル事故ニシテ必要アリト認ムルモノハ直ニ之ヲ關係係所ニ通知スヘシ

第十二條 當月分使用電力量從來ニ比シ著シク増減セルトキハ檢針員當該需用者ニ就キ實際使用狀態ヲ調査シ其ノ事由ヲ檢針カード又ハ臨時檢針票ノ餘白ニ記入スヘシ

附 則

大正十五年達電第三七號積算電力計檢針取扱手續ハ之ヲ廢止ス

● 局用電氣設備取扱規程

制 定 昭九、六、三〇達電一四

局用電氣設備取扱規程左ノ通相定メ昭和九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
局用電氣設備取扱規程

第一條 電氣局内各所ニ於テ使用スル電燈、電力、電氣扇、電熱等ノ電氣設備ノ取扱ハ本規程ニ依ル但シ公舎ノ電燈以外ノ電氣設備及軌道用電燈ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第二條 電氣設備ノ新設、増設、位置替又ハ改修等工事ヲ必要トスルモノハ設備箇所ノ當該部課ヨリ設備ノ要項及理由並支出費目ヲ具シ技術部工務課ニ之ヲ施行ヲ請求スヘシ

第三條 前條ノ請求ヲ受ケタル工務課ハ設備要項及支出費目ヲ記入セ

第七類 電 氣

〔大電〕

ル工事申込書ヲ作成シ豫算ノ關係上見積ヲ要スルモノハ其ノ旨ヲ附記シ電燈部營業課ヲ經由シ電燈營業所ニ之ヲ送付スヘシ但シ九條構内ノ電氣設備ニ關シテハ電燈部技術課ヲ經由スヘシ

第四條 工事申込書ヲ受ケタル電燈營業所ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ處理スヘシ

一 見積ヲ要スルモノハ見積書ヲ作製シ電燈部營業課ヲ經由シ技術部工務課ニ之ヲ送付シ其ノ承諾ヲ得テ工事ヲ施行ス

二 見積ヲ要セサルモノハ直ニ工事ヲ施行ス

三 工事ヲ請負ニ附シタルトキハ工事代金全額ヲ直接支出費目ヨリ支辨ス但シ電燈及之ニ準スルモノノ普通工事ハ電燈部ノ當該費目ヨリ之ヲ支辨ス

四 工事ヲ直轄トシタルトキハ使用材料ノミヲ直接支出費目ヨリ支辨シ人件費ハ電燈部ノ當該費目ヨリ之ヲ支辨ス

第五條 送電、中止、燭光又ハ容量ノ變更等工事ヲ必要トセサルモノハ設備箇所ノ當該部課ニ於テ要項ヲ記入セル申込書ヲ作成シ電燈部營業課ヲ經由シ電燈營業所ニ之ヲ送付スヘシ

電氣扇、暖房用電熱及公舎用電燈ニ關スル申込書ハ設備箇所ノ當該部課ノ請求ニ依リ庶務課ニ於テ之ヲ作成ス但シ現業員公舎用電燈ノ申込書ハ勞働課ニ於テ之ヲ作成スルモノトス

第六條 前條ノ申込ヲ受ケタル電燈營業所ハ一般ノ取扱ニ準シ之ヲ處理スヘシ

第七條 電燈營業所及同出張所ハ本規程ニ依ル關係傳票及諸證憑書類取扱ノ際ハ局用印ヲ押捺スヘシ

第八類
工
事

工 事

○ 工 事 之 概 論

工 事 者 凡 屬 於 人 工 之 建 築 物 也 其 類 甚 多 如 橋 梁 堤 壩 水 池 溝 渠 鐵 道 公 路 港 口 倉 庫 廠 房 等 是 也 其 中 以 橋 梁 堤 壩 水 池 溝 渠 為 最 重 要 者 蓋 此 等 工 事 均 為 人 類 生 活 所 必 需 之 物 也 故 凡 欲 興 辦 工 事 者 必 須 先 加 以 詳 盡 之 考 察 與 計 劃 始 能 收 到 預 期 之 效 果 也

○ 工 事 之 興 辦 程 序

興 辦 工 事 之 程 序 大 致 分 為 四 個 階 段 一 為 考 察 二 為 計 劃 三 為 施 工 四 為 驗 收 茲 將 各 階 段 之 要 點 分 述 於 下

一 考 察 考 察 之 目 的 在 於 了 解 工 事 之 地 點 地 勢 土 質 水 文 等 情 况 以 便 於 計 劃 之 擬 定 考 察 之 方 法 大 致 分 為 現 場 考 察 與 圖 紙 考 察 兩 種 現 場 考 察 者 即 親 臨 工 事 之 地 點 實 地 觀 察 其 地 勢 土 質 水 文 等 情 况 圖 紙 考 察 者 即 參 照 現 有 之 圖 紙 進 行 考 察 也

二 計 劃 計 劃 之 目 的 在 於 確 定 工 事 之 規 模 形 式 材 料 等 情 况 以 便 於 施 工 計 劃 之 方 法 大 致 分 為 概 算 圖 紙 兩 種 概 算 者 即 確 定 工 事 之 概 算 費 用 圖 紙 者 即 繪 製 工 事 之 施 工 圖 紙 也

三 施 工 施 工 之 目 的 在 於 將 計 劃 之 工 事 實 際 興 辦 出 來 施 工 之 方 法 大 致 分 為 招 標 承 包 與 自 辦 兩 種 招 標 承 包 者 即 將 工 事 之 施 工 權 限 招 標 出 讓 給 承 包 商 自 辦 者 即 由 興 辦 單 位 自 行 施 工 也

四 驗 收 驗 收 之 目 的 在 於 確 定 工 事 之 質 量 符 合 規 格 以 便 於 使 用 驗 收 之 方 法 大 致 分 為 驗 收 單 據 與 驗 收 圖 紙 兩 種 驗 收 單 據 者 即 確 定 工 事 之 驗 收 單 據 驗 收 圖 紙 者 即 繪 製 工 事 之 驗 收 圖 紙 也

第八類 工事

●道路占用規程

制定 昭一、三、一二告示一四七

大正九年大阪市告示第四十五號ノ八道路占用規程左ノ通改正シ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

道路占用規程

第一章 通則

第一條 道路ノ占用ニ關シテハ法令其ノ他別段ノ定アルモノノ外本規程ニ依ル

第二條 本規程ニ於テ道路ト稱スルハ道路法ノ規定ニ依リ市長ノ管理スル道路、道路附屬物及新ニ道路又ハ其ノ附屬物トナルヘキモノヲ謂フ

第二章 占用手續

第三條 道路ヲ占用セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出シ市長ノ許可ヲ受クヘシ

一 占用箇所ノ町名、地番又ハ地先但シ橋梁ヲ占用セントスルトキハ其ノ名稱

二 占用ノ區域

三 占用ノ目的

四 占用ノ期間

第八類 工事

〔大電〕

五 出願者ノ住所氏名

第四條 占用者ハ市内ニ住居スル身元確實ナル保證人一人ヲ立テ前條ノ規定ニ依ル申請書ニ連署セシムルコトヲ要ス

保證人ハ出願者ト連帯シテ占用ニ關スル一切ノ責ニ任ス

市長ハ時宜ニ依リ保證人ヲ立テシメヌ又ハ保證人ニ代ヘ占用料半年分以上ニ相當スル保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

保證金ハ占用料及第二十九條ノ規定ニ依ル費用ニ充當スルコトヲ得

第五條 長期ニ渉ル占用其ノ他市長ニ於テ隣接地主ニ利害關係アリト認ムル占用ノ申請書ニハ其ノ地主ノ連署ヲ要ス但シ連署ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ詳記スヘシ

第六條 第三條ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 占用位置及附近ヲ表示セル圖面

二 工作物ヲ設置セントスルトキハ其ノ設計書、仕様書及圖面

三 法令ニ依リ官公署ノ許可ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ許可書又ハ其ノ寫

第七條 占用ノ期間滿了後繼續シテ占用セントスルトキハ前四條ノ規定ニ依リ左ノ期間内ニ繼續占用許可申請書ヲ提出スヘシ

一 占用期間一年以上ノモノ 期間滿了一月前迄

二 前號以外ノモノ 期間滿了五日前迄

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ占用者ハ第三條乃至第六條ノ規定ニ準シ更ニ市長ノ許可ヲ受クヘシ

一 占用ノ區域又ハ目的ヲ變更セントスルトキ

二 占用ノ期間ヲ短縮セントスルトキ

三 占用ノ目的タル工作物其ノ他ノ施設ヲ變更セントスルトキ

四 占用地ノ原狀ヲ變更セントスルトキ

第九條 占用者ハ市長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ權利ヲ讓渡スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依ル許可ノ申請書ニハ占用者及讓受人連署スヘシ

前項ノ規定ニ依ル申請書ニ付テハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ準用ス

讓受人ハ讓渡人ノ占用ニ關スル一切ノ權利義務ヲ承繼ス

第十條 前數條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケスシテ道路ヲ占用スル者ヨリ

事情ヲ具シシテ占用ノ追認方願出アリタル場合ニ於テ市長其ノ事情已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ之ヲ承認スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ占用ノ始期判明セサルトキハ市長之ヲ認定ス

第三章 占用料

第十一條 占用ノ許可ヲ受ケタル者ハ一年ニ付左表ノ占用料ヲ納付スヘシ

道路等級	目的種別		其板	他園	標	柱	支日	柱覆	電柱(支線、支柱、柱、支線、支柱ヲ合ム)	電	電	瓦斯管	軌條敷設	廣告物
	一	二												
一	等	等	一坪三〇〇〇圓	一本二〇〇〇圓	一本二〇〇〇圓	一本五〇〇〇圓	一本一〇〇〇〇圓	一間五〇〇〇圓	一間一〇〇〇圓	一坪三〇〇〇圓	一坪六〇〇〇圓	一坪	一坪	一坪
二	等	等	二二〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇	二二〇〇〇	四六〇〇〇
三	等	等	一七〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇	一七〇〇〇	三四〇〇〇
四	等	等	一二〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇	一二〇〇〇	二四〇〇〇
五	等	等	七〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇	七〇〇〇	一八〇〇〇
六	等	等	三六〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	三六〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	一〇〇〇	二四〇〇〇	一六八〇〇
七	等	等	二〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇	一八〇〇〇	六〇〇〇

第十二條 前條ノ規定ニ依ル道路ノ等級及其ノ區域ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 廣告物ノ爲ノ占用ニシテ廣告物トシテ利用シ得ヘキ面積カ道路ノ占用面積ヨリ廣キトキハ廢告物トシテ利用シ得ヘキ面積ニ依リ占用料ヲ徵收ス

第十四條 特殊構造ノ道路ノ占用及自動車駐車場又ハ揮發油貯藏庫ノ設備ノ爲ニスル占用ノ占用料ハ第十一條左表中「板圍其ノ他」ノ金額ノ三倍以内ニ於テ市長之ヲ定ム

第十五條 第十條ノ規定ニ依リ占用ヲ承認シタルトキハ占用ノ始期ヨリ承認ノトキ迄ノ占用料ヲ一時ニ追徵ス但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ一年以内ノ期間ニ於テ之ヲ分納セシムルコトヲ得

第十六條 占用料ノ算定ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 占用期間一年ヲ超ユル場合一年ニ滿タサル端數アルトキハ其ノ端數ニ付テハ年額ノ月割ニ相當スル額
- 二 占用期間一年未滿ノモノニ在リテハ月數ニ依リ一月ニ付年額ノ十分ノ一ニ相當スル額但シ全占用期間ヲ通シテ占用料總額カ一年分ヲ超ユルトキハ之ヲ年額ニ止ム
- 三 占用期間一月未滿ノモノニ在リテハ十五日以内ナルトキハ前號ノ規定ニ依リ一月分占用料ノ二分ノ一、十五日ヲ超ユルトキハ前號ノ規定ニ依リ一月分

第十七條 占用ノ期間、區域又ハ目的ヲ變更シタルトキハ左ノ各號ニ依リ前條ノ規定ヲ適用ス

- 一 占用期間ノ中途ニ於テ占用區域ノ一部ヲ返還シ又ハ目的ヲ變更シタルトキハ其ノ翌月分ヨリ新占用料ニ依リ其ノ期間ハ前後各別

〔大電〕

〔大電〕

ニ之ヲ計算ス

二 占用期間ヲ短縮シタルトキハ其ノ短縮シタル期間ニ依リ繼續占用又ハ占用區域ノ増加ハ新ナル占用ト看做ス

第二十七條 第二號又ハ第三號ノ規定ニヨリ占用ノ全部又ハ一部ヲ取消シタルトキハ其ノ占用ノ現日數ニ依リ日割計算ヲ以テ既定占用料ヲ減額ス

第十八條 占用カ公益ニ關スルモノナルトキ其ノ他市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ其ノ占用料ヲ減免スルコトアルヘシ

第十九條 占用料ハ占用許可ノ際又ハ會計年度ノ初ニ於テ其ノ年度ニ屬スル分ヲ徵收ス但シ占用期間一年以内ノモノハ占用許可ノ際一時ニ之ヲ徵收ス

第二十條 前項ノ場合ニ於テ占用料著シク多額ニ上リ其ノ他特別ノ事由アリト認ムルトキハ四回以内ニ於テ分納ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十一條 前二項ノ規定ハ期間、區域又ハ目的ノ變更ニ依リ占用料ノ増徴ヲ要スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 市長占用又ハ其ノ變更ヲ許可シタルトキハ所轄區長ニ之ヲ通知ス

第二十三條 市長占用又ハ其ノ變更ヲ許可シタル者アルトキハ區長ハ之ヲ市長ニ報告スヘシ

第二十四條 既納ノ占用料ハ之ヲ還付セス但シ第八條ノ規定ニ依リ占用ノ變更ヲ許可シタルニ依リ過納トナリタルトキ其ノ他市長ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四章 占用方法、取締及雜則

第二十三條 市長道路管理上其ノ他必要ト認ムルトキハ占用許可ノ際其ノ使用方法ニ付條件ヲ附スルコトアルヘシ

第二十四條 占用ノ許可ヲ受ケタル者ハ占用區域中見易キ箇所ニ其ノ許可書又ハ寫ヲ揭示スヘシ但シ市長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ寫ヲ揭示セントスルトキハ所轄區役所ニ願出テ之ニ檢印ヲ受ケヘシ

第二十五條 市長道路管理上必要ト認ムルトキハ占用地ノ使用方法ヲ指示シ又第二十三條ノ規定ニ依ル許可ノ條件ヲ變更スルコトアルヘシ

第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ占用者ハ其ノ事實ヲ證スヘキ書類ヲ添ヘ遲滞ナク書面ヲ以テ市長ニ届出ツヘシ

- 一 占用者又ハ保證人カ其ノ住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキ
- 二 占用者タル法人カ解散又ハ合併シタルトキ
- 三 相續ニ依リ占用ヲ承繼シタルトキ

第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ市長ハ占用ノ許可ヲ取消シ又ハ變更スルコトアルヘシ

- 一 占用者本規程又ハ許可ノ條件ニ違反シ本規程ニ依ル市長ノ指示ニ從ハサルトキ
- 二 道路管理上必要アルトキ
- 三 公益上其ノ他市長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第二十八條 占用期間終了シ又ハ占用許可ノ取消アリタルトキハ占用者ハ市長ノ指定スル期間内ニ占用ノ目的タル工作物其ノ他ノ物件ヲ撤去シ占用地ヲ原狀ニ復スヘシ

體、本市各局、部、課、廠及其ノ他ノ事業主體ヲ謂フ

第三條 本規程ニ於テ關係出張所ト稱スルハ工事箇所ニ關係アル市役所土木部道路課出張所ヲ謂フ

第四條 工事ノ爲ニスル道路ノ占用ニ付テハ本規程ノ外道路占用規程ノ定ムル所ニ依ル

第二章 道路占用手續

第五條 工事ノ爲道路ノ占用ヲ爲サントスル者ハ占用申請書(官公署等ヨリ發スル之ニ準スル文書ヲ含ム以下同シ)ニ左ノ各號ニ依ル書類正副二通ヲ添付シ工事著手豫定期日十五日前迄ニ關係出張所ヲ經テ市長ニ提出スヘシ但シ市長必要ト認ムルトキハ提出期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

一 設計書及仕様書

設計書又ハ仕様書ニハ一般工事仕様ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

イ 工作物ノ種類(路下管線路ニ在リテハ其ノ徑及本支線ノ別等)

ロ 占用ノ位置(路下管線路ニ在リテハ其ノ延長及條數)

二 構造圖

構造圖ニハ工作物ノ構造及寸法ヲ明ニスヘシ但シ豫メ構造ノ様式ヲ定メ市長ノ承認ヲ經タルモノ及建柱等ノ簡易ナル慣用工作物ニ付テハ本圖ヲ省略スルコトヲ得

三 平面圖

平面圖ニハ左記ニ依リ工作物ノ道路ニ於ケル位置及既設工作物ト

第二十九條 占用者本規程若ハ許可ノ條件ニ基ク義務又ハ市長ノ指示事項ヲ履行セス又ハ履行スルモ不充分ト認ムルトキハ市長ハ占用者ニ代リテ之ヲ執行スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル費用ハ占用者ヨリ之ヲ徴收ス

第三十條 左ノ各號ノ占用ニ付テハ本規程ニ依ルノ外別ニ定ムル所ニ依ル

- 一 露店又ハ街路照明燈ノ爲ノ占用
- 二 特殊構造ノ道路區域ノ占用
- 三 道路工事ノ爲ノ占用及道路上又ハ道路下ノ工作物其ノ他ノ施設ニ關スル工事ニシテ路面掘鑿工事(路面ニ加工スル場合ヲ含ム)ヲ伴フモノノ爲ノ占用

●道路占用工作物工事執行規程

制 定 昭一、四、一告示二三二

大阪市道路占用工作物工事執行規程左ノ通相定メ昭和十一年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市道路占用工作物工事執行規程

第一章 通則

第一條 本規程ニ於テ工事ト稱スルハ道路工事(道路管理者ノ施工スルモノヲ除ク)及工作物其ノ他ノ施設ニ關スル工事ニシテ路面掘鑿工事(路面ニ加工スル場合ヲ含ム)ヲ伴フモノヲ謂フ

第二條 本規程ニ於テ事業者ト稱スルハ工事ヲ執行スル官廳、公共團

〔大電〕

〔大電〕

ノ關係ヲ明ニスヘシ

イ 工事位置ヲ明ニスル一般平面見取圖ヲ添付スルコト

ロ 道路境界石、歩車道境界石其ノ他適當ナル固定物ヲ基準トシ

テ之ト工作物中心線トノ枝距及其ノ基準物ノ位置ヲ表示スルコト(路下管線路ニ在リテハ延長五十米及屈曲部毎ニ其ノ枝距並

起點、終點、屈曲部及街角ニ當ル箇所ノ町名、地番ヲ表示スルコト)

ハ 舗裝路面、橋面又ハ橋臺敷附近ヲ掘鑿セントスルトキハ施工區域ヲ表示スルコト

ニ 路下管線路屈曲シ若ハ異ル口徑ノモノト接續シ又ハ既設工作物ト接近若ハ交會スルトキハ其ノ狀況ヲ表示スルコト

ホ 路下管線路ニ付テハ縮尺五百分ノ一トスルコト

第六條 左ノ各號ノ工事ヲ爲サントスル者ハ前條ノ規定ニ依ル書類ノ外左ノ書類正副二通ヲ添付スヘシ

一 路下管線路工事

縱斷面圖(縮尺横五百分ノ一、縱百分ノ一)

路面高、工作物ノ計畫高及上端高ハ大阪地方水準基標(O.P.)ニ依リ

之ヲ表示シ土被厚及既設工作物ト接合又ハ交會スルトキハ其ノ狀

況ヲモ併セ表示スルコト但シ土被規定ノ厚サニ達セサルトキハ其

ノ事由及必要ナル防護方法ヲ表示スルコト

二 橋梁添架工事及橋臺又ハ橋梁附屬護岸ニ關係アル工作物ノ工事

橫斷面圖及添架物ヲ支持スル構造物ノ強度計算書

第七條 工事著手前ニ於テ設計變更ヲ爲シタルトキハ變更箇所ヲ明示

シ遅滞ナク届出ツヘシ

市長ハ前二條ノ規定ニ依ルノ外隨時必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 事業者第五條及第六條ノ規定ニ依リ手續ヲ了シタルトキハ工事著手ノ三日前迄ニ第一號様式ニ依ル工事著手届ヲ關係出張所ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テ市長必要ト認ムルトキハ工程表ヲ添付セシム

前項ノ規定ニ依ル工程表ハ市長不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ豫メ第一號様式ニ依ル工事著手届ヲ關係出張所ニ提出シ第五條及第六條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

一 延長二十米以内ノ各戸引込路下管線路ノ新設、改築又ハ撤去工事ヲ施行セントスルトキ

二 架空電線路ヨリ四十米以内ノ各戸引込架空電線路ノ新設、改築又ハ撤去工事ヲ施行セントスルトキ

三 工事著手ノ日ヨリ五日以内ニ竣功スヘキ軌道修繕工事ヲ施行セントスルトキ

四 輕易ナル試験又ハ故障修理ノ爲道路ヲ掘鑿セントスルトキ

五 突發事故ニ對シ必要ナル應急處置ヲ爲サントスルトキ

前項第五號ノ場合ニ於テ著手届提出ノ暇ナキトキハ關係出張所ニ協議シ工事ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ工事著手後遅滞ナク第一號様式ニ依ル工事著手届ヲ提出スヘシ

第十條 工事ノ施行ニ因リ既設工作物ノ移轉、改築、撤去等ヲ要スル

〔大電〕

工事ニ付通行止ヲ爲ストキハ之ニ代ル迂回路ノ入口ニ第四號様式ニ依ル豫知標識ヲ設置スヘシ工事中通行止ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第十五條 一時ニ工事ヲ施行シ得ヘキ區域(以下工區ト稱ス)ノ延長ハ掘坑長ニ土砂、材料及器具機械類ノ置場並埋戻後ノ路面復舊未完成部ヲ併セ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 路下管線工事(「ダクト」式電線工事ヲ含ム) 百五十米

二 路下電線路工事 三百米

三 軌道工事 二百五十米

二以上ノ工區ニハ其ノ相互間ニ百米以上ノ交通ニ支障ナキ區間ヲ存置スヘシ

第十六條 前條ノ規定ニ依リ難キ特殊工事ニ付テハ關係出張所ニ届出テ指示ヲ受クヘシ工事施行中前條ノ規定ニ依リ難キ事故ヲ生シタルトキ亦同シ

第十七條 特定施工區間ニ於テハ指定時間外ハ工事ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 板張覆工下又ハ既設人孔内ニ於テ爲ストキ

二 引込路下管線路工事ニシテ沿道宅地ト連絡シ同時ニ施行ヲ要スルトキ

三 突發事故ニ對シ必要ナル應急處置ヲ爲ストキ

四 前各號ノ外市長ニ於テ施工期間短縮ノ爲特ニ晝夜間作業ヲ必要トシ若ハ工事ノ性質上已ムヲ得ヌ又ハ交通上支障ナシト認ムルトキ

前項ノ規定ニ依ル特定施工區間及其ノ施工時間ハ別表ニ依リ之ヲ定

トキハ事業者ハ豫メ關係事業者ト協定ノ上道路ノ占用ヲ申請スヘシ

第十一條 同一又ハ近接箇所ニ於テ同時又ハ相前後シテ施行セラルヘキ工事ニ付市長必要アリト認ムルトキハ各關係事業者ヲシテ本規程ノ定ムル所ニ依リ占用期間、施工時期、施工方法其ノ他必要ナル事項ヲ協定セシム

第十二條 前二條ノ規定ニ依ル協定調ハサルトキハ市長ハ必要事項ヲ指示シ更ニ協定ヲ爲サシメ又ハ適當ト認ムル條件ヲ附シテ占用ヲ許可スルコトアルヘシ

第十三條 工作物ノ占用位置ハ別ニ定ムル道路占用工作物配置標準ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ之ニ依リ難キトキハ其ノ事由ヲ具シ市長ノ承認ヲ受ケヘシ

第三章 工事ノ施行

第十四條 事業者ハ左ノ各號ノ事項ニ付所轄警察署ノ承認ヲ受ケ工事著手三日前迄ニ之ヲ市長ニ届出ツヘシ

一 工事ノ種別

二 施工場所

三 施工順序方法

四 施工期間

五 直營請負ノ別(直營ニ在リテハ其ノ關係事業者、請負ニ在リテハ請負者名)

六 工事現場監督者氏名

前項ノ承認ヲ受ケ工事ニ著手セントスルトキハ工事現場ニ第二號様式又ハ第三號様式ニ依ル工事標示板ヲ立ツヘシ

〔大電〕

ム

第十八條 掘鑿工事ハ關係出張所員ノ立會ヲ求メ協議ノ上左ノ各號ニ依リ之ヲ施行スヘシ

一 掘鑿ハ溝掘又ハ壺掘ニ依リ垂直ニ切開クヘク抉掘又ハ隧道掘ヲ爲ササルコト

二 掘坑ハ深サ、地質等ニ應シ適當ナル土留工ヲ施シ周圍ノ路盤ノ弛緩ヲ防止スルコト

三 鋪裝セサル道路ノ掘鑿ハ先ツ路面砂利層十種以上ヲ採掘シ逐次下層土ニ及ブコト

四 鋪裝路面及基礎混凝土ノ取毀ハ鶴嘴又ハ玄翁ヲ使用セス混凝土破砕機又ハ鑿ノ類ヲ以テ小部分宛施行シ周圍ニ損傷ヲ及ホシタルトキハ其ノ部分ヲモ併セ取毀ツコト

五 道路ヲ横斷シテ掘鑿スルトキハ道路ノ片側ニ於ケル埋戻工事又ハ板張覆工ヲ完了シタル後他側ノ掘鑿ニ著手スルコト

前項ノ掘鑿ヲ宅地ニ接近シテ行フトキハ幅六十種以上ノ安全ナル板橋ヲ架設シ其ノ出入ニ支障ナカラシムヘシ

第十九條 掘鑿工事施行ニ際シテハ掘坑部ヲ左ノ期間内ニ片押式ニ逐次速ニ埋戻スヘシ

一 特定施工區間ニ於テハ工事著手當日ノ施工時間内

二 其ノ他ノ區域ニ於テハ工事著手後七日以内

前項ノ規定ニ依リ埋戻ヲ爲シ難キトキハ前項期間内ニ板張覆工ヲ施スヘシ但シ之ヲ爲スコトニ依リ掘坑ノ目的ヲ妨クルトキ其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ豫メ市長ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラ

板張覆工ハ強固ナル土留工ヲ施シタル上在來路面ト馴染良ク之ヲ行ヒ交通ノ安全ヲ保持スヘシ

第二十條 道路ノ交會スル箇所及沿道宅地ノ利用上必要ナル箇所ニハ左ノ各號ノ幅員ヲ有スル安全ナル横斷通路ヲ設クヘシ

一 道路交會箇所ノ横斷通路

幅員三米未満ノ道路ニ付テハ其ノ幅員以上

幅員三米以上ノ道路ニ付テハ三米以上

幅員六米以上ノ道路ニ付テハ六米以上

幅員十一米以上ノ道路ニ付テハ兩側ニ各四米以上

幅員二十二米以上ノ道路ニ付テハ兩側ニ各七・五米以上

二 沿道宅地ノ爲ニスル横斷通路一米以上

第二十一條 工事ノ爲交通ニ危険ヲ及ホス虞アル箇所ニハ圍柵、交通停止標識其ノ他保安設備ヲ施シ夜間ハ適當ナル員數ノ赤色注意燈ヲ路面上ニ掲出配置スヘシ

前項ノ規定ニ依ル設備ヲ爲スモ尙交通ニ危険ノ虞アル箇所ニハ夜間百燭光以上ノ照明燈ヲ配置スル等適當ナル危険豫防ノ施設ヲ爲スヘシ

第二十二條

工事ニ際シテハ土砂、材料又ハ器具機械類ヲ以テ水道消火栓、水道制水弁、瓦斯閉閉栓又ハ人孔等ノ所在ヲ不明ナラシメ又ハ之等ニ接近スルコトヲ困難ナラシムヘカラス

工区内ニ存スル水道消火栓、水道制水弁又ハ瓦斯閉閉栓ノ位置ハ第五號様式ニ依ル標識ニ依リ之ヲ明示スヘシ

二 歩車道ノ區別ナキ幅員十一米以上ノ道路ニ在リテハ路端ヨリ

一・五米以内

三 幅員十一米未満六米以上ノ道路ニ在リテハ消防用自動車ノ通行ニ支障ナキ程度ニ有效幅員四米以上ヲ存置スルコト

四 幅員六米未満ノ道路ニ在リテハ消防用手挽水管車ノ通行ニ支障ナキ程度ニ有效幅員二米以上ヲ存置スルコト

五 軌道工事ニ在リテハ軌道敷外一側一・五米〔「テルミット」密接又ハ「コンプレツサー」ヲ使用スル場合ハ二米〕以内トシ歩車道ノ區別アル道路ニ於テハ更ニ歩道ノ車道寄ニ存スル植樹地帯又ハ建柱類ノ標準地帯内

前項ノ規定ニ依リ街渠又ハ側溝上ヲ使用スル場合ハ流水ノ疏通ヲ妨ケサル様雨水枳又ハ汚水枳ヲ避ケ且完全ナル渡板ヲ架シ必要ノ箇所ニハ掃除口ヲ存置スヘシ

工事材料ノ集積ニ際シテハ亂雜ニ涉ラサル様之ヲ整置シ特ニ土砂、砂利等ニ付テハ散亂ヲ防ク爲適當ナル可搬式根圍ヲ設クヘシ

第二十六條 左ニ掲ケル工事材料ノ集積ニ付テハ豫メ其ノ事由ヲ具シ市長ノ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ工事材料置場ニ占用期間及占用者名ヲ標示スヘシ

一 五日ヲ超エ集積セントストキ

二 橋梁上ニ集積セントストキ

三 前條第一項各號ノ集積區域ヲ超エ又ハ工區外ノ道路ニ集積セントストキ

四 工事著手前第二十五條ノ規定ニ依ル期間ヲ超エ又ハ竣功後當該

第二十三條 工事ニ際シテハ下水ノ疏通及路面ノ排水ヲ妨クヘカラズ

工事中ノ湧水又ハ溜水ハ假極其ノ他ノ方法ニ依リ附近ノ溝渠ニ排出スル等適宜ノ處置ヲ講スヘシ此ノ場合ニ於テハ土砂等ノ下水管流入ヲ防止スル爲適當ナル裝置ヲ施スヘシ

第二十四條 掘鑿工事ニ因リ掘起シタル鋪裝材料、砂利、土砂其ノ他ノ發生材料ハ關係出張所員ノ指示ヲ受ケ交通上及美觀上支障ナキ場所ニ之ヲ運搬整理シ置クヘシ

發生材料ニシテ掘鑿ノ日ヨリ五日以内ニ埋戻ニ使用スルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス交通上著シキ支障ナキ場合ニ限り左ノ區分ニ依リ坑側ニ之ヲ堆積スルコトヲ得

一 道路ノ方向ニ沿ヒ長サ十米以上ノ掘坑ニ在リテハ其ノ一側ニ沿ヒ一・五米ノ範圍内

二 十米未満ノ掘坑ニ在リテハ其ノ一側又ハ兩端ニ於テ坑側ヨリ一・五米ノ範圍内

前二項ノ規定ニ依リ土砂ヲ堆積セントストキハ散亂ヲ防ク爲適當ナル可搬式根圍ヲ設クヘシ

第二十五條 工事材料ハ工事現場ニ搬入シタル日ヨリ五日以内ニ使用スヘキモノニ限り工事中當該工区内ノ道路ノ一側ニ於テ左ノ各號ノ區域ニ之ヲ集積スルコトヲ得

一 歩車道ノ區別アル道路ニ在リテハ車道ノ歩道寄ニ於テ街渠上ヲ含ミ幅員一・二米以内及歩道ノ車道寄ニ於テ植樹地帯又ハ建柱類ノ標準地帯内

工区内ノ道路ニ集積セントストキ

前項第三號及第四號ノ場合ニ於テハ別ニ道路占用ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 前二條ノ規定ハ工事用器具機械類ノ假置ニ付テハ準用ス

第二十八條 橋梁及鋪裝道路ニ於テハ現場石拵其ノ他路面毀損ノ虞アル作業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 前數條ノ規定ニ拘ラス特定施工區間ニ於ケル工事ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一 發生材料其ノ他不用材料ハ之ヲ道路上ニ堆積スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由ニ依リ市長ノ承認ヲ得タルトキハ二十四時間以内ニ限り之ヲ假置スルコトヲ得

二 工用材料、器具機械類ハ之ヲ道路上ニ假置スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由ニ依リ其ノ必要アルトキハ占用ノ位置、期間及面積等ニ付關係出張所ノ指示ヲ受ケ之ヲ假置スルコトヲ得

三 道路上ニ於テハ混泥土現場練及現場石拵等ノ作業ヲ爲スコトヲ得ス但シ豫メ市長ノ承認ヲ得タルトキ又ハ即夜終了ストキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 工事施行中既設工作物ノ移轉、改築、撤去等ヲ要スルニ至リタルトキハ事業者ハ直ニ其ノ工作物ヲ管理スル事業者ニ必要ナル處置ヲ請求スヘシ

前項ノ規定ニ依リ請求ヲ受ケタル事業者ハ關係出張所ノ指示ヲ受ケ速ニ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

當該工作物ヲ管理スル事業者特定施工區間ニ在リテハ第一項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル當日、其ノ他ノ區域ニ在リテハ請求ヲ受ケタ

ル日ヨリ三日以内ニ必要ナル處置ニ著手セサルトキハ請求ヲ爲シタル事業者ハ遲滞ナク掘坑部ヲ埋戻シ又ハ板張覆工ヲ爲スヘシ

第四章 復舊工事

第三十二條 埋戻ヲ爲サントスルトキハ左ノ各號ニ依リ施行スヘシ

一 鋪裝セサル道路ニ在リテハ掘坑内ニ溜水アルトキハ之ヲ除去シタル後下層土ヨリ逐次厚サ約十五糎毎ニ締固メ上層ハ厚サ約十糎ノ衣土ヲ以テ覆ヒ更ニ締固ヲ爲シ徑二十糎以下九糎以上ノ篩砂利厚サ六糎ヲ敷均シ締固ノ上在來路面ト高低ナカラシムヘシ

二 鋪裝道路ニ在リテハ比隣鋪裝下ノ地盤ニ弛緩ヲ生セシメサル方法ヲ以テ施行シ埋戻土ノ締固及路面仕上ニ付テハ前號ノ例ニ依ルヘシ但シ鋪裝復舊ハ市長ニ於テ之ヲ施行ス

三 割栗石、大玉石等ノ基層ヲ有スル道路ノ埋戻ニ付テハ豫メ關係出張所ノ指示ヲ受クヘシ

四 泥質、湧水其ノ他ニ因リ逐層締固ヲ困難トスル箇所ニ於テハ少クトモ上層厚サ一米ハ濕潤ナラサル良土ヲ用ヒ締固ヲ確實ニ行ヒ又ハ割栗石、大玉石等ノ基層ヲ設クル等路面ノ沈下ヲ防止スル設備ヲ爲スヘシ

五 埋戻ノ土砂ニハ木片、塵芥其ノ他腐蝕ノ虞アルモノヲ混入スヘカラス

第三十三條 埋戻工事ノ締固ハ輾壓機ニ依ルヘシ但シ已ムヲ得サル場合ニ於テハ木蟯ヲ以テ入念ニ之ヲ施行スヘシ

定ニ依ル設計ト異ル結果ヲ生シタルトキハ前項ノ竣功届ニ其ノ理由及異同ヲ附記スヘシ

第四十一條 道路ヨリ生シタル殘土其ノ他ニ付テハ市長其ノ處分方法ヲ指示スルトアルヘシ

第六章 取締及費用負擔

第四十二條 工事著手豫定期日ヲ經過シテ尙工事ニ著手セサルトキハ市長ハ期限ヲ定メテ催告シ其ノ期限内ニ履行セサルトキハ占用ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ第十四條ノ規定ニ依ル警察署ノ承認ヲ得サルトキ亦同シ

第四十三條 本規程ニ依ル工事ノ施行ニ關シテハ市長ハ隨時係員ヲシテ之ニ立會ハシメ必要ナル検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十四條 市長必要アリト認ムルトキハ橋梁添架材料、橋梁復舊材料其ノ他ニ付品質検査ヲ爲スコトアルヘシ

第四十五條 所定ノ手續ヲ爲サスシテ道路上ニ集積又ハ假置シタル工事材料、器具機械類ハ市長ニ於テ之ヲ適當ナル場所ニ移ス等適宜ノ處置ヲ爲スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ要シタル費用ハ事業者ノ負擔トス

第四十六條 事業者ハ第四章ノ規定ニ依ル復舊工事ヲ爲シ左ノ區分ニ別表

特定施工區間

施工區間	區名	區	間	施工時間	關係出張所	摘	要
一	北	區		自午後十時 至午前六時	北部出張所		
自天神橋筋一丁目 至天神橋筋六丁目							

第三十四條 埋戻ニ際シテハ掘上土砂ヲ堆積シタル附近路面ノ殘土ヲ充分ニ掻キ取り泥濘ヲ來ス虞アル箇所ニハ適當ニ砂利敷ヲ行フヘシ

第三十五條 木柱類ハ完全ニ撤去スヘシ但シ剛質鋪裝ヲ施シタル道路ニ在リテハ腐朽シ居ラサルモノニ限り鋪裝面ヨリ三種以上ノ深サニ於テ之ヲ切斷スルトヲ得

第三十六條 土留工材ハ埋戻ノ際ニ撤去スヘシ但シ地盤ノ弛緩又ハ崩壞ヲ來ス虞アルトキハ之ヲ埋殺スヘシ

第三十七條 橋梁又ハ其ノ附屬構造物ノ復舊ニ付テハ豫メ關係出張所員ノ立會ヲ求メ其ノ指示ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

第三十八條 工事終了シタルトキハ直ニ路面上ノ土砂、材料、器具機械類ヲ取片付ケ路面ヲ清掃スヘシ

第三十九條 橋梁添架工作物ニハ工事終了後其ノ事業者名ヲ見易キ箇所ニ標示スヘシ

第四十條 工事終了シ前二條ノ規定ニ依ル手續ヲ終リタルトキハ第六號様式ノ工事竣功届ニ出來形圖ヲ添へ終了ノ日ヨリ七日以内ニ關係出張所ニ提出シ係員ノ立會検査ヲ受クヘシ

工事施行ノ結果已ムヲ得サル事由ニ依リ當初ノ又ハ第三十一條ノ規

〔大電〕

〔大電〕

依リ道路ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ

一 鋪裝セサル道路ニ在リテハ復舊箇所ノ道路補修費トシテ其ノ面積ニ應ジ厚サ十糎ノ砂利敷ニ要スル費用ニ相當スル金額

二 鋪裝道路ニ在リテハ其ノ復舊鋪裝費

前項ノ規定ニ依ル面積及費用ハ市長之ヲ認定ス

第七章 雜則

第四十七條 工事又ハ工作物ニ基因シ道路ニ毀損ヲ生シタルトキハ事業者ハ直ニ關係出張所ニ届出テ其ノ假復舊ヲ爲シ市長ノ指示ヲ受クヘシ

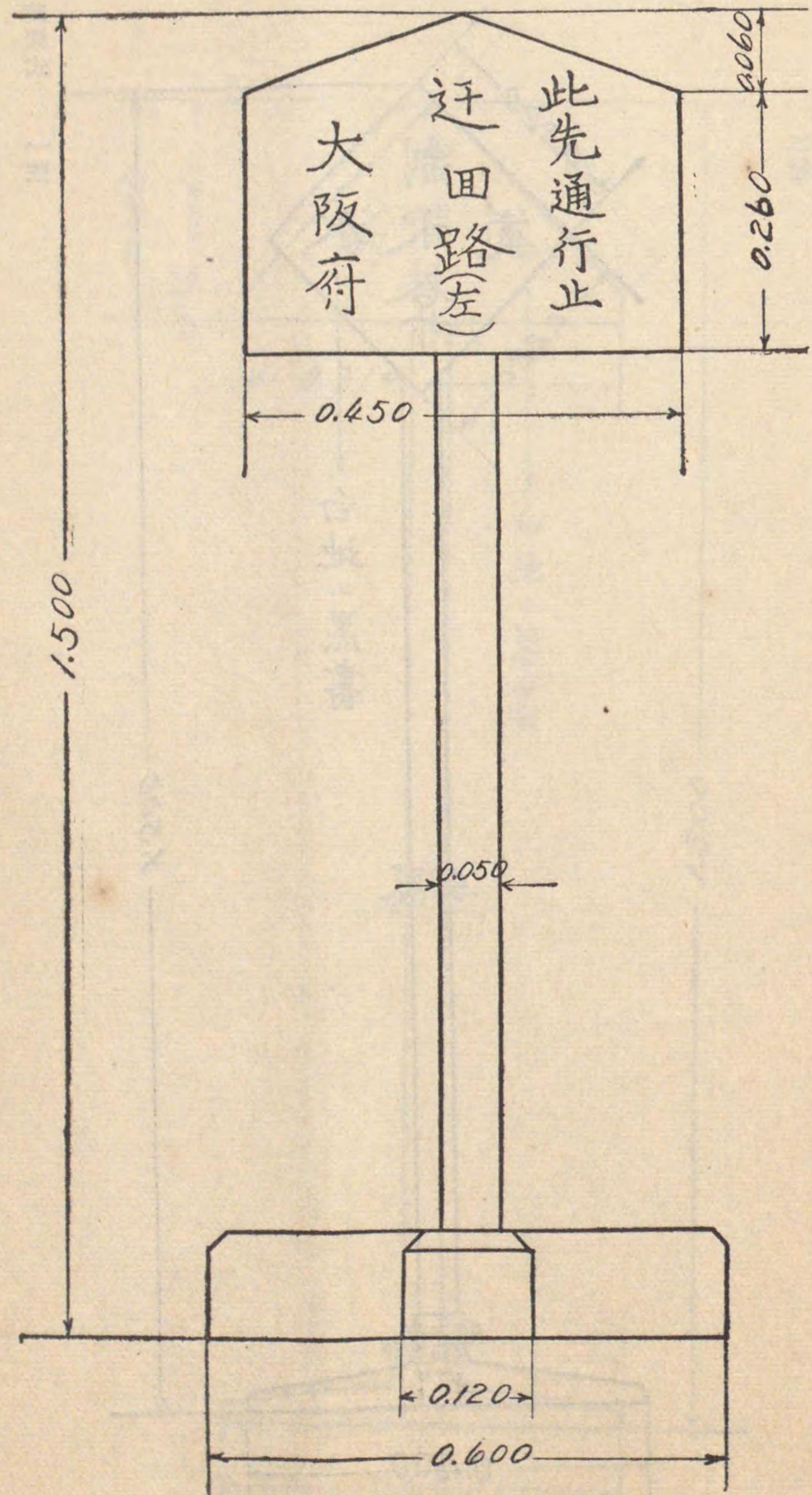
第四十八條 道路ニ存スル工作物ノ用途ヲ廢止シタルトキハ事業者ハ速ニ所定ノ手續ヲ爲シ之ヲ撤去スヘシ

路下管線路及其ノ附屬工作物ニシテ已ムヲ得サル事由アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス市長ノ許可ヲ受ケ之ヲ埋殺スルトコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ埋殺ヲ爲シタル物件ノ所有權ハ當該事業者之ヲ拋棄シタルモノトス

附則

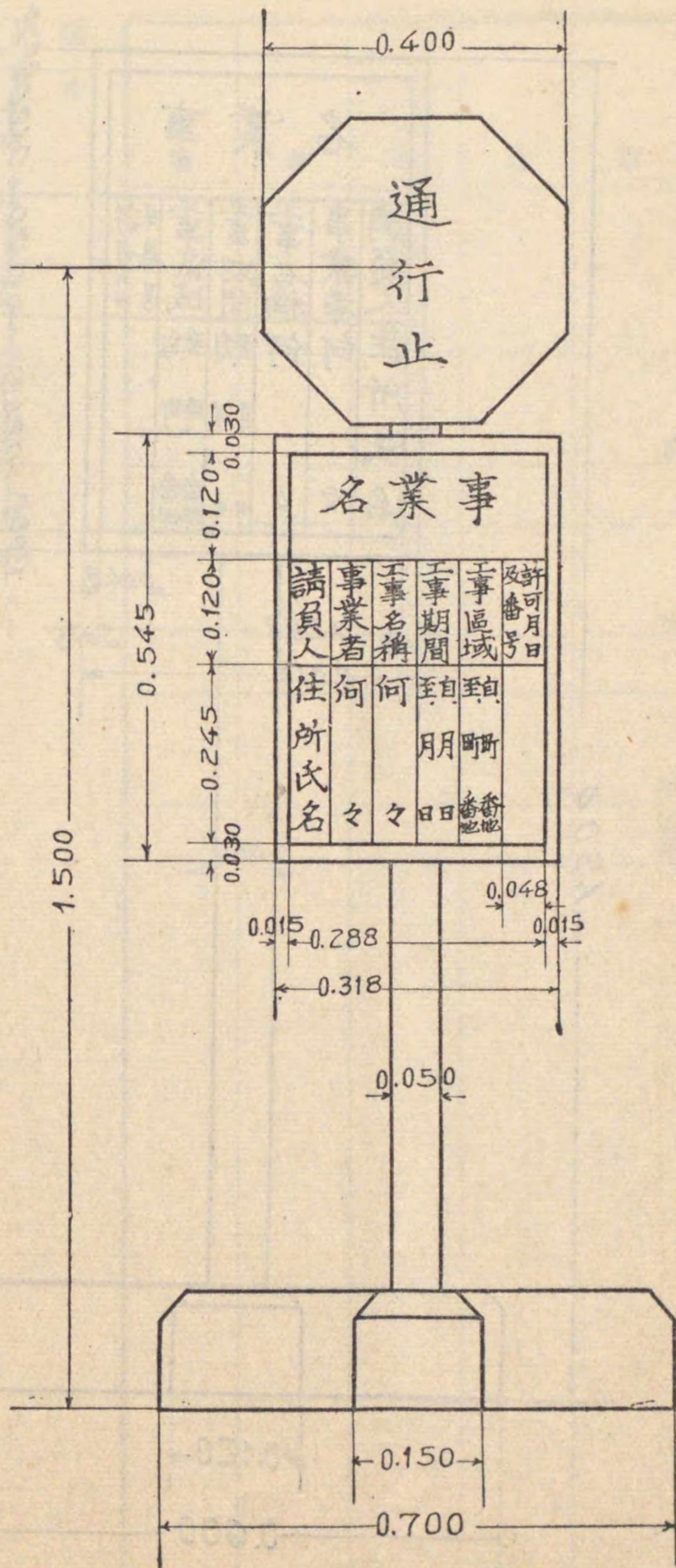
大正十二年達第一號道路占用、道路工事及路面掘鑿工事施行ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

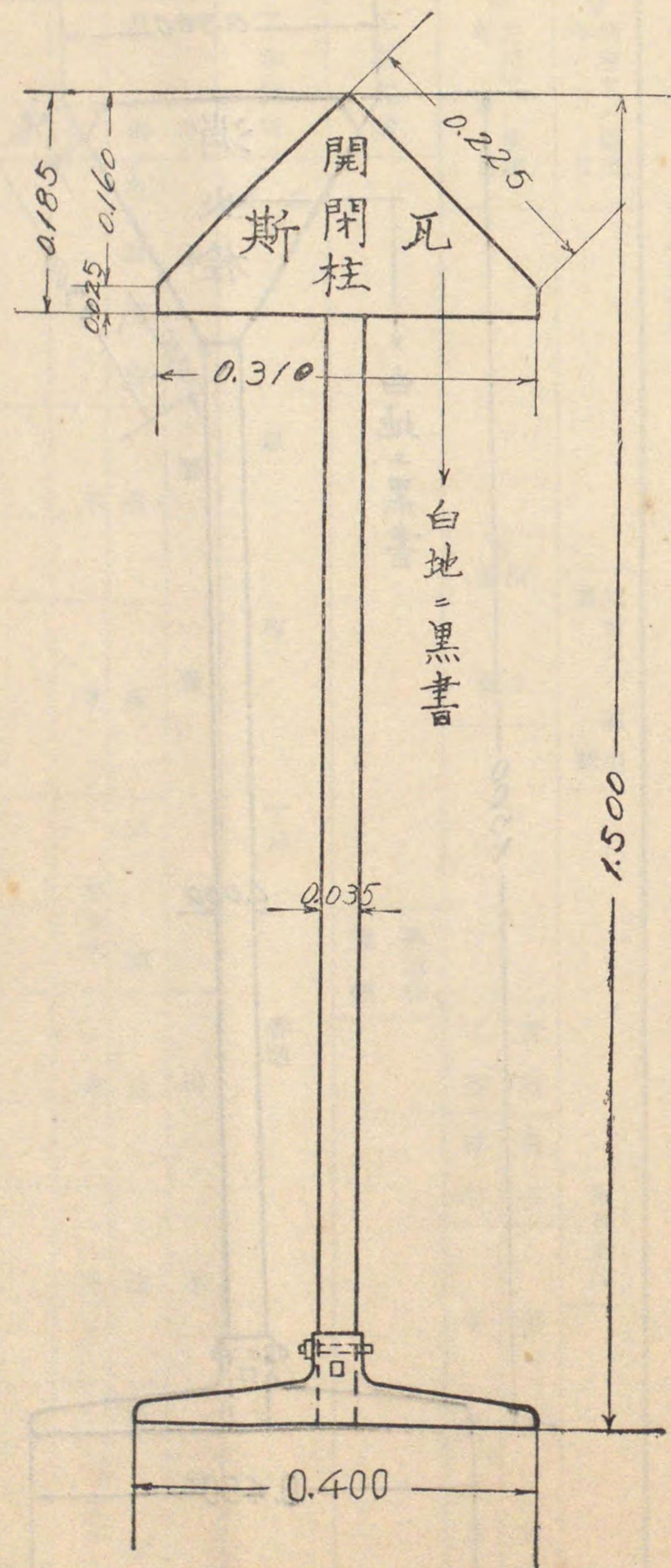


第四號樣式

第三號樣式

例 凡 通行止色彩
 柱 文字 地 裏 表
 赤 白 黑 赤
 色 色 色 色
 單位 米





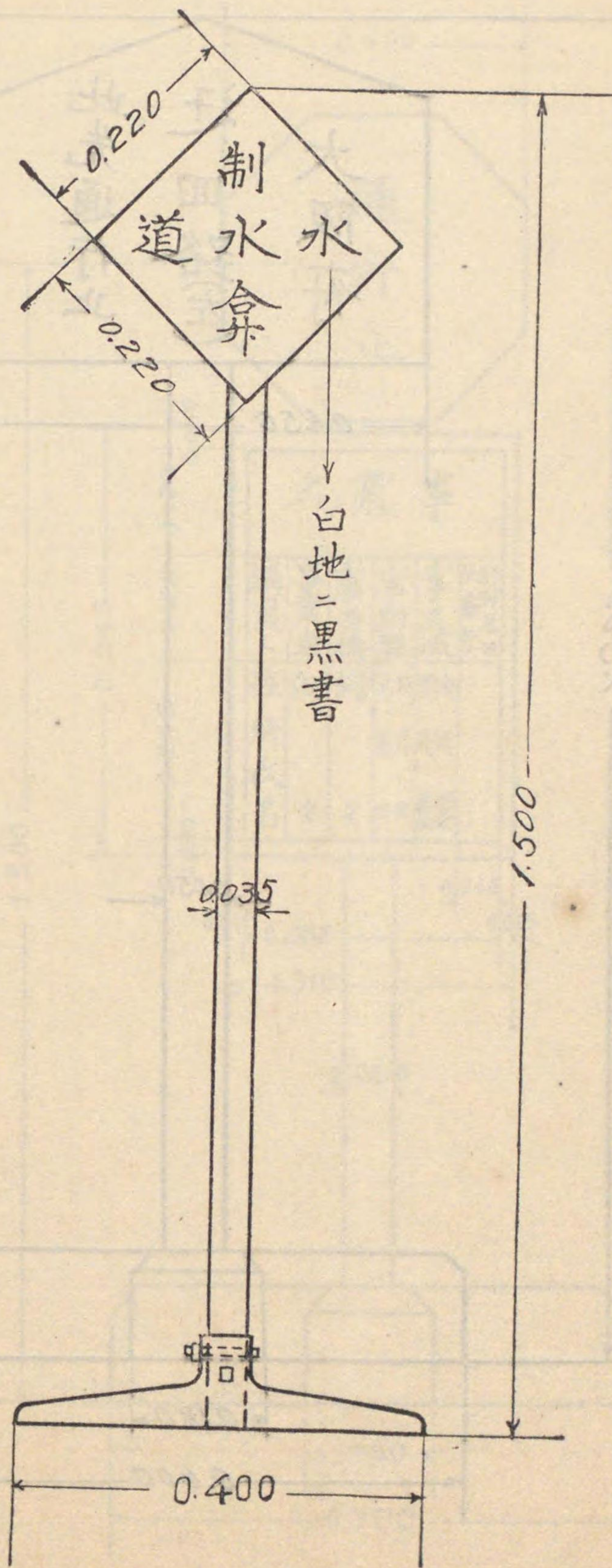
同

二號

〔大電〕

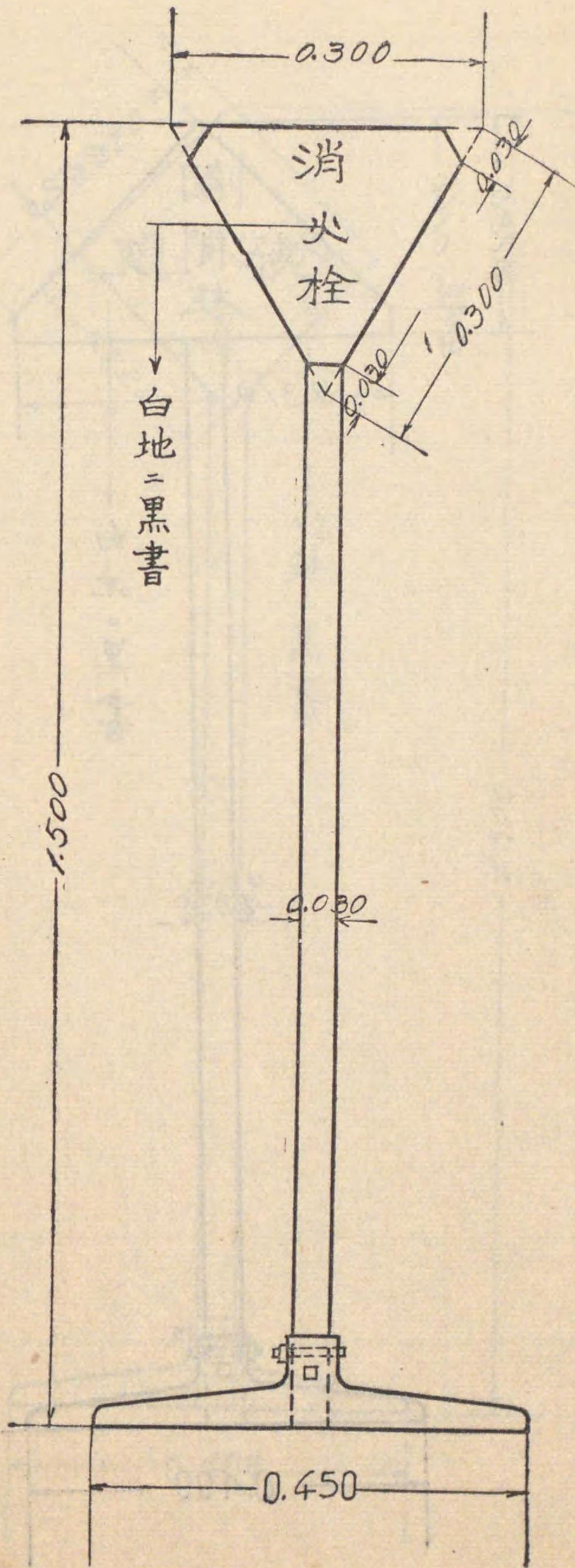
第五號樣式

一號



〔大電〕

同 三號



第六號樣式(美濃形西洋紙)

大阪市長 股
工事竣功届

事業者

〔大電〕

名

道					歩車 別	工事個所 至 自	工事名稱	※許可又ハ承認 年 月 日		※照會又ハ願出 年 月 日		
道	道	道	道	道				※指 番	※照會又ハ願出 番			
					掘	區	町	號令	號出	種 類	實 施 著 手	取 扱 者 印
					鑿							
					長	定	番地	面積	出	來	形	積
					幅							

要 摘	立 會	所 屬 職 名 氏 名 印
	昭和 年 月 日	

備考 一 本書ハ二通ヲ作製シ關係出張所ニ提出ノコト
 二 占用申請書ノ提出ヲ爲ササリシ者ハ餘白ニ圖面(縮尺適宜)ノ記載ヲ要ス此ノ場合ニ於テハ※印欄ニ記入ヲ要セス
 由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

●道路占用工作物配置標準

制 定 昭一、四、一告示二三七

大阪市道路占用工作物工事執行規程第十三條ノ規定ニ依ル道路占用工作物配置標準左ノ通相定メ昭和十一年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市道路占用工作物工事執行規程第十三條ノ規定ニ依ル道路占用工作物配置標準

一 路上占用工作物ノ種類左ノ如シ

第一種工作物

巡查派出所、巡查見張詰所、地下道出入口、公衆電話室、街頭便所、消防又ハ消毒機具納庫、道路撒水井戸、同撒水唧筒、同材料置場及地下道通風口等

第二種工作物

郵便函、街燈、地上式水道消火栓、電柱、電車側柱、送電用變壓塔、同開閉塔、各種配電函、軌道轉轍手柄及電車信號塔等

二 路上占用工作物ノ設置ハ街角ヲ避ケヘシ但シ市長已ムヲ得サル事

〔大電〕

〔大電〕

ニ、側溝ナキ場合ハ路端ニ接セシメ側溝ヲ設ケヘキ場所ニ在リテハ路端ヨリ〇・四五米ノ間隔ヲ置ケコト

2 街燈ノ施設ニ付テハ街燈建設標準ニ依ルヘシ

3 郵便函及電車轉轍手柄

イ 歩車道ノ區別アル道路ニ在リテハ歩道内ニ於テ歩車道境界石ニ接セシムルコト但シ幅員一・八米未滿ノ歩道ニ於ケル郵便函ハ路端ニ設ケルコト

ロ 歩車道ノ區別ナキ道路ニ在リテハ側溝ノ道路側内縁ニ接セシメ側溝ナキ場合ハ路端ニ設ケルコト

4 送電用變壓塔、同開閉塔及各種配電函

イ 工作物ハ側溝アル場合ハ成ルヘク之ニ差掛ケ軸ニ長短アルモノニ付テハ長軸ハ道路ノ長ニ沿ハシムルコト

ロ 歩車道ノ區別アル道路ニシテ歩道幅員三・五米以上ノ場合ニ在リテハ工作物ノ長軸長一米短軸長〇・八米ヲ超エサルモノ、歩道幅員三・五米未滿一・八米以上ノ場合ニ在リテハ工作物ノ長軸長〇・六五米短軸長〇・四五米ヲ超エサルモノニ限リ歩車道境界石ニ接シ歩道ニ設ケルコトヲ得

ハ 歩車道ノ區別ナキ道路ニシテ幅員十五米以上ノ場合ニ在リテハ工作物ノ長軸長一米短軸長〇・八米ヲ超エサルモノ、幅員十五米未滿ノ道路ニ在リテハ工作物ノ長軸長〇・六五米短軸長〇・四五米ヲ超エサルモノニ限リ側溝ノ道路側内縁ニ接セシメ側溝ナ

●街燈建設標準

制 定 昭一、四、一告示二三三

大阪市道路占用工作物工事執行規程第十三條ノ規定ニ依ル街燈建設標準左ノ通相定メ昭和十一年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市道路占用工作物工事執行規程第十三條ノ規定ニ依ル街燈建設標準

一 本標準ニ於テ街燈ト稱スルハ町會等ノ團體力其ノ區域内ノ街路ヲ照明スル爲施設スルモノヲ謂フ

二 街燈ハ都市美ヲ損セス且交通ニ支障ヲ生セシメサル様建設スヘシ

五 路上占用工作物ノ位置ハ特別ノ事由アル場合ノ外別紙標準圖ニ依ルヘシ
 別紙 標準圖(省略)

キトキハ路端ニ設ケルコトヲ得但シ工作物ヲ側溝ニ差掛ケルコトニ依リ側溝ノ道路側内縁ヨリ道路ニ〇・五米以内突出スル場合ハ幅員十五米未滿ノ道路ニ於テ長軸長一米短軸長〇・八米ヲ超エサルモノニ限リ之ヲ設ケルコトヲ得

ニ 歩車道ノ區別ナキ道路ニシテ幅員六米未滿ノ場合ニ在リテハ工作物ノ長軸長〇・六米短軸長〇・四米未滿ノモノニ限リ側溝ノ道路側内縁ニ接セシメ側溝ナキトキハ路端ニ之ヲ設ケルコトヲ得

五 路上占用工作物ノ位置ハ特別ノ事由アル場合ノ外別紙標準圖ニ依ルヘシ

- 三 燈柱ハ金屬又ハ鐵筋「コンクリート」製トシ構造堅牢、體裁優美ノモノナルヘシ但シ住宅街路、工場街路及幅員八米未満ノ街路ニ在リテハ木柱ヲ使用スルコトヲ得
- 四 燈柱ニハ一柱ニ一燈ヲ設ケ百「ワット」以上ノ電燈ヲ點スヘシ但シ二燈以上ヲ設ケルトキハ一燈當リ五十「ワット」以上ト爲スヘシ
- 五 街路ヲ横斷スル「アーチ」型ノ街燈ハ設置スルコトヲ得ス
- 六 電燈ノ配線ハ地中線式トスヘシ但シ住宅街路及幅員八米未満ノ街路ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
- 七 燈器ハ路面照度ヲ均等ナラシメ且過度ノ眩輝ヲ感セシメサル種類ノモノトスヘシ
- 八 街燈ノ施設ニハ燈柱ニ町會等ノ團體名ヲ標示スルノ外廣告其ノ他ノ事項ヲ標示スルコトヲ得ス
- 九 燈柱ハ輕易ナル裝置ノ支持柱ニ兼用スルモノノ外他ノ支持柱ニ之ヲ兼用スルコトヲ得ス
- 十 街燈ハ街路ノ長ニ沿ヒ配列スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ形狀、色彩及間隔ハ成ルヘク一樣ナラシムヘシ
- 十一 間隔及光源ノ高ハ別表標準ニ依ル但シ廣場又ハ橋梁ニ施設スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 十二 燈柱ノ最大直徑ハ〇・三米以下、臺金物ノ最大直徑ハ〇・六米以下トスヘシ
- 十三 燈柱ノ側方ニ燈器ヲ突出セシメ又ハ腕ヲ設ケル場合ニ於テハ其

- ノ裝置ハ下端ヲ路面ヨリ四・五米以下トシ出幅ヲ光源ノ高ノ二割以内ニ止ムヘシ但シ一・四米ヲ超ユルコトヲ得ス
- 燈柱ノ側方宅地寄ニ燈器ヲ突出セシメ又ハ腕ヲ設ケル場合ニ於テハ柱頭ニ體裁良キ點燈設備ヲ施スヘシ
- 十四 歩車道ノ區別アル街路ニ燈柱ヲ建設スルトキハ左ノ各號ニ依ルヘシ
 - イ 幅員三米以上ノ歩道ニ在リテハ歩道緣石ノ車道寄ヨリ燈柱ノ最近側迄〇・三米ノ間隔ヲ存セシムルコト
 - ロ 幅員三米未満ノ歩道ニ在リテハ歩道緣石ニ接セシムルコト
 - 十五 歩車道ノ區別ナキ街路ニ燈柱ヲ建設スルトキハ左ノ各號ニ依ル
 - イ 側溝アル場合ニ於テハ其ノ緣石ニ接セシムルコト
 - ロ 側溝ナキ場合ニ於テハ路端緣石ニ接セシメ側溝ヲ設ケヘキ箇所ニ在リテハ路端ヨリ燈柱ノ最近側迄〇・四五米ノ間隔ヲ存セシムルコト
 - 十六 街路ノ曲角部及横斷歩道ト歩道トノ接續部ニ於テハ燈柱ヲ建設スルコトヲ得ス
 - 十七 河川ニ沿ヒ燈柱ヲ建設スルトキハ護岸ヲ損セサル範圍ニ於テ之ニ接セシムヘシ
 - 十八 街路樹ノ存スル附近ニ燈柱ヲ建設スルトキハ街路樹トノ間隔二米以上ヲ存セシムヘシ
 - 十九 幅員六米以下ノ街路ニ於テ路上占用工作物ノ對側ニ燈柱ヲ建設スルトキハ當該工作物ノ對側中心點ヨリ六米以上偏倚シテ建設スヘシ

〔大電〕

二十 街燈ノ維持修繕ハ設置者ノ負擔トス
市長ノ命アルトキハ設置者ハ直ニ街燈ノ修繕ヲ爲スヘシ

別表 燈柱間隔及光源ノ高標準

街路幅員	街路ノ同一側ニ於ケル燈柱間隔	光源高
三〇米以上	二〇米以上	六米以上
二二米以上	二〇米以上	六米以上
一八米以上	二〇米以上	五米以上
一一米以上	一八米以上	五米以上
八米以上	一八米以上	四・五米以上
六米以上	一五米以上	四・五米以上

● 受託事業規程

制 定 昭一一、三、一二告示一四六

受託事業規程左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

受託事業規程

第一條 道路、河川、橋梁、建築其ノ他ニ關スル工事ノ受託ニ付テハ別ニ定ムルモノノ外本規程ニ依ル

第二條 前條ノ規定ニ依ル受託事業ニ要スル費用ハ委託者ノ負擔トス

● 軌道及道路巡視規程

制 定 大一一四、八、六達電五四

軌道及道路巡視規程左ノ通制定シ大正十四年八月九日ヨリ之ヲ施行ス

軌道及道路巡視規程

第一條 軌道及道路ノ維持、修理ヲ完全ナラシムル爲各巡視區ニ巡視者一名ヲ置キ工務部工務課係長之ヲ指定ス

第二條 巡視區ハ全線ヲ三區トシ其ノ區域ハ工務部工務課係長之ヲ定ム

第三條 巡視者ハ毎日必ス一回以上其ノ受持區域ヲ巡廻シ修理ヲ要スル箇所ノ有無ヲ調査シ別紙様式ニ依リ監督者ニ之ヲ報告スヘシ

第四條 巡視者ハ其ノ勤務中左腕ニ左記様式ノ腕章ヲ附スルモノトス

第五條 巡視者缺勤又ハ休暇等ノ場合ハ其ノ區ノ監督者ニ於テ臨時ニ其ノ代理者ヲ定メ之レカ勤務ニ充ツ

〔大電〕

第三條 委託者ハ事業著手前市長ノ定ムル所ニ依リ工事費概算額ヲ豫納スヘシ但シ官公署及本市關係ノ事業、急施ヲ要スル工事又ハ概算額ノ豫定不能若ハ困難ナルモノニ在リテハ市長ニ於テ其ノ納付時期ヲ指定スルコトアルヘシ

第四條 工事費概算金ハ工事完了後精算シ精算額ニ比シ過不足アル場合ハ還付又ハ追徴スルモノトス

第六條 監督者巡視者ヨリ第三條ノ報告ヲ受ケタルトキハ事ノ輕重ヲ
 考査シ輕微ナル事項ハ遲滞ナク之レカ修理ノ手續ヲ爲シ重要ト認ム
 ル事項又ハ交通其ノ他ノ關係上急ヲ要スルモノト認メタル場合ハ上
 司ニ速報シ同時ニ之レカ應急ノ處置ヲ講スルモノトス

第七條 監督者ハ巡視報告書ヲ整理シ翌月五日迄ニ前月分ヲ取纏メ工
 務課係長ニ提出スヘシ

別紙

トコ示ヲ名場留停及路線ハ所場

監督者 殿		第 工區線路巡視報告書 (大正 年 月 日)	
場 所	種 類	狀 況	時 刻
線 間	線 間		
線 間	線 間		
線 間	線 間		
線 間	線 間		
線 間	線 間		
線 間	線 間		

注 (一) 巡視者ハ毎日必ス一回以上各自受持區域ヲ
 巡視スルモノトス
 (二) 巡視者ハ必ス制服ヲ着用シ且ツ左腕ニ規定
 ノ腕章ヲ附スルモノトス
 (三) 巡視者ハ巡視中破損其ノ他事故ヲ發見セル
 場合ハ詳細ニ調査シ且ツ其ノ種類並ニ程度
 等ヲ個所毎ニ報告スヘシ

フ云フ時ルセ見發ヲ所個損破ハ刻時

第 工區線路巡視報告書
 (大正 年 月 日)

巡視者

場 所	種 類	狀 況	時 刻
線 間			
線 間			
線 間			
線 間			
線 間			

記
 羅紗白地(巾三寸長一尺三寸)ノ中央ニ朱色ヲ以テ電氣局徽章(徑一寸
 二分)ヲ顯ハシ其ノ下方ニ黑色ニテ「軌道巡視」ノ文字並上下ニ黑線各
 一條(巾二分五厘)ヲ附ス圖ノ如シ

〔大電〕

軌道小破修繕工事施行内規

制 定 大一〇、一二、一〇達電一七

電氣局軌道小破修繕工事施行内規左ノ通相定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局軌道小破修繕工事施行内規

第一條 軌道改良又ハ補修工事以外ノ一般小破修繕工事ハ本内規ニ據
 リ施行スヘシ

第二條 小破修繕ハ道路幅員ノ廣狹車馬交通量並電車運轉車輛數ノ程
 度ニ從ヒ現在營業線路ヲ左記ノ三類ニ區別シ各定ムル所ノ標準ニヨ
 リ施行スヘシ

第一類 線路
 道路ノ幅員比較的廣大ナラサルニ車馬ノ交通最モ頻繁ニシテ電
 車運轉回數ノ多キ線路

第二類 線路
 車馬ノ交通其ノ他第一類ニ次ク線路

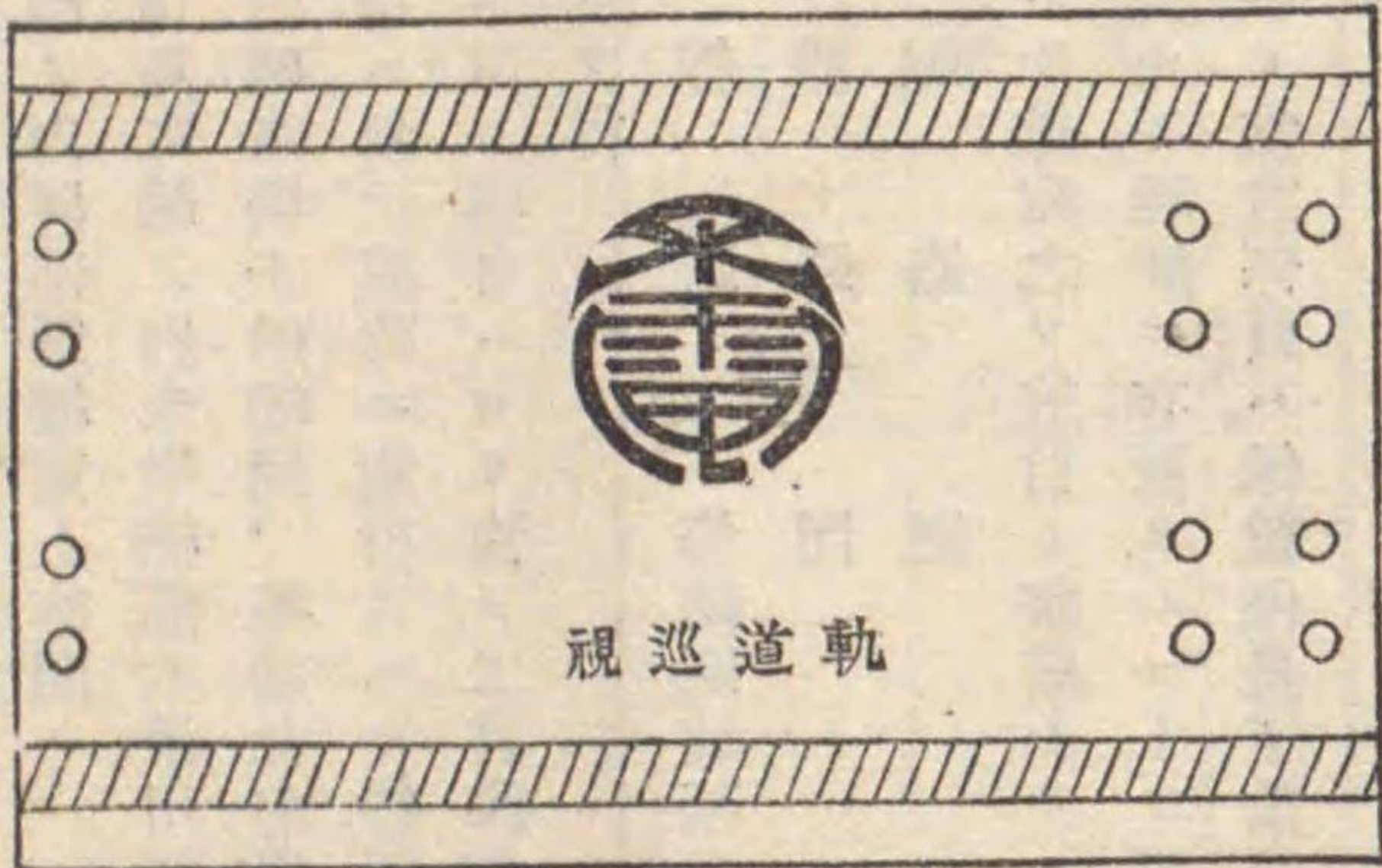
第三類 線路
 道路幅員比較的廣大ナルニ車馬ノ交通閑散ニシテ電車運轉回數
 ノ少キ線路

第三條 前條各類ニ屬スル線路ハ左ノ如シ

第一類 線路

南北線(渡邊橋大江橋間及難波新川叶橋間ヲ除ク)堺筋線

第二類 線路



第八類 工事

第一類及第三類ニ屬セサル其ノ他ノ線路
第三類 線路

梅田善源寺町線ノ内天神橋筋六丁目都島橋間
霞町玉造線ノ内阿部野橋東上町間
松島南恩加島町線ノ内永樂橋筋木津川運河終點間
築港線ノ内磯路橋千船橋間、築港北海岸通線、鶴町線
第四條 各線路ニ於テ同時ニ施行スヘキ修繕區域ハ左記標準間數ヲ超
過スヘカラス但シ場合ニヨリ豫メ工務課長ノ承認ヲ受ケテ特ニ區域ヲ
延長スルコトヲ得

第一類 線路 修繕區域延長 四十間以内
第二類 線路 同 七拾間以内
第三類 線路 同 百間以内

第五條 工事ハ片線宛之ヲ施行シ修繕セサル側ハ自動車等軌道上ヲ運
轉スルニ差支ナキ程度ニ存置スルコトヲ要ス但シ第三類線路ニ在リ
テハ場合ニ依リ當該係員ハ保線係長ノ承認ヲ受ケ兩線ヲ同時ニ施行
スルコトヲ得

第六條 一區域ノ修繕工事ハ左記期限内ニ於テ之レヲ終了セシムヘシ
但シ止ムヲ得サル事由ニ依リ期間ヲ延長スルノ必要生シタル場合ハ
其ノ都度當該係員ハ保線係長ノ承認ヲ受ケヘシ

第一類 線路 工事著手ノ日ヨリ 四日以内
第二類 線路 同 六日以内
第三類 線路 同 七日以内

第七條 工事ハ所要材料ヲ整備ノ上著手スヘシ

第八條 工事ニ著手シタルトキハ即日第一號様式ニヨリ當該係員ヨリ
保線係長ニ報告スヘシ

第九條 工事中ハ夜間通行危険表示ノ爲メ修繕箇所ノ前後及中間ニ點
燈スルコトヲ要ス但シ中間燈ハ其ノ場所ノ狀況ニ依リ保線係長ニ於
テ必要ナシト認メタルトキハ之ヲ省略スルコトアルヘシ

第十條 工事終了セシトキハ直チニ車馬ノ交通ニ支障ナキ様跡片付ヲ
ナシ即日其ノ旨當該係員ヨリ保線係長ニ報告スヘシ

第十一條 保線係直吏員ハ夜間修繕箇所ヲ巡視シ事故アルトキハ應
急ノ處置ヲナスヘシ

第十二條 保線係長ハ毎月五日迄ニ前月施行シタル工事ノ実績ヲ第二
號様式ニヨリ工務課長ヲ經テ部長ニ報告スヘシ

第十三條 本内規施行ニ必要ナル事項ハ工務課長之ヲ定ム
(第一號様式)

軌道小破修繕工事著手報告

係長係員	箇所名	等級	總延長	種別	工事種類	著手日	竣工日	功	摘	要	備註
						月	日	日			
	間側線		間	組		日	日				
	間側線		間	組		日	日				
	間側線		間	組		日	日				
	間側線		間	組		日	日				
	間側線		間	組		日	日				

(第二號様式)

軌道小破修繕工事施行月報

部 長	工務課長	月分	保線係長					
		大正 年 月 日						
線路名	等級	總延長	修繕工事種類	著手日	竣工日	功	摘	要
線		間		月 日	月 日			
線		間		月 日	月 日			
線		間		月 日	月 日			
線		間		月 日	月 日			

第九類病院

Faint, illegible text and tables on the right page, likely bleed-through from the reverse side. The content is too light to transcribe accurately.

第九類 病院

●電氣局病院ニ關スル件

制 定 大二三、三、三一告示五九
最近改正 昭 八、三 告示七八

本市會ノ議決ヲ經大阪電氣局病院ニ關スル件左ノ通相定メ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大阪電氣局病院ニ關スル件

- 一 本市電氣局ニ病院ヲ置キ電氣局員及其ノ家族並本市電氣事業上ニ關シ生シタル傷病者ヲ診療スルモノトス但シ時宜ニ依リ電氣局以外ノ本市職員、諸職夫及其ノ家族ヲ診療スルコトアルヘシ
- 二 病院ノ料金ハ左ノ通トス
 - 一 入院ニ關スル料金 一日金參圓以下
 - 一 藥ニ關スル料金 一種又ハ一日分金貳拾錢以下
 - 一 藥劑容器ニ關スル料金 實 費
 - 一 手術及處置ニ關スル料金 金參拾圓以下
 - 一 診斷及検査其ノ他ニ關スル料金 金貳圓以下
 - 一 器具其ノ他ノ貸貸ニ關スル料金 金壹圓以下
- 三 本項以外ノ料金ハ其ノ都度市長之ヲ定ム

●電氣局病院料金規程

制 定 大三四、七、一一告示一四五
最近改正 昭一一、三 告示一四〇

大正十三年四月大阪告示第八十二號大阪電氣局病院料金規程左ノ通改正シ大正十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大阪電氣局病院料金規程

- 一 大阪電氣局病院ノ入院料、藥價其ノ他ノ料金ヲ定ムルコト左ノ如シ

種 別	電氣局員並其ノ家族及本市負擔ニ屬スル患者	本市名譽職員、電氣局所屬以外ノ本市吏員、雇傭員及其ノ家族
一 入院料	藥餌ヲ含ミ特別手術料及特別處置料ヲ含マス	
二 藥 價	高價藥ヲ除ク	
三 藥劑容器料		
座 藥 一 個	金六 錢	金九 錢
外 用 藥 一 劑	金十 錢	金十 五 錢
頓 服 藥 一 劑	金六 錢	金九 錢
內 用 藥 一 種 二 日 分	金十 錢	金十 五 錢

第九類 病院

自九月一日至十月三十一日
 (月、水、金)自午後二時至午後四時
 (火、木、土)自午前九時至午後十二時
 自十一月一日至翌年三月三十一日
 (月、水、金)自午後二時至午後四時
 (火、木、土)自午前九時三十分至午後十二時
 築港診療所

自四月一日至七月二十日
 (月、水、金)自午前九時至午十時
 (火、木)自午後二時至午後四時
 自七月二十一日至八月三十一日
 (月、水、金)自午前九時至午前十一時三十分
 (火、木)自午後一時三十分至午後三時
 自九月一日至十月三十一日
 (月、水、金)自午前九時至午後十二時
 (火、木)自午後二時至午後四時
 但シ土曜日ハ左ノ通トス
 自七月二十一日至八月三十一日
 自午後一時三十分至午後三時
 自九月一日至翌年七月二十日

自午後二時至午後三時

一 休日

大正十四年七月達電第五一號電氣局病院並附屬診療時間及休日ノ件ハ

附則

本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●電氣局病院診療手續

制定 大二三、五、七達電二三
 最近改正 昭五、六 達電三〇

電氣局病院診療手續左ノ通相定メ五月一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣局病院診療手續

- 第一條 本手續ニ於テ病院ト稱スルハ電氣局病院及附屬診療所ヲ謂フ
 第二條 本病院ニ於テ診療ヲ受ケムトスル者ハ所屬課、係長(事業上生シタル傷病者ニ在リテハ當該課、係長)ヨリ診察券(第一號様式)ノ交付ヲ受ケ之ヲ提示スヘシ
 第三條 本病院ニ入院治療ヲ受ケムトスル者ハ入院證(第二號様式)ヲ提出スルコトヲ要ス
 第四條 保證人ハ本市内ニ一家ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ム者又ハ本市吏員及諸職夫ニシテ滿二十年以上ノ者タルコトヲ要ス但シ同一人ニシテ二人以上ノ保證ヲ爲スコトヲ得ス

〔大電〕

〔大電〕

前項保證人ノ資格消滅シタルトキハ更ニ他ノ保證人ヲ選定シ遲滞ナク届出ツヘシ

第五條 入院料、藥價其ノ他ノ料金ハ電氣局員(家族ヲ含ム)ニ在リテハ毎月病院ヨリノ請求額ヲ本人ノ所屬ニ於テ給料支給額ヨリ控除ス給料支給額ニテ不足スル場合ハ現金ヲ以テ納付セシムルモノトス但シ生計困難ナル場合特別ノ事由アル場合又ハ不足分ヲ現金ヲ以テ納付スルコト能ハサル場合ハ本人ノ申出ニヨリ所屬長ハ病院長ト協議ノ上保證人(局員ニ限ル)ヲ立テシメ六月以内ニ於テ月賦納付セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テモ給料支給額ノ三分ノ一以上ヲ納付スルモノトス
 退職者ニシテ滞納金アル場合ハ本市及共濟組合ヨリ受ケル諸給與金ヨリ控除ス
 電氣局以外ノ本市吏員、諸職夫及其ノ家族ニ在リテハ其ノ都度前納セシムルモノトス
 事業上生シタル傷病者ニシテ本市ノ負擔ニ屬スルモノハ科目組替又ハ現金納付ノ手續ニ依ル

第六條 本病院ノ休日及診療時間ハ別ニ之ヲ定ム

(第一號様式)

第九類 病院

大阪市		診		券		電氣局病院	
所屬	本人	歳	本人	歳	家族	歳	
課係							
番號							
住所							
有效	自昭和	年	月	日	所屬課長		
期間	至昭和	年	月	日	係員證印		

1. 本券ハ診療、請藥ノ場合必ス提示スルモノトス
 2. 本券ハ必ス所屬課、係ニ於テ發行スルモノトス
 3. 本券番號欄ニハ共濟組合購買番號ヲ記載スルモノトス

(第二號様式)

収入印紙
参銭貼付
入院證

私儀今般貴院へ入院致候ニ付テハ諸費ノ納付ヲ始メ御規定ノ事項ヲ堅ク遵守シ職員ノ指圖ニ從ヒ且ツ診療上ニ關シテハ全ク貴院ヲ信賴シ病狀ノ經過及轉歸ニ付テハ決シテ彼是申出候様ノ事致ス間敷保證人連署ヲ以テ此ノ段證書差出候也

昭和 年 月 日

本籍地
現住所
所屬、職名
本人

本籍地
現住所
職業
保證人

本籍地
現住所
所屬、職名
保證人

大阪市電氣局病院長 殿

以下トス

三 獨身ニシテ家事ニ支障ヲ來ス虞ナキ者

四 體格強健、性質溫順、志操堅固ニシテ操行善良ナル者

第七條 生徒志願者ハ第一號様式ニ依ル願書ニ自筆履歷書及戶籍謄本ヲ添ヘ所長ニ提出シ手数料條例所定ノ手数料ヲ納付スヘシ

第八條 生徒志願者ニ對シテハ左ノ試験ヲ行フ但シ高等女學校又ハ之ト同等以上ノ學校卒業者ニ對シテハ學科試験ヲ省略スルコトヲ得

一 體格検査

二 學科試験

國語

作文

算術

三 口頭試問

第九條 前條ノ規定ニ依ル試験ニ合格シ入學ヲ許可セラレタル者ハ第二號様式ニ依ル誓約書ニ保證人二人(中一人ハ保護者)連署ノ上所長ニ提出スヘシ

第十條 修業年限ハ二年トシ之ヲ二學年ニ分チ各學年ヲ左ノ二學期ニ分ツ

前學期 四月一日ヨリ九月三十日迄

後學期 十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄

第十一條 學科課程及每週教授時數ハ別表ニ之ヲ定ム但シ所長必要アリト認ムルトキハ每週教授時數ハ之ヲ伸長スルコトヲ得

第九類 病院

第九五七

注意 (保證人ノ内一人ハ電氣局員ニ限ル)

●病院附設看護婦養成所規程

制 定 昭一、三、一二告示一八四

大阪市立病院附設看護婦養成所規程左ノ通相定メ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市立病院附設看護婦養成所規程

第一條 本市立病院附設看護婦養成所ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ看護婦ヲ養成ス

第二條 看護婦養成所(以下所ト稱ス)ヲ附設スル病院左ノ如シ

市民病院

桃山病院

刀根山病院

電氣局病院

第三條 所ニ所長ヲ置キ病院長ヲ以テ之ニ充ツ

附屬職員ハ其ノ病院職員中ヨリ所長之ヲ命ス

第四條 所長必要ト認ムルトキハ市長ノ承認ヲ受ケ前條第二項ノ規定ニ依ル職員以外ノ者ニ講師ヲ囑託スルコトヲ得

第五條 生徒ノ定員ハ一所ニ付一學年五十人以上以内トス

第六條 生徒志願者ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

一 高等小學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認ムル者

二 二十年以下ノ者但シ刀根山病院附設ノモノニ在リテハ二十五年

第十二條 休日左ノ如シ但シ休日ト雖實習ヲ命スルコトアルヘシ

一 大祭祝日

二 日曜日

三 地久節

四 春季休業 三月二十八日ヨリ四月三日迄

五 夏季休業 七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ三週間以内

六 冬季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄

第十三條 生徒ハ修業中所長其ノ他ノ職員及病院職員ノ命ニ從フヘシ

第十四條 生徒疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ缺席セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ届出ツヘシ

第十五條 生徒ハ病院内ニ寄宿シ外泊スルコトヲ得ス

生徒已ムヲ得サル事情ノ爲外泊セントスルトキハ保護者又ハ保證人連署ノ上届出テ許可ヲ受クヘシ但シ特別ノ事由アル者ハ所長ノ認定ニ依リ保護者又ハ保證人ノ連署ヲ要セス

第十六條 生徒ハ修業中毎月二十五圓以内ニ於テ別ニ定ムル手當ヲ支給シ被服ヲ貸與ス

第十七條 生徒ハ中途退學スルコトヲ得ス但シ疾病其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ保護者及保證人連署ノ上所長ニ届出テ許可ヲ受クヘシ

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

一 操行不良ニシテ風紀ヲ紊シ又ハ其ノ虞アル者

第九五七

二 傷疾疾病等ノ爲缺席三月以上ニ及フモ仍治愈ノ見込ナキモノ
 三 學業修得ノ見込ナキ者
 四 將來看護婦ノ業務ニ從事スルヲ不適當ト認ムル者
 五 本規程ニ違反スル者

第十九條 生徒一年ヲ通シ授業時數ノ三分ノ一以上缺席シタルトキハ進級又ハ卒業セシメス

第二十條 試驗ハ每學期ノ終ニ於テ其ノ學期中履修シタル學科ノ分類科目ニ付之ヲ行フ

第二十一條 各學科目ノ成績ハ百點ヲ以テ滿點トシ各學科目ニ付四十點以上、平均點ニ於テ六十點以上ヲ得タル者ヲ及第トス
 學年成績ハ前後二學期ノ平均點ヲ以テ卒業成績ハ各學年成績ノ平均點ヲ以テス

第二十二條 生徒疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ第二十條ノ規定ニ依ル試驗ヲ受クルコト能ハサルトキハ平素ノ學力、操行ヲ斟酌シ追試驗ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第二十三條 二學年ノ課程ヲ修了シタル者ニ對シテハ第三號様式ノ卒業證書ヲ授與ス

第二十四條 卒業者ハ卒業ノ日ヨリ二年以内ニ於テ市長ノ定ムル期間本市立病院看護婦トシテ勤務スヘキ義務ヲ負フ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ義務ヲ免除スルコトアルヘシ

一 傷疾疾病等ノ爲勤務ニ堪ヘスト認ムルトキ
 二 事務ノ都合ニ依リ解職シタルトキ
 前項ノ規定ニ依リ勤務ヲ命セラレタル者其ノ義務期間ヲ終ヘタルト

キハ引續キ勤務ヲ命セラレタル者ヲ除クノ外解職トス
 第二十五條 第十八條ノ規定ニ依リ退學ヲ命セラレタル者ニ對シテハ在學中支給シタル手當金ノ全額ヲ、前條第一項ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサルトキハ義務不履行日數ニ應シ在學中支給シタル手當金ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第二十六條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ所長之ヲ定ム

附則

左ノ規程ハ之ヲ廢止ス

大正四年大阪市告示第二十一號桃山病院看護婦見習規程

大正十二年大阪市告示第二十三號刀根山療養所看護婦見習規程

大正十三年大阪市告示第八十三號電氣局病院看護婦見習規程

昭和五年大阪市告示第八十九號市民病院看護婦養成規程

別表

學科課程表

學科	科目	學身目	
		前學期	後學期
修	普通	一	一
		六	六
一	般	三	三
		六	六
解	剖	二	一
		三	三

〔大電〕

生理學大意	一	二
細菌學及消毒法	一	一
綑帶及擔架法	一	一
衛生學大意	一	一

第二學年

學科	科目	學身目	
		前學期	後學期
修	普通	一	一
		二	二
食	品	一	一
		二	二
一	般	二	二
		二	二
普	通	一	一
		二	二
傳	染	二	二
		二	二
治	療	二	二
		二	二
藥	物	一	一
		一	一

救急處置	手術介補及器械學	理學診療一般	マツサ	保健事業一般	看護婦ニ關スル法規大要
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一

〔大電〕

第一號様式

志願書

私儀今般貴院附設看護婦養成所生徒志願ニ付御試驗ノ上御採用相成度別紙自筆履歴書(寫眞添付)竝戸籍謄本相添此段奉願候也

年 月 日
 本籍 某國
 現住所 某國
 戸主ノ職業及續柄 何
 年 月 日生
 右者性質從順品行方正ニシテ會テ不都合ノ所爲ナキヲ保證候也
 年 月 日

本籍 某國
 現住所 某國
 職業及志願者トノ關係(父兄)

保證人 何 某團

年月 日生

本籍

現住所

職業及志願者トノ關係

保證人 何

年月 日生

大阪市立 病院附設看護婦養成所長宛

(注意 保證人ハ採用決定ノ上提出スヘキ誓約書ノ保證人ト同一人タルコト)

第二號様式

誓約書

何某儀

今般貴院看護婦生徒ニ御採用相成候ニ付テハ孜孜修學シ諸規則並御指示事項ヲ遵守シ且卒業後ノ義務ハ命ニ依リ嚴重ニ履行可致ハ勿論義務終了後ノ進退ニ關スル貴院ノ御處置ニ對シテハ一切異議申聞敷萬一御規程ニ依リ修業中ノ費用辨償ヲ命セラレタル場合ハ左記ノ者連帶ヲ以テ直ニ其ノ義務ヲ相果スヘク候且何某一身上ニ關スル事件ハ一切保證人ニ於テ處辨シ貴院ニ御迷惑相懸ケ申聞敷茲ニ保證人連署ヲ以テ誓約候也
追テ保證人轉住スルトキハ直ニ届出ルハ勿論大阪市内居住ノ者大阪市内ニ轉住スルトキハ相當代人相立テ新舊保證人連署ヲ以テ速ニ可及御届候也

卒業證書

府縣 何

年月 日生 某

右ノ者大阪市立 病院附設看護婦養成所所定ノ學科ヲ修メ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年月 日

大阪市立 病院附設看護婦養成所長

氏 名 團

年月 日

本籍

現住所

戶主ノ職業及續柄

看護婦生徒 何

年月 日生

本籍

現住所

本人トノ關係職業(父兄)

保證人 何

年月 日生

本籍

現住所

本人トノ關係職業

保證人 何

年月 日生

大阪市立 病院附設看護婦養成所所長宛

右何某未成年ニ付前記誓約ニ拙者同意致候也

年月 日

法定代理人 何

某團

(注意 保證人ハ志願書ノ保證人ト同一人タルコト)

第三號様式

第 號

第十類 共濟組合

第十類 共濟組合

●電氣局從業員ノ共濟組合ニ關スル條例

制 定 大一二、五、一條例 七
最近改正 昭 六、一二、一條例 一六

本市會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受ケ大阪市電氣鐵道部從業員ノ共濟組合ニ關スル條例左ノ通相定ム

大阪市電氣局從業員ノ共濟組合ニ關スル條例

第一條 大阪市電氣局所屬ノ雇員以下ノ從業員ハ大阪市長ノ定ムル所ニ依リ其ノ相互共濟及福利増進ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

前項ノ從業員ニシテ電氣局勤務ノ有給吏員ニ轉シタル者ハ引續キ組合員タルコトヲ得

前項組合員ノ給料ハ第二條ノ給料總額中ニ之ヲ算入セス

第二條 市ハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ千分ノ四十五ニ相當スル金額ヲ限度トシテ組合ニ交付ス但シ組合ノ豫算ニ不足ヲ生シタル年度ニ於テハ組合員ノ退職給與金、死亡給與金及養老給與金ノ支給總額ヲ限度トシ交付金ヲ増加スルコトアルヘシ

第三條 市長ハ電氣局ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第四條 組合ノ重要ナル事項ヲ審議スル爲組合ニ評議員會ヲ置ク評議員ハ其ノ定數ノ二分ノ一ヲ電氣局職員中ヨリ電氣局長之ヲ選任シ他ノ二分ノ一ハ組合員中ヨリ組合員之ヲ選舉ス

附則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本條例施行ノ日ヨリ雇員其ノ他日給者特別給與規程ハ電氣局所屬雇員以下ノ從業員ニ之ヲ適用セス

同一原因ニ付從業員扶助規程ニヨリ給與金ヲ受クルトキハ之ヲ本條例ノ給與金ヨリ控除ス

雇員其ノ他日給者特別給與規程第四條ノ給與金ハ吏員ノ職ヲ退キタルトキ又ハ死亡ノ際之ヲ支給ス

〔大電〕

●電氣局共濟組合規程

制 定 大一二、五、三告示 六七
最近改正 昭一〇、四、告示 一二〇ノ二

本市電氣部共濟組合規程左ノ通相定ム

大阪市電氣局共濟組合規程

第一章 總則

第一條 本組合ハ大正十二年五月市條例第七號ニ基キ之ヲ組織ス

第二條 本組合ハ大阪市電氣局共濟組合ト稱シ其ノ事務所ヲ大阪市電氣局内ニ設置ス

第三條 本組合ノ事務ハ大阪市電氣局長之ヲ統理ス

第十類 共済組合

第四條 本組合ハ本規定ニ定ムルモノノ外條例第一條ノ目的ヲ達スル爲其ノ附屬事業トシテ組合員ノ福利増進ニ關スル施設ヲ爲スコトヲ得

第四條ノ二 電氣局長ハ組合ノ事業又ハ事務ノ遂行上必要アリト認めタルトキハ第六章ニ規定スルモノノ外臨時又ハ常設ノ委員若ハ幹事會ヲ置クコトヲ得

第二章 組合員

第五條 組合員ヲ分チテ普通組合員及特別組合員トス

普通組合員トハ電氣局所屬雇員以下ノ従業員ヲ謂ヒ特別組合員トハ普通組合員ニシテ電氣局勤務ノ有給吏員ニ轉シ引續キ組合員タルモノヲ謂フ

第六條 臨時ニ使用スル者及見習ハ組合員タルコトヲ得ス

第七條 組合員ハ左ノ場合ニ限り組合ヲ脱退ス

- 一 死亡シタルトキ
 - 二 退職シタルトキ
 - 三 解僱トナリタルトキ
 - 四 電氣局以外ノ職ニ轉シタルトキ
 - 五 普通組合員ニシテ電氣局勤務ノ有給吏員ニ轉シ組合員タル資格繼續ノ意思ヲ表示セザルトキ
 - 六 特別組合員ニシテ資格繼續後一年ヲ經過シタル者脱退ノ意思ヲ表示シタルトキ
- 第八條 組合員ノ年齢、在職年數及組合加入年數ヲ計算スル場合ニハ月ヲ以テ基準トス

第一節 總則

第十六條 救済ハ之ヲ左ノ七種トス

- 一 公傷給與金
- 二 特症給與金
- 三 災厄給與金
- 四 死亡給與金
- 五 退職給與金
- 六 養老給與金
- 七 特別救済金

第十七條 各種ノ給與金ハ之ヲ併給ス但シ退職給與金ト死亡給與金ハ此ノ限ニ在ラス

健康保險法ニ依ル被保險者タル組合員ノ死亡ニ關シ同法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ其ノ相當金額ヲ公傷給與金又ハ死亡給與金ヨリ控除ス

第十八條 給與金ノ算定ハ給與ノ事由發生當時ニ於ケル掛金ノ標準タル給料ニ依ルモノトス但シ轉職ノ爲減給サレタル者ノ轉職ノ日ニ至ル迄ノ退職給與金算定ハ轉職前ノ給料ニ依ル

第十九條 給與金ヲ算定スル場合ニハ掛金ノ標準タル給料日額ヲ以テ一日ノ額トス

第二十條 給與金支拂ノ際掛金、供給物品代金及貸付金等ノ未拂アルトキハ以上ノ順序ニ依リ給與金ヨリ之ヲ控除ス

第二十一條 給與金ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス但シ組合員カ死亡前特別ノ意思

第十類 共済組合

再ヒ就職シタル者ノ在職年數及組合加入年數ニハ前ノ在職年數ヲ通算セス

第九條 組合員組合ヲ脱退シタルトキハ本規程ニ依ル救済ヲ受クルノ外組合ニ對シテ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 掛金

第十條 組合員ハ毎月掛金トシテ給料日額ノ十分ノ六ヲ組合ニ支拂フモノトス

組合員月給者ナルトキハ其ノ月給額ノ三十分ノ一ヲ以テ給料日額トス

第十一條 電氣局運輸職員、運輸従業員勤續給與金規程及技術職員、技術従業員並備員勤續給與金規程ニ依リ勤續給與金ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給料日額ニ勤續給與金ノ日割額ヲ加算シタルモノヲ以テ前條ノ給料日額トス

第十二條 掛金ハ毎月給料受領ノ時之ヲ支拂フモノトス但シ前條ノ勤續給與金ニ對スル掛金ハ勤續給與金受領ノ時之ヲ支拂フモノトス給料ヲ受ケサル月又ハ給料ヲ受クルモ其ノ額力掛金額ニ滿タサルトキハ其ノ月ノ掛金ハ最近ニ於テ受領スル給料力掛金ヲ支拂フニ足ル時之ヲ支拂フモノトス

第十三條 掛金ノ錢位未滿ハ之ヲ四捨五入トス

第十四條 掛金ニ異動ヲ生スヘキ事由發生シタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ掛金ノ額ヲ改定ス

第十五條 戰時又ハ事變ノ爲陸海軍ニ召集セラレタルトキハ其ノ間ノ掛金ハ之ヲ徵收セス

第四章 救済

ヲ表示シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ

二十二條 前條ノ規定ニ依リ給與金ヲ受領スル者ナキトキハ電氣局長ハ本組合ノ趣旨ニ遵ヒ之ヲ適當ニ處分スルコトヲ得

二十三條 給與金ノ請求ハ給與ノ事由發生シタル日ヨリ一年以内ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ナシ但シ所屬部課長ニ於テ已ムヲ得サル事情ニ因リ遲滞シタルコトヲ證明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二十四條 組合員死亡シタルトキハ其ノ戸主又ハ家族若ハ之ニ代ルヘキ者ヨリ遲滞ナク電氣局長ニ申告スルヲ要ス

二十五條 組合員死亡シ又ハ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキハ本人、戸主又ハ家族ハ電氣局長ノ指定シタル醫師ノ臨檢又ハ診療ヲ拒ムコトヲ得ス

二十六條 給與金ヲ受クルノ權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

二十七條 組合員犯罪ニ因リ死亡シタルトキ又ハ懲戒處分若ハ犯罪行爲ニ依リ解僱トナリタルトキハ給與金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトアルヘシ

第二節 公傷給與金

二十八條 公傷給與金ハ組合員職務執行上傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ若ハ死亡シタルトキニ限り左ノ等級ニ依リ本人又ハ其ノ遺族ニ之ヲ支給スルモノトス

第一等 死亡シタルトキ

給料七百二十日分

第二等 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失シ終身自用ヲ辨スルコト

能ハサルトキ並ニ之ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキ

給料七百二十日乃至千八百日分

第十類 共済組合

第三等 一肢ノ用ヲ失シ自用ヲ辨シ得ト雖モ終身業務ニ就クコト能ハサルトキ並ニ之ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキ
給料三百六十日乃至七百二十日分

第四等 自用ヲ辨シ業務ニ就クコトヲ得ト雖モ身體ノ機能ニ障害ヲ殘シ因テ退職シタルトキ
給料百八十日乃至三百六十日分

第五等 身體ノ機能ニ障害ヲ殘スト雖モ引續キ職務ニ服スルトキ
給料四十日乃至百八十日分

第六等 女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルトキ
給料四十日乃至二百日分

前項第六等ノ給與金ト第二等乃至第五等ノ各給與金トノ支給事由併發シタルトキハ之ヲ併給ス

第二十九條 組合員カ職務執行上ノ傷病ニ因リ公傷給與金ヲ受ケルニ至ラサリシモ該傷病ニ起因シ前條ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ等級ニ應ジ公傷給與金ヲ支給ス

第三十條 公傷給與金ヲ受ケタル者ト雖モ該傷病ニ起因シ更ニ上級ノ公傷給與金ヲ受ケヘキ事由アルニ至リタルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第三十一條 職務執行上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル組合員ニシテ組合ヲ脱退シタル後一年以内ニ前二條ニ該當スルニ至リタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 (削除)

第三十三條 (削除)

第四十一條 家族弔慰金ハ組合員ノ同居ノ家族死亡シタルトキ給料日額十日分以内ノ金額ヲ支給ス

前項ノ弔慰金ハ組合員ノ父母又ハ祖父母死亡ノ場合ハ同居セサルモ之ヲ支給スルコトヲ得

第四十二條 前二條ニ定ムル家族ノ範圍ハ直系血族配偶者及兄弟姉妹トス但シ兄弟姉妹ニ關スル家族見舞金ハ世帯主タル組合員ニ限り之ヲ支給ス

組合員婚姻又ハ入夫婚姻ニ依リ他家ニ入りタルトキハ其ノ家ノ直系尊屬ハ之ヲ前項直系血族ニ準シ取扱フコトヲ得

第四十三條 死亡給與金ハ組合員職務ニ起因セスシテ死亡シタルトキ左ノ區別ニ依リ其ノ遺族ニ之ヲ支給ス

- 一 組合加入後一年未滿ノ者 給料六十日分
- 一 組合加入後一年以上ノ者 給料百二十日分
- 一 組合加入後三年以上ノ者 給料百八十日分
- 一 組合加入後四年以上ノ者 退職給與金相當額ニ給料五十日分ヲ加算シタル額

前項ノ給與金額カ五十圓未滿ナルトキハ五十圓ヲ支給ス

第四十四條 (削除)

第六節 退職給與金

第四十五條 退職給與金ハ組合員第七條第二號乃至第六號ニ依リ脱退シタルトキ又ハ職務上死亡シタルトキ別表ニ依リ之ヲ支給ス但シ特別組合員ニ轉シタル以後ノ年次増加額ハ別表年次増加額ノ四分ノ一

第十類 共済組合

第三十四條 (削除)

第三十五條 (削除)

第三十六條 特症給與金ハ組合員肺結核、喉頭結核又ハ癩病ニ罹リ退職シタルトキ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 組合加入後一年以上ノ者 給料九十日分
- 二 組合加入後三年以上ノ者 給料百二十日分

第三十七條 (削除)

第四節 災厄給與金

第三十八條 災厄給與金ハ組合員又ハ其ノ家族災厄ニ罹リタルトキ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 災害見舞金
- 二 家族見舞金
- 三 家族弔慰金

第三十九條 災害見舞金ハ組合員水火震災其ノ他非常ノ災厄ニ罹リ財產ニ著シキ損害ヲ受ケタルトキハ給料日額三十日分以内ノ金額ヲ支給ス

職務ニ起因スル災害ヲ救済スル爲必要アルトキ又ハ組合員重大ナル過失ナク職務ニ起因セスシテ第二十八條第一項第二等乃至第六等ノ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ給料六十日分ノ範圍内ニ於テ電氣局長ノ定ムル所ニ依リ見舞金ヲ支給スルコトヲ得

第四十條 家族見舞金ハ組合員ノ同居ノ家族ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ引續キ三十日以上醫療ヲ受ケタルトキ給料日額五日分以内ノ金額ヲ支給ス

トス

年次ノ中途ニ於テ特別組合員ニ轉シタルトキ其ノ年次ニ於ケル増加額ハ別表當該年次増加額ヲ月割トシ特別組合員ニ轉シタル月迄ニ相當スル額ト其ノ翌月以後ニ相當スル額ノ四分ノ一トヲ合算シタルモノトス

第七節 養老給與金

第四十六條 養老給與金ハ組合員滿二十年以上在職シ且年齢滿五十五歳以上ニシテ退職シタルトキ給料三十日分ニ相當スル金額ヲ年金トシテ終身之ヲ支給ス但シ調札員、保母及檢札員タル組合員ニ在リテハ滿二十年以上在職シ且年齢滿五十歳以上ニシテ退職シタルトキハ之ヲ支給ス

養老給與金額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第四十七條 養老給與金ノ支給ヲ受ケル者再ヒ組合ニ加入シタルトキハ組合員タルノ間其ノ給與金ノ支給ヲ停止ス

第八節 特別救済金

第四十八條 特別救済金ハ第十六條第一號乃至第六號ニ定ムル給與金ヲ受ケルコト能ハサルモ特ニ救済ヲ要スル事情アルトキ又ハ之ヲ受ケルモ猶救済ノ必要アリト認ムルトキ百圓以内ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

第五章 會計

第四十九條 組合ノ事業年度ハ市ノ會計年度ニ依ル

第五十條 組合費ノ徵收、出納及物品財產ノ管理其ノ他會計事務並豫算決算ニ關スル事項ハ電氣局長之ヲ定ム

第十類 共済組合

第六章 評議員會及諮問委員會

第五十一條 評議員會ハ條例第四條ニ定ムル評議員及本規程第五十八條ニ定ムル議長ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十二條 評議員中組合員ヨリ選舉スヘキ評議員ノ選舉區域及其ノ數ハ電氣局長別ニ之ヲ定ム

第五十三條 評議員ノ選舉ハ單記無記名投票ニ依リ之ヲ行フ
組合長ハ選舉長トナリ選舉ノ取締ニ任シ選舉ノ結果ヲ決定ス
選舉ノ取締ニ關スル事項ハ電氣局長別ニ之ヲ定ム

第五十四條 (削除)

第五十五條 評議員ニ缺員ヲ生シタルトキハ電氣局長ハ遲滞ナク補缺議員ヲ選任シ又ハ選舉セシムヘシ但シ總選舉ノ日前二月内ニ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選舉ヲ爲サス

第五十六條 評議員ノ任期ハ一年トシ總選舉ノ日ヨリ起算ス
補缺議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
再選舉ニ依リ選舉セラレタル評議員ノ任期ハ總選舉ニ於テ選舉セラレタル評議員ノ殘任期間ト同一トス

第五十七條 評議員會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ
一 組合ノ歲入出豫算ヲ定ムルコト
二 組合ノ決算ヲ認定スルコト
三 其ノ他組合ニ重大ナル關係アルコト

第五十八條 評議員會ノ議長ハ組合長ヲ以テ之ニ充ツ議長事故アルトキハ事務長其ノ職務ヲ代理ス

第五十九條 電氣局長ハ電氣局ノ職員ヲ、組合長ハ事務長其ノ他組合ノ職員ヲ評議員會ノ會議ニ參與セシムルコトヲ得

第六十條 評議員會ハ年ニ二回電氣局長之ヲ招集ス但シ電氣局長ニ於テ必要アリト認メタルトキ又ハ評議員定數ノ三分ノ一以上ノ同意ヲ以テ請求アルトキハ電氣局長ハ臨時會議ヲ招集ス

第六十一條 評議員會ハ定數ノ半數以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第六十二條 評議員會ノ會議ハ組合員ニ限リ之ヲ傍聽スルコトヲ得但シ評議員會ニ於テ傍聽禁止ノ決議ヲ爲シ又ハ組合長ニ於テ傍聽者ノ數ヲ制限シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 議長ハ議事ヲ整理シ議事録ヲ作製シ出席議員二名ヲシテ之ニ署名セシムヘシ

第六十三條ノ二 第二十七條ニ定ムル給與金ノ査定ニ關シ電氣局長ノ諮問ニ答申セシムル爲組合ニ諮問委員會ヲ置ク

諮問委員會ハ委員長及左ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス
選出評議員中電氣局長ノ任命ニ依ル者 三人
委員長ハ組合長ヲ以テ之ニ充テ會議ヲ招集シ其ノ議長トナル
委員ノ任期ハ評議員ノ任期ニ依ル

第六十三條ノ三 (削除)

第六十三條ノ四 評議員會及諮問委員會ノ議事ハ出席議員又ハ委員ノシテハ電氣局長ノ定ムル所ニ依ル

附則 (昭二、四告示一〇)

本改正規定中評議員ノ任期ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ、其ノ他ノ規定ハ昭和二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭六、一告示五)

本改正規程施行ノ際現ニ特別組合員タル者ノ第四十五條ノ適用ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第七十條 (削除)

第七十一條 給與
前項ノ費用辨償額ハ電氣局長之ヲ定ム

第七十二條 選舉ニ依ル評議員ハ其ノ職務ニ從事スル間電氣局ヨリ給與ヲ受ケサルトキハ本組合ニ於テ電氣局ヨリ給與セラルヘキ給與ニ相當スル額ヲ支給ス

第七十三條 第六十七條ノ規定ニ依ル職員及附屬員ノ給料、給與ニ關

第十類 共済組合

シテハ電氣局長ノ定ムル所ニ依ル

附則

本規程ハ大正十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
本規程施行ノ際現ニ電氣局ニ在職セル組合員ノ組合加入年數ニ付テハ本市ニ就職シタル月ヨリ之ヲ計算ス但シ第六條ニ規定セル者ノ在職期間ハ之ヲ通算セス

大阪電燈株式會社ヨリ受繼シタル從業員ニシテ大正十二年十二月加入シタル者ニ對シテハ左記ニ依リ之ヲ取扱フモノトス

一 本人ノ希望ニヨリ大正十二年十月分以降ノ掛金ヲ拂込ムトキハ同年十月ヨリ組合ニ加入シタルモノト看做ス

一 第五十四條ノ選舉權被選舉權ノ資格ニ關スル組合加入期間ハ大阪電燈株式會社ニ勤續シタル期間ヲ通算シテ之ヲ定ム但シ臨時ニ使役シタル在職期間ハ之ヲ通算セス

本規程施行ニ必要ナル事項ハ電氣局長之ヲ定ム

第十一條ノ技術職員、技術從業員並備員ノ勤續給與金ニ關スル規定ハ大正十四年十二月分ヨリ之ヲ適用ス

附則 (昭二、四告示一〇)

本改正規定中評議員ノ任期ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ、其ノ他ノ規定ハ昭和二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭六、一告示五)

本改正規程施行ノ際現ニ特別組合員タル者ノ第四十五條ノ適用ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (昭一〇、四告示一〇〇二)

第九六九

第十類 共済組合

本改正規定中組合員ノ掛金及給與ニ關スル規定ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

二十一年以上ハ一年ヲ増ス毎ニ給料日額五十日分ヲ加給ス

別表 退職給與金	組合加入後	給料日額
同	一年以上	二十日分
同	二年以上	四十五日分
同	三年以上	百十日分
同	四年以上	百八十日分
同	五年以上	二百五十日分
同	六年以上	三百二十日分
同	七年以上	三百九十日分
同	八年以上	四百六十日分
同	九年以上	五百三十日分
同	十年以上	六百日分
同	十一年以上	六百六十日分
同	十二年以上	七百二十日分
同	十三年以上	七百八十日分
同	十四年以上	八百四十日分
同	十五年以上	九百日分
同	十六年以上	九百六十日分
同	十七年以上	一千二十日分
同	十八年以上	一千八百日分
同	十九年以上	一千四百日分
同	二十年以上	一千二百日分

〔大電〕

●電氣局共済組合規程施行細則

制定 大一二、五、三達電二二
最近改正 昭一一、四 達電二〇

大阪市電氣局共済組合規程施行細則ヲ左ノ通り制定シ大正十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一章 組合員カード

第一條 各課長、所長又ハ係長以下(單ニ課長ト稱ス)ハ其ノ所屬組合員一人毎ニ組合員カード(第一號様式)及補助カード(第二號様式)ヲ調製シ組合員カードハ組合ニ送付シ補助カードハ其ノ所屬課長ニ於テ保管スヘシ

第二條 組合員ノ脱退、身分又ハ所屬ノ移動及組合員カードニ變更ヲ生スヘキ事項ハ當該課長ヨリ遲滞ナク之ヲ組合ニ通知スヘシ

第三條 現業員及從業員以外ノ組合員ニ關スル前條第一項ノ事務ハ庶務課長之ヲ處理スヘシ

第二章 救済金

第四條 救済金ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ救済給與金請求書(第三號様式)ヲ所屬課長ニ提出スヘシ

第五條 公傷給與金及特症給與金請求書ニハ電氣局所屬醫員又ハ組合ノ承認シタル醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十類 共済組合

〔大電〕

組合ハ前項以外ニ必要ト認ムル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第六條 (削除)

第七條 (削除)

第八條 (削除)

第九條 災厄給與金ヲ給與セムトスルトキハ組合員選出評議員ヲシテ實地ヲ調査セシメ給與金額ヲ決定スヘシ

第十條 特別救済金ヲ給與セムトスルトキハ選出幹事會員ヲシテ實情ヲ調査セシメ之ヲ幹事會ニ附議シテ其ノ給與金額ヲ決定ス

第十一條 養老給與金證書ヲ亡失毀損シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ届出ヲ事實ト認メタルトキハ該證書ノ謄本ヲ交付ス

第十二條 養老給與金ハ年額ニ二分シ前期分ハ六月、後期分ハ十二月ノ

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

但シ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

末日ニ之ヲ支給ス但シ脱退後ノ最初ノ期並死亡ノ期ハ月割計算トス
養老給與金ヲ受領セムトスル者ハ毎回養老給與金證書及戸籍抄本ヲ
呈示スヘシ但シ養老給與金證書ノ呈示ニ代ヘ市區町村長ノ閱覽證明
書ヲ提出スルコトヲ得

第十三條 養老給與金ヲ受クル者ハ豫メ印鑑證明書ヲ差出スヘシ爾後
改印シタルトキ亦同シ

第十四條 養老給與金ヲ受クル者戸籍又ハ氏名ニ變更ヲ生シタルトキ
ハ直ニ其ノ戸籍謄本又ハ抄本ヲ添附シテ届出ツヘシ
本人死亡シタルトキハ遺族ハ養老給與金證書ヲ返付スヘシ

第十五條 組合員ノ遺族ヨリ救済金ヲ請求スル場合ニ於テハ組合員ト
請求者トノ身分關係ヲ知り得ヘキ戸籍謄本ヲ其ノ請求書ニ添付スル
コトヲ要ス

大阪市電氣局共濟組合同規程(以下單ニ組合同規程ト稱ス)第二十一條但
書ニ該當スル受領者ハ組合員ノ死亡前ニ爲シタル特別ノ意思表示ヲ
證明スルニ足ル證據ヲ提出スルコトヲ要ス但シ組合員カ死亡前文書
ヲ以テ組合ニ申出テタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 組合ニ於テ救済金請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ審査シ給
與額ヲ算定シ電氣局長ノ決議ヲ經ヘシ

第十七條 組合長ハ毎月救済金給與ノ實績ヲ電氣局長ニ報告スヘシ

第三章 評議員ノ選舉

第十八條 選舉人名簿調製ノ日ニ於テ組合員タラサルモノハ選舉權及
被選舉權ヲ有セス選舉ノ當日迄ニ組合ヲ脱退シタルモノ又同シ

第十九條 組合長ハ選舉期日前二十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニヨリ選

舉人名簿ヲ調製シ八日間毎日午前九時ヨリ午後五時迄電氣局長ノ指
定シタル場所ニ於テ之ヲ組合員ノ縦覽ニ供スヘシ

選舉人名簿ニハ組合員ノ職名、氏名及生年月ヲ記載スヘシ

第二十條 組合員選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤謬アリト認メタルトキハ縱
覽期間内ニ電氣局長ニ申告シ修正ヲ求ムルコトヲ得

電氣局長ハ前項ノ申告理由アリト認メタルトキハ組合長ヲシテ遲滯
ナク選舉人名簿ヲ修正セシム

第二十一條 選舉人名簿ハ選舉期日前二日ヲ以テ確定ス確定後ハ之ヲ
修正スルコトヲ得ス

選舉人名簿確定シタル後組合員ノ身分又ハ所屬ニ移動アリタルトキ
ハ選舉人名簿ニ登録セラレタル選舉區域ニ於テ選舉ヲ爲スコトヲ得
但シ脱退シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 確定選舉人名簿ニ登録セラレサル者ト雖モ電氣局長ニ於
テ選舉權アリト認定シ其ノ證明書ヲ所持スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 電氣局長ハ選舉期日前少クトモ八日間選舉會場、投票ノ
日時及選舉スヘキ評議員數ヲ公示ス

第二十四條 選舉長ハ選舉ノ當日選舉人中ヨリ二名ノ選舉立會人ヲ選
定スヘシ

第二十五條 選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ於テ自ら選舉會場ニ至
リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

第二十六條 投票用紙ハ電氣局長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用フヘ
シ

第二十七條 左ノ投票ハ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ

二 現ニ評議員ノ職ニアル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ職名、氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ住所又ハ
敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ決ス可否同數ナルトキハ選舉長
之ヲ決スヘシ

第二十八條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ當該
區ノ評議員數ヲ以テ其ノ區ノ有權者數ヲ除シテ得タル數ノ十分ノ一
以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニヨリ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキ者アルトキ
ハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第二十九條 總選舉ノ日ヨリ一週間以内ニ評議員ニ缺員ヲ生シタルト
キハ次點者ヲ以テ當選者トス但シ此ノ場合ニ於ケル得票數ハ前條第
一項但書ニ依ル

第三十條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉錄ヲ作製シ選舉ノ顛末
ヲ記載シ選舉立會人ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

當選者定マリタルトキハ選舉長ハ遲滯ナク當選者ノ所屬、職名、氏
名ヲ電氣局長ニ報告スヘシ

電氣局長ハ組合長ヲシテ當選者ニ當選ノ旨ヲ通知シ且其ノ所屬、職
名、氏名ヲ公示セシム

當選者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任スルコトヲ得ス

第三十一條 總選舉ノ場合ニ於テハ電氣局長ハ各選舉區域毎ニ選舉長
代理人ヲ任命シ選舉長ノ事務ヲ代理セシム

前項ノ場合ニ於テ選舉長代理人ハ開票ノ翌日前條ニ定ムル選舉錄及
投票ヲ選舉長ニ送付スヘシ

第三十二條 評議員會ニ書記ヲ置キ組合ノ職員中ヨリ之ヲ選任ス
書記ハ議長ノ命ニ依リ庶務ニ從事ス

第三十三條 議事錄ニハ議事ノ顛末及議決事項ヲ明記シ議長ノ外議長
ノ指名シタル選任ニ依ル評議員及選舉ニ依ル評議員各一名ノ署名ヲ
要ス

第三十四條 評議員會ヲ開カムトスルトキハ組合長ハ開會五日以前ニ於
テ會議ノ日時、場所及議案ヲ各評議員ニ通知スルコトヲ要ス但シ緊
急ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 評議員ヨリ議案ヲ提出セムトスルトキハ豫メ他ノ評議員
二名以上ノ賛成者ト共ニ記名シ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第三十六條 議案ニ關シ議長ニ於テ特ニ調査ヲ必要トスルトキハ特別
委員ヲ設ケ其ノ報告ヲ俟テ會議ニ付スヘシ此ノ場合ニ於テ議長ハ調
査期間ヲ定ムル事ヲ得

第三十七條 評議員ハ會議中非禮ノ言ヲ用ヒ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言
論スル事ヲ得ス

第三十八條 評議員カ議案ニ關シ意見ヲ述ヘムトスルトキハ議長ヲ呼
ヒ其ノ應諾ヲ待チテ發言スヘシ